THE JAPANESE TIMES.

紐育新報新年號

大正二年一月四日　ニューヨーク新報　第七十五號

新年の辭

[illegible]、[illegible]旋轉、乾坤[illegible]轉して紅[illegible]瑞[illegible]移[illegible]し、氣[illegible]調、春秋其衣裳を改めて瞬目[illegible]に[illegible]心[illegible]なるを得たり。蓋し[illegible]し[illegible]動[illegible]する吾人は旦に[illegible]揚平として世運の消長を說き、夕に詢詢乎として時勢の待[illegible]を論じて以て[illegible]に自高自贊を[illegible]とするも、之を[illegible]に於ける自然の[illegible]より觀ずれば、徒らに天凡地に跼[illegible]して[illegible]半醉の境に彷徨する一[illegible]に外ならず。而も新陳代謝は自然の天則なりと云ふと雖、年年歳歳花相似、年年歳歳人不同、昨は紅顔の美少年も、今は既に化して白頭の老大翁たらんとする[illegible]、[illegible]に非ざる鈍[illegible]材[illegible]吾人をして偶[illegible]「回首翻[illegible]」の憾あるを免れざらしむる所以、彼の人口に膾炙せる[illegible]一味の[illegible]の如きは按ずるに頗る徹底せる人生觀なりと謂ふ[illegible]。

抑吾人人類[illegible]世界の舞臺は最近過去の一年間に於て、幾何の變化と進歩とを[illegible]ち得たる乎。所謂熱心なる眞理の究明に依りて、文明の推移と理想の向上との方面に幾何の新成績を舉け得たりと爲す乎。假令無意識的なるにもせよ、自我可能を[illegible]端に[illegible]す[illegible]向へ、[illegible]に現代文明の[illegible]たることを[illegible]するに至るなからしむ。[illegible]

[illegible]なるが如くに稱し、公正と自由とを標榜する[illegible]の政治家は、異口同音に内は盛に弊政の改革を[illegible]し、外は頻りに締盟友邦と輯睦の誼を[illegible]するを主張して、以て人類全般の福祉たる[illegible]和を維持促進す可きを聲言しながら、一面に於ては[illegible]と國力の均衡、國權の擁護に籍りて、[illegible]の弱を[illegible]し優の劣を呑むを以て當然の正[illegible]なりとするは是れ明明白白の事實にあらずや。然らば世界に[illegible]家は國際の道徳を嚴守して、人類共存の大義に[illegible]く双互主義及び機會均等主義を貫徹せんとする一片の誠意を有せざる者乎。彼等の自贊する政治万能の思想は、可憐なる巨億の蒼生か利害禍福の問題を根本的に解決するの權威ありや否や、吾人甚だ疑なき能はず。

翻つて科學者を顧みるに彼等は又動もすれば、事毎に隨意の判斷と定義とを下して科學の利刀は截然として天地間の何物をも兩斷し去らざれば熄まざるか如くに強辯して、人類の智識的慾求の多[illegible]み益々其領域を擴めんとするを自贊すと雖、僅かに二万[illegible]の[illegible]艫を大洋に泛べ得ること、數十[illegible]の飛行器を蒼穹に走らしめ得ることを以て直[illegible]科學の万能を立證せんと試むるは、餘りに自然を認識せずと[illegible]なりと云はざる可からず。吾人の科學は未だ自然の包藏する秘密の鍵の一小部分を把持するに過ぎざるにあらずや。然らば宗教家は如何、[illegible]の存在[illegible]ふ原始的觀念に對して[illegible]りに屋上屋を架するの議論を反覆するの外、吾人心靈の内面に深刻なる印象と清新なる生命とを與へたりや否や。茫茫たる沙漠の五里霧中に徘徊顧眄する吾人平生の渇を醫せんが爲めに安心立命と稱する一脈の甘泉を供給して、遺憾なく宗教の本[illegible]を發揮[illegible]りや否や。博愛を宣傳するは其常習なれ共、彼等は果して克く博愛の眞精神を體得するや否や。吾人は聊か日暮れて道猶遠矣の感慨なき能はず。然らば教育家は如何、善惡の規矩準繩を形式と因襲との惰力に由りて口說するのみにして徒弟の心理的狀態に應して其個性を陶冶するを閑却せるの謗なきを得る乎。吾人をして文字ある者憂多しの嘆を發せしむるは決して完全なる意味に於ける教育の意味にあらざるのみならず、亦其名譽とする所にあらざる可し。其他忠實なる物質的文明の盲從者に至りては、其身稍富んで其心滋々貧に、多くは是れコインの幽靈にして、ダラーの餓鬼なるのみ黄金万能の思想は即ち彼等が存在の始にして併せて其終なり。

要するに吾人人類の通癖たる自畫自贊は進歩向上の勁敵也。其現在の政治の万能に心醉し、科學の万能を夢想し、或は宗教の万能を鼓吹し、若くは黄金の万能を崇拜するは倶に與に自我万能の謬見に出づ。吾人は宜敷總ての社會を通ずる利害幸福の爲めに猛然として協力的活動を開始するを目的とし、人類共存の大義たる双互主義、及機會均等主義を實際に履行するに盡粹せざる可らず、其輕浮なる進化論の皮相の說明に隨喜して世界が小なる自我の生存、發達に對してのみ造られたるが如くに安信するは蓋し非違も亦酷しと謂はざる可らず。是に於てか吾人は有ゆる現代文明の缺陷に對する虹の如き不平の氣を吐きて、新時代の思潮を警醒し鞭撻するを以て刻下の喫緊要務なりと主張するに躊躇せず、則ち屠蘇の滿を引き、雜煮の椀を代へて、靜かに未來あり冀望ある新春を迎ふるを以て欽快とする者也。



皇后陛下



今上天皇陛下

年の初日拜みて[illegible]
[illegible]の一つは[illegible]君に響けかし大正二の鐘
銀雪の峰に[illegible]日は照りそ[illegible]ぬ紅[illegible]曳く初春の空
初日影希望に照りし丘の榮ゆ野は和らぎし魂のやすらひ
元日や碧める空にゆたかなる光溢れて初鳥なく
我今し初日を浴びて野に立てり吾世よ戀よ幸あれとのみ

○

新年に百迄も生きん願哉
元日やさりながら物神神しき
明星の影いらつくや初手水
會心の句を得て一氣書初す　仝人

初日の出拜まんとするに詩情狂に過ぐ　木[illegible]ばなな

○

目覺れば思ひもよらぬ今朝の雪枯木裝ふ初春の空　坂口筑南

○

微醉の老宰相や今朝の春
窓帷に月影婆娑として年ゆきぬ　田卷五峯

○

寄せ書き[illegible]にして除夜の笛　吉田嘗天

寸鐵

■寸鐵　予の始めて[illegible]を[illegible]し陣を張[illegible]しより僅かに[illegible]月[illegible]馬齢を加ふ[illegible]慨[illegible]に無[illegible]

■古人　の詞[illegible]に[illegible]める[illegible]て曰く「天地は萬物の逆旅にして光陰は百代の過客也」と味ある[illegible]や

■先哲　淵明先生も一日再び晨なり難しと云へり然りタイムに再[illegible]なく猶豫なく凝滯なし是自然の[illegible]

■新春　斗酒を傾けて意氣天を[illegible]くも可也窃かに巾着を[illegible]して貯金の[illegible]を數ふるも可也要著在於[illegible]

■世運　に消長あり人間に[illegible]衰あり[illegible]も眞理に[illegible]乎として[illegible]こなかるべし[illegible]來[illegible]馬鋤を揮はんよ[illegible]

■女權　擴張[illegible]の[illegible]キヤツト夫人ホテル[illegible]に於て[illegible]

■[illegible]　[illegible]

■突飛　と輕[illegible]には米國夫人の知[illegible]

■[illegible]　以來朝鮮に於い[illegible]



在米國特命全權大使子爵珍田捨巳閣下

一歩ゝ高光景来
大正新正
祝紐育新報之擴張
珍田捨巳

和歌俳句

新年や二代の服に折目立　太白
大正の御世豐なる初日出　同

安藤多郎

硬海に詩興湧くあり筆初め
雜煮腹いで減ばやと竹刀哉
[illegible]策や雜煮の[illegible]の便便と
骨牌取人妻の身も忘れけり

ガラン／＼ピー／＼と賑わしく舊新年の送迎に下街の喧しきを耳にして浴後の微[illegible]に醉ふや陶然、ラデーターの傍に安樂椅子を寄せし暖みに詩想の惱やみいつしかに夢路へ[illegible]號砲一發の轟き續いて遠近の滊笛が迫る時、頻りに鳴る。新らしき年と共に新らしき時代は來たり、迷へる子は醒めよ、亡びんとする人は復活せよと獨叫むた。

雪に明けて新年の句に難ず宿醉に
句なき吾を起して何ぞ筆初め

○

御參奉行大正よりは御禁制　田虫
若水をポンプにくめば何んとなく心淋しさアメリカの春　東舟

[illegible]る基督教徒のヒ[illegible]ケン[illegible]判に關してヒ說紛紛歐米[illegible]へて攻撃

■確聞　するに[illegible]らざるのみな[illegible]人を[illegible]

吾人の抱負及主張

社末　劍枝學人

吾社今次の擴張は蓋し市中十人、[illegible]同胞の賜なり、[illegible]と雖、拙に[illegible]者諸君の熱烈なる同情の力に[illegible]に從ひ[illegible]斯[illegible]るを得んや。吾人は此機會に於て衷心より讀者諸[illegible]する者也。

吾人の孤影[illegible]先筆を提げて[illegible]多難亦[illegible]艱、當時在紐同胞社會に於ける中に[illegible]錚々を以て鳴りし醉客大人の如きは「[illegible]にも一つ永[illegible]を寄せて、吾人の努力の或は[illegible]場一夕の淡夢と化せ[illegible]、讀者諸君の認識する所と[illegible]後特に多大の同情と助力と[illegible]するに至れりと雖、其間苦心慘澹、辛して行路難の第一關門を過ぎるを得たるは、顧みて竊かに[illegible]するを禁ずる能はざる者あり矣。

遠莫、先輩[illegible]士をして操觚の業は經營實に難中の難事に屬す、僕亦[illegible]髮爲めに霜を交ゆるを致せりと嘆ぜしめたるは宜也と謂ふべき哉。

蓋同胞社會教育の爲めに新聞存在の必要と價値とを說き、依りて以て輿論を指導するの機關となさんとする者あれ共、若し吾人の抱負近小[illegible]眞個に言論文章の權威を利用して現代文明の進步に貢獻するなくんば、何を以てか[illegible]其天職を竭すに堪ゆべけんや。茲に於てか吾人の抱負は遠大ならざるを得ず、然れ共學究の徒が[illegible]書堆裡に沒頭して時務に交渉なき迂遠の遠に倣はんとせず、或は一部の團體若くは金權の爪牙となりて無責任の議論を上下し、羊頭を掲げて狗肉を賣るが如き誇大の大[illegible]を[illegible]ざるべきを期す。

想ふに新聞は人類歷史の縮圖にして併せて時代思潮の明鏡也。隨つて吾人の主張の峻嚴にして端正なるべきは[illegible]將た遠大の抱負を實現し、[illegible]の歷史を編述し、時代の思潮を[illegible]とする唯一無二の方[illegible]なる[illegible]せずんばあらず、故に[illegible]の爲めに[illegible]し、夕に越帝の爲めに歸し、[illegible]驚かし、馬を[illegible]

[illegible]

米國人の氣象

大[illegible]長

太平洋は日米兩國修好通商の大衢なり、兩國はこの大衢を[illegible]交を増進し、[illegible]而して日本は[illegible]國[illegible]然れ共[illegible]以て[illegible]點に[illegible]ると[illegible]以外[illegible]の米國に學ぶべき[illegible]



[illegible]に止まらず。想ふに米國今日の[illegible]發達を齎せる原動力は[illegible]に之を索むべきの問題は、米國に來遊する日本人の腦裡に必ず湧起すべき第一疑問にして、之に對する正解は我帝國の殷富發達を助成する資料と爲すべきものあらんか、米國[illegible]域の廣大、其地貌、地文、地勢の恩澤、天與の富源等亦眞に米國今日の[illegible]發達を助成したる大[illegible]因なること固より疑を容れずと雖、是等は[illegible]米國の殷富の材料たるに過ぎず、其主因は蓋し別に在て存す、何となれば是等の富源、領域は未だ以て[illegible]の上に古來棲息したる印甸人の狀態を說明するに足らず。又中米南米諸國が均しく天與の惠澤に浴し而も[illegible]發達の比較的遲緩なる所以を說明するに足らざればなり。然らば則ち此著大なる發達の最大原因は是等の恩澤、是等の材料を利用し[illegible]民の氣象に[illegible]せずんばあらず。蓋し文明發達の[illegible]は[illegible]特殊なる人種の獨自にもあらず、又宗教[illegible]

[illegible]米國人の[illegible]國の現[illegible]米國は米國に於て[illegible]極めて[illegible]集約なる制度及[illegible]の下に天與の資源、地力の[illegible]を高める[illegible]大なる地域の上に行はれたる[illegible]、更に進んで斯る事態を生み出[illegible]根本原因を哲理的に說明し[illegible]斯る發達の[illegible]は「過去」及「現在」[illegible]に對し「未來」が常に最[illegible]る社會に於てのみ之[illegible]「未來」が常に「過去」及「現在」の力に屈服せらる[illegible]社會に[illegible]之を見るを得ず[illegible]篇[illegible]。

新[illegible]が難[illegible]、含蓄なるや[illegible]今[illegible]を[illegible]易に解すれば[illegible]、進步の氣象ある社[illegible]之を見るを得可き現象な[illegible]

此[illegible]は「未來」を[illegible]「過去」及「現在」の事例標準[illegible]の最高[illegible]「過去及現在」の標準[illegible]可きウルウォル[illegible]より高き[illegible]と幾層[illegible]「未來」の超越[illegible]

[illegible]この語によれば「過去及現在」を以て[illegible]大の[illegible]と爲すは則[illegible]退步停滯を意味するものにして、埃及、羅馬、若くは支那に於ける[illegible]の史績は其[illegible]も著しき例證たりし、之を「過去及現在」のアストテンシーと稱す。然るに之に反し泰西文化の眞意義なるものは「過去及現在」より一層偉大に、一層崇高、一層善美なる「未來」を生み出さんとする氣象なり。之を未來のインテンシヘーションと爲すと。

[illegible]按ずるに斯る氣象は必しも泰西の獨專には非ず、彼の湯の盤銘に苟に日に新に日日に新に又日に新に[illegible]とある、或は詩に周は舊邦と雖も其命維れ新なりとあるが如き、[illegible]一代の氣象を頌[illegible]るものに非るなき乎、我邦に於ける[illegible]中興の偉業の如き亦最も顯著なる[illegible]なるものと云ふべし[illegible]此說を[illegible]するものは「空前絕後」な[illegible]の[illegible]に就いて[illegible]叙上[illegible]の思想を[illegible]一句中に含蓄せるを見る[illegible]「空前」とは「未來」に生活する思想を[illegible]「絕後」とは「過去及現在」のみに渴仰生活する思想の表現なりとなすを得ん乎。

[illegible]自覺自信は[illegible]進化の原動力にして、「キッド」の所謂「未來」に對する希望を指すものなるに反し、誇大矜慢は進化の大潮に逆ひ個性を[illegible]現在[illegible]に停止せしめ又は「過去」に反動せしめんとする思想に外ならず。

惟ふに我國最近二大戰役の結果、國民は著しく其自覺自信を昂むるに至れり、是れ其[illegible]ぶべしと雖も、自覺自信の病的[illegible]たる誇大矜慢の病弊亦此間に萌芽せ[illegible]に非るなきやを疑ふ、然れども吾人は帝國歷史の[illegible]所に發現したる[illegible]取的氣象[illegible]徵し、此の如き病弊は斷じて眞の我國民的氣象には非ず、唯戰勝に醉ひたる一部[illegible]者流の病弊に非ずんば一時的變調なることを確信するものなり、適[illegible]病弊は一時的[illegible]の故を以[illegible]を失はず、速に此病弊を[illegible]するに非ずんば、遂に或は[illegible]さなることあらんを虞る。

日本が駸々たる世界進步の大潮に[illegible]して列强に遅れざらんとせば、幾多の事物に於て弘く智識を世界に覓むるの必要、今猶ほ昔の如し、是れ實に維新當時に於ける新日本の精神なるのみならず又現今の大方針たるを失はず、否、建國以來日本民族を指導し來りし大精神亦實に茲に存するなからんや。

アングロサクソン民族[illegible]勝の秘訣は實に其隆々として[illegible]まざる向上エクセルシオル的精神にあり、米國の詩聖ロングフェローは詠じて曰く

「[illegible]寞たる蒼穹忽ち聲あり
　エクセルシオル!!
　天籟殷々として星の隕つるに似たり」

From the sky, serene and far,
A voice fell, like a falling star,
EXCELSIOR!
Longfellow

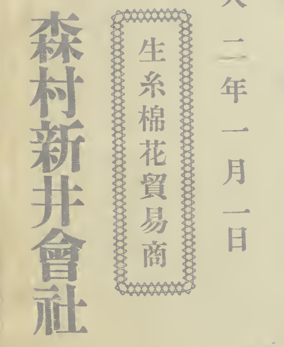
過去五十年間日本が万邦の長所に就て學び得たる學術、技藝、及思想實に枚擧に遑あらず、然りと雖、是等万般の智識思想を生み出したる我文化の泉源を涵養するなくして徒に其末流たる文化の形式のみを逐ふは、余其可なる所以を見ざるなり。

若し夫れ斯る進取的氣象を以て我國体及國民的精神に及ぼす影響を憂慮するものありとせば是れ我國史上の事歷、特長を藐視するものにして其[illegible]實に及ぶべからず、蓋し我民族[illegible]の始祖たる皇家を首と仰げる[illegible]き血族的集團の上に國家を形成せる帝國の國體は實に人類進化史上の一偉觀にして、万古不磨、永遠渝らざる、人類天真の根本的至情に[illegible]を置くものなるを以て、此國体、及國民的精神は天壤と與に無窮にして恭し過去、現在、未來等の如き觀念を超越せる万古永遠の眞理、天地五行のエレメントに其儔を比すべきものなればなり、是を之れ疑ふ者は誇大矜慢の弊竇に正反對なる他の極端、則ち自貶自損の暗鬼に囚はれたるものなり。

樂觀的氣象とは何ぞや、曰く有らゆる物質的及道德的困難及逆境を[illegible]へて之を排擊し、[illegible]敗るゝことあるも猶ほ能く[illegible]して最後の勝利に向て總進するもの之を剛毅樂觀の士と云ひ、因難及逆境の陷する所となり一意氣沮喪するもの之を悲觀弱行の徒と稱ふ。

土耳古の[illegible]諺に之れあり「坐するは起つよりも安樂に、臥するは坐するよりも安樂に、死するは臥するよりも安樂なり」と悲觀弱行の思想を表[illegible]て妙なり、土國の積衰積弱、寔に[illegible]せざる可けんや。

人生多恨、世路崎嶇たり、各人[illegible]く此の樂觀的氣象の陶冶を受け、社會も亦洽く此の氣象を以て瀰漫するに非ざる[illegible]は、米國天與の資源を以てすと雖焉ぞ能く今日の殷富を期し得んや。此兩國に於ける進取的氣象と樂觀的氣象とは時に一盧一盈ありと雖も、常に兩國交通の大衢たる太平洋を渡りて交流補掖し、[illegible]は東西文明の融和熔合に資せんことを。



新聞紙に望む

高峰譲吉

經濟上の原則たる需要供給の理は社會万般の事物に亘りて汎く適用さるゝのであるが、之を新聞紙に向つて適用する場合に於て特に趣味ある觀察を擅ままにする事が出來る。我々が各地方を旅行する時に自分が視察して見度いと思ふ都市村落の狀況一般を知るには其土地に於て發行する新聞を讀むに限る。之は新聞紙其物が複雜なる其地方の人情世態を寫して世人に紹介するの復寫器と爲り或は特種の問題に關する輿論の向背若くは利害得失を叙して研究者の參考となすからである。言ひかゆれば世人の知らんと欲し、聽かんと望む[illegible]新聞紙は遺憾なく其資料を供給し得るからである。從來當市に於て發行された新聞紙が、充分に在留同胞の希望に副ふて居たか又は相當に發達して來れるや否やは別として、私は將來に於て發達す可き餘地が[illegible]從來に比して、[illegible]新聞紙の必要とはせないかと思ふ。

第一に經濟上から觀察すること[illegible]億二千[illegible]万弗の[illegible]を往來しゐる[illegible]貿易の三分の一は紐育ニユーヨーク[illegible]に依りて經營されゐる[illegible]に於て他の在留[illegible]ならず、事實[illegible]遙かに重要なる地位に在り、殊に内外の經濟狀態を間斷なく注意し[illegible]する上に於て信頼するに足る可き新聞紙の存在を切望[illegible]である。

第二に[illegible]國際關係上から觀察す[illegible]一層の必要を感ずる。[illegible]日米兩國の關係は四五年前に比して[illegible]に解釋し樂觀し[illegible]あるが、之は[illegible]、今後如何なる問題が起きて來ないとも限らぬ[illegible]人心の變動が他邦に比して著るしい米國に對する我國民の態度は須らく愼重綿密なる可きを要する。[illegible]米國民心の向背を風船球[illegible]此風船球は風[illegible]西に行くか東[illegible]若し日本の爲に不利益な方面に此風船球が飛びて日米兩國の平和を[illegible]ふやうな形勢が見ゆるならば、社會の先覺者、指導者を以て自任する新聞紙は衆に先んじて[illegible]者[illegible]親善に努め新聞紙といふ大團扇を以て、此風船球を良好なる[illegible]する[illegible]ある。而して此義務を遺憾なく果たし得可き有力なる新聞紙は地勢上當市を以て最も適當なりと信ずる。就中在留同胞が精神的に將た物質的に向上進歩を圖る上に於て特に世人の要求を充たすに足る可き新聞紙の存在が必要である。

却說、如斯有力なる新聞の必要があり、かつ將來發達す可き餘裕ありとすれば、如何なる種類の新聞がよいかといふに、私一個の考をいへば輕便で要領を得たものだと思ふ。自分の經驗を以て他を律する譯ではないが各自事業に忙殺されて居るものは米國の各新聞或は日本の各新聞を一々讀破するタイムがない。夫れで日米兩國及世界の重要なる出來事を簡單に摘載して一目の下に其大綱を諒解することの出來る新聞かあれば確かに世人の要求を滿足せしむるに足るであらうし、世人も亦其新聞を援けて發達せしむるであらうと思ふ。更に新聞其物の主義と主張は如何といふに之は各經營者の人格如何に依ることで我々の容喙す可き限りでないが、私が當市に於て發行する新聞の態度につき希望し度い事は、飽迄公平誠實なる可きは無論、各種の問題を批判するに當つては努めて愼重嚴正の筆鋒を採り、決して地方小新聞紙の雷同的態度に出づることなく人心を新たにし、社會を指導する上に於て眞個の公共的機關たらんことを祈るものである。



高峰譲吉氏

過去と現在と未來

村井保固

茫々數千載の歴史に遡ぼつて民族の盛衰、國家の興亡を鑑みる時に當つて吾輩が最も痛切に歴史の價値と其敎訓とを感ずるのは人間處世の要道として吾等の採るべき方針である夫れは過去及現在を未來の犧牲とする事である。

吾輩が明治十二年に當市に來て實に不思議に思つたのは彼のセントラルパークであつた、當時同パークの光景は實に寂寞たるもので人家が疎らなところに散らばつて居る斗り何等の見る可き物がない只整然たる道路に瓦斯燈の光が散點するのみで何の爲に中央公園と命名したのか一寸解らなかつた。併し退いて靜かに考へた時に吾輩は米國人が過去現在を未來の犧牲とする遠大なる理想及抱負並に其計畫に敬服した、而して彼等の理想は三十餘年後の今日に於て實現されて中央公園は名實兼備へたるものとなつて當市々街の膨脹は更に大なる未來に向つて世界の視線を集めんとしつゝある。



村井保固氏

未來の爲に過去現在を犧牲とするの要は單に一市街のみではない一國、一家、一身の健全なる發達を遂げんとするに政治、經濟、宗教其他を通じ總括的に適用せらる可き千古不磨の根本要義である、支那の現狀、土耳古の衰退は如何なる理由に基くかを考ふれば直ぐに解る、就中朝鮮の滅亡は最も適切なる敎訓である、朝鮮に禿山が多いのは彼等の祖先が殖林と云ふ國家百年の長計を解たつた結果である即ち上は帝王より下は庶民に至る迄只管ら現在の榮華にあこがれて後世子孫を慮かることをなさなかつた當然の應報といふ可きである然るに現在世界に其雄を誇つて居る英米獨佛人が爲した事業を見ると彼等衰弱國民の祖先とは丸で正反對の事を爲して居る、列を近代に求むればレセップのスエズ運河、セシルローズの亞非利加縱貫鐵道、ビスマークの帝國統一、リンコーンの南北調和、何れも其抱負と計畫とを遠き未來に求めて居らぬものはない。吾々日本人が今日の位置體面を保ち得るのは吉田松陰、西郷南州、木戸孝允、大久保甲東、福澤諭吉、新島襄其他幾多の諸先輩が遺した賜物である、吾々は是等先人の遺業を繼承し更に來るべきチキスト、ゼチレーションの[illegible]福利益といふことに身心を傾注し、爲る事成す事明日の爲め、明年の爲め、後世子孫の爲めと思ひ場合によ[illegible]一身を[illegible]未來の爲に圖るといふ決心覺悟を以て處世の要訣とし日露戰役の爲に餘儀なくされた二十億圓の借金なども可成早く返して現在の苦境より脫しチキスト、ゼチレーションに迷惑をかけぬやうに努力せねばならぬ若し此精神を沒却して現狀に甘んずるが如きことあらば吾々六千万同胞の前途は頗る危しと云はねばならぬ。

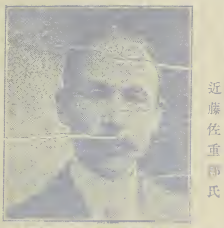
以上は甚だ平凡な言葉である、平凡な言葉も之を實際に應用しなければ何等の效果がない、吾輩は終に臨むで特に在米の青年諸君に此平凡な言葉を應用せられんことを希望する、繰返していふ過去現在を未來の爲に犧牲とするといふことは治國の要道である、齊家の秘訣である、處世の鍵[illegible]である而して文明進歩の母、民族發展の根本要義である

日本雜貨の將來と粗製濫造の弊害

近藤佐十郎君談

新報の記者某君、余の俗務に忙殺せられ居るにも拘はらず屢々來訪して新年號に何歟愚見を寄送せよと肉迫すると甚だ急である、余は元來其任にあらざるの故を以て再三謝絶したのであるが、終に某君の熱心に動かされて止むを得ず簡單に平素の一端を陳へて聊其責を塞がうと思ふのである。

聞くか如くんば故國の貿易決算は殆ご壹億圓に近き輸入超過を以て大正元年の序幕を閉ぢたと云ふことであるが、誠に以て寒心に堪へぬ次第である、徒らに盲目的軍備擴張や、無益なる蝸牛角上の政爭に熱中するのを避け、御互に國力充實と云ふ大問題に着眼して、本年に於ける輸出貿易の恢復の爲めに一層の努力をすると



近藤佐重郎氏

が急務中の急務ではあるまい乎。今試みに生糸、茶等に次て輸出貿易の中軸の位置を占めつゝある[illegible]貨の將來を豫測すると[illegible]

[illegible]濫費の結果と現今支那[illegible]の流行熱とに壓倒せられ居るが爲めに、其販路の回復は暫らく時期の再來を待つの必要あれ共、普通の雜貨に對しては[illegible]へ恐るべき獨逸品の競走あるも前途必ずしも悲觀する譯はなからうと信ずる、唯大資本を擁するデパートメント、ストアーや少しでも資本の融通の容易なる米商が率先[illegible]勉めて雜貨をハンドルするが故に、從來小資本を以て日本雜貨を專門に取扱へる小賣業者が大打擊を受くるに至つたのは自然の勢と謂はねばなるまい、卽ち日本雜貨の小賣業者たる吾々は單に從來の如く日本雜貨のみを專門として[illegible]日本人の店舖故日本品の外は取扱はせぬ[illegible]では自然經濟に取り殘されるであらうと思ふのである。

而して一方に又世人口を開けば日本雜貨の粗製濫造を攻擊し其原因の[illegible]邊に存するやを研究せずして專ら罪を故國の製造家に歸して居る樣である、彼の大[illegible]男の如きも曩に歐米漫遊を終へて歸朝せられたる後、盛に粗製濫造を戒められた樣である、乍併日本雜貨粗製濫造の弊が故國の製造家舊來の惡習慣に基くは勿論であるけれ共、之が改善進步の策を講せず、否寧ろ益々其弊害を助長せしむるのは其實正に在米の注文者にありと謂ふべきであつて、多數の「ホールセーラース」が例の「大[illegible]」かつ安[illegible]と云ふ無理無体なる注文を續發强制して故國の製造家を壓迫するが爲めに、製造家も亦其意を迎ふるの余儀なきを致さる、結果として粗製濫造を敢てするに至るのは明白なる經路である、大であるから今にして其改善進步の實際的施策を爲すにあらずんば、折角に築き上げたる日本雜貨の地盤を米國の市場に失ふの恐れが横つて居る、是れは決して雲煙過眼視すへき輕々たる問題ではないのである。余は大正二年の劈頭に於て特に一般製造者、及び其取次業者等の猛然として反省せんことを促がし度いのである。(文責在記者)

腕の延ばし處

三井物產會社紐育支店長　瀨古孝之助

日本の人口も段々に殖えて來た。吾々が小學校の先生から敎はつた時代には、我國の人口は四千万同胞と[illegible]たものである。然るに[illegible]まれてあるが、事實上內地のみで年々五十万の人口が增加しつゝあることは統計表の示す所で、此結果は將來如何なる影響を我國勢の上に及ぼす可きかこの問題は現在は愚か將來を通じて永遠に我政府當局者を苦しめ、憂國志士の神漿を疲らす大問題である。吾々門外漢は斯かる難問題を捕へて喋々するの資格は有たぬが兎にも角にも蕞爾たる東海の一孤島に有り餘る人口を詰め込んで重箱の隅を箸でほじくるやうなミシメな生存競爭を續けて行く事は出來ぬから我日本國民は是が非でも否が應でも嫌はれやうが憎まれやうが大に海外に發展し、大陸に膨脹して世界を相手に生存競爭の腕競べをするのである。さて此次に起る問題は何れの所が我民族の腕を延ばすに最も適當なりやである。北守南進か、米國移民か、抑亦南米殖民か、自分には更らに分らぬ只我國民は何でも彼でも外に延びなければならぬと信ずる點に於て世人と異らぬ、然るに私が歸朝する度に甚だ面白く感じないとは吾國の青年が不絶訪ねて來て米國に連れて行つて吳れろと賴む事である、彼等と雖も米國に來れば金塊が道路に散らばつて居るとは思はぬであらう而かも彼等は所謂成功を說く刊行物に誤られて何は然かれ米國に來さへすれば善いと思つて居る、甚だしきは[illegible]友親戚[illegible]間に對する体裁上自身の[illegible]營心を滿足さす爲に渡米を企つる者さへある、愚なる哉ではないか、男子身を立つるの地が獨り米國のみに限られた譯ではない、私の考を忌憚なく云はすれば吾國の青年が腕を延ばす可き處は米國よりも却つて支那であらうと思ふ、私が今夏歸朝の序でに支那の南方を視察して深く感じた事は同國の民心が過去の休止的狀態から脫して時々刻々に移[illegible]しつゝあることであつた、畢竟[illegible]大勢が自然に支那人をして舊習に[illegible]チノクするのを許さぬのであらうが



瀨戶孝之助氏

(以下四面へ)

腕の延ばし處（第三面より續く）

風俗習慣の變り行く有樣は實に著しいもので恰かも吾明治の初期時代を想像させる如斯民心に急激な變化を來す時代には必ず其處に乘ず可き虚隙を生ずるもので其虚隙に進入して之を利用し依て以て青年立身の計を爲すのは蓋し策の得たるものではあるまいか、且つ地理、人種、風俗、文物の程度などから米大陸其他と比較して考へて見ると支那は吾國の青年の事を成すに利便甚だ多しと思はれる、固より廣東人などは古來特種の商業的天才を有して居るし日本人の勢力は未だ此地方に及んで居ないが若し吾邦の青年が健實な覺悟を以て現時の機會を利用すれば色々な方面に手腕を延ばす餘地は充分あると考へる、

以上の如く私は支那を以て腕を延ばす所とはいつたが乍併私は米國や南米に行くなと勸めるのではない、既に吾民族の海外膨脹を可なりと決して居る以上は自己の性質に適合した凡ての機會を用ゐて世界到る所に擴がるが宜しい、就中米國に在留して居る同胞の如きは大いに奮つてもらひ度いのである、只私は花の如き希望に滿ちた青年諸君の腕を延ばすに比較的利便多い土地だと思つた所を述べて我か新報新年號の餘白を埋めるとにした

人種問題

正金銀行支店長　一宮鈴太郎氏談

世界將來の問題を察するに人種の事最關心するに堪ねたり、今日或は平和といひ人種排斥といひ、人道といふ何れも皆此問題に根底を置かざるはなし元來人種排斥は人の固有性にして人か初て知己なき者に邂逅せば直ちに發せんとする性情なるべし余は此に於て此資質か果して先天的か將た後天的なるかを說かず然れども此性癖か屢社會理想の大道を妨害する荊棘となり又屢進化順路の踐行を困難ならしむ巖石となるを信ず、之れ全く人に雅量なき印象にして狹虛にして磊落の襟懷を欠くに基かずんばあらず、然らば吾人は如何にして之を改良せんとするか之か根本的改良は之れ亢より遠大の事業にして一朝一夕に能くし得べきに非ず、乍去吾人を以て之を觀れば若之に新なる要素を加味するに於ては大に此惡性を矯正するを疑はず即ち兩者相互の研究是れなり、若互に其性情を研究し風俗慣習の如何を察し茲に兩者の熟知を諒せば決して誤解に陥る事なく彼の邑犬怪しむ所に吠ゆるの陋を學ぶ必要あらざるべし然るに吾日本人の性情も此惡性に富むか爲めか往々にして偏狹の弊に陷り東京に在住せば自ら同縣他縣兩人種間に親疎の別を立て海外にあれば自然内外人間に墻壁を築く殊に彼等は同胞間にあつては滿腹の意志を發表するに拘はらず外國人に對しては殆ご行路の人に對するか如し、今や米國に於ては日本人に對し一種の排日思想流行するは同胞の共に承認する所ならん固より此の如きは或は一種の政治的思想より胚胎せし所なきにあらざれど余を以て之を見れば尚他に大なる根本的基因の存するを否認し能はざるなり、邦人の習慣は可成沈默を守るを尊重するか故に米國人の如く進んで自個を廣告するの擧に出でず表情に乏しく、淡泊ならず、人と交際するに常に自個の主張を隱蔽して以て之に對す、故に屢然りと答ふべきを否と答へ否と答ふべきを然りと應じ戰々競々として一に彼の意に逆はざらん



一宮鈴太郎氏

を勉むるか如し此の如き結果は遂に「ジョージ、ケナン」氏以外の米人をして日本人は到底不可解の人種なりと云はしむるに至りしなり亢より米國人か「ケナン」氏に傚ひ日本人の眞性を研究せず直ちに日本人の不同化を說くは甚だ非なるも而かも一方に於て日本人か可成自個の廣告を避けて外人に接近せず飽くまで同胞間に其知友を求めんとするか故に議論の曲直を言へば罪獨り米人にありとは言ひ難し實に現在の狀態は共に兩者相互に隔墻を作りて相見ゆる者の如し若此墻壁を打破する事を得ば茲に全く人種排斥は消滅すべく、此墻壁を打破するは一に相互の諒解に勉むるにあるべし此の如くせば自然に日本人も世界的となり平和的となり茲に初めて眞に列強と比肩する地位に進む事を得可けん。

世は益物質的となり社會の交際は益經濟的趣味を帶ぶ故に利益の交換を度外視する交際は眞に永續する者にあらず自利に敏にして他利に吝かなるは決して互に圓滿の交誼を維持する所以にあらず自ら尊重せられんと欲せば先づ他を愛すへし彼に恩惠を施す彼れ何ぞ怨を以て之に報いんや彼を笑はしめんと欲せば先づ我より笑つて之に進め總て世は双對的にして若我にして先づ爲すべき地位にあれば必ず進んで之を爲し彼若其地位にあれば彼れ自然に其行動に出づるならん、蓋し此の如きは個人或は國家の立脚點により多少異ならざるを得ず而かも吾人は決して徒らに媚び妄りに諛ひ夫の陽春白雪の高格調を歌ふ者をして強いて其弦を折り琴を斷たしめんと欲する者にあらず人種排斥は最も吾人の忌む所なりと雖之を過けんか爲に自家の主張を犧牲に供し飽くまで從順なるべしといふにあらず之れ却て米國人の資質に反す實に米國人は或點に於て最も嚴格なる國民にして一彼か一度び對者の言を信ぜば後ち其誤解を發見せば絕對に其人を信ぜざるに至る故に米國人に對する交際秘訣は常に眞率にして能く其立脚點を明かにするを要す嘗て余は之を一紳士に聞く米國婦人は決して巧言令色を以て近かるゝ者にあらず眞に其意志を發表する者を好むと余は此言を聞き實に米國人の品性か自然に彼等婦人に因て發表せらるゝを知れり、此心を以てすれば米國人に同化する事の難きにあらず既に彼等と同化することを得ば進んで總ての人種と鎔合的交誼を爲す亦容易なる可く玆に所謂世界的平和の實を現はすことを得ん。

然るに近時人種問題流行の結果之を以て一種の職業と爲すものを輩出し或は論說に或は演舌に其平和策を創建するを說く彼等のいふ所決して誤りあるにあらず然れども其誠意を欠き其眞理を解せず實際に鈍にして現社會の實狀に反す今試に其平和論者に問ふに彼の息女を以て他人種に嫁せしめよと言はゞ彼の答辨や推測するに餘りあらん「カーネギー」氏は實に米國に於て平和論者の錚々たる者ならむ然れども彼自身の製金か鋼鉄艦の材料たるを中止するの勇なければ到底彼の言を信ずるに足らず、翻つて現時流行の平和會議なる者を見よ彼等は集つて何事を議すか其議決案を見れば一も現社會に實行し得べき者にあらず元より平和會議は將來の理想にして現在適確の者に非ずとせば玆に論ずる限りにあらず、然れども此理想實行以前に於て倘現在に必要なる諸種の問題ある可し然るに之を措いて彼の如き空論を弄ぶ吾人は彼等の暢氣なるに驚かざるを得ず彼等か常に實行すべからざる問題を議決するは之れ彼等の秘訣にして若實行し得べき問題を議決せりとせんか却て根本的に平和を破り國際間の紛擾を釀し遂に會議を根底より滅却するに至らん、然れども吾人は茲に於て全然平和會議か無效なる可しと主張する者に非ず、其結果は多少の效果を實現するなる可し即ち多數の異邦人一堂に會し各其意見を開陳する者なるか故に自然に交互の風俗習慣の異同を發見し大に意志の疏通を爲すと共に漸く外客にして彼も人なり我も人なり眞理は極端に存せず人は必ず天然の法則内に動く統一は人世の生命なり、諒解は此生命の母なりてふとを悟りて、彼等か故國に歸還せば各之を公衆に告げ此傳導に依り直接間接に其期待する目的を完成するに至る可きなり、之れ平和會議に附帶する唯一の利益にして他に何等の利益あるを知らず元より吾人は斯くいふを好む者に非ず而も事實は斯く云はしむを奈何せん、吾人は決して過當の言を吐かず因を推して果を測れば勢正に此の如くならざるを得ざるなり。

本論を終はるに際して其代表者の資格に關し一言を挿まんと欲す、從來の代表者を見れば何れも固陋の專制家にあらざれば世事に迂き學者又は官僚の威風を籍る官吏ならざるはなきか如し、實に此の如きは無能の會議をして益無能たらしむる所以にして吾人は撰擇者に望むに外國ごに精通し常識を有し大勢に徹底する名士を出さん事を以てせんとする者なり。

清國の動亂と支那美術品

山中商會ニユーヨーク支店長　牛窪第二郎

東洋の藝術か泰西人士の注意を喚起せしは今日に始まりし事に非ず、去れご數年前團匪の亂以來、支那の古美術品にして稀世の珍寶の續々外邦に輸出せられしより、藝術批評家等か先を爭ふで之か研究に腐心し、富豪者流亦之か蒐集に熱中し、今や歐米の上流人士にして苟も美術を口にするものは、支那美術史の一般を知らざるを以て耻辱とする如き狀ある誠に盛なりと言ふべし。

去るからに前年來の動亂即ち大清帝國の沒落、中華民國の建創に際しても機を見るに敏なる歐米人の事とて斯業に從事せる商買人等の清國に客遊せるもの頗る多く、清國社界組織の動搖に際して、皇室並に民間の富豪より當然拂下げらるべき珍器什寶の鮮からざるべきを豫想し、之を買收せんとして東西に奔走せる、恰も蟻羣の甘きに就くか如き觀ありき、而も事實は全然豫想に反し、藝術品の市場に賣買せらるゝもの却つて例年より僅少なりしは一奇觀たらずんば非ず。

我山中商會ニユーヨーク支店の如も昨年一月末、奉天府の清朝寶庫に所藏せらるゝ什寶の、拂下ある可き旨の電報を同地出張中の本店員より受領し、又幼帝の伯父に該當せらるゝ、恭親王家に緣由深き某々方面より、同親王家所藏の寶物拂下げあるべくとの情報に接せしかば、店員の一二は行李匆々渡清の途に就きし次第なりき。

奉天寶庫所藏の什寶の如きは、發途に先ちて精細なる目錄まで入手せし事とて、着清前己に十分の研究を爲したるか、元より清朝五百年歷代の帝王か豪奢權威に任せて蒐集せし處とて、稀代の珍什の夥多なる人をして驚倒せしむるものあり、恭親王家は皇族中の首班に列せる事とて、其寶庫の如きは軒字相連り、宛然たる一大美術館を爲せり。

今回我商會か買收してニユーヨークニ廻送せしば、即ち恭親王家所藏にかゝりしものなり、奉天寶庫中のもの及び北京に於ける皇室の寶物は、故ありて拂下げの機運に至らず、暫らく現狀の儘にて世に出でざる可し彼の清皇宮室の什寶の倫敦にて競賣に付せらる可しと云々とありし流說の如きは、畢竟訛傳にして狡猾なる商賈か爲になす所あらんとせしもの、誣も亦甚しと言ふ可し。前年來の兵亂に際し、清國上下社會か夥しき動搖を受けなから、清國富豪の家什の市場に賣買せらるゝ物多からざりしは、蓋し其所以する處なくんば非ず即ち今回の改革に當り清人の商賈か多く兵燹其他の災禍に際遇し、今猶人心恟々たるは其一なり、又這次の革命は團匪の變亂の如きものと全然其性質を異にし、且つ黃興、孫文等の人士の之を統一せるありて、外人を丁重に庇保せしより、清人は一に己れの珍什家寶を擧げて、外人保管の倉庫に委託し、容易に市場に出さゞるは其二なり。

如上の事情の下に、一時清國市場に跡を絶つか如き觀ある支那美術品も社會の秩序の恢復せらるゝに從ひ、漸次世に出で來る可きは疑ふを須びず、歐米に輸送せらるゝ珍寶、亦從つて頻々なるべし

國語國字改良案

時枝誠之

國語國字改良案
（漢語漢字排斥英語ト國語混用）

序論

日本ノ現代ノ國字國語程錯雜シテ六ケシク不便ナル者ハ世界ニ類例ガ無イ。ソノ改良ヲ要スルトイフコトハ數十年來ノ懸案デ其改良策ハ大要下ノ二説ニ歸スル事ヲ得ル。

（一）漢字ヲ制限整理シテ從來ノ假名交リ式ニ改良ス可シトノ説

日進月歩ノ世ノ中ハ思想モ從ツテ緻密トナリ錯雜シテ來ルノニ、思想ヲ表示スル言語ヤ文字ヲ制限スルコトハ乃チ思想ヲ制限スルト同一デ、行ハル可ラザルコトデ、同一ノ思想ヲ表ハス場合ニ、區々ニ分ルルノ[illegible]ヲ得ナイ。又漢字ヲ使用シテハタイプライターノ如キ便利ナ機械モ使用スルコトガ出來ヌ。改良案トシテハ尤モ下策ト思フ。

（二）漢字ヲ全廢シテ假名文字ノミヲ專用スルトノ説

假名文字ナレバ教習ニハ便利デ、又タイプライターモ使ヘルガ、漢語ヲ假名デ書イテハ何ノ事ダカ、意味ガ通ゼヌ、假名ノ會ガ今日存在シテ居ルヤ否ヤモ判ラヌ有樣ニ在ル事ガ其實用的デナイ明カナ證據デアル。

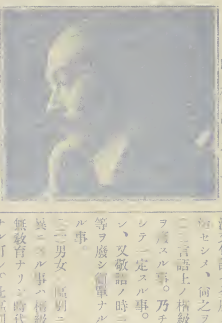
（三）ローマ字專用説

今日ノ大勢上ローマ字採用ハ自然ノ勢デ日本ニ於ケル國字改良説ノ最モ有力ナルモノデ、我輩モ此説ニ贊成デアルガ從來ノローマ字式ハ漢語本位デアルカラ假名式ト同樣ニ同音異義、同義異音ノ言語ガ多イカラ錯雜混亂スルノミナラズ、各人勝手ニ漢語ノ熟語ヲ製造スル世ノ中、之ヲ表示スルニローマ字ヲ以テシテハ假名ト同樣到底諒解スルコトハ出來ヌ。我輩ノ改良案ハ此不便ト錯雜ヲ避ケテ而モ自由ニ緻密ニ明瞭ニ意思ヲ表示スル爲ニ英語及ローマ字ヲ採用シ漢語及漢字ヲ全廢セントスルノデアル。從來ノローマ字式ト異ナル處ハ從來ノ漢語本位ヲ英語本位ニ改メントスルノデアル。コレ迄ハ日本文法トイフ骨組ノ中ニ漢語ヲ筋肉トシ、日本語ヲ血液トシタ。我輩ノ案モ同ジク骨組ハ日本文法デ、唯其筋肉ヲ英語トシ日本語ヲ血液トシテ活動セシメントスルノデアル。

以上ハ我輩ノ改良案ノ序論デアル。次ニ我輩ハ本論ヲ三章ニ分チ、初メニ本案ノ理由ヲ説明シ、次ニ英語ヲ混用スルニ就テ如何ニシテ日英文法ヲ調和ス可キ乎ヲ述べ、終ノニ作例ヲ掲グテ本論ヲ終ハルコトトスル。先覺諸士ノ批評ト教示トヲ賜ハラバ誠ニ幸デアル。

第一章　改良案ノ説明

第一節　言語學上ニ於ケル日本語日本文字ノ位置



時枝誠之氏

言語學上カラ世界ノ言語及文字ヲ類別スルニハ其見方ニヨリテ種々ノ區別ノ方法ハアルガ本論ニ干係アル立場カラ曰ヘバ下ノ如ク區別サル、

第一。言語ノ上カラ曰ヘバ、單音語（monosyllabe）ト復音語（Polysyllable）トニ分ル、。

第二、文字ノ上カライヘバ章標文字（Ideogram）ト音符文字（Phonogram）トニ分ル、

現在ノ世界ノ言語、文字ヲ上ノ區別ニ依リテ見ル時ハ支那語ハ單音語デ漢字ハ章表文字デアル。歐米ノ言語ハ何レモ復音語デ其文字ハ音符文字デアル。處デ日本語ハ如何ト見レバ言語系カライヘバ、勿論復音語デアルガ文字系カライヘバ、章標文字ナル漢字ト音符文字ナル假名トノ混用デアル。單音語ト章標文字、而シテ復音語ト音符文字。コレガ言語ト文字トノ自然ノ調和デアル。然ルニ日本ノ從來ノ漢文假名交リ文ハ勿論、前ニ述べタ假名ノ會式ノ文モコレ迄ノローマ字會式ノ文デモ單音ノ漢語本位デ、其言語系ト文字系トニ於テ到底調和スルコトハ出來ヌ。我輩ノ日英混用案ニヨレバ、言語系ト文字系トノ調和ガデキル。コレガ從來ノ假名ノ會ヤローマ字會ノ成功セザル所以ニシテ我輩ノ案ノ成功スベキヲ信ズル[illegible]

第二節　特ニ英語ヲ撰ミシ理由

復音語ノ中デ音符文字ヲ使用セル言語ハ歐米印度語等少クナイガ、其中デ特ニ英語ヲ撰ンダ理由ハ、英語ガ現在及將來ニ於テモ最モ廣ク用キラル、言語デアリ又日本ノ地形上東ニ北米合衆國、加奈太、南ニ濠洲ナル大英語國ニ隣接シテ居ルト文法上英語ガ佛、獨語ヨリモ日本語ト調和スル上ニ於テ障害ガ少ナイカラデアル。此説明ハ餘リニ長キニ渉ルガ故ニ略ス

第三節　本案採用ノ利害得失

我等ハ本節ニ於テ實用上ノ利便、經濟上時間學力ノ省略、教育上ノ簡易純英語ノ書籍ヲ讀ムコトノ楷梯トナルコト、本案ニヨリテ書キタル書物新聞、英語國民ニモ容易ニ諒解セラレ、從テ東西意思ノ疏通ヲ助ケ世界平和ノ基礎ヲナス事。支那トノ干係國民性ニ及ボス影響等ヲ論述セント欲スレドモ紙面限リアルヲ以テ略ス

第四節　本案實行ニ就テノ希望

（一）文章ノ体裁ハ言文一致體デ漢語漢文句調ハ全廢シ純日本式文典ヲ復活セシメ、何之ヲ整理スル事。

（二）言語上ノ階級制度 Caste system ヲ廢スル事。乃チ代名詞ノ復雜ヲ廢シテ一定スル事。御ノ字ノ亂用ヲ廢シ、又敬語ノ時ニ受動詞ヲ用ユル事等ヲ廢シ簡單ナル敬語辭丈ケヲ存スル事。

（三）男女ノ區別ニヨリテ言語文字ヲ異ニスル事ハ階級制ノ觀念ト女子ノ無教育ナリシ時代トニ起因セルモノナル可シ。此區別ハ繁雜ト不便ヲ增スノミニシテ更ニ益ナシ。同文同語ニ改メ度シト思フ。

（四）Punctuation ノ Mark 並ニ Capital Letter ノ用ヒ方ハ凡テ英語ニ倣フ事。

（五）現在ノ日本ノローマ字綴リ方ニハ種々ノ方式アリ、又日本語ノ切リ方モ種々アリ。亂雜ニシテ統一ナシ、コレ調査委員會ヲ組織シテ一定スル事ヲ要ス。日本ニナキ音ハ漸次教育シ五十音譜ヲ改良增加シテ其排列ナドモ少シ學理的ニシ度イト思フ。モトヨリ綴リ方ナドニ就テモ我輩ニモ多少ノ意見ガアルガ、例ヲ擧ゲバ、横ノウ行ニ於テ子音ノ後ノUノ字ハ省略スルヲ可トスル場合ガ多イト思フ。蜘蛛 Kumo 雲ハ Kuo, 隅ハ Sumi, 墨ハ[illegible]ノ如シ。

第二章　日英文法上ノ調和

本案實行上日英文法ノ上ニ於テ調和ガ困難ノアルナラバ隨テ實行モ困難デアルガ、實際上不調和ノ點ハ少ナイ。以下順次ニ調和ノ方法ヲ陳べヤウ。

（一）[illegible]英語ノ名詞ヲ混用スルニ就テノ不調和ハ單、復、數ノ問題デアル。我輩ノ考デハ英語ノ名詞ガ復數ナル時ニハ復數ノ形ヲ用ヒ日本語ノ名詞ガ復數ナル時ハ Shoe[illegible] ガ單復同形ニテ用ヒラル、如ク常ニ單數ノ形ヲ用ヒテ文勢上單復ヲ區別スル事トシテモ別ニ差支ハ無イト思フ。（case）ノ問題ハ後置詞ノ章ニ陳べヤウ。

（二）Pronoun　英語ノ代名詞ヲ混用スル場合ハ少ナイト思フ。然ルニ日本語ノ代名詞ハ漢語ノ輸入ト（caste system）ノ思想トヲ混合シテ第一、第二人稱ガ非常ニ錯雜シテキル。我、僕、拙者、手前、其他又汝、君、貴殿、あなた等種々デアル。併シ純粹ノ日本語ハ頗ル簡單デ規則正シイノデアルカラ之ヲ復古セネバナラヌ。又日本ニハ女性ノ第三人稱ガ無イカラコレハ創造スル必要ガアル。下ニ擧ゲタルハ我輩ノ創造デアル。次ニ漢字ノ爲メニ忘却サレタ規則正シキ代名詞ヲ列擧シヨウ。

(1) Personal Pronoun

單數		複數	
I	Ware	(We)	Warera
(You)	Nare	(You)	Narera
(He)	Hare	(They)	Harera
(She)	Mare	(She)(複數)	[illegible]

(2) Interrogative Pronoun

(What) Dore Nan[illegible]
(Who) Dare Tare
(Which) Do[illegible] Dore

3. Reflexive Pronoun

Myself Wagami
Yourself Nagami
[illegible] Nagami
Herself Magami
[illegible] Sagami

[illegible]

4 Demonstrative Pronoun

This Kore
That Are

5 Indefinite Pronoun

Any one Dare
Any thing Nan[illegible]

6 Distributive Pronoun

[illegible]

3. Adjective

Adjective ガ Noun ヲ形容スル場合ニ日英干係上四ツノ組合セガ出來ル、其場合ニハ下ノトホリニスルコトガ從來ノ漢日干係上自然便利ダト思ウ

（一）日本語ノ形容詞ガ日本語ノ名詞ヲ形容スル時ハ、形容詞ハ日本語格ニヨル Akaki hana。

（二）日本語ノ形容詞ガ英語ノ名詞ヲ形容スル時ハ形容詞ハ日本語格ニ依ル。Akai Flower

（三）英語ノ形容詞ガ日本語ノ名詞ヲ形容スル時ハ英語ノ形容詞ノ次ニ[illegible] No ヲ加フ。Beautiful na hana, [illegible] ナリノ形ノ上ニ更ニ na, no 等ヲ加フルコトガ調和ノ上カラ便利デアルト思フ

（四）英語ノ形容詞ガ英語ノ名詞ヲ形容スル時ハ英語格ニヨル。[illegible]

[illegible] ノ形ーナル以前ノ語ヲ見出ニ困難ナル場合ガアルカラ[illegible]

4. Tense 5. Voice 6. Mood ノ六ツノ干係ニヨリテ inflect スル。[illegible]

[illegible]

6. Postposition

Postposition ハ英ゴノ Preposition ニ相當スルガ日本ゴデハ苟モ Noun 又ハ Pronoun ガ[illegible]ハ其次ニハ必ズ Postposition ガ付屬シ其用法モ亦複雜デアルガ、要之 Postposition ハ其次ニ來ル言葉トノ干係ヲ結ビ付ケタル爲メノ小サナ言葉デアル。乃チ[illegible]ヲ定ムル言葉デアル。[illegible]日本ゴノ Postposition ヲ英ゴノ Preposition ト對照シテ示サウ

Case	English Preposition	Jap. Postposition
Nominative		
Genitive		
Dative		
Accusative		
Copulative		
Ablative		
Locative		
Instrumental		
Vocative		

[illegible]

第三章　作例

[illegible]

●訪問録

思出多き明治四十五年と大正元年とが一時にグードバイをするから年内の御厚意に對し敬意を表し度、所用を兼ねて市内の有力家を訪問すると[illegible]、何分敬意を表するのであれは順序として下町から始める可しと第一にフロント街の

▲古屋西村商會▲

を訪ふて本問儀三郎氏と草信竹治氏に會つた、茶業談、貿易談など面白い話を聞いた後に人種繁殖論を聞かされた両君共に不言實行の商業家と見へ各々五人宛の子寶を持つて居られる本欄内にある小供の寫眞は草信君の御小供衆でスタテン島の温かき住宅の後庭で寫したものである、尤も此寫眞は君の友人の宅にあつたのをもらつて來て掲載したのであるが若し無斷掲載の罪を責められたら甚だ相濟みませぬと謝罪する積りだ、[illegible]



散ﾐ商賈に心血を濺いた餘力を以て毎年[illegible]人宛の人間を製造する草信君の精力に實に驚いたるかなで全く敬服した、本間氏は茨城縣の人、東洋英和學校出身である、アノ貴公子然たる若い顔をして居て明治五年生とは聊か怪しい、草信君は神戸の人、在米二拾餘年間茶業専問の腕を鍛へた人である、一時間計りして此處を失敬し今度は

▲日本綿花會社の日置増雄氏▲

を訪ふた、初對面で伺つた所を申すと御顔は朝鮮式で言ゴ動作は落着いたもの、赤門出身の法學士で近々歸朝す可き山田氏の後任である、前々任者の杉村君は過勞の結果神經衰弱を起しアンナ悲慘の死を遂げられたが日置氏は寡言沈默　見禪坊主のやうだから間違はあるまい、左様なら新年[illegible]を交換し[illegible]其足の序に

▲總領事館の沼野領事▲

に敬意を表した、[illegible]時に沼野さん貴下に[illegible]聽した後、[illegible]新年廣告を出[illegible]す[illegible]切出すと「ヤア僕がお駄目だよハハハ」と手を振られる、「尤も貧乏な貴下から[illegible]クトもしないなかつたか併し[illegible]見なきやお損ですからな」[illegible]たら「ハハ此いつは[illegible]」[illegible]何こも母あり[illegible]母の[illegible]藥、通商局長にでもな[illegible]拙者を追拂、やな利[illegible]藥で以て貿易業者の要求に[illegible]だな、ハーと思つた、イヤ[illegible]魔を、、、ドーアを開け[illegible]

▲埴領事館補▲

に敬意を表[illegible]方は[illegible]だね、今度[illegible]さい[illegible]難有[illegible]た譯でもな[illegible]文蘭[illegible]

國の爲[illegible]か[illegible]鎖り輔[illegible]滿更嘘ではない、[illegible]ふ、高商の出身で中々の働家、孜々として内外賢哲の書籍を讀み[illegible]るの外、近頃は盛んに[illegible]て居る、前途有[illegible]覇氣の勝つた[illegible]色の白い上品な[illegible]堀、霞ケ關の大將[illegible]事の人選には中々巧み[illegible]縱益の外交を[illegible]、、餘計な事を[illegible]か[illegible]其處々々に[illegible]

▲正金銀行支店▲

に敬意を表する、斯う[illegible]やつては敬意却つて輕易に見[illegible]知らぬか拙者獨得正直[illegible]さう筈がないから自分で安心[illegible]参上した、[illegible]何か[illegible]氣焔を吐いて[illegible]

[illegible]酒たる[illegible]青年紳士[illegible]背が高[illegible]色が白[illegible]を示す中に[illegible]愛嬌を込め[illegible]を見ると學生時代に[illegible]防へ[illegible]家[illegible]代[illegible]で學校に行つ[illegible]評判[illegible]も無理はなし、日向の國[illegible]



北村篠松氏

[illegible]



▲[illegible]▲

[illegible]

▲糟屋皮肉氏▲

オイ新聞屋[illegible]があるなら早く返せ[illegible]活字を抑へられるて、、拙者[illegible]文の借りは御[illegible]可成な[illegible]十[illegible]信[illegible]度いもんです[illegible]こそ[illegible]返すと先生すかさず、何だか借[illegible]には[illegible]金支店には[illegible]備[illegible]門君を始め[illegible]橋爪曾根[illegible]等の諸君何れ劣らぬ[illegible]七本鎗[illegible]

[illegible]身[illegible]高商出身[illegible]數理的である、尤も[illegible]全く數理的に出來[illegible]に取るや[illegible]五時[illegible]

内閣の更迭

ウォール街の
一階日富論黨

▲愈々西園寺内閣も寂滅と來た、桂さん[illegible]來たね、電報に由ると與論は大いに政友内閣に同情しとるやうだが日本人の輿論なるか當には[illegible]、併し内閣瓦解の理由が増師問題に在つたと言へば吾輩大いに意見ありだ、目下の場合朝鮮に二個師團を増設するが爲めに過去二ケ年間の財政計畫を破壞しかつ内外に對して日本

▲併しだね凡て[illegible]或は増師問題は高難を排し[illegible]

▲桂公は財政計畫に失敗して内閣を西園寺侯に譲り渡し、侯は過去二年間財政行政の整理に腐心した[illegible]て今や増師問題の爲に其整理を放擲するといふのだ、茲で考へねばならぬことは政府の財政方針が數々變更[illegible]、山本氏は縱令人[illegible]當時の理想を實現せざるとも、少[illegible]種々な情實を排し理想の一端を遂せ[illegible]

[illegible]が國民は例へ[illegible]か[illegible]當局者は何等[illegible]の方法[illegible]我[illegible]田中軍務局長は陸軍側の主張[illegible]を發表したが彼れ位の説明では未だ充分の理由と認める譯に行かぬ、我等の聞かんと欲する所は何故に早速二個師團を増加せねば國家が危[illegible]かである、露國が恐いのか、遼東租借地の[illegible]爲か、但[illegible]は内閣乘取策の口實か

▲[illegible]は甘く政友會を操縱するさ、政友會も兎角[illegible]の集りだから[illegible]服從するだらう、心配なのは今日以後宮中府中の別が解らなくなつて不[illegible]が起らねば善いがといふ事だ、

▲之を要するに今次の内閣瓦解は個[illegible]文武両派何れに罪ありやは[illegible]師團の増置が急要か財政の整理が更に急要であるか、大秤棒に懸けた上[illegible]なくては是非曲直は論ぜられない、小新聞の多くが外面を見た計りで山縣桂等の武斷派に個人的悪罵を浴せ掛けるのは感心せぬ、吾輩自身の[illegible]は我國目下の最大要務は國力充實が第一[illegible]

[illegible]衝式の政策を[illegible]▲西園寺内閣が陸相の爲に瓦解したことを難ずる[illegible]陸軍官制を讀まぬ人である、陸軍官制に因れば陸軍大臣及次官に任せらるゝ者は現役大中將に[illegible]官とす[illegible]であつて、[illegible]の中に[illegible]現役の大中將に非されは陸相たる能はずこと[illegible]いだ、政友會員には現役の大將がない、[illegible]を得ず山縣[illegible]に盡力を頼む[illegible]、[illegible]絶された、内閣は[illegible]なかいとも成立せぬ、寂滅、往生[illegible]

[illegible]仕組むごるよ、左るにても陸軍萬能の政治を仰いでるやうでは日本國民の立憲政体も頗る怪しいもんさ

▲元老の[illegible]とか跋扈とかいふも強ち新聞のいふ通りには行かぬ只山縣さん[illegible]力に望むのは感情を以て政治を料理しでもらい度くないとた、勿論人間は感情の動物だから諸事[illegible]やうには行かぬ併し斯かる大問題の起きた場合には老諸氏は自己[illegible]身

米國置みやげ

女子大學校長　成瀨仁藏氏談

一、渡米の目的

予が今回渡米したる目的は米國現時の敎育、殊に婦人の高等敎育に關する一般の傾向を視察することと本年日本に於て組織されたる歸一協會の趣旨目的を米國人に紹介せんとするにありき、予が最初の渡米は二十三歲の時にて二年有餘新英州に於て大學敎育を受け後ち三年間寄宿舍或は家庭に出入して米國婦人の高等敎育を研究する傍ら一般の生活狀態を觀察せしを以て今回二十年目に渡米して其敎育の進步文物の變遷か如何に大なるを視るも別段に想外とは覺えず尙現在の狀態や今後の發達を比較的短日月の旅行に於て視察するも大体の推測を爲すに誤り少なかる可きを信ずるなり。

二、在米同胞の變遷

二十年前に於ける日本人の狀態は其程度甚だ幼稚にして知識及實質上何等見るに足る可きものなかりき無論當時と雖も日本青年の渡米者は數多ありしも現今の如く充分に其意志を實行するの便なく機會も少かりしなり、其後余は種々なる方面より觀察研究し今より六年前には米國に關する內外の報告を蒐集して研究したる結果は猶予に滿足を與へず、在米同胞に關する余の見解は較や悲觀的なるを免れ[illegible]人は六年前既に發展の實力を示し居たる筈なりと思考す或は速記者の間違ひならむか)然るに今回渡米して其實狀を視察し之を以前の狀態と比較すれば實に宵壤の差あり、殊に布哇及加州に於ける在留者の發達と進步は實に可驚ものにして豫想外の變遷なり、固より前途に幾多困難の介在する事實無きに非ざるも在留同胞の基礎か既に鞏固となりたるは事實にして最早憂慮するに足らずと信ず市俄古以東の大學に在る日本人學生に就ての感想を述べんに二十年前には大學內に同胞の學生は極めて少數なりしか現今は到る處多數の日本人學生あり其學生等の深き經驗又は將來の希望等を聞くに眞とに傾聽に値ひするものあるを發見して大ひに滿足せり、只爰に著るしく予の注意を喚びたる事實は何れの大學に行くも日本人學生の長所を賞揚する者なき事之なり斯は蓋し支那共和政府の成立と共に米人の意向か凡て支那に注かれたるに因由すると思はる也米國に於ける支那留學生の増加は年と共に盛んなるか上に彼等の中には米國人を驚かしむる程の秀才あり且多くは政府の撰拔學生なるを以て相當の社交的位置を保ちつゝ十分に勉學するを得るに反し日本人學生の多くは自活研學の苦學生なれば屢々勉强時間の不足より性來の光輝を發揮すること能はず體面を保つ上に於ても餘裕ある支那人學生と比較して米國人偏愛的傾向を帶ばしむるは止を得ざる所なり、加之現時米國一般の社會的傾向は稍や階級制度を歡ぶの風あり隨て勞働者を輕視するが如き有様なれば其結果として日本人苦學生に對する同情を弱めし理由無きに非ず、而も予の見たる日本人學生中如上の障害あるに不拘邁往勇進して學業修得に汲々たる者多きは大ひに意を強ふするに足るなり。

三、在留同胞と婦人

今回の渡米に於て最も予を喜ばしめし事實は多數の高等敎育を受けし日本婦人の増加せしことなり、予は初めて布哇に着せし以來桑港羅府市俄古ニユー育等に於て數多の家庭を訪問せしか何れも西洋人に恥ぢざる家庭を維持し其子供の敎育に於ても聊か欠點の存するを發見せず、此事は全く予をして意外に感せしめし所なり然れども實際在米同胞の全數八万に比較すれば家庭を有する者の少數なるは之れ亦意外にして多數の日本人はホームライフの温籍を欠き、不絶奮闘努力を繼けつゝ有るに拘らず常に寂寞を感じて眞の妙味ある生活を味ふ能はざる事は殊に予の遺憾とする所にして其能力の發達を害するは勿論屢其健康をも傷ひ遂に小成に安んずるの止むなきに至らしむ、故に吾人は將來米國に於ける日本人か相當の配偶を求めて益々立派なる家庭を組織するを望んで止まざるなり。

四、米國社會狀態の變遷

今日米國の文明は益物質的趣味を帶び之を二三十年前と比較するに非常の相違あり、人類の生活難は只日本に於ける常套語なるのみならず、米國に於ても同樣の現象を發見す、家庭生活は益ホテル生活と變じ日常生活は殆んど器械的壓迫に制御せられて精神的生活の發展は既に其萠芽を斥除せられつゝあるか如し、此の如き狀態の改善は種種の方法あらんも其最大なるは一に宗敎の感化力に待つの外他に良法なからんと信ず、元より現今米國に於ける宗敎力の基礎は大に鞏固となり更に將來の發展に關し何等間然する必要なき者の如しと雖も其一般に及ぼす感化力は益々弱となる傾向を有し眞面目に宗敎の效果を實現せしむる如き事は如何と疑はしむるに至れり、實に此の狀態は本國に於ても今日同樣の傾向を有する者なるか殊に在米日本人は注意して根本的に自個の品性を改善し以て大なる慰安を享くるの必要ありと感ず。

五、移民問題

尙目下米國に於ては未だ移民問題に關し直に解決を見るに至らざる者の如し余を以て之を見るに米國が日本人の善良なる種子を混入するは最も必要なるのみならず尙日本人も自ら其實力智識をして將來に發展せしめんと欲せば大に注意せざる可らず、實に米國は事物の中心點なるが故に有爲の青年が益入國して諸方面に發展し以て各其素志貫徹に努力するは兩國の爲め大なる有益事業たる可きを信ず殊に日本人が米國人と提携して東西文明の調和を圖り以て世界平和の媒介者となり茲に新たなる大文明を産出するは最有望なる者なるべし、元より現時に於て之が實行に幾分の障害制限は止む可らざる者ならんも此の如きは決して永久的の者にあらずと思ふなり

(未完)

人事往來

●住友銀行員大平賢作氏　は歐米漫遊の途次先月末來市向ふ六ヶ月間滯在の豫定

●山田穆氏　日本綿花テキサスフォートウヲース主管の同氏は視察の爲め四五日間滯在

●農商務省保險課長島村他三郎氏　は一月一日英國より來着

●桑港在勤領事官補近藤愿吉氏　は智利公使館外交官補に任せられ一月四日ターグス號にて當地パナマを經て赴任の筈

●鐵道局關西主管新井三郎氏　は來市視察中なり

●市俄古領[redacted]陀部氏の令閨　芳野子夫人は熊本縣立病院入院中なりしか十二月二十七日死去せり

●森村組坂井氏　は歸朝中なりしか近日新夫人同伴來着す可し

●井阪孝氏　東洋汽船專務取締役の同氏は桑港支店支配人アベヱレー氏と同行近々當市に來着す可し

●西村庄太郎氏　當市茶業家古谷西村商會の同氏は去る十二月二十七日日本より着桑近日當市に來着すべし

●森村組の村井保固氏　は本月十六日出發歸朝の途に就く由

●各團体の祝賀

●基督敎修道會　にては去る十二月卅一日午後十一時半より除夜會を開き默禱を以て十二時を經過せり尙當夜は四五十名の會員出席せし事とてピンポン或は歌かるたを遊び午前一時に散會せり

●青年會　にては一月一日會員一同の祝賀會を開き、武市基督敎青年會にても同樣なりき

●共濟會役員會の例會延期　同會は本日開會の筈なりしか重要事項を熟議せんとする際高見會長病氣の爲め暫時延期することとなれり

●高見ドクター快方に向ふ　十二月下旬耳患に惱され專門醫の大手術を受け入院したるか何分重患のこととて家族は勿論知友諸氏も非常に心配し居たるに不拘手術後の結果頗る良好にて近來は病勢頓に減退し目下自宅にて靜養中、約二ヶ月間は醫師の注意により來訪患者にせざる由、尙ほ同家にては去月下旬男子出生母子共に健全、正彥と命名したりと

●日本人重寶　倫敦日英商報社主小塚柳崖氏は今回標題の如き小冊子を著はしたり、本書の內容は歐州旅行案內佛英獨諸國在留邦人の住所其他必要なる事項を以て充たされ世界漫遊客の爲必須欠く可からざる良書也

社告

本紙は一月元旦を以て新年號を發刊する筈なりし處活字の整理と印刷方手不足の爲め本日を以て發刊の止むなきに至りしは社中同人の大いに遺憾とする處なり、而かも十二月末日以來日夜寢食を廢して業務に努め以て讀者諸君の同情に酬ひんと試みたる同人等の誠意は江湖諸賢の諒察を購ひ得可き價値ありと信ず、又同人等の誠意を諒して寄稿せられし諸君の厚意に對しては深く感謝の意を表するものなり、只紙面に限りあり、大小印刷器及紙折器据ゑつけに多大の困難ありて豫定の頁數を印刷するの暇なく自然左記の原稿は次號掲載となすの止むなきに至れり、

バルカンの風雲　油谷生
渡米日記の數頁　素劍生
土耳古民族の盛衰　南溪
實業家の見たる二領事　商才志魂樓主人
元氣の充實と實踐躬行　林鐵次
大正の曙光を望む　甲山乙水
雜貨屋十二時　崖氷隱士
故國文藝の昨今　薔薇園
屠蘇奇焔　亞米坊
泉(小說)　嘗天
甲斐健一論　原田獨來處
料理屋評判記　鶴の舍
年之暮(シカゴ蘭)　紫霞郷人
米國經濟界の將來　堀內洋舟
中央部の同胞(シカゴ)　二階堂生
親しき友へ　安藤多郎
ハリマンの豪懷と小村の先見　俗佛
思想界の變遷と我國の宗敎　同
峰の松風(實話)　五峯
ゴール秘訣　兒島四郎
其他數篇

右に述べたる如く植字印刷部員不足の爲豫定の企畫を實行し難く自然記事繼報を縮少することとしたり、何れ諸事整頓次第編輯其他に注意を加へ充分に完全なる新聞紙としての責任を果す可し。

英支蘭中にある米國諸大家の肖像はウィルソン氏以下何れも本社の請を容れ自署して寄贈せられたるもの特に記して謝意を表す。

最近政界の波瀾

衆妓院戯員 馬野鹿郎

天下の大局から打算しては愚にも付かぬ例の增師問題が喧ましくなつてから、政友會の有象無象共が互に冷汗數斗を腋の下から流しながら留任運動を遣つた甲斐も、あら情なや、恬淡と無責任とを異字同義と心得給ふ西園寺の和尚が猪食つた酬はウキメン數々寺の寶物を質草にして借金ほして見たもの、國民と申す擅家連を籠絡するのに用ゐた行政制理や税制改革もイテ付いた揚句の果が思は[illegible]介な議會の開院前に儘よ三斗笠横らよに被つての目山隨徳寺、不斷から虎の威を假る篦棒の政友會員が泣いても怒つてもモー脈は上ッたり矣。醜絶陋絶の政治的往生を遂げた西園寺内閣の扨後釜はと云へば、元より胸に一物も十物もある官僚系のマンマと首尾よく居据はるは必定なれど、仲間の手前一應は松方老侯などゝ申す舊世紀の豪傑を鳥渡當つて見たなれど、後入齋先生到底再び内閣を組織する勇氣も政見もあつたものにあらず、ソコデ巡番は寺内ビリケン將軍に廻はつたのだが、將軍は所謂一介の武辨、自身に政友會代議士の買収や、中央黨の操縦が出來ぬ悲しさ、大男總身に智惠がまわり給はぬので痛し痒しの煩悶の如くあつての後、一層此千歳一遇の好機會を逸すとも、清浦や、芳川なんぞに内閣を占領されるよりは桂公を引き出すの優れるに如かずと將軍相應の戰畧を講じて愈、茲に太郎冠者を雲の下人にした次第であらうさ、乍併局面をソコ迄推移させるには外部に於ける政友會連中の運動に壓せられたるは勿論なる可く、西園寺和尚や、原敬の狸坊主なども桂公に讓與し置けば第一議會が開會された後に妥協と情意投合のチャンスもありて自分等の踏み潰された面目玉も少しは恢復の望があり、且つ後日太郎冠者の狂言に鼻が付いて誰か代りはないかといふ時に、舊交を温めて二たび政權を把握する時もある可しとの助兵工根性に釣られて、極力ビリケン内閣の組織に反對したので御座らうテ。

若し罷り間違つて寺内伯の内閣が出來ては從前の行掛上、如何に君子は豹變を仕度いが山、でも、增師問題に反對して結局豫算の不成立となり場合に依りては解散を賭さねばならず、去りとて此解散風は黒死病より恐ろしい手合ばかりであるに依つて何とかウマイ手品を遣ふ必要もあり旁、お鉢が太郎冠者に廻はり廻はつた次第と存ぜらるゝサ、扨新内閣閣員の御面相如何と拜し奉るに、是は〳〵とばかり花の芳の山なら良いがドレモ〳〵太郎冠者の秘書官位な先生達、辛ふじて外務に入る可き三菱の高明さんと後藤、大浦の兩名丈がイクラカ押しの利く連中らしい譯で大藏には桂公の腰巾着たる若槻博士が意氣揚々と乘込んで「委細御意に存じ奉る」次第、總理の傳令使に差向適當な役であらう、無論財政の手綱は萬事公の思召次第なるべく、陸軍には山縣系の寵兒たる新大將木越安綱氏を擔ぎ入れて、軍人派を丸め込み、内務には公の股肱の隨一として、惡ラツ、品川念佛庵を凌ぎ、重厚(但し?印附)山縣老公の餘風ある劍術師範然たる大浦兼武先生を任じて、鬼面政黨屋を威嚇するに備へ、遞信と鐵道には外剛内柔、大に公爵閣下と意氣相投ずる和製ルーズ氏逆戻りとなりて内閣の中堅となり、農商務には新進の野心家にして政界に未來ある仲小路君を封じ、司法文部の伴食には一寸意外なる松室、柴田二氏を加へたるなど都て是官僚の風堂に滿ちて、和氣靄々、不言實行、而して天下泰平、國家安穩の瑞徵顯然たりと上申べき次第柄で御座る譯唯誠に以て難有からぬは國民であらふ、往年豪遊(俗に道樂とも申す)と勉強とを兼ねて佛京在り、ジョレ、ジヤック、ルーソーの民約論位は義理にも讀むだ筈の西園寺和尚は、衆議院には絶對多數を擁する政友會を有し、昨今は貴族院にも相應の同情者を有するのみか增師問題に關しては一般國民の有力なる後援あるも拘はらずサアベル黨のボーイコットを頂戴して四苦八苦、陸相の後任か御座らぬとて早速辭任を申出で、折角の公約たる行政整理も税制改革もあらばこそ、無責任に爲政の局に當り亦無意味に内閣を投げ飛ばす、外交は神系過敏、内治は自治權蹂躙、國民はあれども無きか如く踏んだり蹴つたりの憂き目に逢ひながら「ヘー矢ッ張杜さんか出廬なさらなきや治まらないのですな」など〻自家の利害休戚に關する問題に對して隣邸の盜難、對岸の火災を見ると同樣と心得居る實狀である、而も叫喚して曰く憲政有終の美を濟す可し、曰く輿論政治の實を擧べ可し、曰く大に内政を改善して外交を伸張す可し、曰く財政を鞏固にして國力の增進を謀る可し、曰く何、曰く何、嗚乎彼等は矢張り同文同種のシンサンと同じく言に美にして行に拙に、眼前の小事故に拘泥して辛ふじて其日〳〵の糊塗を濁すに過ぎぬ有樣ではない乎、將來に於ける國運の發展とか、民族の膨脹とかいふ大問題の實際的研究たるべき政治思想か如斯幼稚であつては果して克く世界的の進歩を爲し得るに至るであらうかダウカ、いつもは暢氣の我輩と雖も最近政海の波瀾にたいする國民の態度の冷々淡々たり空々寂々たるに想倒して實に心細い感じを催さずにはゐられない、嗚呼第二の維新は遂に來るの秋なきや否や、我輩は茲に於てか國民の惰眠を警醒して政党改造の急務を主張したいのだ、彼の政友會や中央黨やビク〳〵して居る國民黨などは要するに御都合主義の集合体のみサ。其山縣頑公などから輕蔑されつゝあるなんゾは寧ろ當然といふ可きであらうジャーナイカ、ちよッぴり公憤を洩したので溜飲か降りた樣な、妄言多敬。


新井領一郎氏


ドクトル 高見豐彦氏



◎◉◎ 二十年前の當市在留日本人

上列向つて右より 福井信氏 小森德三氏 山田稻泰氏 高木三郎氏 (領事)新井領一郎氏 江副廉造氏 村井保固氏 犬塚爲助氏

中列右より 山崎樂氏 蒔田氏 山田修氏 太田昇平氏 八戸欽三氏 山尾熊藏氏

下列右より 田中楠太郎氏 森村豐三郎氏 高柳陶三氏 宮本氏

以上諸氏ガ當時經營シ居タル事業ノ性質、日米貿易ト政府當局者トノ關係、人物、逸話、其後ノ消息等本號ニ於テ讀者諸君ニ紹介スル筈ナリシガ餘白ナキヲ以テ遺憾ナガラ次號ニ讓レリ。

▲雜　報▼

●市内日本人間の年賀

御屠蘇で御座る數の子で候と目の廻るやうな年の暮れも十二時を合圖に鳴らず各工場の滊笛と共に明けまして御目出度う今年も不相變牛の年だからボチボチ御禮廻りをやりませうと言つたか言はぬか知らねど上はシルクハツトヨリ下はエプロンキヤツプの人々に至る迄ホンノリ顏にて市内同胞が迷度の旅の一里塚を越したる模樣は左の如し

●總領事官宅　諒暗中なれば公式の拜賀式は遠慮したるが只個人としての沼野氏に舊年中の厚誼を謝したる人々多かりき

●各會社商店　は何れも休業例に依つて店員諸氏の勞を慰し諸氏は功勞金を懷中して夫々命の洗濯を爲したり

●各　料　亭

◀東洋倶樂部　一日に茂木桃井組の祝賀會あり、五日には同倶樂部員の祝賀を兼ね同所營業部の顧客を招きて盛宴を張る可く七日には竹田北村商會の祝賀會ある筈

▲若松料理店　に於ては去る三十一日森村組の忘年會あり來る十一日には名古屋商業同窓會の新年會ある由尚ほ同店は近日一大盛宴を張り顧客を招きて新年を祝する由

▲朝日　に於ては元旦に同館の新年宴會を開き中々の盛會なりき

▲東京館　にては一日例に依り同館の新年會を開き大に知友を招待せり會する者日米人合して四十餘名弦歌舞踏各十分の祝意を表し閉會せるは午後十二時なりき

▲岡野自由亭　にては等しく一日同亭の新年宴會を開き知己顧客を招待せり

▲開盛亭　は來六日新年祝賀會を催して大いに饗應する由尚ほ十一日同亭に於てコロンビヤ學生會の新年宴會ある可しと

▲常盤料亭及佐久間球場　にては除夜より先づ明けましてお目度う迄で徹宵御馳走せし爲め顧客ニコニコ恵比壽顏大いに振つてた由

▲料亭大和　に於ては去三十一日野澤屋の忘年會あり元旦には同亭の祝賀會ありてお德女將の愛嬌にチヤームされて皆十二分の歡を盡せりと

▲西村中西、比嘉大正旅館及東洋館は夫れぞれ顧客を招きて盛んなる新年宴會を開きたり

●不都合極まる齒醫者　林篤なる男は永年當地にありて齒科醫を業とし傍ら學校に通ひ居たる人間なるが某紙の所報によれば同人は此程大成功とやらを爲して歸朝したとあり、飛んだ大成功もあつた者かな彼は歸國以前病氣に罹り小春ドクターには非常の厄介をかけたるにも不拘一言の挨拶もなく立去りたる由、又本社には三拾餘弗の廣告料を引ツかけコソコソ借倒し大成功にて大出發をやつたり、去年は國友信彌といふ仁術の大家大昧八弗といふ廣告料を蹈倒して失敬し一新聞屋などは恐ろしくないなどと空意張を爲し居る由斯かるイカサマ物の箚が續出するは眞面目に仁術に從事し居る醫師諸君の體面にとり苦しき次第といふ可し

●有利なる洗濯所賣度し　本紙廣告の通りなり希望者は本社へ申込まれよ

●亞市短信

◎歲晩の慶事　林商店主人令閨靜子女史へストウクの御見舞あり十二月十日午前玉の如き男兒出生夫妻の歡び斜ならず晃と命名母子共に極めて健勝なる由目出度し／＼

◎日本人會の大會及び新年宴會　一月初旬を期し同會第四回春期大會併に新年宴會開催の事に役員會に於て決定せる由嘸かし盛大ならむ

◎賴母子講の計畫　亞市に於ける理財家として定評ある加藤菊次郎氏の發企にて新春匆々賴母子講の計畫あり金融機關の一助たらしめん筈なりと云ふ吾人は切に其成功を望む

◎同胞の奮發　積年市況不振の影響を蒙り居るにも不拘大正二年の吉辰をトし何か新事業を經營して發展の途を講ぜんものと寄々智惠袋を絞り居る由也願くは其範を示せ

▲▲▲長廣舌　椿山莊の御主人公であつて、サーベル黨の本尊たる山縣公が殺され損つたと云ふではないか、悪い事は申さん、年寄の冷水ナンカは啻に公爵閣下の御身の毒たるのみならず實際憲政の毒で御座るよ▲午併一体全体ツマラヌ刺客などが飛び出して一人の山縣を殺しても、拾人の官僚的人物を屠つても、將た亦百人千人の頑迷者流を生埋めにした處で夫が何の益になるもの乎、反て場合に依つては輿論政治の前途に禍するかも知れぬ位の者ヂヤ▲ソンナ天下の至愚なる蠻的行動を演ぜずに、幼稚なる國民の政治的思想を啓發して情意投合黨や、肝膽相照派を文明的に撲滅して、新火國民の眞意志を代表する有力なるポリチカル、パーテイを組織して正々堂々と官僚的、專制的のサーベル黨と奮戰すべきのみサ▲サーベル黨の金城鐵壁は何歟と謂ふと例の忠君愛國專賣權の行使ヂヤナイカ、國民がホントウに憲政の本義を理解し、併せて其運用に慣熟しさへすれば、サーベる黨の跋扈ナンザ、放ツ屁一發にも値しはセンヂヤーナイ乎▲然るに彼の現在の腐敗し切つて居る政黨ナンゾを信頼して大切の大切の參政權を濫用されてボンヤリ然として居る樣ヂヤ、誠に以て心細い譯ヂヤカラ、イツソ、山縣公を煩はして憲法中止でもするか與勘兵衛ダ、然る後に始めて大なる犧牲を拂つたとに御氣が付かれて第二の維新が出來上ると云ふ筋書にナルカモ知レンテ

A JAPANESE STUDENT'S REFLECTIONS

Continued from page 15

stand a long continued strain in time of war. The Panama Canal is ready for traffic and you are intent on the capture of the world's markets; but, remember, you cannot hold them long with liquor-dulled brains.

As a little boy, I once overheard a Japanese mother say to her husband, when he took to the pernicious sake, "Think of our children. They will follow your example in this habit which is the very gate to moral degeneration. Look at our neighbor Jirō San. Twenty years ago, his father was so wealthy that he could walk for miles without stepping aside from his own rice field. Now his son comes to us for left-over pickled radishes, and at ten at night, for the "last bath" all on account of the drink habit. Were our children to walk a similar path what would they say of us? Even in the grave, I could not sleep."

What this frail Japanese mother did for her children, the American women can, and should do for her children, and for her husband and brothers. American Women, you are creatures of art! What Phidias curved your features after what Minerva? If your hearts be equally beautiful, it will be your purpose to cast intoxicating liquors into the ocean as your forefathers cast tea into Boston Bay.

The liquor problem cannot be issue; it is a national and international issue, and no political party, left to local option, nor is it a state as such, can solve the problem. American voters should force their representatives in the House to enact laws prohibiting the manufacture, sale and importation of alcoholic beverages, except for medicinal and scientific purposes, and should appeal to their President to convene an International Anti-Liquor Congress. The suppression of the liquor traffic, however, should not be enforced immediately, since honest men, whose capital and labor are invested in the industry, need time to prepare for their future. It may be that the solution of the problem will come with woman's suffrage. Here, however, I shall not discuss this great movement.

George Kennan on the Korean Conspiracy Case

In his correspondence sent from the camps in front of Port Arthur, during the Russo-Japanese War, in his articles on Japanese characteristics which appeared in the recent issues of the Outlook, and in his study of the Russian exile system in Siberia, George Kennan has invariably displayed a surprising energy and determination to make a thorough-going study to reach the bottom of the question at hand and has generally succeeded in making its correct and truthful interpretation. When there are so many writers on the field who, either maliciously or unwittingly, engage in the work of misrepresenting every important situation that comes to notice day by day, it is at least reassuring to the sense of love of truth and justice that an honest and constant effort should be made by such a well known writer as Mr. Kennan, to seek truth for its own sake. His recent article on the Korean Cause Célèbre is obviously the result of such effort, and we quote here its concluding part, as follows:—

In the light of these statements, quotations, and facts, the number



George Kennan

of which might be largely increased, what justification is there for the assertions that "the Japanese are determined to stamp out the Church in Korea"; that the "religious persecution" there amounts to a "fierce dragonade"; and that "the Japanese programme as laid out extends to the wiping out of the Christian movement"? So far as I can see, the only basis for such charges is the fact that, after Durham White Stevens had been assassinated by a Korean in San Francisco, after Prince Ito had been assassinated by a Korean Christian at Harbin, and after nine hundred and twenty-six members of the Il Chin Hoi (a Korean society friendly to the Japanese) had been murdered by Korean patriots in various parts of the peninsula, the Japanese Government made an effort to protect itself, its servants, and its friends, by arresting and prosecuting a hundred or more Christian converts who were trying to kill the Governor General. This is not an attack on Christianity, or Christian missionaries. It is merely an attempt to restrain seditious activity that has recently taken the form of conspiracy to assassinate.

The Japanese Government encourages now, and has always encouraged, legitimate Christian work among the Koreans; but it objects now, and always has objected, to what it calls "intermeddling in politics by missionaries." Under the old Korean régime, hundreds if not thousands of defenseless Koreans professed Christianity in order to secure the protection that it afforded. The American missionaries at that time enjoyed exterritorial rights, and, with the aid of an American Minister who had himself been a missionary, they were often able to defend their native converts from oppression and injustice at the hands of cruel and corrupt Korean officials. Gradually, and perhaps unconsciously, some of them began to exert political power outside their legitimate field of work and to regard themselves as champions of the weak against the strong in purely civil and secular controversies. When the Japanese took control of the peninsula, the attempts of these missionaries to protect their native converts from aggression often led to collisions with the Japanese authorities. In many cases the interference of the missionaries was doubtless right, but in some cases it was wrong; and the Japanese officials, who had their own ideas with regard to the management of Korean affairs, thought that religious teachers should confine themselves to religious instruction.

As the government of the country gradually but steadily improved, missionary interference in civil affairs became less and less necessary or justifiable, and most of the Christian workers, American as well as European, ceased to support their Korean converts in non-religious contentions. A few, however, were loth to relinquish the power that they had once exercised, and when they had what seemed to them good and sufficient reasons they took the side of the Koreans against the Japanese administration. This they have now done in the conspiracy case. Such missionaries, however, do not represent the whole body of Christian workers in the peninsula. That body consists of nearly five hundred members, and it is doubtful whether a majority of them approved the statement made to the Continuation Committee of the Edinburgh Conference. The fact that the names of the signers of that statement were not given in the newspapers that originally published it ("Japan Mail," August 17, 1912) would seem to indicate that the men who believe in the intention of the Japanese Government to "wipe out the Christian movement in Korea" are neither numerous nor influential.

The Rev. Dr. S. L. Gulick, author of "Evolution of the Japanese," who is one of the wisest and most successful missionaries in the Far East, published recently in the "Japan Evangelist" an article on the Korean conspiracy case, in which he said:

"From the United States comes the definite charge that the Japanese Government is deliberately persecuting Christianity. In spite, however, of appearances, I believe the charge to be an error, due to misrepresentation of facts. That the Japanese Government in Korea intends to exterminate or even persecute Christianity as such is simply incredible. But, in view of the information it has evidently been receiving from the gendarmerie, it would not be strange were the Government-General to suspect the Church of being perverted from its true function and of being made a nursery of disloyalty and sedition. Unless Japan is false to her record for the past forty years, she is not persecuting Christians or Christianity, but merely seeking to root out what is believed to be disloyalty, sedition and anarchism."

———

●ルーズベルト氏明治天皇陛下の親書を公にせんとす

（日露媾和會議の秘密）

去る十二月三十日のニユーヨークタイムス紙は華府通信として内外の耳目を驚かすに足る可き記事を掲載したり、そは前大統領ル氏が我明治天皇陛下より同氏に向つて日露媾和の盡力を係頼されたる秘密の親書をアウトルック紙上に於て發表す可しとの事なり。而して同通信の附記する所に依れば、青木大使並に高平大使は右親書をル氏より取り返す使命を受けて極力運動したるも失敗に終り夫れが爲め曠職の咎に由り召還されたるものなり云々。右に付本社は直ちにアウトルック社に電話にて其眞僞を確めんとしたるに、ル氏の秘書役某氏は答へて、本件に關しル氏は目下の處何等の言明を爲すを好まずと言へり。尚當地に於て責任ある地位を有する某氏の談を聞くに、明治天皇陛下の親書云々に付ては何等知る處なきも青木高平両大使か同親書取返しに運動したりなどいふ事は事實無根の捏造説なりといへり。因に右の記事タイムス紙上に現はるるや、オハイオ州シンシナチー市のドクター、リード氏は書を米國議會上下両院の外交委員長に寄せ斯の如きは米國民の不信を世界に示す陋劣の行爲なるを以て米國議會は速かに適當の方法を議す可しと言へり。珍田大使は事實の存在を知らずとして何等いふ所なし。

●南滿鐵道事件の眞相

頃日前の奉天米國總領事にして目下は「モルガン」會社にあるストレートは公開の席上に於て左の如く發表せり

嘗てハリマンが渡日の際、伊藤公に會し兼て希望し居る世界全貫鐵路總括の計畫を説き南滿鐵道の讓渡を相談せしに、公も之を承諾し兩者覺書の交換を爲せし後之を廟議に質したり、然るに小村侯支那より歸りて絶對に其不可を主張せしが爲め、廟議如何とも爲すを得ず有耶無耶の間に葬られたり。後ちハリマンは同理由の下に北清鐵道の讓渡を露國に求めしに時の大藏大臣（現任總理大臣）答へて曰く「若し日本が南滿鐵道を讓渡せば露國亦北清鐵道の賣渡に應せん」と。ハリマンは此の如き商議を經たる後ち之をノックス氏に諮り米國政府は兩國既に承認せる者と認め兩國に其讓渡を申込みし者なり決して米國は無謀の申込みを爲せし者にあらず云々

と此件に關して本社は他に聞込みたる事あり何れ取纏めたる一篇とし追て發表す可し

●小包郵便制度の大改革　本年一月一日より實施する新小包郵便制度は實に古今未曾有の者にして今其概要を云へば五十哩以内次に百五十哩三百哩五百哩千哩千四百哩千八百哩以内及其以外の八郵便區域に分ち小包量目は十一斤を限度となし郵便税は第一區域に於て一斤五仙増加量目一斤毎に三仙を増す第二區域以上各仙を増し第八區域は恰も外國郵便税と同様に取扱ふ其他腐敗し易き小包と雖も之を取扱ふ事となれり殊に新たに自動車を購入し自ら鐵道に依らず直ちに運送するが故に此制が人民に便宜を與ふると共に運送會社には大影響を蒙らしむる事となるべし

●贋造紙幣二十弗、十弗及び五弗の發見　當市に於てクリスマス以前より同贋造紙幣を使用する者あり殊に第八街及四十四町の酒屋又は米國煙草會社は最多く其被害を蒙れりと云ふ、紙質は普通の者より少く重く番號はエー號一八八九〇三二三年月日は千八百八十二年七月十三日とあり。尚ほ透視すれば内部に絹纖維なきを以て能く發見する事を得べし乍去五弗紙幣は實に精緻なる者にて專問家すら其眞僞を判別し難き程なりと云ふ

●ロンドンの講和談判　セントゼームス宮殿に於て開會中なる談判は兩者の提議各甚度を越ゆ一致するに至らず土耳其は連邦の要求に對し殆んど其大部分を承認せしも只アドリアノープル及びエージアン諸島讓渡に關し絶對的に之を拒絶せんとせるが爲め目下尚ほ解決に至らざるが如し

日本近信

●新陛下最初の觀艦式　去る十二月十三日　新陛下には横濱に於ける海軍大觀艦式に鳳輦を枉げられたり當日參列の艦數は四十五艘の戰闘艦其他大小の巡洋艦及び水雷艇等を加へ實に百十三艘と注せられたり此大艦隊は五列を成し河内艦之か旗艦たりき列の長さ四哩其巾二哩に渉り二個の飛行船は絶へず金子大尉指揮の下に中空を駈け滿洲丸は文官並に外國使臣を載せて遠く參列に加はり其他大小二百の端艇は各拜觀者を滿載して此盛典を參觀せんとし滿艦飾の光景誠に聖代の一美觀と思はれたる程なりき須臾にして　陛下には御乘艦筑摩を以て海岸を離れさせられ平戸矢矧の二隻を護衛艦とし波濤を蹴つて艦列に接近するや忽ち起る轟々たる禮砲と拜觀船よりの万歳の歡聲は龍神の眠りたも驚かすべしと思はれし、筑摩艦は漸次第一列より第五列に巡航し終つて各艦長は何れも御召艦に於て　新陛下より拜謁仰付られたり、後ち　陛下には彼等に對し「朕今日初めて此艦隊を觀其規律嚴正にして且戰闘力の發達を喜ぶ然れども世界の海軍力は日進月歩の勢を以て發達す我海軍をして之に拮抗せしむると否とは一に汝等の忠勤に依る。」と訓諭せられ後ち二十一發の祝砲と共に還幸遊ばされたる由

●日本ジャワ在住の和蘭人を怒る　頃日ジャワに於ける日本の運送船業は益發達を來しジャワ及び東洋諸國間の運送に從ふ和蘭船は殆んど日本船舶の爲めに其業務を失ふに至りし結果同地の商業會議所及總商會は共に連合して日本船舶に對するボイコットを爲し旅館は日本荷物を取扱ふ勞働者の宿泊を拒むに致りし爲め日本船舶の苦難一方ならず日本外務省は此報告を得直ちに和蘭政府と談判を開始せりと云ふ

●日本女學生と時事問題　大坂江戸堀女學校に土曜會といふ有り此會の目的は女子常識の發達を企圖するものなるか頃日の報告に因れば新聞の三面記事にのみ注目せし女子は今や社會の趨勢に伴ひて漸く時事問題に趣味を有するに至り政治を談ずる者多しといふ

●元良博士の訃　東京帝國大學文科大學教授正四位勳三等文學博士元良勇次郎氏は去十二月十六日逝去せし

●長谷川控訴院長の訃　法曹會の耆宿從三位勳一等判事東京控訴院長長谷川喬氏は心臟痲痺の結果麹町區永田町の自宅に於て薨去せり享年六十一

喪中に付年始の禮を欠く

大正二年一月元旦

岡島教治

同　サキ

CHICAGO NEWS.

市俄古週報

主任 岡本米藏

市俄古欄の設置に就て

市俄古同胞の爲めに三個の機關か必要である、一は清潔な健全なホーム、二は共同意思を發表し、同胞の同胞全体に對する自覺を養成し、且つ共同利益を保護する機關である、而して最後に貯畜機關で、これは同胞勞役者の間に貯畜の美風を養ひ、同胞の間に最も乏しい資本の集積を圖る上に無くてはならぬ機關である

過去[illegible]ヶ年間、我輩はホームの創建に關して微力を盡つたのであつたか、幾分か其功果を收むる事を得たので、過去の經驗と經驗に伴ふ[illegible]まつた[illegible]倍の自覺心とによつて第二第三の機關を創立したいと云ふ將來の方針を決したのである。

ニユー育新聞社の甲斐健[illegible]君か我輩に勸めて市俄古同胞の爲めに其一頁を割いて本欄を置いて下さる事になつたのは勞せずして我輩の目的の幾分を達した次第で、甲斐君の御好意と、日米週報社の涙泉君との御盡力とを深く謝するのである。

我輩は千九百十三年に於ては專ら本欄並びに本新聞紙の爲めに精力を注中して幾分の好果を擧げたいのであるか、市俄古在留同胞諸君も我輩の意中を諒[illegible]、本欄の發展、維持に餘力を與へて頂きたい

聞くか如く[illegible]は在市同胞中には本欄の創置を目して尻介者か出來た位に考ふる人々もあるそふで、これは即ち本欄の極めて必要な所以である、新聞紙に對して好意を拂はぬ手合は必ず如何かした人々で吾人は斯る人々の爲めに多大の注意を拂はねばならぬ、丁度これは警官に對して好意を拂はぬ連中に警官が最も注意を拂ふと同樣で多く說明する迄もない。

[illegible]に制裁機關たる功果から言つても新聞紙の存在は甚だ明確である、御承知の通り、爺の權力、先輩の指導、村長さんの小言、お婆さんの御注意、阿母の心配、などを全然離れ遠かつた海外に於ては餘り自家獨[illegible]主義や、自由放任主義が行はれて、社會學者か說明した法則以外に毫も各個人を制裁し、獎勵保護する存在か無いのである、斯る缺漏に於ける新聞紙の働は莫大なものである、殊に先輩の格に居る人々が暖璉を指摘して其反省を促すに於て新聞紙[illegible]以外何等の權威を見出す事は出來ない。

恐らくは市俄古位同胞間に自覺を欠いだ場所も廣ろい亞米利加の中に澤山あるまい、上先輩から下後進に至る迄、主として極端な私利を標榜して、公利を無視する傾向を有して居る、先輩は何れも敗兵弱卒共かとつた眼で後輩を見下し、後輩は何に我利々々連かと少しも敬意を拂はず、二者殆んど無關係の狀態にある、先達後進の關係は韓退之を待て知るべきではあるまいに、市俄古の同[illegible]本人には是非韓退之か必要である

斯樣に消極的から觀察[illegible]本欄の創置は實に有意味で、積極的に活動したならば殆んど限度は無いのである、我輩は有識者の後援[illegible]つて本欄に於て大いに活躍[illegible]畫して居る。

白眼臺より

市俄古の寒氣は豫想外に氣樂に[illegible]、無名子は極めて呑氣に見[illegible]、生計上案外に好都合[illegible]か、働口は澤山有[illegible]、[illegible]低廉、支那[illegible]は益々繁昌、[illegible]

[illegible]

雜報

[illegible]

昨今の諸團体

[illegible]

動中靜觀

自然と人生

自然は宇宙に於ける至大なる者である、少くとも其大部分を占領して居る者と可謂である、彼の赫灼たる紅曦や、玲瓏たる明月や、爛如たる星斗や、巍峨たる山や、灑々たる水や、空氣や、時間や將た引力やは皆萬有自然の現象の或る部分を代表し、自然の天則に遵つて靜動自在の大威力を示す者であつて、如何に人生千萬年の努力を以てするも恐らくは自然を征服することは出來ぬであらう、乍併吾人々類てふ煩惱を脱せざる自稱高等動物は、時として隨分驚く可き勇氣と「ヱナジイ」とを傾盡して、自然に逆ひ、之と奮戰して豆の如き虚營心を滿足せしめ樣と試むるけれ共、常に「自然と調和し同化する」と云ふ巧みなる遁辭の下に、結局は自然の前に俛首し降參し終はるのである

吾人々類の智識か啓發さるゝに伴つて、過去の事實殊に宗教史、文明史等思想の源泉たる可き、歴史上の「トレイデション」の價値に對して、疑問百出、盛に其研究を行ふか爲めに、一代の想潮か往々飛んでもない誤解若くは曲解と共に、人類自身に[illegible]反て不利益なる議論を生むことかあるけれ共、冷靜にして偏頗の意思なき自然の勢力、命令によりて其再び「セーン」に立戻るとは、恰もアルコールの飲料を過度に用ゐて泥醉亂舞した者か、一定の時間を經れば「ソバア」の状態に復するのと同樣である、夫であるから時代の思潮か全く自然を無視した調子に奔放したならば、換言すれば科學萬能の弊に陷り又は金權唯尊、物質崇拜、强者の權利の盲從等、極端なる傾向を現はした場合には、時代を客觀的に考覈して思潮其者の缺點を指摘、曝露し、人生一切の事柄か總て自然の天則より割り出さるゝ所以を説明して、耽溺せる時代思潮を矯正し、之をして中庸を得せしむるやうに努めねばならぬ吾人は此意義に於ける自然主義論者である。

然るに世の多くの自然主義を標榜する者の中には、熱烈なる北歐の詩人イプセンの如く、享樂的自然主義、否、自然的享樂主義、即ち表面自然を尊重するかの如くに裝ひなから、實は自然の賜である所の人類の團結を呪咀し「人類の向上」を冷笑し、自然の命令の下に定められた筈である、倫理道德の實際的價値を罵倒し去る本能[illegible]、元來如斯主義は人生の眞の[illegible]る者か自然の束縛を脱し[illegible]、至妙至深の意味を爲す所以を[illegible]解せざるに[illegible]、不自然且つ[illegible]附會の說であつて、其主義の甚[illegible]「ヱゴチスティツク」なる[illegible]吾人の主張する純粹な自然主義と[illegible]樣に認むることの出來ぬ似非イズムの一である、然れども盲者千人の社會は之に反對する者も贊成する者も倶に「ナチユラリズム」の本義を研究せず、玉石同架、之を目して直に本能鼓吹、人道無用を主義の骨子とするかの如くに囃し立つるのは、抑亦滑稽の次第ではあるまい乎。

中唐の自然詩人たりし白香山は「朱顏日漸不如故、青史功名在何處、欲留年少待富貴、富貴不來年少去、」と言ひ「賢愚貴賤同歸盡、北邙冢高嵯峨、古來如此非獨我、未死有酒且高歌、」と言ひ亦「天地迢遙自長久、白兎赤烏相趁走、身後堆金柱北斗、不如生前一樽酒」と言つたか誠に頭白い垢の拔けた觀察である、素と吾人々類は自然の命令の下に定めた[illegible]信じて居る、若くは信せんと欲して居る倫理を唱へ道德を敎へて[illegible]きなから、朝三暮四、屢々之と矛盾した行動を敢てして憚らぬのは如何なる譯であらう乎、而して善と惡との標準なる者は時代と云ふ怪物の要求に應じて、人類思想の變遷を促かし、絶對的に自然と符合し得る善と惡との永久の標準を測定するとの殆ど不可能な場合のあるのは如何なる譯であらう乎、蓋し文明の向上とは人類其者の幸福を增進し、精神的に且つ物質的に其進歩發展する事柄を意味するソウだが、比較的多數の場合に於て、商鞅の所謂自縄自縛の誚を招きつゝあるではない乎、而も人情澆漓、世道頽廢して倫理道德の價値地に墜つと絶叫するのは自個撞着にあらずしてなんであらう、要するに矛盾と人生とは影の形に添ふか如く之を引離さうとしても到底目的を達す可きではなからう、彼の天網恢々粗にして洩らすの古語は大なる自然の制裁力が、案外基礎の薄弱な倫理道德の威力を遙かに超越して居て、吾人をして更に層一層發奮進化せしめやうとする適確の證據を示した自然のシンボルであると解譯して然る可きである。

由之觀之、人類の社會は渺として宇宙の百億分の一にだも如かず、自然より看れば九牛の一毛にも比せらるべき嬰兒である、東洋の哲學者にして自然を最も善く諒解したのは老子[illegible]五千言を讀むに、[illegible]「道の道とす可きは常の道にあらず、名の名とすべきは常の名にあらず」[illegible]有大僞」と豫言し「[illegible]者不知、知者不言」と長嘯して人生を自然的[illegible]に附し終つて居るけれ共、彼の主張は余りに自然に心醉して、自然との調和同化則ち人類が自然に對して且つ戰ひ且つ降りなから、其大威力の命令を奉じて不朽の眞理と融合せんか爲めに進化するのを以て自己の天職と覺悟すべき筈であるてふ、兩者交涉の根本的解釋に觸れて居らぬ、一言にして蔽へば、活ける社會に於ける活ける人類に對して充分の[illegible]氣を興へて居らぬ、人生を自然の對象として深刻なる意味あり趣味ある者として居らぬ、玆に於てか吾人はコンコードの哲人エマーソンの自然觀の一端を紹介するの必要なる可きを信ずる、讀者[illegible]は吾人の主張を目して原始的宗教の迷信より出でたる自然崇拜と同樣なりと速斷する勿れ。

大正の曙光と望む

甲山乙水

最後の日沒を眺め得たる地位に在つて明日の曙光を望めとは誠に眞理ある言葉である。先帝御登遐あらせらるゝと共に明治は大正の御代と改つた異邦に客たる予に明治の晩年を眺め大正の曙光を望むを敢てせしめよ。明治は歴史上一大時期を畫する時代であるが、又之を過渡期と見ることも出來る。所謂舊文明を打破し一新文明を建セツせんとの新氣運の生じて來た時期である。更に之を啓蒙時期と云ふこともできよう。即ち舊い偏狹な暗黑時代を取拂つて新しい自由な快活な時代を施かうといふのである。而して過渡期は又事業の時期ともいふことを得て、人々は多[illegible]外部に向つて發展しようと努め[illegible]心を潜めて深く内部の省察[illegible]とせない。故に明治は以前[illegible]は非常なる進歩を爲し、殊に軍事に於ては日清日露の兩役を經て其進歩發達の大程度を遺憾なく世界万邦に示して、光輝赫々たるものあれども、稍々内部的と云ふ可き殖産工業、更に純内面的な文藝宗教といふやうな思想界の進歩か遲々として歩々しく往かぬといふも畢竟此故である。元より歴史上の一大時期であるから此時期に貫聯結合して思想界に進歩も見ないと云ふのではないが、比較的著しからぬのである。鎌倉時代には五山文學があつた。宗教も親鸞、日蓮、道元といふような三傑か起つて新宗教を起した。武士道といふことも嚴格な意味に於て鎌倉武士の産物である。而して明治の文學は如何。明治の宗教は如何といはれて其返答に困らぬ者は恐らく無かろうといふのである、晩年に至つて自然主義が起り、禪學が盛になり、自己表現といふやうなことが文藝家の間に重んぜらるゝやうになつて、氣運方さに熟して漸く新しい時期を生せんとしたのであるが、之は最早明治の年代として見ることが出來なくなつたが大正の初頭は文學といはず宗敎といはず正さに此摯實なる氣風の下に立たざる可らざる時期である。日米週報に寄せられたる海老名氏の明治思想界の回顧、浮田氏の日本目下の二大急務なる兩文を讀むでも明かに此間の消息を漏らしてゐる。さて此機運に迫つてゐる國民は果して之れが成功を見ることかできて、エリオット博士若くはアーチャー氏等の日本觀をして全く誤謬に終らしむることか出來ようか疑はしき次第である。兎もすれば日本人は彼の大博的に終りはすまいか。大博的とは抑[illegible]明治四十五年に開[illegible]日本大博覽會は五十年に延[illegible]遂に又中止となつた。東京市民は之を遺憾に思ひ、五十年祭を期して東京に大博覽會を開かんと建議した。先帝の御崩御に依つて之も許方なしになつたか今度は大正三年の御即位式を期して開こうとしようと空[illegible]をやつて[illegible]も午[illegible]評判の八釜し[illegible]ことである[illegible]いことである。日本國民は兎もすれば小さいコセ[illegible]した島國根性的で[illegible]に口八[illegible]て實行の伴はない國民である、前大統領ローズベルト氏曾て大艦隊を世界に巡つた當時兎角の非難かあつた[illegible]、ローズベルト氏は斷乎として大艦隊を送つて世界を周航せしめて[illegible]、經費の多大なるに引換へ其効果の餘り伴はざるも顧みなかつた。之れ[illegible]ルト式否米國民の新行動[illegible]なる國を示すものである。[illegible]ふ可らず。之を大博の小田原騷に終つて[illegible]を天下に[illegible]すと熟れぞや。

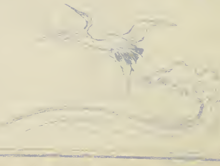


[illegible]圖は二十二年前第六街に[illegible]りし森村組の寫眞にして[illegible]左方に立てる人[illegible]今の[illegible]竹村保國氏、[illegible]家として成功し居る[illegible]人キ[illegible]の[illegible]氏の若き[illegible]両人今や功成り[illegible]豊富かなる[illegible]老來更に再[illegible]を[illegible]す、孜々として其業に[illegible]の色無[illegible]此小影に[illegible]して三十餘年前の往時を[illegible]の時[illegible]人今昔の[illegible]や果して如何ぞ。

聊か管見を記したのである。







閨秀文豪ストー夫人

天涯

南北戰爭の原因が主として奴隸開放に在つたことは何人も知る所であるが其動亂の導火線が一介の名もなき纎弱婦人の手に依つて書かれたる一篇の小冊子ぢあつたことを知ると同時に何人も一管の筆、一行の文が如何に人心を動かし、如何に絶大の敎化を人類に與へるかに驚くであらう千八百五十二年北米の南北諸州は二派に分れて黑奴存廢の議論は到處に沸騰し喧々囂々宛ら鼎の湧くが如く此大陸の全土が今にも一大噴火に掩はれむとしてゐる時倏忽として一篇の小説が「ワシントン、イーラ」紙に現はれた、全篇皆是血と涙、如何なる鬼神も之れを讀んで泣かざるものなく、熱血紙上に迸つて讀者の肉躍り血湧き、北米五千万の民衆は之れが爲めに竟に劍を執つて互に相戰ふに至つた、是果して何人の作ぢあらうか、是れぞ卽ち當時マサチユーセット州ブランスウキックに侘住居して夫を扶くる傍ら五人の子供を養育し身は家政活計に忙殺されながら、心は遠く南方に走つて彼の南部に於ける不幸薄運の黑人奴隸に萬斛の涙を注ぎ、彼等の慘境酷遇に憤慨して、其フライングパンを持つ纎手もて、キッチンで鉛筆もて熱血の文を走書し、身に代へて天下に其不條理を號泣した稀代の女丈夫ハリエット、ビーチャー、ストー夫人の「アンクルトムス、ケビン」である。

此書が一度び刊行されてから其勢宛ら旋風の如く天下を靡掃し歐州諸國は無論のこと其余威は南阿の津々浦々までも動波して世界各國之れを譯出せぬものはなく著者は間もなく救世者の如く尊崇され、彼の蓋世の偉傑リンコルンもわざ／＼婦人をワシントンに招待引見し、温かに其手を握つて、

"So you are the little women who wrote the book that made this great war"

と言つて其德を頌したといふ。げに此書が彼のゲーテの「フアウスト」及びユーゴーの「レ、ミゼレブル」と共に十九世紀の三大著書と稱せられた如く其想の宏大、モーラルの崇高、話說の慘絶なる、殆んど比類を見ざる所で此書世に出でゝより六十年今は世界各國の二百余語に譯出され悲劇に「アンクルトムス、ケビン」として未だに億兆の民衆を泣かしてゐる。吾が敬愛する讀者諸君も定めし劇で之れを見て袖を絞られたであらう。吾が國人は「千代萩」の政岡の忠烈に泣き「不如歸」の浪子の薄倖に袂を濕ほしてゐるが、此書の涙を要求するところはもつと宏義なモーラル卽ち「人道」「博愛」及「仁惠」である、さて斯の如き大作が如何にして書かれたか。

米國は今でこそ萬人平等を實行して個人々々の僻見は兎もあれ公には黑色人種も白晳人種も同じく扱はれ既に市民權投票權も附與されて彼等は大道を濶歩して居るが今より五十年以前迄は彼等の境遇は實に悲慘な者であつた、彼等は人として扱はれず宛ら犬馬の如く侮視され、法律上公然として商品の如く賣買され白人種か自由に使役し得る絶對の奴隸として實に言語同斷、悲絶慘絶の酷遇を受けてゐたのである。彼等は商品として人より人に賣買され、兒は親たり、妻は夫より、姉は妹より生れたるまゝ引裂かれて賣飛ばされ諸方に轉賣されてそれは／＼實に地獄よりも酸鼻な共責酷遇を受けて居たのである。それが爲めに米國一部特にニユーイングラフド諸州の篤志仁愛家は夙に其不倫の制度に反對して奴隸廢止の聲を揚げ、ホヰッテヤーの如き詩人、ライマン、ビーチャーの如き雄辯家が筆に口に心血を注いで其矯正を絶叫し、北部の人士は槪ね之れに雷同したが、現在其黑奴を使役して居た處の南部人は經濟上及び感情上大ゐにそれに反對して飽迄も奴隸保存を主張したのである。斯る噪擾の時にストー夫人はカネチカ州のリッチフキールドに生れたのであるが父が有名なる奴隸廢止論者であつたたけ子供の時から既に業に黑奴を憫むの念深く其小さな頭腦に染み込み、よく人の噂や物語に南方に於ける奴隸慘虐のことを聞いて子供心にしみじみとあはれと思つ涙をこぼしてゐたとのことである。七歲の時に其伯母のメリーハッバード夫人といふのか南方へ嫁いでゐたが其夫の農場で彼の憫むべき數百の黑奴が余りに慘酷に苛使されて居るので其れを見るに忍びず竟に離緣して遁げて歸つたが其伯母から常に黑奴が白人主人に打たれ蹴飛ばされ血だらけになつて半死半生の姿で勞役してゐることや現在產みの母の前で其兒が虐殺されたり、夫の眼前で妻が凌辱され夫が怒氣を現した爲めに一發の下に射殺されたりすることなど樣々なる此世からなる地獄の有樣を聞き益々感動して既に其時から黑奴救出の大事業を其小さな頭に抱いてゐたとのことである。（未完）

日本畫と米國人

伊藤生

「米國特にボストンなどでは盛んに日本畫が持てゝ居る、自然自ら筆を執て日本流の墨畫等をかくものがある、筆墨或は繪絹でも商店に賣つて居る」といふことを聞いた時は、恰もホヰッスラーなどの所謂オリエンタリズムの新思想をなまぎゝに知つた時で、そんなこともあるかも知れぬと信せぬでもなかつた。

四年前だ、審美書院の囑でかの有名な平治物語繪卷を摸寫にボストンへ往つた時に、何處の店にも鋒な筆や墨のないことを知つて、噂といふものゝ信ずるに足らぬとがつかりした、併しこうあるべきである、この方がまだ眞個である、米國人にはまだ中々日本畫のことは解つて居らぬ、去夏ニユーヘブンの植木屋へ行つたことがある、支配人某は一度日本を訪ふて澤山な植木を買て來た男で、所謂日本好の一人だ、暫く日本美術の話などして居たが、中にこういふことを言つてゐた。

「日本の美術家の製作上に於ける思想は自分には too new だ、新らし過ぎる故に解らないといつた、この四ケ年間隨分種々な意見も聞いたがこれは中でも、珍らしく而かも一の意見としてこれも面白い、この一語を聽いて、後で熟々と考へて見て、このツー、ニユーなる言葉は、日本畫に對して中々道理のある語であることを思た、解らないにしても、こうした考で言つてくれるならまだいゝ、解つた樣な顏をして、全く解らない連中は隨分な恩である、無論日本や支那の古畫が壯んに高價で賣れつゝある、併し米國人が惜氣もなく大金を投じて買ふてゐるといふことは、少しも彼等の趣味の程度を知る標とはならぬ。

一度某富豪を訪ねたことがある、時に夫人は余に向つて日本製花瓶の鑑定を乞ふた、余は側に立てる知人を顧みて、其の實を語りて差支なきやをさゝやいてきいて彼が勿論と答へたので、其の花瓶の珍重する價値のない事を說明した。

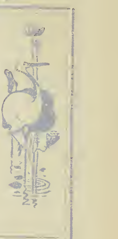
「某に高價を拂つて買つたのにと言つて夫人は悔んでゐた、その後もまた刺繡の七福人の服紗が美しいフレームで壁にかけたものを見出して、夫人に注意した、日本の國内ならばこんなことは夢にもないのだが、これが乃ち米國である、僅に數人の數寄者を除ては、日本美術に金を出す米國人は殆んどこの夫人の組である。日本の畫を賞讃するものは澤山ある、ある事情の下に而して堅固な自信を以て、洋畫研究の目的を以て亞米利加に來た余は、平治物語の摸寫を終つて以來全く學校で暮したが、其の間、またしても、何故油繪を初めたのか、何故多年研究せる所謂日本畫をやめたかといふ忠告を聞いて何畫をやめはせぬ、英語を習つたからとて母國の言葉をやめるのではないのと同樣だと答へて取り合ひもしなかつたが、日本畫のことも鋒に知らぬ癖にといつも余は、彼等を腹の裡で突つてゐる、實際の處たつた一人嘗て一度もこの如き愚な注意をせずに、何かにつけヘルプしてくれる畫家がある、而かも日本美術好の米國人だ、大抵な人は余に對して反省を促した、中には數度繰返し繰返し洋畫研究の徒勞であることを說いたものもある、十余年爾後日本畫を研究し日本畫で衣食して來た余から見ると彼等の日本美術に對する鑑識の程度は、丸で幼稚であるのだといふことか憚らずも言へる。

日本の古版を藏する一米人か余に何れか優なるものかの選擇を乞ふたことかある、しかも可也と思ふものはほんの一二枚、それも氏か丸で氣にもかけなかつたもので、二三文の價値のなきものを寧ろ彼は珍として居た、それ許りか彼は日本の木版を近來獨逸の畫家かやつてゐる如き、刻から摺から一人でやつてゐる類のものと一緒に思つてゐた、廣重は廣重自ら板にかいて刻し、自ら手摺にしたものと思つてゐるのだ。

何故かゝる間違か出來たのか、何故眞の日本美術に就て亞米利加人か解つてゐないかといふと、日本の美術か順序を經て彼等に紹介せられて來なかつたからだ、木版許り見てゐたものには、奇麗な曲などしてある日本畫を西洋畫の摸倣だと思はれたり、透視畫法を構はずにかいてあると、幼稚だと笑はれる、つまる處、日本美術に就て、彼等かエヂユケートされてゐないからだ、而して自分の利より外に思慮のない人達によつて賣買される間に、彼等は日本美術に對する鑑賞の道を誤された。賣れる賣れぬといふ事は、美術の眞の價値に何の關係もない、金になるといふことで滿足か出來るなら、新い繪畫は知らぬ古い日本の畫は滿足か出來る程度に賣れてゐるではないか、併し悲しい哉彼等には如何なる繪畫か優秀なるものだといふ鑑定は少しも出來ないのだ、金の價値の外に尊重すべきものがないとすると、日本の繪畫も氣の毒なものだ。

パラドックスだが、この解らぬといふことが、或は道理であるだらう、「これか、眞實に傑作なのか」といふ問は、よく眞黑になつた古畫の前で日本人其のものから聞くことだ、古畫許りか、新畫に對してもさうである、無理もない、日本の所謂美術家は自ら何か何か解らずにかいて居る、所謂鑑賞家は解らずに珍重してゐるのか今日の有樣だ、本國でさうである、況んや外國に於てをやだ。

日本の美術家自ら、自分達の行かねばならぬ道か解つて來た時に、彼等の手で眞の價値ある製作か出來而して米國人か、眞に日本人の美術を理解する力か出來た時か、彼等か日本人を初めてアンダースタンドする時である。



牛

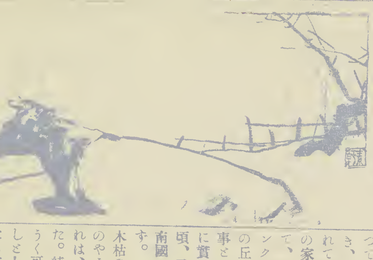
ばたな

一 西洋人が[illegible]を撫でてゐる葉書に[illegible]、しかも僅かに數行の文で[illegible]、彼の袖に[illegible]附[illegible]、君は世界文明の中心たる大紐育に有意義?の生活を續けてゐる、僕は世界の田舍なる臺灣に無意義のライフを繰り返へして居る。放浪てふ文字の上に於て、僕は第二期に入つたのかも知れぬ、、、。

放浪生活の第二期、、センチメンタルの秋山唯一に對つて如何なる實在を與へても、それを實在と觀ずることは出來ぬかも知れぬ、彼自身も亦[illegible]まい。堂々たる總督府の御役人に成つても彼れは敢えて之を放浪の第二期と云ふ。

彼れはいつも口癖の様に云ふてゐた「臺灣へでも行こふ、行つて魚温をやらう、日本の養魚を試るに限る[illegible]を見て暮らしたい」

彼れは逐ひに行つたのか臺灣へ。



△△　△△　△△

秋山が未だカンサスの田舍のカレーヂに通つて居た時分、あの篤學な男が中途で[illegible]めて來たことがある狂氣に近いパッションと沈鬱な動作に氣の附いた僕は、彼れが平常趣味がつて吹聽してゐた北歐文學にかぶれたのだと思ふた、時々冷やかしもし、嘲さめもした、其れも慥かに半面の事實ではあつたらうが、然し彼れにはそこに他の半面の理由があつたのが後に分かつた。

「牛を眺めて暮したよ田舍で」と云ふ様なことを言ふた。僕は「君の北歐文學と牛とは何う云ふ關係があるのかね」と出鱈目の反問をして興を誘つて居る間に、例のメランコリーな眼をしながら、過去を追憶する様な遣る瀬ない態度で談したそれは雜つと斯うである。

「カレーヂの堂を環る白堊の階に倚つた時、光りある南風に黒くのびた髪の毛を梳らせた時、學業そのものよりも、身體を溶かす様な南國の春の暖かさと優しみとに抱かれて、未だ曾て覺ゑた事の無い涙の味に醉ふた、、、」

彼が學校へ通はしてもらふて居た恩人の家にも亦彼れの所謂る南國の情趣が柔らかく吹いてゐた、そして彼れは何時しか其の家人の一人となつて皆とともに野に清水も堀りに行き、花を尋ねて暖かい艶ある雨に濡れて歸つた事もあつた。十四五才位の家の乙女は此上なき遊び仲伴を得て、小いさなクインは驢馬の背にピンクのパラソルを翳して日毎に屋前の丘を越ゑて牧場の牛をともに見ぬ事とても無かつた。ライラックの臺に實が生り、ロビンの群が去來する頃、乙女は少しく語りて多く思ひぬ南國の蝴蝶は翅をたさめて舞ひもせず。

木枯の吹かぬ靜かなる國に驚ろくかのやうにして、恩人の家を去つた彼れは、其去るの遲かつたのを後悔した。純潔なる小さき人の優しき心をうく可もなければ。と放浪を旗じるしとしたるも其れよりなりしが翌けたる年の春少女の母より一卦の手紙は秋山の手に達いた。展べて見れば一家旅に遊んで戻つてから、少女は病の床についてやがて無き人の數に入りたり、うせし日の晝はかへりて心地よげにも見ね野遊せし日のことなど思へるらしく秋山の名の幾度か繰りかへされし。

牧場には彼れの名を負ふ牛が居る少女の遺愛として大事に養はれて居る。



日本より

田巻五峯

M君足下　月日のたつは早いものだ。僕が君と再會の期を約してニューヨークを去つてから、彼此九十日餘の日子を往消した。

日本に着いた刹那の感じから書き始める。

、、、有幅の至つて狹苦しいのやすぼらしい（曾て米國の或る觀光客が日本の家屋は恰度マッチ箱を並べた様だと評したやうに）の坏は暫らく拔きにして。全然違つた趣味を有つた人間が、異つた習慣と、古い道德に縛りつけられて居る人界に彷徨ふて來て、他人扱にされてゐるのみならず、人として最も尊重すべき自由思想の發達が、極めて不自然にして、かつ不道德なるサムシングの權威に壓迫され、局限されてゐるやうな、遣る瀬ない憂憤と寂し味とが泌々感せずには居られなかつた。女性の上に就ても其通りで、彼の柔順しい美質と、人を牽きつける様な愛情を認めやうとはせず。反つて其顏色の青白いのを見るにつけ、將た又歐洲婦人のそれに比して生々した氣象に乏しいのを見るにつけ、遠く寺子屋時代に溯りて、我邦女子教育の缺陷、、偏狹なる家族主義、、、それ等の凡てを追想して、現代人、、就中日本婦人が絕對に服從的なる境遇を憫まずにはゐられなかつた。一日も早う斯んな苦しい境地を脫して、再度自分の趣味と理想に一致する自由の樂土に歸り度いと祈つた。日毎／＼に食慾は減る。體量は輕くなる。頭脳が厭にグラ／＼して、起つても居ても耐ね切れない。

弟妹等は僕の物思はし氣な素振を見て「兄イさん、兄イさん」と呼んで呉れる。兩親は病氣ではないかと心配する。それでも僕は敢ねて感謝の念を拂はふとはせず、、寧ろ夫れを自分の運命を呪ふ恐ろしいイミテーションのやうに一方ならず不快に聽き取つた。

M君足下　そうしたやうな煩悶と憂憤に包まれてゐた僕は、梅雨晴れのした、ある日の朝。家人のまだ起きない先に、何に釣り出されたともなく、無意識に自分の臥戸を立ち出で、屋後の細道傳ひに新緑の間を縫ふて土橋の上に立つた。「なやみある胸を抱いて橋にたてばささやく如く水の流るる」と詠つた舊い記憶をたどりて見るとはなしに眼をあぐれば曉の空氣は濃厚の色彩を湛ねて山麓をたてこめてゐる。夜明けを告げる鷄の啼聲が何處からとなく傳はつて來る。

僕は何物かにチャームされたやうな取り留めのない心持になつて、それを見てゐると、今まで[illegible]して眠つてゐた四圍の帳が一枚一枚に剝がれて行く、薄霧を[illegible]流れたかの様な山の形が一秒毎に明瞭になつて來る。堂々たる山の雄姿と[illegible]配合がひつたり調和して、未だ曾て經驗したことのない快感を覺ゑた。

不圖、我れに回つて耳を澄せば、睦自分の立つてゐる土橋の前方に、年うら若い男女が秣を刈りながら、勝し相に何事をか語り合つてゐる。勝利を誇る男の面ざしと、圓滿なる戀のささやきに醉ふた女の表情とが、からみ合ひ、縺れあふてゐる象ちがほの見ゑる。

誰れに告ぐべき術さへ無く獨り孤獨に泣いてゐる僕自身に取りて、それが何かの慰籍を齎らして來るかの様に感じた。

まだ在鄉の折、隣家の美[illegible]ちやんと一所に、小さなバスケットを提げて、あの廣い丘の上に摘草をしたのは何時の事であつたらう。花アちやんや、清イちやん等が羽子をして遊んでゐる中へ突貫を試みて泣かれたのは、よもや僕が腕白盛りの事なるにもせよ。今眼の前に二人のあどけない戀のささやきを見るにつけ、その舊い印象があり／＼と眼界に展開される。僞りの多い都の女に比べて、心の底から其戀人を愛してゐる賤の乙女は眞にラブの女神といふてよい。

白粉臭い女の微笑にあこがれ、無謀の功名心に囚はれて居た僕は、在米八年間の放浪生活を顧みて、田園趣味のなつかしみと、僞らざる戀の價値てふ事を味はつて見度い氣になつた。

M君足下　僕は君も知る如く、人は努力一つで何事をも成し遂げ得らるるものと固く信じて居た。境遇の壓迫や、外界の交涉抔は、自己の功名心を滿足させる上に於て何等の關係をも有たないものとして深く注意しなかつた。丁度前途を急ぐ馭者が腴馬のシリにムチを加へて驀然に疾走すると同じく車體が毀れやうが、乘客が轉げ落ちやうが、そんな事には一向頓着せず、ひた走りに走つた結果。馬は疲かれ、車は毀れ、果ては人里遠く離れた沙漠の中に斃死する馭者であつた。理想界の幻影を趁ふて、現實の世界を度外視した僕の頭脳は、餘りに單純であつた。青春の血は何時までも溫かに湧くものとのみ信じてゐた僕の考は、自然の大景と天眞爛漫たる戀愛美によりてメチャ／＼にうち毀されて終つた。同時に僕は[illegible]の解決を得た。それは[illegible]實を[illegible]て自己の能力に[illegible]努力する[illegible]結する。再言すれば、[illegible]仕事であれ、夫れ相應に[illegible]すべき理由がある。理想と現實とは假令理論上一致すべき筈の者にもせよ、現實界と理想界の間には大なる溝渠と、高い墻壁がある。理想のみの力で一般を律し得るものと思ふは大なる誤謬である。世の中の凡てを理想化する迄には今後幾多の犧牲と年所とを費さねばならぬ。單なる理想を說くは強ち非難すべきほどの事では無い。が、然しそれに囚はれて高う高うと盲滅法に走せ廻はるを許さない。自己の與へられたる天職に忠實ならざる者は、畢竟世の敗殘者たる餘儀なき運命に呪はれたる者である。

M君足下　僕は今日も亦父と共に午后から畑へ出た。而うして一日の務めを終へてから、前の小川にスッキリと身體を洗ふて晩餐の卓子に着いた。僕は君の知る如く、御地に居た頃は頗る附の健啖家で、手薄い收入の一部を割いて「万花樓」や「若松」などの料理をあさり歩いた者だが、然し此時程に甘いと思ふたことはなかつたやうに記臆する。

M君足下　繰り返していふ。一片の理想に魅せられて現實を無みする處世觀は、怜も不具の成功を夢みて自己の運命を呪ふ短見淺慮の人だ。僕は自分の急激なる變化に自分ながら驚くと同時に自己の能力を認め得たるを感謝する。斯る理由の下に僕は新じて再渡米を見合せる。終りに臨んで敬[illegible]君の健康を祈る。

WHAT SHALL WE SAY?

BY DAVID STARR JORDAN

What shall we say to the demand on the part of army experts for the establishment of three more mobile forces, for the defense of the Pacific Coast, one at Seattle, one at San Francisco, and



David Starr Jordan

one near Los Angeles? General Leonard Wood is quoted as saying in Berkeley recently, "We are prepared to cope with the situation so far as the bombardment of cities and towns is concerned, but we are not prepared to protect our people from the landing of a hostile force beyond the reach of our coast artillery. The seacoast defense is useless without a mobile army. Now how are we to get men for this army? At present there are approximately [illegible] men in the various stations of the army service in the United States. We have need of [illegible] more. It is imperative that a reserve be established so we can train the citizen to defend his country in case of war."

Elsewhere we are told that if a "large mobile army" should with our warning [illegible] our coasts, we should be helpless, without these three great forces. And again, it is remarked in the press at least to garrison Hawaii with 12,000 men to hold its new and costly fortifications. Another general of the army soberly asserts that there are [illegible] Japanese ex-soldiers in Hawaii, all ready to rise at a signal from the government at home.

What shall we say to all this? Certainly nothing complimentary to the intelligence of journalism or the financial ability of our military experts. Taking the last first. It is not true that there are [illegible] or any other number worth considering of Japanese ex-soldiers in Hawaii. If there were, it would signify nothing as they have neither money nor arms nor officers, nor any understanding with the Japanese government. They are but rice-field hands, now laborers on the sugar plantations. Beyond a governor's body-guard of a dozen or a hundred soldiers, there is no more visible need for a garrison at Honolulu than there is at Kokomo or Kalamazoo. The average American soldier costs for wages and keep, $1910 per year. For a garrison of 12,000 men this would amount to $22,920,000 per year. If we have nothing more important than to hold Hawaii for our army to do, better send them home to engage in profitable labor. There are about 15,000 white people in the islands. To estimate the property of these people at $3000 per capita would be most generous. The entire value of white man's property on the islands would support the garrison two years. In these terms Hawaii would be a costly possession as the property does not belong to the nation but to the individual owners. The bill for this protection against imaginary foes falls on the nation, not on them. As for the health and morals of a town thus heavily garrisoned with idle men the less said the better. Every idle garrison in every part of the world is a standing menace to virtue, a standing target of vice. The "White Slave Traffic" is a systematized outgrowth from the standing armies of Europe. Physical and mental disease everywhere spring from their [illegible] to vice.

It is not stated how large the mobile forces should be at the three great Pacific Coast ports. Let us say 10,000 at each. At the standard cost of our army in time of peace the expense would be $57,300,000 per year. For that sum we could rebuild San Francisco every ten years.

What shall we say of the enemy all this cost is intended to repel? It is plain enough that there is no such enemy. "The large mobile army" which shall slip away from Asia and land unsuspected at Monterey could come from nowhere. There is no such possibility outside of the land of dreams.

A hundred thousand men is perhaps a "large army". This would require an Armada of thirty or forty ships, sailing six thousand miles, to land on a very unwelcome coast.

The average yearly cost of the Japanese soldiers has been underestimated at [illegible] per year. Provisions come higher in California and this supposed invasion would entail a great deal of commutation. But at the lowest estimate it would cost [illegible] to equip and start this army. It could not be done from funds in hand in any Oriental nation. It could not be borrowed in London or Paris for every yen available by bankers for business was exhausted in the war with Russia for which Japan has $1,900,000 yet to pay. She has reached the limit of taxation. She can borrow no more. She would not fight us if she could. She could not fight us if she would. The States still is as she always has been Japan's most steadfast friend and her best customer. Japan's outside interests are in Asia, all of them, in Korea and in Manchuria, and her hold on these regions is absolutely conditioned on her friendship with the United States. The coast of Japan for that matter, is far more vulnerable than our own. "A large army" could land almost anywhere, but in Japan six thousand miles from its base of supplies it could never get home again. No coast of any nation could ever be ideally and perfectly protected. There is always room for more men, more ships, more forts. If it were perfectly defended, the cost of protection and the presence of these thousands on thousands of idle men would be a menace worse than an enemy's invasion.

"The Dream of Universal War" with which some of our military experts have become obsessed has no foundation in any needs of the United States. It is a natural result perhaps of the existence of great armies and great navies maintained in idleness. The leaders of these armies and navies find in their dreams, a world where soldiery is not play but action. We listen to them and we open our treasuries at their behest, because their art is one we do not understand. Everywhere the people's money is spent as money was never spent before on a "great illusion" that of ideal defense against imaginary dangers.

ROOSEVELT AND JAPANESE EMPEROR'S LETTER.

The New York Times of December [illegible] states that ex-President Theodore Roosevelt says he has in his possession a personal letter from the Emperor of Japan asking him to open a way for peace



with the best wishes of Theodore Roosevelt

negotiations with Russia. It admits the paragraph that the peace conference at Portsmouth was held at the suggestion of Mr. Roosevelt, and there is nothing to be wondered at as to the fact that he should [illegible] such a letter, unless it be [illegible] before he made the suggestion for peace negotiations. This point is not made clear by the New York Times.

A striking part of the article, however, appears in a story told by that newspaper's Washington correspondent apparently not by Mr. Roosevelt,—that Viscount Aoki and Baron Takahira, as respective Japanese Ambassadors at Washington, had each attempted to recover the Emperor's letter for Japan.

We know from our own relations that the Japanese ambassadors have never made such efforts.

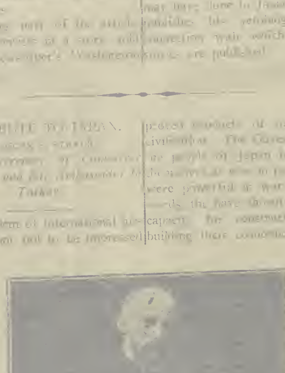
Mr. Roosevelt issued a statement the same morning on which the article appeared in the New York Times that he had nothing to say about it. We hope, however, that he will endeavor to redress any unfavorable effect that the article may have done to Japan when he publishes his autobiography in connection with which all these stories are published.

A TRIBUTE TO JAPAN.

BY OSCAR S. STRAUS

Former Secretary of Commerce and Labor and Ex-Ambassador to Turkey.

The student of international history can not fail to be impressed



Oscar S. Straus

with the wonderful progress that has been achieved by Japan in so short a time. The Japanese, unlike the French, during their great revolution did not break with their past traditions, but preserved that which was best, and grafted upon their ancient roots the most approved products of our modern civilization. The Government and the people of Japan have shown themselves as wise in peace as they were powerful in war. In other words, they have shown their great capacity for constructiveness in building their domestic and commercial life upon a safe and firm foundation. I admire not the least among their many national characteristics their great power of self-restraint, the lack of which has been a fruitful source of national disaster.

A LETTER FROM LINDSAY RUSSELL.

New York, Dec. 19, 1912.

Mr. K. K[illegible]

Japanese Times, 2[illegible]8 5th Ave.,

New York City.

Dear Sir:—

I take pleasure in mailing you under separate cover a copy of the photograph as requested. I regret



Courtesy of the Co-Operative Press.

I cannot at present write an article but if you think it of any interest you may quote me as saying "The relations between the United States and Japan were never on a more friendly basis than today. The Americans understand the Japanese better than ever and the Japanese understand Americans far better than we understand them. Differences may arise between the two countries from time to time, but I am convinced they will always be happily solved through diplomatic channels. The friends of Japan in this country are frequently annoyed by false rumors as regards the relations between the two countries, but this cannot be avoided. It is the duty of every Japanese living in this country, and every American who is interested in Japan to continue to work for a more accurate knowledge in this country as to the aims, purposes and ideals of Japan."

Very truly yours,

LINDSAY RUSSELL

A JAPANESE STUDENT'S REFLECTIONS.

A Chapter in My Life

BY J. K.

War is truly prolific; beside producing widows, the fatherless, the survival of the "unfittest", national debt, and attendant evils, it instills into youthful minds an excessive love of arms.

In 1895, the erstwhile pompous China had bowed down, and every nook and corner of the Island Empire witnessed spectacular fireworks, bonfires, and parades that enslaved forty million souls at the altar of imperialism.

As a child I gazed upon gold-braided uniforms, glittering sabres, and firearms until the fixed idea that, "To be a patriot is to fight for one's fatherland" took possession of me. Gifts of jewelry on New Years days, instead of going to buy toys, were saved to buy the World Hero Series, Lives of Alexander, Hannibal, Caesar, Napoleon, Peter the Great, [illegible], Clive and Hideyoshi,—books which I read with devouring eyes when rainy weather kept me from my miniature garden and my pet "chick".

In my twelfth year I applied for admission to a Governmental Military Academy and was denied entrance with a laconic "Your sight is no good". Thus, nearsightedness thwarted my boyhood ambition, and my father sent me to a rural middle school a few miles from our picturesque village.

There in that school, where I lived five years, we had semi-annual excursions, extending from three days to a fortnight, into the surrounding country for the outdoor study of history, geography, topography and nature, and each pupil was commissioned to keep, for the class composition, a record of the observations and impressions that he received along his route. The teacher munificently made it a rule to mark mine "C" (that is, below sixty per cent) adding a few marginal notes admonishing me to knock a little harder next time at the door of nature. While the others were engaged in counting or worshipping the "eight million gods" deified within shrines, or measuring the size of the colossal statues of Buddha, and making entries in their diaries, I, being naturally of an unimpressionistic nature, would fall into a siesta on the green, velvet-like moss, and thank Amida for casting cool shadows. Or, at the summit of heaven-kissing mountains commanding a view of the boundless ocean, while my comrades composed thirty-one syllable stanzas I would produce from my knapsack [illegible] and make pure ice cream with the sacred snow fetched from the age of the gods.

Even though a delinquent student in some ways I made good use of my opportunities, during these excursions, to study the life within military barracks and naval stations, and to witness the Sunday orgies of the men and their nocturnal sorties into the town.

What was the influence of those military establishments on the neighborhood communities? The chauvinists exclaimed, "The honorable soldiers are our best customers!" the thoughtful citizens, on the other hand, said, "They lead the lives of devils."

LIQUOR PROBLEM

One of the gravest questions which confronts the American people today is that of race suicide, and such men as ex-President Roosevelt and Dr. Eliot, while differing politically, unite in deploring existing conditions. President-elect Wilson holds that the tariff and the trust are inseparable, and that it is impossible to resist one without the other. That may not be wholly true, but it is absolutely true that the question of divorce, poverty, race-suicide, gambling, graft, and a horde of their kith and kin cannot be disassociated from the liquor problem. A "chamber of horrors", with its dreadful exhibitions, is no more terrible to contemplate than some of the sights behind the scenes of insane asylums, night courts, hospitals and in various districts of our great cities.

Men and women of New America! You spend billions of dollars for the fortification of your ports; well and good, but remember that liquor enslaved men cannot defend them against possible foes. You float splendid dreadnoughts and super-dreadnoughts, but remember a liquor dominated navy cannot

Continued on page 10

Mr. George Kennan's article appears on page 10

THE JAPANESE TIMES

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly and owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Kenichi Kai, Publisher
Address, 238 6th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6473
Subscription Ratess
One Copy $ .05
Six Months 1.00
One Year 2.00
Postage included
Entered at the N. Y. Post Office as second class matter under act of March 3rd 1879

Saturday, January 4th, 1913

THE "JAPANESE TIMES"

For a year and a half the Japanese Times has been speaking in Japaness language only. Now it proposes to speak in English too, in order that it might collect and distribute thoughts among the people of the two hemispheres. It owes its existence in New york principally to the hospitality of this country, and cannot and ought not to be foreign to the welfare and interests of this great Republic and her citizens. At the start [illegible] the support of the Japanese community in America—support which we are happy to state [illegible] which in fact has made it possible for this paper to raise its voice intelligibly to the American people.

No person can [illegible] newspaper least of all. It should not [illegible] the public. The moment it is moved by any other motive than that of serving the public, it loses the usefulness as a newspaper and becomes a public [illegible] not dumb.

Our language may be crude, and our knowledge fall short of the best expected of us, still our heart will be ruled solely and exclusively by the desire to seek truth and speak truth.

It will be an unpardonable sin to be unnecessarily disagreeable, but we believe even a disagreeable truth to be preferrable to a sweetened lie.

The Japanese Times as its Japanese readers have addressed from the very beginning, has been always characterized by abundant virility and robust honesty.

Its words went straight to the hearts of the people because they were sincere and gave vent to the true feeling of the people and that without fear and without equivocation—still strictly observing the principles of decent journalism. It has acted in the belief that those qualities which make the individual personal character strong efficient and good should also form the basic principles of a newspaper aspiring to be of any good to the community to which it caters.

In starting the English pages of the newspaper its editors take the liberty of making this statement of the policy they have followed in the past and will follow in the future.

In the oft-quoted terms, a newspaper, like a democratic government is a thing "of the people, for the people and by the people". We do not pretend to rise above human frailties and mistakes, but we are determined to be absolutely sincere, and as our first aim, to seek after Truth and Justice and to bring about a better understanding and goodwill among different peoples.

We are constrained to give emphasis upon such a primary virtue of journalism as there are newspapers without even that quality.

Japan and America

We, New Japan, appeal to New America those patriotic boys and girls who must shoulder the responsibility of the Republic when their fathers and mothers retire from that duty, to be ready to face and solve whatever questions and situations may arise between the two virile and energetic nations across the Pacific and we appeal to them to act in the spirit of the good fellowship and mutual appreciation.

During this century, the world's political and industrial center will shift its position from the Atlantic to the Pacific, and then the problems of the Pacific will be the problems not of Asia, America and Australia, but of the entire world. Then, nay, before THEN, we must work these problems out in the spirit of prudence, [illegible] and foresight.

edness. In a word patriotic Japanese deem it their mission to restore relationship between East and West to that cordial, neighborly spirit that existed before the Saracens and their followers cut the twain asunder in the later middle age.

War and Peace

The present generation may not pay due thanks to the evangelist of the universal peace, but he may rest assured that history will amply compensate him for his labor.

Although Japan is not in a position to engage in another colossal war, yet wars are possible as long as brute force is able to take the upper hand of reason.

Should the honor and independence of the United States be at stake, none of her patriotic sons and daughters will hesitate for a moment to sacrifice themselves. Japan is a poor country but not too poor to return shot for shot if challenged.

Even if Japan had annihilated the American fighting force, she would never conquer the unconquerable American spirit. America might blow up Mikasa and Kongo [illegible] the [illegible] of Nogi and Kuroki but she could not subdue the soul of Japan. Therefore neither America nor Japan would gain if they could.

Japan to Go Back

Count Okuma, an out-and-out admirer of Mr. Roosevelt's strenuous life, is said to have told the Japanese [illegible] Club, "Gentlemen look forward, and never backward". But it behooves us to cast backward glances once in a while.

Dr. Tanimoto, a professor in the Kioto University, who criticised the suicide of General Nogi, as having the suggestion of a theatrical, has so gravely offended the populace that he is in danger of losing his professorship. Many well-known Societies have passed resolutions, censuring the outspoken scholar as a traitor to the spirit of the Japanese nation.

Notwithstanding the fact that the majority of the levelheaded Japanese differ from the professor's analysis of Nogi's motive, we have no sympathy with the narrow-mindedness of our so-called patriots.

Fastidious sons of Nippon! Better cultivate the ancient Samurai spirit of mercy and generosity. In this age of intellectual struggle one is destined to be a loser who indulges in hair-splitting.

President - Elect Woodrow Wilson.

We, the Japanese, congratulate the American nation in having as its next President, a profound scholar, a broad-minded statesman, a keen sympathiser with the needs of the people. The world places full confidence in his characteristic prudence and courage, but still may we not tender a few words to him?

1. As the party leader, he should ask the Democratic Governors of the respective states to make the best efforts to free party politics from the influence of special interests.



2. The [illegible] united Democratic Party is really a mingling of reactionaries and progressives and the two currents thus united are certain to part from each other when conflicting issues come forth. Then the President should be on the side of the people; a party is a means the people the goal.

3. We advise him not to be afraid to change or modify his previous views and statements whenever he sees them wrong.

4. Let not the clamor of a few agitators deafen his ears to the needs of the masses and of their posterity.

5. If during his administration, those unprincipled politicians and their allies should stir up the Japanese scare and clamor for anti-Japanese bills, we ask him to remember that God has created the world not for the [illegible] race [illegible] but for the entire humankind.

A Japanese Poetess in Paris

Before the days of Chaucer and Marlowe in England Japan had her Fielding and Smollett in Murasaki Shikibu and Seisho-Nagon, poeters and authoress, at the close of the 10th century; also she has had many women rulers, a number of whom would compare in the brilliancy of their reign with that of Queen Victoria.

Since the twelfth century when the Minamoto and the Tairas came to plunge the country into a state of continual warfare and military rule, the gentler sex has occupied an obscure position for more than seven hundred years and there have appeared no literary stars among women.

Since her awakening to modern civilization in the latter half of the 19th century, Japan has made a considerable achievement in art, philosophy and literature. While the Meiji Era has produced "no master in poetry, philosophy, or romance, whose work is incorporated with the thought of the world and who is destined to pass epochs and endure for centuries", to borrow the words of Frederick Harrison, yet she may point out her Smith, Hazlitt, Coleridge, Dickens, Thackeray, Dante Rossetti, Swinburne, who will be forever lost to the Western World through the lack of [illegible] interpreters to render them intelligibly in the tongues of the West. Among them is the woman Yosano, who is a student in France. [illegible]

she joined her husband there; after a few month's stay, she was taken ill home-sick, "mother-sick" or rather "child-sick" for her children left in Japan. Through the advice of their physician, she came home alone, and sight of her children cured all her maladies! Indeed to a Japanese mother, the children are her world.

In an interview given to the representative of a Japanese newspaper Madam Yosano gave an interesting account of her impressions of Paris.

"In Tokio, the street lamps are lighted about an hour before the dark, but in Paris they are not lit throughout twilight, when the atmosphere surrounding the city unlike that of Tokio or Berlin, lacks youth and vivacity.

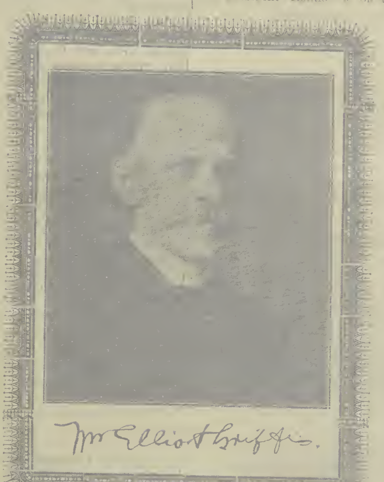
"The Parisian women are artists in their variegated and exquisite costumes.

"One thing that I can state with confidence after my European trip is that, East or West, there is but one human heart.

"A chance gave me an opportunity of seeing the women of that class who have no interest beyond their toilets and frivolities. I do not consider these angels of darkness true French women, but, as in Japan, the men who keep such a company are held in little esteem. I have ascertained, not without some surprise, that these men are chiefly Americans and Englishmen. Is it really the wealth and the morbid curiosity of these strangers that is responsible for the downfall of these women?

"Why do not the upper classes of French society make a serious effort to diminish the number of these unfortunate women? France has no lack of other attractions to offer to the strangers—her richly stored museums, her artists, her lovely and picturesque scenery.

"I find French women patient, docile, and most faithful in duty, as are also the women of Japan. Let them be only properly educated, and it will be seen that they know how to make out their qualities of heart. It seems to me that French women lag behind their English sisters in the vindication of their rights but this is, doubtless, because their family life is happy. They have so little desire for gaining an education, equal to that of their husbands.





Japanese-American Alliance

We do not propose an alliance to which the wise American Father said a solemn "NO". We propose an economic alliance. Blood is thicker than water, but an economic tie is far stronger than that of blood.

Industrial captains of Japan and America, upon you depends the fulfilment of the mission.

The New Japanese Cabinet

So far as meagre telegraphic advices from Japan indicate a new cabinet seems to have been formed there under the premiership of Prince Taro Katsura, who is considered by a large majority of people at home and abroad as the greatest living statesman of Japan. He was premier during the war with Russia, and shortly after the war. When the late Emperor died last July, he was in Russia and on his return, was appointed Lord Chamberlain to the new Emperor. The appointment gave occasion to some criticism by the Japanese press which could not believe that Prince Katsura would abstain from using the influence accruing to the exalted position for promoting the political interests of his party. The experience of the past few months, however, seems to have established the sincerity of Prince Katsura in his declaration that he had divested himself of all political ambitions in accepting the position of the highest counsellor to the young Emperor. Had [illegible] it not been for the urgent exigencies of state affairs he would not have come out of the secure court life to the active political world to take the reins of the government. [redacted]

The circumstances which have led to the political crisis had been brought about by the insistence of the Minister of Finance, Mr. Yamamoto, of the outgoing Saionji Cabinet, to curtail the government expenses in every detail, on one hand, and the insistence of the Minister of War, General Uyehara, to back two divisions of army established in Korea, on the other. Marquis Saionji, and the political party, Seiyukai, of which the Marquis is president, and which commands an absolute majority in the House of Representatives, have given a whole-hearted support to the fiscal policy of the Ministry of Finance, and refused to acquiesce in the demand of the Minister of War. The latter resigned and then the whole cabinet resigned, as it had been found that no army officer was willing to accept the portfolio of the Ministry of War in the cabinet which did not support the programme of establishing two divisions in Korea. [redacted]

According to the Law of official organization in Japan no person who is not an officer of the rank of Major-General or upwards cannot be appointed Minister of War.

After the resignation of the Saionji cabinet early last month, premiership was offered to several statesmen of Japan, including Count Terauchi, Marquis Matsukata, and Baron Kiyoura, and others. They all refused to accept the offer because they knew they had to face the solid opposition either of the majority party in the House of Representatives or of the whole army of Japan according to whether they accepted or rejected the two division programme. If there could be a statesman who could hope to solve or compromise the situation in some way all Japan has come to consider Prince Katsura to be the one, in view of the fact that he is virtually head of the militay party in Japan and also had acted several years while Premier in co operation with the Seiyukai.

Let us hope therefore that a stable government will be assured to Japan by the most experienced and resourceful statesman that the contemporary Japan has at her command.

An Oriental Trait

By Wm. Elliot Griffis.

All the indications of history, logic and mutual interests, point to the continuance of friendship between the United States and Japan. Only a very small minority of people in either country can hold a different opinion I firmly believe.

Our great President, Millard Fillmore never did anything more glorious among his many acts of constructive statemanship than to choose Commodore Matthew Perry and send out the Peaceful Armada of 1852. I, who saw in 1860 the launch of the U.S.S. Susquehanna which [illegible] Perry's flagship [illegible] [illegible] the first embassy in 1860; taught the first Japanese students in 1866; and was the first American to live in the far interior of Nippon; do earnestly believe that to know thoroughly the Japanese is to love them.

Believing so sincerely in their abilities and character, and knowing their history and good purposes, I have never hesitated to criticise, severely if necessary, the Japanese Government, people and individuals. The best thing about a Japanese is that when he sees he is wrong he is ready and willing to change for the right and better. This is one [illegible] in the Japanese [illegible] and [illegible].

NO. 76 VOL. 3

THE JAPANESE TIMES.

SATURDAY JAN. 11 th 1913.

紐育新報

THE JAPANESE TIMES Published Weekly and owned by THE JAPANESE TIMES Co. Kenichi Kai Address, 232 Sixth Ave. N. Y. City, Tel. 6478 Chelsea Subscription Rates 5c. Per copy $2.00 Per One Year Postage Included. Entered at N.Y. Post Office as second class matter under act of March 3rd 1879

紐育新報定價（前金郵税共）一部金五仙 六ヶ月分一弗 一ヶ年分金二弗

千九百十一年六月廿四日郵政院認可

發行兼編輯人 甲斐健一

發行所 紐育新報社

ニューヨーク市第六街二三二

電話チェルシイ六四七

二八

米國冨みやげ（承前）

（六）日本の教育方針と歸朝後の希望

成瀨仁藏

（記者曰く、本年エ博士渡日の當時故國新聞の報じたる所に據れば、エ博士か金子子爵に與へたる日本教育制度改正論中に米國における女子高等教育を奬勵する事の不可を論じたりとあり。成瀨氏の言とは正反對にて其眞相を知るに苦しみしか近着の東洋經濟新報を見るにエ博士日本教育論の出處に付ては甚だ疑はしき点ありと。記して讀者の參考に供す）

實に明治の御代は第一維新の時期にして大正の御代は第二維新の時期と稱するを得可し。此時に際し過去五十年間の經驗に鑑み、世界各國の大勢に準據し、以て大に第二維新の功を完成するは實に吾人の責務たるべきを信ぜんと欲す。唯之を完成せんには國民教育に據るの外他に方法なかるべし。曾てエリオット博士は説て曰く、日本の教育法は餘り確實に過ぐ、今之を改むるに非ざれば到底發展の餘地なからんと。博士は米國に於ける多年の實驗より一教育法を發見し特に之を活用せり、即ち同博士は一に撰擇組織法を主張し此制度を小學より大學に至るまで適用せる者にして現時着々成功の域に進みつゝあるか如し。米國教育法の活力あるは一に此制度に[illegible]せずと言はざるを得ず。元より米國教育法と雖、大なる弊害を有せざるにあらず、彼の學位授受に關する醜態の如き全く教育上弊害の最たる者なるべし。飜つて現時日本の狀態如何を見るに、教育上の弊害は實に甚しき者あり、到底米國のそれと較ぶべくも非らず我國教育家は口に開發的教授を唱ふるも其實注入的方法の甚しき古き教授法を墨守し、更に改良の方法如何に留意せざる者に似たり矣。今の時に於て根本的改良を施すに非ざれば確に二十世紀の日本をして世界競爭場裡の落伍者たらしむ可し。

（七）女子教育論

エリオット博士か東京に於て女子高等教育の必要を説きし時、ある東京新聞は攻撃して曰く、婦人の教育發達は自然に男子と競爭するに至らしめ、尚女子の獨身者を増加せしむるか故に家族制度の破壞を致す可しと然れども博士は之れ一を知りて其二を解せざる迂論となし、婦人に對する高等教育の最終緣果は優に斯の如き弊害を救濟するに足るを確論せり

目下日本に於ては屢々女子高等教育に反對する人あるにも拘はらず、過去十年間に於て中學程度の女學校の數は夥しく增加し、既に二百有餘を算せらるるに至れり。元より目下日本の程度より考ふれば大學程度の女子教育問題は未だ完全に至らざるも從來の中學程度に少しく高尚なる科目を加へし者漸次其數を增し、女子大學を始め大阪女子高等師範學校の增立及び御茶水高等女學校專攻部より各女學校内にも同樣の計畫を施すに至れり。今後十年を經過せば更に一層高等なる大學の創立を必要とするに至るべきを信ず。

實に日本今日の道德改善論は喧しき議論にして余を以て之を見れば此の如き改善は重に女子の品性を高むるに依て初めて成効すべきもなるを疑はず。余か今回世界教育研究の結果は確かに近き將來に[illegible]はるべく先づ具體的に之をいへば第一女子大學を大阪に創立し、益々女子高等教育に改善を加へんとす。彼の反對論者の言ふか如く米國の女子教育は全く家庭趣味を破壞して只管社交的生活に變移せしむる者にあらず、米國家庭生活の破壞は決して女子教育の干與する處にあらず。これ全くインダストリアル、デストラクションの結果ならずとせんや。今日物質的文明の進歩か社會組織の上に大なる變遷を來すは單り米國のみならず一般世界の常態也。もし此米國文明より女子教育を取除かんか、恰も角を矯めて牛を殺すに等く、米國教育の精華を其根底より覆滅するに至るべきや明白也。米國文明の調和力が重もに女子教育に依りて保持せらるゝの理を知らば、須らく女子教育の改善進歩を圖りて、以て其品を高めざるを得ず。第二維新の大業を擔ふ吾人に取りて特に注目に値する問題ならずや其他我邦文物の改善に對し最も必要なるは語詞の改良にして、ローマ字問題は頗る盛んなるが如し。これ永遠の問題にして一朝一夕の問題に非らず、要は着々歩を進めて他日の大成を期するに在りて存す。前段既に言ふか如く我等大和民族か第一維新の際に完成の功を致したる所は即ち物質的の改善にして、今や第二維新の發程に於ては、根本的精神改良を企圖せざるべからず。特に米國に在る我邦青年男女は此の責務の重且つ大なるを自覺して大に奮勵努力せられむ事を希望す。（文責在記者）

親しき友へ

安藤多郎

始めの中は、どうも不安と羞恥の念に馳られて、成可く往來の人に見られぬ樣、勉めたか、今よ、平氣で、ホワイト、コートを着て屋外に飛び出す樣になつたし、又人に問はれても、家内勞働をして居ると憶面もなく告白するやうになつた。

燃ゆる不平と、抑へされぬ程の向上心は持つて居るか、矢張り境遇の力には敵しないで、知らず／＼の間に、社會的地歩か低くなつて行くのだ。

此仕事は、實際無味乾燥だ、毎日長時間を通して働くのだ、安息日であるべき日曜か特別多忙なんだ、努力も、奮鬪も、あつたものかとは云ふものゝ何事も食の爲めだと思へば不平は辯へられぬ義理だとチット眼を閉ぢて、耐へて居るのは實に悲慘な自覺ではないかと思ふ事かある、

偶々、閑を得ての逍遙に、輕車、自働車上の人の傲然たるを見、或は繁雜な街上、希望に輝いてる人々の右往左往を見ると、己も人の子だ彼等と比肩する事か出來ると、空拳、揮奮慨するか、歸つて見ると高談放語も出來ぬ小天地、蹇きの慷慨も何の甲斐なく、詮方なしに己は生存競爭に打勝つて行く程の力がないのだと諦めて行く事が屢ある。

こんな、男らしくない仕事を續けて居る中は、僕には戀や色にあこがる、資格はないのだと思つて居るかそれでも艶麗な佳人か通ると一瞥を與へ、漂ふてる妖粉の香と活氣にもなり、殊に男女の遠慮なく狎戲け散らして居るのを見ると、いつしか冷めてある筈の血か暖ふ胸に湧て來るのを覺ゆる。

○　○　○　○

畢竟ずるに、僕には活[illegible]に樹つて奮鬪する丈けの氣力か乏しいのだか、未だ此まんま、現實に甘んじ、平々凡に老ゆる程悟入の道を啓けねば、人の輕侮や自己の苦痛は素より期したる事故青雲に際會する迄は、闘ひ通す決心だから安心して呉れ給へ失敬。

寸鐵

▲達夫 ト大統領[illegible]日レパブリカン俱樂部に於て[illegible]運河通航料問題の付裁々半に附せらるへ[illegible]を豫[illegible]す

▲黄紙 か如何に暴論を[illegible]ふするも米國の條約違反たるは拾指の指す處拾目の觀る處言ふ丈野暮の聲に屬す

▲虞鈴 外相の抗議は嚴[illegible]にして犯すべからざるの概あり而も禮讓に篤く辭令に富む霞關之先生刮目而學

▲大北 鉄道の創立者ジェームス、ヒル翁維[illegible]遜内閣の農務大臣に擬せらるとの報あり農相は歴代老爺の役

▲雖然 ヒル翁は鉄道界の耆宿にして元氣壯者を凌ぐ人物手腕共に超凡なり一生の思出に閣班に列するも可

▲歳晩 沈鬱の市況に比して活氣飛ぶか如くなりしは武雷安居士の入閣説なりしか街談巷説今は其聲もなし

▲居士 にして一隻眼を千九百拾六年に放ち再び民主黨の大統領候保者たらんと欲せば先以て自重すべき也

▲倫敦 に於ける巴爾幹の平和會議は古着屋のオークションに似たり敵も味方も談判の買被を恐る是甚滑稽

▲老猾 の土耳古巧みに戰勝列國の弱点を捕へて得意のヲールド、ゲームを試む即ち乙土曼一流の外交手段

▲東亞 三千丈の强國此間に出沒跳梁して調停と稱し忠告と稱す知らず談判の結局に配當を要求する者は誰

▲孫逸 仙北京政府の内意を帶びて來朝の説あるや[illegible]衰弱の當局者之を悦ばず竊に茶々を入れて計畫頓挫

▲隣邦 の將來東亞の前途を憂ふる者は居常絶大なる危機の伏在を認めざるを得じ日支の提携は急務中の急

▲何者 の沒分曉漢ぞ孫の來朝を阻止して日支間の交情に意外の溝渠を劃す近眼者流遂に濟度すべからず噫

▲亞細亞 の盟主を以て任じ東西文明の融和を以て念とする日本の必然的使命は實に支那印度の啓發に在矣

▲佛國 大統領の次期候補者として現首相ポインケヤー氏の呼聲最も高し氏は果して其任を甘諾するや否や

▲保氏 にして大統領たらば首相の椅子を占むる者は恐らく精悍にして統御の才ある現海相デルカッセ君乎

▲舊臘 西園寺内閣死して新に桂内閣生る而も其難産たりし事開闢以來の珍現象たり難産内閣の壽命や危哉

▲狂歌 に曰く貧棒の棒が次第に太くなり振廻はされぬ歳の暮かなと西園寺内閣の末路を道破し得て頗る妙

▲增師 問題は不急にして無算の問題也疾斷派の專横亂暴も要するに金の問題のみ金なくて何の己が政府哉

▲時局 をして如斯亂脈收拾すべからざるに至らしめたる者は官僚の罪也政党の罪也而して又國民の罪なり

▲呑氣 にして政治思想なき國民は到底官僚征伐を企畫し得ず政党の改造を完成し得じ寔に是れ憲政の危機

▲社告▼

新活字の到着豫期に遲るゝ事約一ヶ月各般の整理未だ定らざる中早く既に新年號に着手したるか故に活版部の混雜は一方ならず、且別項所載の如く社員二名不慮の災難に遭遇したる等にて今週は豫約の通り紙面八頁を發行する能はず僅に四頁大として讀者の宏量に訴ふるの止むなきに至れり、尚社員遭難以來懇懃なる慰問を賜はりし諸君に對し深く謝意を表す。

ニューヨーク新報社同人

◉日本近信

◉聖上外遊說　東京英字新聞の傳ふる處に依れば　聖上陛下には本年十一月卽位式擧行後軍艦にて歐洲各國御巡遊の途に上らるべしとの噂ありと

◉新內閣の非增師方針　本週木曜日東京發電に依るに桂新內閣は非增師方針を大体左の如く決定せる摸樣なり

一、急遽豫算の編制上兎も角增師を見合はす事

二、陸軍との均衡を計るか爲めに海軍の擴張をノーマル、スタンダードに止むること

三、五千万圓國債償還を續行するの關係より外債募集を爲さゞる事

◉東京大博覽會　大正三年を以て開催さるべき東京府主催勸業大博覽會は去る十二月十一日の府會委員會に於て原案の通り可決せり

◉土方伯元老を罵る　土方伯は語つて曰く內閣組織難は內閣維持難と共に老人連か局外より容喙するか爲めなり若し老人連の容喙なくんば西園寺侯の如きも永く內閣を維持して善政を行ふべく又後繼首相の如きも四十臺、五十臺又は六十臺の人々に卓拔なる人材尠からず然るに老人連は餘りに閱歷勳閥等に重きを置きて人選せんとするより適任者を得ざるなり尙世上にては桂公再び出でて內閣を組織すべしと噂する者あるもコハ以ての外の事なり桂公たる者は此際最も愼重なる態度を取るべく數月前公の入て內大臣兼侍從長と爲るや各元老其他列席の面前に於て「自分は今後決して政治に干與せず專心常侍輔弼の任に當るべし」と誓ひたり、然るにも拘らず万一公か再び出でて首相となるか如事あらば宮中府中の混同を來し亂階を造るの虞あり公も亦數月前の誓詞に顧み決して左樣の行動を執ること無かるべきは余の確信する處なり而も世上に斯の如き風說の盛んに行はるゝは奇怪に堪へず云々

◉回向院春場所番附の發表　正月元日を以て發表せられたる回向院大角力の番附は舊東方大關駒ケ嶽の下りて張出大關となれるを始め西ノ海の大關正位に復し朝夕の一躍して關脇に昇進せる等東方の異同を始め西方に於ては國見の引退鳳の大關となり伊勢の濱大蛇潟の昇進せるあり前場所に不成績なりし相生小錦土州山等の沒落ありて遺憾なく實力競爭の正直なる結果を現はし居れり

◉ハマースタイン事件の判決　米國及び英國に於けるヲペラのプロモーターとして著名なるヲスカー、ハマースタイン氏は日本に於ける芝居道の傑物故守田勘彌の輪廓を大きくせるが如き趣ある敏腕家なるが、先年ヒラデルフヰヤ市に新らしくヲペラハウスを建築して一山當てんと企たたる際、是も財界の傑物にして金滿家の隨一なるストテスブリー氏より六十万弗を借受けメリー、ガアドン孃其他歌劇の名優を登場せしめて好評を博せるが爾後該劇場を手放し當時更にス氏より融通しもらへる三万餘弗を返濟せざりしとかにて此程當市にてス氏より起訴せられ數日法廷に於て右三万餘弗は別口時借にあらずしてス氏の寄附金たる性質を帶べる者なる故返濟の義務なしと主張し居りし事件はジユリー裁判の結果ジスアグリーと成れる由今後の成行如何あらむ

◉進步党領袖間の內訌　米國政界を縱斷し去らずんば止まざるの意氣込にて創立匆々激烈なる運動に着手せるル氏の進步党も各州の領袖個々別々の意見を有し互に小利害の衝突感情の不調和に任せて一致の步武を執り得ざるの嫌あり現にペンシルバニヤのフリン氏の如きは近來頗る冷淡の傾向を有しル氏の交情亦舊の如くならざるやに傳へらるゝのみならずフリン氏と同じく多大の同情をル氏に寄せ居たりしマンセイ氏の如きさへ進步党々勢の擴張に對する意見に於てル氏と相反する點あるを發見するに至れるなど同黨の前途もなかゝゝ洋々如春海と樂觀し得ざるを覺ゆと某消息通は話せり

●媾和會議の近情　紛糾に紛糾を重ねつゝある巴爾幹媾和會議は老猾なる土耳古か列國の弱点に乘じて意外に強硬なる態度を持し現に君府の近信は倫敦に於ける該會議にして今週中に終結せざれば直に戰鬪を再始すべしとの虛勢を示し現に其一小部隊は休戰條約に違反してブルガリヤの前衛と衝突を爲せりとの飛報ある程なるに一方に於ては當初より戰鬪に參加せざりしルーマニヤがブルガリヤに對する交涉の要領を得ざるに激して表面又威嚇を加へんとするなど局面は展開するか如くにして容易に展開せざる近情にありブチャレストに於ける倫敦タイムスの特派通信員は稍ゝ悲觀的情報を致せる次第なれ共結局列國の干涉に依てアドリアノープル、及びイエジアン海岸一部地方の割讓其他の懸案を列國の都合能き程度に解決するに至るべきかと云ふ。

◉支那共和政府米人顧問聘用說　同政府新憲法制定の爲め米人の法律顧問を聘用せんか爲めに其人選をば「カーネギー、ピース、フワンド」の幹部に依囑すべしとの說ヘラルド北京通信に見ゆ果して如何にや

●獨逸の陸軍々制改革　最近伯林發信は同國陸軍々制改革案の今期議會に提出せらるべき由を報じて各步兵聯隊に三大隊を增加し其他騎兵、砲兵共增員の意味に於ける改革を爲すとの事なり

●墺洪國自殺の統計　千九百拾貳年中墺洪國に於ける自殺の統計は千五百五拾八人にして之を前年の千四百零六人に比すれば壹割以上の激增を示し就中婦人小兒の自殺者割合に多く最年少者は九歲の女子なりと云ふ專門家は其主因を近代教育る弊害と於縱なる生活とに歸せるものゝ如し

●河島天涯氏令閨の訃　同氏令閨元子夫人には宿痾にて永らく療養中なりしが去る九日マサチセット州ホリヨク病院にて死去せられたり哀惜の情に堪へず。

訪問錄（承前）

翌日も下町から敬意の卸賣を始めた敢て新年廣告と「敬意」の賣買交換を行る訣ではない、矢張り中心より敬意表するのだか一日に十軒も廻禮を行るから自然ソコソコに切上げねばならぬ必要あり旁々以て卸賣的になる、濟まぬことだと恐縮しなから

日本雜貨卸賣業茂木商店

を訪ふて支配人の伊與田氏に敬意を表する、身長五尺八寸體量二百斤、丸で西洋牛の樣で頰の肉斗りでも拙者程重さは確かにある、同店創業以來萬難を排して今日の隆盛を來さしめた人丈に何となくユトリがあり兼て又愛嬌に富む、御商買柄と感心して更に感心したいのは氏の隱し藝で氏は酒宴の席上で額を眞ッ直ぐにフローアに押し附け臀部を天井に向けなから不動不退轉の姿勢を保つこと約一時間と云ふ他人に眞似の出來ない素晴らしい藝當を演ずることである、此隱し藝を解釋して氏が行住座臥片時も忍耐不屈の志を忘れぬと觀れば又一層奧床しくなる訣じや、氏は明治七年豐前中津に生れた人で總督の茂木喜太郎氏は下野國足利の人拙者參上の砌は不在であつた同販賣部の大島君に就ては逸話頗る豐富であるが之は他日に紹介しやう、同店の特色は上下を通じて店員の統一が遺憾なく保たれ和衷協同の實が着々として事實の上に示されて居ることである。

市俄古新報

主任　瀧本龍仙

●白眼臺より　龍仙

一月五日午後

白眼臺下、積雪數十呎を峻嶮して、二百五十万の男女が餓に泣き富に誇り、權威を爭ひ、或は戀に狂ひ、金に悶へ、叫びつ、怒りつ、恨み悲しみ、樂しみ喜ぶ浮世の活畫。遠くミシガンの水激して怒濤空を咬むの光景、交ゝ吾人の觀測鏡に映じて座ろにカーツニスト、マカーチョンの筆か欲しく相成候

社中同人方の御盛んなる意氣、油が乘り移ッた元氣、餘り忙しくて多少狼狽せられた形跡など新年號に表はれて御奮闘の程拜察致候

兎あれ角あれニューヨーク新報は千九百十三年に於て生氣に滿ち、希望に充ち、新らしき使命を負ふて北米の同胞に非常なる信頼を受るものと專らの評判に御座候

市俄古の在留民は極めて嚴肅に諒闇中の新年を迎へたりとは某老人が誇りとせらるゝ處なれど、飲む者は盛んに飲み、食らふ者は盛んに食らひ餘り飲み過ぎ食ひ過ぎて御歸り路にビールを額に差しむけられ慄ひ上がた連中も二三有之やに承り候

屠蘇の元氣で紅燈街へ踏み込んで何かの間違で珠數繫ぎに引ッ張られて赤耻かいた東洋豪傑の一群ありとは三面子の報する處。物に動せぬ領事館の御老役迄が夫れは痛快だと案を叩いて大笑せられしは近頃珍らしき事にて候

シカゴ日本人ミッションホームは昨年末の總會に於て市俄古日本人キリスト敎會と改め新幹事指導の下に更に人氣を一新せん計畫にて候。阿部領事夫人、鄉里熊本に於て永眠せられし趣、痛恨限りなし。吾人は阿部氏に對して深く同情を表し候。家には三兒あり、愛の妻は幽明境を異にす阿部氏の感や果して奈何。凍風積雪、湖邊三冬の夜凋傷として思に沈むの父に對し一掬同情の淚なき能はず候

市俄古大學日本人倶樂部の總勢は前週土曜日ミッションホームに於て新年會相催し候始めから終まで學說や理窟で押通うし高談放論せられしは成程學者の新年會にて超俗とや申さん。然し折があッたら得意の美音を張り上げ度しとムクついて居た人も二三人有之候由さりとは惜しき事にて候ひしよ。

昨年末來日本人の家內勞働の需要誠に夥しく從つて賃金も昇騰いたし、一ケ月四十弗以下の賃金に應ずる者は皆無の由に候

雜報

□打球家山田君の評判は盛んなものだつた、敗けたのは龜の甲より年の効でスローソン位の年輩に達せば同君の獨舞臺ぢや

□市俄古ナショナルのマネジャーであつた評判男のフラクチャスは結局ニューヨークヤンキーの總督に擧げられた。驚く勿れ半ケ年の給料二万五千弗。雜報子も筆を投じてボールを投げんかな

□市俄古市內には約三百の支那料理店がある。其內で日本の給仕人を使用して居る所謂第一流の格が五軒第二流が六七軒ある。給仕人の收入は少くとも月收百六十弗を下るまい、尤も給料は一日一弗以下で餘はチップだ。然し餘り貯畜を殘す人はゐない相だ、過去六ケ年を通じてチャプスイ黨の成功者として數へらるゝのは目下朝鮮で辯護士の事務所を開いてゐる後藤廉平君許りだといふことである

□市俄古で學生の特長は其自給生活にある。土曜日などには市內第一等のデパートメントストアに賣子として働くシカゴ大學の學生が百名以上と算せられてゐる、同胞學生の大多數は又自給生で土曜日曜にチャプスイ屋の臨時給仕人となつて十弗位の收入があるから樂にやつて行ける相ぢや

□學生の中には行商をやつて小金を作つた者も少くない、だから學校を終へて早速小商店に取りかゝる位の餘裕が出來てゐる

□學生の中に盛んに紅燈街に出入する連中がゐる。三面子は檄を飛ばして龍仙君を戒嚴してゐる、同君も餘り沒書せんで時には三面子の苦心の跡を紙上に示しては如何

□昔の學生は素行の正しい高潔な靑年か多數であつた、而して學問は斯樣な階級が獨占であつたけれど、今日では博奕打、ヒンぷ、其他の無頼漢迄か學校生活を試みる位に社會は進歩したんだと龍仙君一流の見解恐入りますなア（つゞく）

○ニューヨーク新報の雜報

●甲斐、吉田二氏の遭難

本社の甲斐健一、吉田正之兩氏は去る七日東洋倶樂部に於て催されたる竹田北村商會の新年宴會よりの歸途ダイクマン街に於て三名の惡漢（白人）に襲はれ頭部其他二ケ所に負傷したるが左に其大要を摘載せんに

▲遭難の時刻●●●●　前記新年宴會の席上に於て甲斐氏の友人なる某氏が過つて負傷したれば甲斐氏は吉田氏と共に同氏を勦はりつゝレキシントン街なる村瀬ドクトルを訪問したるも折惡く外診中なりしを以て更に轉じて西六十五街の小春ドクターに到りて手術を受けたる等にて兩氏相携ふて愈ゝ歸宅の途に就きしは翌曉四時に垂んたる頃ほひなりし由。更らぬだに人通り少なき市外の片はとり、犬の遠吠と夜明けを急ぐ鷄の鳴き聲を除くの外万籟寂として些の音響を漏らさず。雨後の寒月微かに雲間を漏れて人をして更に凄愴の情を深からしむ。

▲瓦斯管の片にて頭を擲ぐる●●●●●●●　醉ざめの[illegible]度い顔を冷つく夜陰の嵐になぶらせ蠻聲高く何事をか語り合ひつゝ今しもダイクマン、ステーションを立ち出でたる神ならぬ兩[illegible]は己か後から二名の惡漢か良き獲物御ざんなれと互に身構へつゝ追跡し來るとは夢にも知らず、將にシャーマン街を横ぎらんとする一刹那、後ろより物をも言はせず、瓦斯管のカケか鐵片やうの物を包みたる兇器を以て骨も碎けよと打ち下ろしたり。不意を喰ひし兩氏は眼眩み鮮血パッと迸ばしりて詮術なく彼等か爲すに任せてある程に二名の兇賊寄つてたかつて比較的強さうに見ゆる吉田氏を地上に捻ぢ倒し面部を目がけて滅ッ多擊にウチのめし、外套のポケットを探り金とや思ひけん、一聯の鍵を掻ッ拂らひ跡白浪と逃げ失せたり

▲負傷の局部●●●●　は兩氏とも頭部にして吉田は右の外口と眼との二ケ所に強き打撲傷を受たり。兩氏とも時を移さず村瀬ドクターを招きて手術を受たるが甲斐氏の傷は三吋、吉田氏の頭部の疵は甲斐氏より輕傷なるも其局部の惡しきと口と眼とに受けたる傷が餘程の重體なれば全快までには少なくとも今後一週間の靜養を爲さざる可らずといふ。

●森村組の村井保固氏歸朝　來る十六日出發歸朝六ケ月程日本に滯在の筈なり、同店の田中實氏も近く歸國する由。

●東洋瀛船會社重役井坂孝氏　は去る七日來着ホテルブワンダビルトに在り二週間斗り滯留する由。

●農商務省保險課長島村他三郎氏　は去る[illegible]日英國より着。

●露領水產組合堤商會技師管宮清吉氏は鮭鱒罐詰機械購入の爲め去六日着市ホテルモンテセロにあり。

●文部省留學生にて帝大工科助教授鯨井恒太郎氏　はゼネラルエレクトリック會社に入社する由。

●鐵道院西部旅客部長荒木三郎氏は一月八日出發加奈太に向ひたるが二週間後に歷米、當地ペンシルベニヤ停車場にて事業研究の筈。

●多年帝大法科の敎授たりしターリー氏　は今回恩給退職となりて歸米去二日總領事館を訪へり。

●市俄古大學敎授スター氏　は來二月一日日本協會にて演說すへし

●堀越商會の移轉　同商會は今回業務の擴張を行ひたる結果從前の處にては手挾を感ずるより來る十八日を以て東廿三丁目一一五、番に移轉することゝなれり

●三井物產會社近事　同社は近く移轉することに決したる由尙十二月以來々着新たに同社に勤務中の人々は左の如し

矢島房終、青木玉五郎兩氏（東京高工出身）山崎雄二（高商出身）

●修道會講演　本日午後八時東京高師敎授岡山秀吉氏の「日米の手工敎育」と題する講演ある由

●御斷り　本號より順次揭載の筈なりし寄稿家諸氏の玉稿は諸事輳輻次第揭載すべく英文及び市俄古新報等日を逐ふて益々其光彩を發揮し讀者諸君平生の厚意に酬ひんことを期す。

亞市日本人會の大會

亞市日本人會第四回春期大會は豫定の如く本月三日午後七時半を以て開會、近藤會長の開會の辭あり、次で水谷專任幹事、秋季大會以降の會計及び會務の報告を爲し、夫から重要事項の評決に移り大要左の數件を可決確定せり。

一、徽章制定に關し新に四名の委員を選定して調査を繼續する事　右委員として、近藤、柴田、政田、及び若[illegible]四名當選就任。

二、倶樂部室[illegible]設に關する委員會の經過並に役員會の報告を是認し當分中止の事。

三、定期大會を毎年秋季一回と改め役員の選擧も秋季に於て是を執行し、其任期を十一月三日より起算する事として會則を變更し、且つ新に地方在住の會員をして役員選擧の慣例を作る事。

右の外、貯金部在金利殖に關する質問、研究等ありたる後新に本年十一月三日迄の役員を選擧せるに左の諸氏當選就任せられ、午後十一時散會せりと云ふ。

會長、近藤佐十郎君
幹事、大谷政吉君、手塚米一君
加藤菊次郎君、林鉄次君
柴田悠四郎君、水谷渉三君

謹告

愚妻モト事病氣療養中の處養生相かなはず一月九日午前三時マサチユーセット州ホーリヨーク市立病院にて死去致候間此段辱知諸君に謹告す

一月九日
マサチユセット州アムハースト市
川島伊佐美（天涯）

THE JAPANESE TIMES

Published Weekly and owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Kooichi Kai, Publisher
Address, 238 6th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6473

Subscription Rates

One Copy	$ .05
Six Months	1.00
One Year	2.00

Postage included

Entered at the N. Y. Post Office as second class matter under act of March 3rd 1879

Saturday, January 11th, 1913

A MANAGERIAL ANNOUNCEMENT.

Beginning with next issue the Japanese Times will have eight pages each number.

THE JAPANESE IN AMERICA

There are two distinct tendencies growing in the mental attitude of the Japanese who have come to live in America either temporarily or permanently. One is to look forward and the other to look backward; the former is toward forgetting their mother country [illegible], and the latter towards [illegible] with an [illegible] longing for homesickness. Both tendencies are quite natural; for what Japanese are there who do not fondly remember the beautiful country and the dear people they have left behind? And also what Japanese do not come to appreciate all the benefits of the more advanced material civilization that is manifest in the American life and become inclined to forget [illegible] their own country? These tendencies are natural, but it is no reason why they should be carried to an extreme.

Love of their mother country is patriotism, and love of their new country is the outgrowth of a spirit of adventure, and each of these love is admirable when taken by itself. But a man who allows himself to be obsessed by either of these ideas is morbid or foolish, seeing that humanity is greater than a man. It is a man who creates an idea and not an idea that should govern a man.

One-idea man, a man who always carries around his patent idea, one who cannot but talk shop, is at best a bore. A Japanese is not very interesting who is always pining for the beautiful scenery and beloved people left at home, nor is he very attractive who speaks in deprecating terms of everything Japanese in comparison with the brilliant civilization in the West.

It is true that there are beautiful scenery and beloved people at home, but there are beautiful scenery and beloved friends abroad. It is also true that the Western civilization has achieved many things that are lacking in the East; but at the same time, the Oriental civilization has something that does not exist in the West, especially in the matter of mental and social training. Progress of the human world is nothing, if it does not make different nations acquainted, appreciative and sympathizing with each other. The advancement of all the means of communications, of peaceful dealings among the nations and the world-wide diffusion of knowledge, aspirations and sentiment are nothing, if it does not mean the welding together of all human races as one family of mankind. The days are past when a province, or a country, or a continent was the world; now the whole world is the world for each and all of the people living here. We are no more living in the feudal age; what is the use, then, of keeping up a mental barrier towards the people of a different race, as if we were reluctant of leaving the feudal spirit behind?

Japan is a great country, so is the United States and every other country. The Japanese is a great people; so is every other nation in its own ways. Mingle with other people open-heartedly, then they will [illegible]

is no use either of pining away in homesickness, or of being blinded in the splendor of material civilization. Come forward to the world with the conviction that you are a member of the world, no more and no less.

A CITY OF LAWYERS.

There are supposed to be 16,000 lawyers in New York, one to every 275 inhabitants, and it has been estimated that 40 per cent. of them have a struggle for existence, 30 per cent. make a fair living, 20 per cent. a good income, and 10 per cent. the big corporation lawyers, make anywhere from $25,000 to $100,000. The lawyer comes pretty near getting a decent income, the, by his tactics. He is up night and day, like the "club doctors" on the East Side, who attend their patients a month for 15 cents apiece. In New York county about 150 names of illegitimate lawyers have in the last year been stricken from the list.

THE NAVAL PROGRAMME.

The country will never escape from the task of hearing arguments for the naval expansion, once every year, besides the task of paying taxes for the same. The Leslie's Weekly has a specimen of such arguments, saying:—

"So long as we maintain a navy as a means of preventing war, we should not allow it to deteriorate in strength or efficiency. Secretary of the Navy Meyer in his annual report points out that unless Congress authorizes at least two battleships a year, Uncle Sam's navy will drop from second to fourth place among sea powers in a few years, and this will happen even if other powers do not increase their building programs. International efforts toward peace have as yet accomplished nothing in the limitation of armaments and it would be folly for us to permit our navy to go down when all the other great powers are striving to increase their own naval power and efficiency. However much we may deplore the immense sums of money that are put into fighting ships, costly engines of war which in ten or twenty years are ready for the scrap heap, it is foolish and unpatriotic to hamper the development of our navy until the time comes when the powers will agree to disarm. The need also of increased appropriations for the development of aviation in the navy is shown by Secretary Meyer. The United States foots the list at the present time with an annual expenditure of $140,000. Japan next above us, spends four times this amount on aviation, while France leads with an appropriation of $6,000,000 and Russia comes second with $5,000,000. The practicability of the hydroplane has been fully demonstrated. Launched about as easily as a torpedo may be discharged, it will soon become part of the equipment of every battleship. It is strange that the United States, in many ways so progressive, should permit the nations of Europe and Asia so completely to outstrip it in the development and use of aeroplane and airship. These are an essential part of the program of modern warfare."

GENERAL WOODFORD SELLS HIS HOME.

According to a local newspaper, General and Mrs. Stewart L. Woodford, who have lived in No. 13 West 12th street for sixteen years, have sold their home but they intend to continue to live in their old home if the light and air of the property are not seriously affected by the new nearby business structures. Mrs. Woodford has lived in the district all her life, and the aged couple feel that they do not care to move to a new home if the old charm of the famous Knickerbocker section can be conserved from the invasion of noisy manufacturing concerns. General Woodford is very wellknown and held in the highest esteem by the Japanese here and is an honorary [illegible]

THE CANAL AND ITS ENEMIES

By DAVID STARR JORDAN.

What answer shall we give to Admiral Mahan's demand for a greater navy because the Panama Canal weakens our line of defence?

The tireless warrior, in the New York Times, tells us that the Panama Canal once built and provided with costly fortifications so far from strengthening our position in the militant world (at the best [illegible]) adds still further to our weakness. Of our coast "it is through its isolation the most exposed. It is intrinsically the weak link in the chain. The fortifications and the associated troops are to secure this hold on the canal while the navy may be absent on its mission of action in either ocean, but neither works nor troops will secure ultimate security if the navy be inferior to the enemy's."

The Admiral does not state who the enemy is whose imaginary attacks we are spending so much good money to repel. He dreams of war, but only of war against "the enemy." We may infer, however, that it is Japan who is on the [illegible]

[illegible]

Some excellent men in the United States have thought that Canada should have accepted our treaty of reciprocity. To say this is very far from committing us to invade Canada, putting reciprocity through

by force of arms.

The purpose of Japan are very simple. She wishes to hold her own at home, to build up her industries and to pay her debts; and meanwhile to make good her ventures in Korea and Manchuria. She has passed through the terrible calamities of the war with Russia, and her tremendous burden of debt cannot be lifted for half a century. She would not fight us if she could. She could not fight if she would;— and there is nothing in the world to fight about. It would be easier for us to seize any Japanese port than for her to seize Panama. There will be no seizing done on either side.

When information as to Japan's history, purposes and resources is so readily accessible it is not easy to be patient with those belated war experts who talk of Japanese invasion, whether in America, Australia or New Zealand.

CHINESE IN FROCK COAT

Referring to the adoption of the silk hat and frock coat as an official dress in the Chinese Republic, the New York Tribune says:—

"What have silk hats and frock coats for men and skirts for women got to do with liberty and [illegible]

[illegible]

"So when we see our new republican friend, John Chinaman, oppressed by his high hat and frock coat we smile upon him and say: 'Welcome, brother, thou at last art truly free!'"

It is perhaps easier to learn how to don a silk hat and frock coat than to learn how to run a democratic government. But the easiest is not always the best.

CAPTAIN HOBSON PILLORIED.

Richmond P. Hobson, member of Congress from Alabama, on February 20, 1911, addressed his fellow members that the Japanese will attack the United States within a period, "you can count almost on the fingers of your two hands twice



around the number of months," which means twenty months. That period expired on October 20, last year, but the attack has not taken place.

In consequence, the Independent, edited by Hamilton Holt, says:—

"Richmond P. Hobson is a national menace, a breeder of mischief, a stirrer of war. As a prophet he is proved ridiculously false. The country should pay attention [illegible]

[illegible] tree."

A LECTURE ON CHINESE ART.

Frederick McCormick, who has been in China for the last twelve years and lived in Peking most of the time as a newspaper correspondent, delivered a lecture on Chinese monuments at a recent meeting of the Architectural League and the National Sculpture Society, held at the National Academy of Design. The lecture was illustrated by lantern slides and many sketches and water colors of the interior and gardens of the "Forbidden City," made by Mr. McCormick, hung on the walls of the lecture room. In 1908 he founded the Chinese Monument Society at Peking to prevent foreign vandalism in China, and out of that had grown, he said, an international movement which had resulted in the listing of more than four hundred monuments of China. The lecturer said the present movement to revive interest in the ancient art of China was due in large part to the efforts of Charles L. Freer, of Detroit, a collector of ancient art objects, who recently organized the American School of Archeology in China.

THE PANAMA TOLL QUESTION.

In a speech delivered at the Waldorf-Astoria on the 9th inst. President Taft said that he was in favor of the proposal to submit the Anglo-American dispute over the Panama Toll question to the Hague Tribunal. Naturally the announcement was heartily welcomed by all the British newspapers. Among them the Daily Mail says:—

"President Taft has taken the right and honorable course by declaring his willingness to submit the question of Panama Canal tolls to arbitration. Any other policy would have been almost unthinkable on the part of a statesman who, two years ago, devoted all his power to furthering the cause of international peace throughout the world.

"But in matters of foreign policy Presidents may propose, but the Senate disposes, and we have yet to discover whether the Senate will follow President Taft's lead. If it does, the Panama question is as good as settled, for of the strength of the British case there can be no possible doubt."

THE JAPANESE TIMES.

紐育新報

新内閣の成立と吾人の態度

[illegible]

元氣の充實と實踐躬行

[illegible]

寸鐵

[illegible]

吾輩は記者である

[illegible]

敗北か

社告

玉突開業

さくま

御禮

川島 天涯

法律事務所

日本ドライグーヅ

日本ドライグーヅ商會

Nippon Dry Goods Co
621 Broadway, N. Y.
Phone 1538 Spring

萬雲里酒樓

支那料理

日本人職業周旋所

東京館

岡田滿

FINISHING PLACE TEL. RIVERSIDE 6807
161 West 108th St.

KIKUCHI STUDIO

418 FIFTH AVENUE
New York City
Telephone 5781 Greele[illegible]

HAMAN. COHN
Fine Tailoring, Gent's Furnishing
45 Sands St. Near Bridge Entrance.
Brooklyn. Branch 7/2 Crawford [illegible] Port
[illegible]

大洋服店

一ヶ月間大割引

FAR EAST
TEA GARDEN
Chinese Restaurant
Broadway & 5[illegible]th St

東支那
茶園料理

大下甲子太郎

豆腐屋

新內閣の新政綱

官邊の某消息通に信頼す

一、行政財政の一大整理斷行し五千萬圓の大緊縮を行ふ

一、外交の不振に對し刷新を加ふ

一、國債五千萬圓の償還方針を繼續

閣議決心の所

我慾を棄て一途に新

內閣の政綱として數ふ左の六大要項

一、稅制整理の根本的調査

一、國防計畫と安全

一、憲政の成美を標

東京電報

[illegible]

年大正十一(?) [illegible]

[illegible]

紐育母國訪問團本部

●締切及び募集

人員　更に

●十名を限り訪問團加入者を募集す

●鐵道會社との契約の都合により締切は八月二十一日とす

●出發期及び旅程

●本團は來る九月二十[illegible]日當市出發シャトル[illegible]丸にて渡航[illegible]翌大正三年[illegible]月[illegible]日歸米す[illegible]

●横濱上陸後鎌倉一泊、東京二泊、名古屋、伊勢山田、京都桃山御陵參拜、大阪に各一泊其間團員多數の希望により旅程を決定する事あるべし

●團体の特點

●本團は鐵道會社と交渉し往復とも[illegible]特別[illegible]を使用するものなれば長途の旅行中他の乘客と同車混合することなく自由に且つ愉快に旅情を分つ事を得

●本團は個人として受くる能はざる歷史的名所の拜觀、諸會社工場の觀覽及び朝野の名士に面接する等特別の待遇を享くべし

●團員の特點

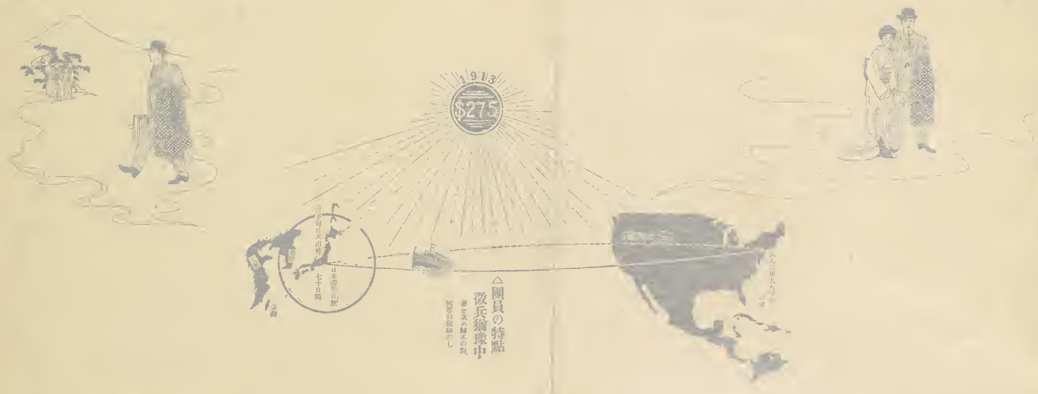
●旅行券、領事館、米國移民局等の手續一切は本部にて取扱ふものなれば何等の面倒なく歸米し得

●[illegible]

●團員にして[illegible]

●徴兵猶豫中の者と雖も何等故障なく歸米する事を得

●團員は船中、汽車、食事等總て二等[illegible]の待遇を受く



●非團員

●團体に加入せずして團体と共に日本に行き或は團体に托して小兒を送り届け、又歸米の際同伴せんとする人々の希望に應ず

●非團員と雖も團体と行動を共にする[illegible]

但し旅券は各自に申請す[illegible]

●市俄古加入者

●市俄古よりの加入者は[illegible]

●同地よりの加入者及び非團員の心得ふべき事項は[illegible]地方加入者と何等異なる事なし

●費用はニューヨーク市俄古間の往復鐵道賃を差引きたる額

●詳細に亘る事項は直接本部に照會

●注意事項

●加入せんとする人にして未だ所轄領事館へ在留屆を了せざる者は至急申出られたし

●事業經營中の加入者は領事に申請し營業證明書を携帶するを要す

右は迎妻又は商業上に關し帝國外務省より本人の身分取調を爲す際有益なる場合多かる可し

●團員にして往復の船中一等待遇を望まるゝ人は規定團費の外に七十六弗を要す

●加入者は團費殘額を本部の通知す[illegible]

●ニューヨークよりの加入者は九月[illegible]當地に集合す可し

●荷物は成る可く一纏とし、多くの手提鞄等は携帶せざる樣注意されたし

●本團解散後内地及び滿韓沿岸を旅行する人に對し郵船會社は定額賃の二割引をなすべし

●委托部

在留同胞諸君の便宜を圖る爲め委托部を設け左の事項を取扱ふ

○物品又は使事を内地に[illegible]

○内地より商品の購入及び[illegible]格取調べ

○小兒を日本に送り届け又は呼び寄せの親戚知己を團体に托する件

○個人間の交渉、取引一[illegible]

○特別なる身元調べ

其他萬般の代理及び周旋を丁寧親切を旨として御用命に應じ可申候

▲手數料運賃等の規定は郵券封入御申越次第御送付可申上候

林　富平

西北日報

主筆 …本…

時 評

…

▲中北部同胞

▲對話の旨い 新文優

▲空中運輸 機の發明



巧者 「對話」は中々…

●新女權の擡頭

▲大相…
▲木…
▲若…

謹告

妻モト…病氣…中…一月九日午前二時…死去致候間…謹告す

一月九日

マサチユセッ州 アムハースト市

川島伊佐美

日本雜貨 ねろし賣

瀧藤小川商會

●稅關事務取扱

●東部讀者に告ぐ

弊店の特色

新刊書籍案内

明治の女官

▲▲▲▲▲▲ 洗濯所賣度し

百五十弗以上 百弗

經營 利益

事務取扱時間 利子 利率

亞米利加 蓄貯銀行

AMERICAN SAVINGS BANK

●御貸間業

中島 實

藤井旅館支館

ホテル ジャコマ

シヤトル市…

青年と修養

博文堂

THE JAPANESE TIMES

Published Weekly and owned by THE JAPANESE TIMES CO.

Address, 2?8 5th Ave N. Y. C.

Phone Chelsea 647?

Subscription Rates

One Copy	$.??
Six Months	1.00
One Year	2.??

Saturday, January 1?th, 1?1?

POLITICS IN JAPAN

NEW JAPANESE CABINET.

Letters From a Japanese Wife

MAYOR GAYNOR

JAPANESE AMBASSADOR IN NEW YORK

Mr. Obi Back in America

WHAT SHIP GOES FIRST

紐育新報

失敗を自覺せる米國の外交

[illegible]

四行詩

[illegible]

吾輩は記者

[illegible]

洋畫會

[illegible]

寸鐵

[illegible]

●東京電報

内閣不信任案解散

●移民相談會

立憲統一黨

●大禮委員

▲▲▲▲政界風雲急

憲政を擁護し閥族を討滅する爲め愈々連合提携せり衆議院に内閣不信任上奏案を提出するに決定し民軍は之に對し策戰計畫中なるが政界の活氣近來稀れに見る所也

●帝國議會開會

●政友會と新内閣

●政府對議員

●休會問題と貴族院

此間何等の術策を要せず赤誠を以て成敗を眼中に措かず

泉

訪問錄

大相撲電報

鳳　常陸山

凮　駒ヶ嶽

紐育日米新報

主任 [illegible]

●白眼臺より

一月十日

[illegible]

◎經濟事情　天香生

[illegible]

●社告

[illegible]

●山縣公暗殺事件

[illegible]

●後藤男の謝罪

[illegible]

報國の赤誠　留め九泉の下明治天皇陛下に此旨を奉告し奉らん…乃木將軍に告げんとす…其内一二百萬圓は去十二月九日古川外二名支那に赴き…

日白山縣公邸の玄關先に打倒れ

山縣公暗殺のため…自殺したり

後藤男の寫眞に倚る

●八百万圓の支那紙幣贋造

公爵山縣を屠らんとして…

[illegible]

土國內閣更迭

國家の大恥辱なりとし政府に總辭職を爲さしめ「マホメツド、セフケツト、パシヤ」を總理となせり

土國遂に屈す

日本郵便發着表

THE JAPANESE TIMES

Published Weekly and owned by THE JAPANESE TIMES CO.

Address, 212, 6th Ave. N. Y. C.

Phone Chelsea 8473

Saturday, January 25th, 1913

THE POLICE IN NEW YORK

[illegible]

Filipinos Not To Be Independent

[illegible]

IS THERE AN OPENING IN THE EAST FOR JAPANESE PEOPLE

[illegible]

General Wood For A Big Army

[illegible]

President Taft A Professor

[illegible]

Dead Lost Missing In Japan

[illegible]

Sun Yat-Sen To Lecture

[illegible]

Letters From A Japanese Wife

[illegible]

紐育新報

社説

吾人の観たる比律賓獨立問題

寸鐵

● 排日運動…… 新…… 策を罵る

米國に於て日本政府を代表せる……

大陸に其雄姿を現はすの日は…… 支那

黃禍……

何人も手を觸る可からず

日本の……政

● 排日運動頻々

紐育新報

●白眼遊

貯蓄

泉

訪問録

投書欄

●政始式

●宮中新年御祭典

●一公使の發表

●被惡者命總數

●日語學校設立

●立太子

●内閣更迭と山縣公の

東京電報（二十一日着）

●議會の停會・並

國民黨の分裂

政友、國民兩派

質問に依て

政府に對し九

總理大臣

辯

峻拒

十五日

間議會停會

の詔勅

河野廣中、大石正巳、島田三郎、浦勝人、片岡直温、武富時敏

同黨を脫し

入黨

●政友會側の觀測

▲内國債償還廣告

●西伯利亞移民制限

●外國視察者注意

●言ふべき米國人の氣風

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly and owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Address, 232 6th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6473
Subscription Rates
One Copy
Six Months
One Year
Saturday, February 1st, 1912

THE EMPIRE OF OPIUM

Dr. ELIOT ON JAPAN

THE FLAG OF THE RISING SUN

FOREIGN TRADE OF JAPAN

Peace Negotiations Broken Off

Economic Condition of Japan

New Franco-Chinese Bank

INVISIBLE AEROPLANES

LECTURE ON KOREA

THE JAPANESE TIMES.

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly ... Entered as Second Class matter ...

嘉納校長演說の大意

諸君、[illegible]

[illegible]

●洋聲會互選句

[illegible]

名 　雪

吹雪すやのきの雀は感ずらく　無名

吹雪して蛇の目に袖の長さ哉　默平

[illegible]

●村内閣不信任案の通過

五日間の休會

尾崎行雄氏 憲法を蹂躙する

島田三郎氏で見るや群衆は怒號し氏を壇上より引下ろさんとし

解散は到底不可免

●加州排日案と母國名士の意見

大隈伯 高橋作衛博士 中野武營氏 服部綾雄氏 森田小六郎氏

排日諸案に對する意見

國民を教育した所が駄目

▲大隈参加を拒絶

▲紀元節停止

▲内國勧業博覧會

何ぞ合同せざる

▲米作實收額

●バルカン戰爭

●新移民法發布後の活動

●警官の收賄暴露

▲記者大會宣言

宣言

決議

▲平和の基督教

▲陰謀事件公判

何れの點より見るも政事犯として疑ふの餘地なし

■郵便發着表



小說

泉

（三）

晉天

饅頭來たと云ふ頃？

「さうですよ、宅は」

中の木の繁れて……

……立けれ。

家に在、……

▲午前九時

●雜貨屋十二時

投書籠

▲午前十時

市俄古五百新報

◉白眼臺より 一月三十日發

[illegible]近頃[illegible]に逐ひ人[illegible]に市俄古同胞の將來如何、其發展策如何[illegible]の問題を提出して御高見若くは[illegible]是非伺ひ度り候。

我輩も質疑に對して未だ嘗て、これ[illegible]は氣に入つた、腑に落ちた[illegible]の解決を與[illegible]たる御人は無之、[illegible]にはいざ知らず、我輩の[illegible]

本問題は依然として未解決に[illegible]

若し市俄古内に五百の日本人の[illegible]

[illegible]

先輩は申されし候、市俄古は國内貿易の中心地なれど海外貿易の[illegible]要地に非らず、日本人の資本に依[illegible]於て運轉せざるは其方法無きが故也。見られよ、水谷某の末路を。

御說御尤に候、市俄古は日本貿易[illegible]人に取りては勿論ボンバー若しくはニューヨークの如き價値を有せず候[illegible]千有餘の同胞を有するニューヨー[illegible]の現狀が拾年一日の如し何等の變化なし、同胞の數に依て、在留地同胞の盛衰をトするの誤れるは之れに[illegible]して明白也とは二三子の論する處、而して四百九十九人の同胞が[illegible]する處にて候はん。

我輩は三千人のニューヨーク日本人が十年一日の如く死期を待つ病者の狀態にありしや否やを詳らかに致さず候、然し市俄古附近に於ては[illegible]有之、從つて市俄古[illegible]現今五百に數[illegible]四倍[illegible]

[illegible]

雜報

●[illegible]

●高峰博士[illegible]

●片岡氏 曾て[illegible]

●津田商會主[illegible]太郎氏は二月下[illegible]

●去一日午后[illegible]

●横濱正金[illegible]

[illegible]

●伊[illegible]

●大和[illegible]

●排日[illegible]

●本紙[illegible]文ラ[illegible]

●小林斗[illegible]

●[illegible]

四[illegible]氏は日本[illegible]數ケ月間[illegible]在する由

◯廣告

[illegible]

即位式は明年秋

今上陛下の御即位式及大嘗祭大禮は内閣總理大臣宮内大臣合議 陛下に上奏御裁可の結果愈々大正三年秋冬の間に於て京都に行はせらるべき旨宮内省より發表されたり

●米國は竟に日本

The Misrepresented East

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly and owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Kaneko Kai Publisher
Address, 238 6th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6473
Subscription Rates
One Copy $ .05
Six Months 1.00
One Year 2.00
Postage included
Saturday, February 8th, 1913

THE JAPANESE POLICY Towards America

[illegible]

Cannibalism in Japan

[illegible]

War Between Japan and America

[illegible]

LECTURE ON KOREA

[illegible]

The Japanese Political Situation

[illegible]

The Chinese Loan Muddle

[illegible]

CHINA BUYS AEROPLANES

[illegible]

France A Financer

[illegible]

A Tour To Japan

[illegible]

Turkey Out Of Funds

[illegible]

紐育新報

所謂新しい女

過去、現在と而して未來とを通じて常に新たなる幾數の　クエツシヨン」を人生に提供するのは養性の問題である。即ち男に對する女、女に對する男、若くは男女[illegible]

[illegible]

THE JAPANESE TIMES
[illegible]
Entered at N. Y. Post Office [illegible]

[illegible]

寸鐵

[illegible]

悲慘なる南極探險隊の最後

…スコツト大佐…一隊が昨年一月…南極探險家として有名なる…英國皇帝…兩極の探險家として著名なる…

墨國又亂る

革命は墨國特有の産物と見られたり…公然革命を唱ふるに至…大統領…

米國の軍艦派遣

墨國騷亂に關しタフト大統領は…米人の生命に危險なき限り…

西園寺侯辭職理由

山本内閣成る

桂内閣總辭職

△東京の騷擾▽

（東京發電）

首相に向って投ずるに至れり總辭職を爲すに至れり

齋藤海相獨り頑として署名を拒みたるに在り

西園寺前首相政友會總裁に

○○○○○○○○○○○○○
山本内閣成る

（十一日東京發電）

内閣總理大臣	山本權兵衛
外務大臣	加藤高明
内務大臣	原　敬
大藏大臣	松田正久
陸軍大臣	木越安綱
海軍大臣	齋藤　實
文部大臣	犬養　毅
司法大臣	尾崎行雄
農商務大臣	長谷場純孝
遞信大臣	元田　肇

大阪の騷擾

國民新聞社を襲ふ

△死者數名、傷者約百名

放火し或は官僚派の邸宅を破壞

各大臣の邸宅を襲撃

戒嚴

桂公と立憲統一黨

龍の袖に隱るるにあらずして自ら語たるなり

元老は天皇に

何なる犠牲を拂ふも此不正義なる内閣を顛覆せざる可らず

▲犬養毅氏の演説

西部だより

太平洋上の日米戰

日米間郵便發着表

▲日本行	▲紐育着
二月十一日	二月十二日
同月十四日	同月十五日
同月十八日	同月十九日
同月二十日	同月二十一日
同月二十六日	同月二十七日
三月二日	三月二日
同月 日	同月五日
同月六日	同月九日
同月十日	同月十二日
同月十一日	同月十五日

小説　泉

[illegible]

●雜貨屋十二時

[illegible]

午後一時

[illegible]

投書籠

[illegible]

新報

3104 ... Chicago Ill.
Tel Douglas 474.

●白眼臺より

る發展の形跡を見ばざるにしても青年...

我輩到處で歡待せらるゝから

米國の圖書館でウイスコンシン大學のイリー博士の令息に...

●小川進太郎氏夫人は過日...

▼新　報▲

●有ミシヨンの大山君と...

大谷本願寺の...

川上清氏の視察談

◎廣　告

雜報

▲歸國する人々

●高峯博士 は來る廿二日當地出發桑港發船天洋丸にて歸國する筈にて歸米は八月中旬なるべしと

●馬場雨吾氏 東洋通報記者として將た本紙英文欄の一筆として……の筆を揮ひ日米國交上稗益する所多かりし同氏は今回歸朝の上ジャパンタイムス社の編輯長として渡米以前の職を再びする事となれり。出發の時日は未定なるも桑港よりは……

●廣瀬賓光氏 當市の森村組本店に……は本日出發歸國す

●送別會と歡迎會

●米獨交換教授カールラートゲン氏

長廣舌

▲各力士縣別

ジヨーダン博士の爲に辯ず

THE JAPANESE TIMES

THE JAPANESE TIMES

Published Weekly and owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Publisher

Address, 238 6th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6473

Subscription Rates

One Copy	$ .05
Six Months	1.00
One Year	2.00

Postage included

Entered at the Post Office as second class matter under Act of March 3, 1879

Saturday, February 15th, 1913

SOME NEW YORK NEWSPAPERS THE JAPANESE READ

HOW CHINA IS REGARDED BY JAPAN

HOME POLITICS

The Japanese in Korea

THE JAPANESE POLITICAL UPHEAVAL

Count Yamamoto Is An Annapolis Graduate

American Ambassador Ought To Be Rich

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES [illegible]
[illegible] Editor & Pub.
[illegible] Ave. N. Y. City
[illegible]
Subscription Rates [illegible]
[illegible]
Entered at N. Y. Post Office
as second class matter [illegible]

[illegible]
發行兼編輯人 岡本米藏
發行所 紐育新報社
ニューヨーク市[illegible]
電話 [illegible]

危険思想と政治的罪悪

（一）

[illegible]

詞友某を送る

[illegible]

● 新會俳句募集

[illegible]

詠込海 鐫（つゞき）

[illegible]三題 一題に付き一人五句以内

[illegible]廿八日締切

若葉は記者である（續）

劒 杖 學 人

▲故人の國城寺清氏は記者としての天才であつたにのみならず、政治家の風格のあつた人物であつたけれ共惜むべき[illegible]して天折した。萬朝には色[illegible]の變つた人が居たもである。たゞ[illegible]は有名の聖人内村鑑三の如き、[illegible]社會主義者となつ[illegible]大逆事件の首魁に[illegible]

▲元の日本[illegible]新聞に關係して[illegible]翁の如きも記者としては往年[illegible]に於て客死せる酒井雄次郎以上に非凡[illegible]共[illegible]今は專ら力を雜誌の方面に用ひつゝあるから代表的二[illegible]の月[illegible]は省いて置くことにする。[illegible]大正時代に於ける[illegible]一人として歴史に書かるべき[illegible]であらう。昨年物故した東朝の[illegible]三山も記者として一方の重鎭で[illegible]あつたのみならず、立派な人格を具[illegible]丈夫であつた。上述の如[illegible]から隨分種々雜多なる人物[illegible]

[illegible]松井柏軒、川崎紫山、[illegible]北村[illegible]尾氏の經[illegible]に筆をとりしとあ[illegible]桐生悠々、大町桂月、[illegible]川[illegible]風、[illegible]松崎天民、[illegible]越停春、白川[illegible]三叉、清[illegible]太郎、伊藤知也、等一騎當千の記者があるけれ共明治時代に於ける代表的記者として推稱する譯には[illegible]

寸鐵

[illegible]

●マデロ政府顚覆

●母國訪問の名士

新顏觸れの二人

●内閣組織難

●□公の決心

（答）素より何等問を竢たず予は前次内閣の際より既に超然内閣主義を抛ち政黨を認めたり然れはこそ情意投合を行ひたりしなれ今回の内閣が政黨を基礎とすべきは予の誓言する所なり」

す且又辭職の意なし只々所期を斷行するの決心なりと云々

偶ほ種々問答せし要領によれば公は自ら總理たるべく決して別人をして代らしむることなく其發表期日は未だ明言する能はざるも近々の中なるべく政黨領袖と元老とは決して兩立せざるの理なりと信ず予は既に決心あり斷じて元老界に逃げ歸りて政黨を棄つることなかるべし

るべく主義綱領も已に内定し居れり

●東京の大火

將たして眞平

て一迫手段にも防禦策にもあらず—決し然れども斷じて不都合の行爲なきを期

●新內閣成立公報

（二十日當地領事着電）

總理大臣	山本權兵衛
外務大臣	牧野伸顯
內務大臣	原敬
大藏大臣	高橋是清
陸軍大臣	木越安綱
海軍大臣	齋藤實
農商務大臣	山本達雄
遞信大臣	元田肇
文部大臣	奥田義人
司法大臣	松田正久

●憲法史編纂の議

●孫逸仙來朝の目的

（二十日東京發電）

同氏は遠世凱の命を受け愈々來朝することとなれるが氏の使命は政治上頗る重大の要件を帶べりと稱せらる

●桂公西園寺侯を詰る

公は去月廿四日或者に語りて曰く……現內閣を攻撃するは何故なるか……

●自動車と陸軍

■郵便發着表

■法律顧問

民事及刑事訴訟

辨護士

泉

（五）

…或る…私の戀人が…

口上

○繪畫雜感

投書欄

西伯利亜新報

●川上清氏視察談（承前）

其二　國粹保存主義

其三　キャンプの生活

其四　婦人の……

[illegible]

●投資問題

[illegible]

▲白婦人使傭解禁

▲土地案と故國

馬場氏を送る

●本紙第七十九號

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly and owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Address, 238 6th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6 73

Subscription Rates
One Copy $ .05
Six Months 1.00
One Year 2.00
Postage included

Saturday, February 22nd, 1913

JAPAN'S RECENT POLITICAL CRISIS REVIEWED

[illegible]

Peking---Seat of Monarchy and New Republic

[illegible]

Composition of the Yamamoto Cabinet

[illegible]

THE CHINESE LOAN SITUATION

[illegible]

A Great Fire in Tokyo

[illegible]

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
[illegible]
254 Sixth Av., N. Y. City
Tel. 6473 [illegible]
Subscription Rate [illegible]
copy [illegible]
Postage included
Entered at N. Y. Post Office
as second class matter under
act of March [illegible]

排日運動に對する吾人の主張

移轉

廣告

●新内閣の方針

總理大臣山本權兵衛伯は閣臣一同と政友會施政の主義方針に關しては政友會の政策に贊同する旨言明せり

[illegible]

●三大臣の入黨

新内閣の農商務大臣山本達雄、大藏大臣男爵高橋是清、文部大臣奧田義人の三氏は政友會に入黨

[illegible]

●政友硬派脫黨

[illegible]論を主張しつゝありし尾崎行雄、杉田定一、岡崎邦輔氏等[illegible]脫黨せり

●新政黨樹立

政友會を脫黨せる杉田、尾崎、岡崎等は憲政倶樂部と名つくる新政黨を組織し政友會中[illegible]に屬する三十名の議員脫黨して之に加盟せり森田小六郎氏亦此内に在り

●各省次官決定

各省次官は左の如く決定任命されたり

内務次官[illegible]　水野錬太郎

農商務次官[illegible]　犬塚勝太郎

[illegible]　大久保利武

外務次官（留任）　松井慶四郎

陸軍次官（同）　岡市之助

海軍次官（同）　財部彪

大藏次官（同）　勝田主計

司法次官（同）　小山温

文部次官（同）　福原鐐二郎

●日銀總裁決定

三島彌太郎子[illegible]日銀總裁に

濱正金銀行頭取に

水町袈裟六氏は橫濱正金銀行頭取に

[illegible]

●墨國動亂の其後

[illegible]

●バルカン戰況

[illegible]

●米國の新海軍根據地　ニカラグア條約　去廿六日大統領タフト氏は米國とニカラグワ國との間に締結せられたる條約を上院外交部委員會に交付し其の承認を求め[illegible]

[illegible]

二月號雜誌卅餘種

新着　[illegible]

玉突秘訣



東京は日本橋の質屋峯島キヨ女

一代で仕上げた百萬長者

投書籠

市俄古週報新報

●白眼臺の觀測

[illegible]

貯蓄問題

[illegible]

雜錄

[illegible]

は深く怪むに足らず、オイ節制生 更ぬるい筆法を弄して何んだ死せ るも鯨の氣かね(鯨波)

日本人基督協會には副會ガ澤山御出ます谷將軍初め皆一癖ある (新參者)

御幾屋様はよく風船玉を作つて御見せだけれど何時も途中で破裂して昇天せぬ、まだ工夫がいりますね(見物人)

青年會の島津さんは感心な方だと思つて居つたガ種々惡評を下す人ガあるますヤハリ近藤さんの…御話に承はつた様に両

[illegible]

統一黨優勢

大陸主義の大石氏

尾崎氏等脱會

（十二月廿日東京發電報）

政友會中の硬派として……尾崎行雄氏外二十六名は……

其後の任命

桂公の新政黨

▲五領袖新黨組織の盡力を誓ふ　桂公と大石、河野、島田、武富、箕浦の五氏は……

陸海軍大臣資格改正

中國各縣及關東東北の政戰

官僚記者大會

蒙古問題と六國借款

▲蒙古問題と支那

▲露國の對蒙

日本郵便發着表

●肺病新療法發見

フリードマン氏來る

[illegible]

▲●●●●●●●●●●●●一流大學の診療と契約

[illegible]

▲●●●●●●●●氏は來着匆々

[illegible]

●第二回四十萬圓費

[illegible]

THE JAPANESE TIMES

Saturday, March 1st, 1913

JAPANS RECENT POLITICAL CRISIS REVIEWED

(Concluded)

Count Okuma's Speech

Financial Standing of the Hypothec Bank of Japan--

Its Semi-Annual Meeting

"Japan To-day and To-morrow"

THE ORIENTAL REVIEW

紐育新報

THE JAPANESE TIMES

機會均等論

[illegible]

▲轉移!!

紐育新報社内 紐育母國訪問團本部

▲廣告!!

吾輩は記者

▲冬の游

寸鐵

[illegible]

●大統領就任式

[illegible]

▲就任宣誓式

[illegible]

▲就任演説

[illegible]

▲見物四十萬人

[illegible]

●民主黨内閣員

國務卿 ブライアン

大藏卿 マカドウ

陸軍卿 ガリソン

檢事総長 マクレーノルズ

郵政院長 バーレソン

海軍卿 ダニエルス

内務卿 レーン

農務卿 ヒューストン

商務卿 レッドフィールド

勞働卿 ウィルソン

[illegible]

●母國の資産家

[illegible]

二月號雜誌卅餘種

新着

[illegible]

議會開院す

帝國議會は豫定の如く一月廿七日を以て開會せられ總理大臣山本伯爵は午後貴族院に於て施政の方針を演説し次で衆議院に於て山本首相の施政方針に關する演説あり次で大藏大臣高橋是清男の財政方針に關する演説ありたり

國民黨の質問

國民黨は内閣不信任案を提出す可しとの議ありし形勢なるも質問を爲す

山本内閣の評判

毎國新聞紙の多数は反抗しつゝあり

立憲同志會宣言

所謂勅語の意義

五日の衆議院

▲傍聽人院内に溢れ込む
▲怒號叫喚を極めたる議場

一千の巡査群衆を警戒す

公は亂臣賊子なり

詔勅

濫發

居直り強盗

誠意なし

亂臣賊子

怒號す

能く見て置け

尾崎の壯絶快絶なる武者振

敬なり取消す可し

障壁とす

公は玉座を以て

又々五日の停會を命ぜらる

日米間郵便發着表

▲日本行		▲紐育着	
三月	十一日	三月	十二日
仝月	十二日	仝月	十五日
仝月	十四日	仝月	十九日
仝月	廿一日	仝月	廿二日
仝月	廿九日	仝月	廿九日
[illegible]	[illegible]	四月	五日



王突秘訣
（前承）

彼は女傑である

投書籠

何んでも來い

柳生眞影流と

保存

世界無比の景品附

最早上下の二種

下の部

下部に對する注意

四割引と同様

地方讀者に絶好機會

福引の方法

博文堂書店

紐育新報

寄書

米國の基督教青年會と同胞

は今なほ我輩の記憶に新になる所並に價値あ……唱せざる能はず。
然り而して其後米國何を議すればシカゴ日本人青年會がシカゴ日本人
大山鳴動して鼠一疋の歎もあるも、……の諸々の米國青年會當
而かも我輩は其熱誠なる努力に對……局者は國籍の入會申込者に對して不
……會なる應答を與へしか或は同胞を
……白人同様に收容する能はざるか故に
……本人青年會を指定せしか、若

……本人青年會あり……

●白眼臺の觀測

●永井桑港總領事談

（東京日日新報）

▲貸室　但…



◎亞市春信

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly and owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Address 238, 5th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6473
Subscription Rates
One Copy $ .05
Six Months 1.00
One Year 2.00
Postage included
Saturday, March 8th, 1913

PRESIDENT WOODROW WILSON

We deem it our special privilege to offer our most sincere and hearty congratulations to Mr. Woodrow Wilson on his inauguration to the Presidency of the United States. [illegible]



[illegible]

Prince Katsura's Declaration

[illegible]

JAPANESE TIMES

JAPAN'S FINANCIAL AND INDUSTRIAL OUTLOOK FOR THE YEAR 1913

The Mitsui & Co.—Views of Mr. Masuda and Mr. Hayakawa on the Situation.

[illegible]

紐育新報

THE JAPANESE ...

最近於ける米國 政權移動

戰況

南米方針の宣言

●武雷安と支那借欵

本社印刷所の日英兩國活字と各種附屬品は凡て新調である上に大小の機械は熟練なる日米人數名に依つて運轉されてるからドンナ大きなものでも又小さいものでも早くて立派に出來る、精巧美麗な印刷物を安價で注文仕たい人は當印刷部に來ると「應來、宜しい」大滿足であります

●當社營業部の特色●

▲レタヘッド▲レッテル▲キヤタログ▲名刺▲ビルヘッド▲外一切

高尚に美術的に仕上げます。兎に角ツライヤルに御注文下さい。日、清、英等の飜譯、電氣業等も請負いたします、御用命の節は電話なればチエルシイの六四七二、御手紙なれば第六街二三八 THE JAPANESE TIMES 又は U. & A. PRINTING CO. にて御申越下さい

東京特電

◎政友會動搖
反對

京都

兵庫縣

關西地方

動搖

愛知岐阜

尾崎行雄

政友

本部

◎沼津町の大火
静岡縣沼津町
大火
千五百戸
四

戸

◎陛下御危篤
の用

中

宮威仁親王
昨二日以來

◎柴田氏刺さる
主人
家族四名を刺し逃ぐ
柴田

▲加害者自殺す

◎日支懸案解決

◎板垣伯の時局談

◎孫逸仙氏來朝

◎蒙古と露國勢力

●京濱の大火
四百餘戸
横濱市
七百餘戸

●政友會動搖
閥族
局合
故に秘密
脱黨
相踵

■内國郵便發着表

論語雜感

飛闊妄語

投書箱

開社の栗武三太

某新

●知事一行煙部屋

像新東京府知事

代議士和泉邦彦氏

鹿兒島縣商

一中井徳介先生の大人

●世界無比の景品附

景品は上下の二種

下の部に對し注意

下の部

四割引と同樣

地方讀者に絶好機會

幅引の方法

市俄古日會新報

[illegible]

日本の資産家

▲壹千万圓以上▼

侯(東京)	德川賴倫
男(仝)	大倉喜八郎
[illegible]	[illegible]
侯(東京)	鍋島直大
[illegible]	[illegible]
[illegible]	村井吉兵衛
[illegible]	久原房之助
[illegible]	安田善次郎
仝	安田善三郎
[illegible]	前川太兵衛
仝	前田利為
男(大阪)	藤田平太郎
[illegible]	古河虎之助
男(東京)	木村又左衛門
[illegible]	岩崎久彌
男(仝)	三井八郎右衛門
仝	[illegible]
仝	[illegible]
男(大阪)	住友吉左衛門

●何うして儲けたか

日本雑貨 卸小賣

佐藤小川商店

紐育領事桑港總領事に任ぜらる

吾天皇陛下の御視室

吾人は吾社の好意を諒とせず却って甚だ鮮なる謬見を以て吾社に對し甚だしきは各所に至りて種々なる黑聲を放つ者ありと聞く依りて吾社は次號に於て詳細に本件の由來を明かにする事とす可し

●若波貴天氏　は今回ウキリヤムスソキナット會社の日本人部を引受け建物の賣買を爲し且專門の建築設計及專賣特許出願圖案の事務に從事する由なり

●森場虎之助君　に好進

●森田商舘の存續　アメリカ　今回營業を擴張する爲精本人間に依託し石鹸製品を本社營業部に依託

●ロ本協會の催はし　ロドノタン・ユジアムに於てナ東洋美術に關する講演あり來る中を十八日にはホテルアスターに於て女女優セントデニス孃の舞踏ある由

●日本郵船會社　氏は當地代理店となり

●倫敦正金支店員　は當地支店詰となる

▲或種の食は禁止されたり

日本貨物輸入制限

フルトン座より

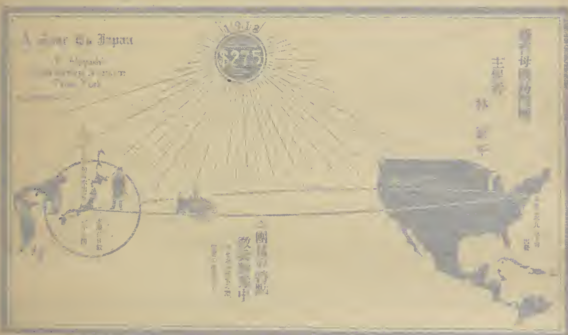
鶴　子

▲本社營業部廣告

一、手紙取次　正確迅速に取扱ひ手數料は年金貳弗

一、各種印刷物

三月號雜誌卅餘種新着



THE JAPANESE TIMES
Published Weekly, owned by
THE JAPANESE TIMES CO.
Address 276 5th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 5473
Saturday, March 15th, 1913

DR. SUN YAT SEN
HIS VISIT TO JAPAN

WOMEN OF JAPAN

Attitude of the New Administration Toward China
Important Conference at the State Department

Report of Japan's Spinning Industry For 1913

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
New York City

紳士道と武士道

[illegible]

在米記者

[illegible]

寸線

[illegible]

紐育新報

白眠臺より

[illegible]

市俄古の米價表

[illegible]

▼▼投込▲▲

[illegible]

故國送金に就て

■米國移民調査報告の一節

合衆國政府の任命したる移民調査委員が一千九百十年六月三十日に終る一ケ年間に於ける故國送金に關し[illegible]調査したる所に依れば商業に[illegible]日本人二千〇七十五人[illegible]從事する者四百三十七人中送金をなしたる者百七十四人其送金額四万八[illegible]弗[illegible]市に於ける[illegible]銀收[illegible]八十八人中送金を爲したる[illegible]四百三十七人中送金をなしたる者[illegible]者七百六十八人中送金をなした[illegible]其送金額三万八千[illegible]者四百十[illegible] [illegible]

[illegible]商人及び農業者の[illegible]勞働者の夫れに[illegible]は米國に妻女を[illegible]のみならず現金[illegible]ば商業に從事す[illegible]に使用する事を[illegible]は本國に家族を[illegible]に於て貯金を有[illegible]少なく且つ一般[illegible]を期待するも[illegible]扶養の爲め若[illegible]め其剩餘金の[illegible]るを普通とし又其全[illegible]稀なりとせず

[illegible]

▲貸　室▼

▲理想的書生生活ニ都合善キ貸間[illegible]室アリ▲[illegible]臺所ニ[illegible]水アリ▲炊食器一通リ備ヘツケアレバ自炊スルニモ便利▲一室獨占ノケ月八弗

來談時間午後八時

[illegible]

富士會々計主任

有望なる料理店[illegible]譲り渡し度し、望の方は新報社へ御合されたし

▲組合員を求む

日本人[illegible]テ金五百弗以上投資[illegible]有利且發展ノ[illegible]

詳細左ニ申込アレ日本文ニテ可ナシ

[illegible]

[illegible]

●共濟會[illegible]

[illegible]

東京特電

●豫算案の通過

●宣戰の布告

内閣不信任決議案

●政國兩黨提携斷絶

政黨の標榜した憲政擁護の趣意に反する

●黨の政綱

●神田の大火後報

○日米間郵便

物資着表

繪畫雑感

飛閣妄語

月岡觀光團記事

世界無比の

最良の上下の二種

下の部

下の部に對する注意

四割引と同様

縮引の方法

地方では絶好機會

●米國の外交方針變更

……ウ氏は其極東政策を宣言すると同時に「此方針は南米諸國に向つても……用せらる」と……したる所より見ればウ氏今回の宣言は共和黨從來の外交政策を根底より破壞したる破天荒の擧といふべし、支那及米國に對して最も重要なる外交關係を有する日本並に日本國民の須らく注意すべき所なりと言ふ可し

▲六國借款加入を拒絶す　過日米國の……務卿ブライアン氏と長時間……

●ウ氏の宣言と英國　上記ウ氏の宣言は……英國の朝野をして非常の驚愕を以て之に對せり、何となれば六國借款の交渉は目下列國……

……主義と相反するを以て米國政府は資本家の大借款加入に關し何等責任を負はざる可き事を……

●外務次官ハンチングトン、ウィルソン氏の……

●エリオット博士駐英大使說……

●希臘皇帝暗殺せらる

●朝鮮疑獄事件の判決……寺内總督暗殺陰謀事件の裁判……

●排日運動一束

●米國……大變改　マッキンレー氏……外交方針は所謂……

●三億二千萬弗の地下鐵道契約成立

■日本雜貨賣

▲本社營業廣告▼

●母國訪問團員募集

ニューヨークを中心とせる同胞間より七十五名を限り母國訪問團員を募集す

逸す可からざるの好機會也

母國訪問團本部

主唱者　林富平

賛同者　紐育新報社　日米週報社　日本人

✚

法律顧問　民事刑事訴訟

辯護士　村瀬九郎

御下宿

東六十……

倉田平次

大正館

比嘉盛榮

E. HIKA

基督教修道會

(西百……)

日曜日集會　午後八時　西百廿三丁目……

會……

牧師　大堀篤

●ニューヨーク日本人會寄宿舍　婦人英語教授

監督　大堀篤

▲御下宿▼　中西庄

元山館下宿

Murray Hill 2258

●●●●
鴨井久
●●●●

アルバニー洋食店

ALBANY RESTAURANT

114 W. 14th ST.

藤田

BERLITZ SCHOOL OF LANGUAGES

ベルリッツ語學校

月謝は至て廉なり……時でも參觀を許す

ゴダク各種寫眞用具店

寫眞器械販賣

懷石御料理

若松

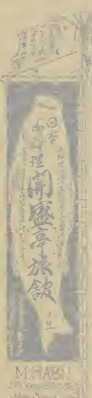
□新着品御案内▽

片桐兄弟商會

御便宜を計り當分午后十時迄營業

佐々洋服店

SASSA 68 W. 38th St. Tel. 3878 Greeley



館主　土生茂太郎

費府ジャクソン街一一二一

日本人青年會

レキシントン街七百九十八

御料理　御下宿

飯塚

THE JAPANESE TIMES CO.
Publisher
Address 238 4th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 5473

Subscription Rate

One Copy	$ .05
Six Months	1.00
One Year	2.00

Postage included

Saturday, March 22nd, 1913

PRESIDENT WILSON Declares China Policy

President Wilson's Statement

INDUSTRIAL BANK OF JAPAN.

JAPAN'S NEW AMBASSADOR TO ENGLAND

Japanese Diet Passes The Budget for 1913-14

American New Ambassador Mr. Larz Anderson, presents his Credentials to the Japanese Emperor

Japan's New Ambassador to England—Mr. K. Inouye

Anglo-Chinese Press on the Massacre of Lepers.

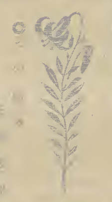
紐育新報

畸形兒として の山本內閣

[illegible]

五個條御誓文の研究

[illegible]



●王國の全敗

[illegible]

を出したる上に火災包圍

[illegible]

劇的改作して

[illegible]

●大旋風大洪水大火災中西部を襲撃す

[illegible]

五十の家屋を倒壞 一千二百

一百三十六人を殺し二百三十八人を傷け五百五萬弗の損害を與へ

[illegible]

教育意見が日本に於て正反對に發表せられたるを見て

某顧問官とは子爵金子堅太郎氏

[illegible]

●米國造外使臣の就職難

[illegible]

沼野領事を送る

[illegible]

一千人を失ひたり

千八、附近を合して實に二千一百六十六人の壓死溺死者

[illegible]

●エ博士の意見 偽造眞相

[illegible]

頑固なる府の老人連の賛成を得難きを看破し私に之に反

[illegible]

●中西部の慘禍と義捐金

中西部地方に於ける未曾有の……

●沼野……夫人の……

▲義捐金募集▼

米國中西部に起りし今回の大被害は、實に人生の歴史ありて以來未曾有の一大悲慘事として苟にも相互仁愛の義を解するもの、座視するに忍びざる所也。依て吾紐育在留同胞諸君より汎く義捐金を募集し以て過去に於ける米國人の高義に酬ゆる所あらんとす。大方の諸士は揮つて應分の寄與あらん事を

紐育新報社

東京特電

▲大隈伯新黨を助

▲所得稅改正案の運命

●衆議院議員黨派別

▲政友會
▲憲政會
▲國民黨
▲無所屬

○日米間郵便物發着表

繪畫雜感

山　村　生

飛集

日本雜貨並にリンネル類

森村ブラザース

MORIMURA BROTHERS

Phone

日本御料理

原旅館

支那料理

御貸間業

中島實

齒科

伊與田

診察

貸室

日入事務所

サンロー藥店

世界無比の景品附

昼食は上下の二種

下の部

下の部に對する注意

四割引と同様

地方の絶好機會

編纂の方法

博文堂書店

紐育新報

寄書

[illegible]の大總督とし[illegible]を轟かした當時[illegible]のアンスン[illegible]

一役員、[illegible]の參議會員として[illegible]百九百七年に合衆國[illegible]議士に撰出せられ今日に至つたのである、別に學校で教育せられた人物ではない。商務卿レッドフイルド[illegible]と同一對である

米國の新勞相ガニオエストであ[illegible]見れば、吾人東洋人間の待遇は略[illegible]察せらるる譯である、同氏は[illegible]實議家で理想[illegible]ではない[illegible]或は[illegible]豫想した[illegible]

雜錄

●虫が知つた　過日[illegible]

●日本人クリスト協會の新炊事部[illegible]任、は同新議員飯島書一郎氏に決定したそふである、[illegible]で、申分もない後継主任を得、[illegible]代りには敏腕で[illegible]

●新青年會幹事阿曾寅吉氏は[illegible]一下院に二[illegible]事を中心ならざるである、吾人は市俄古に同君を迎へ[illegible]

●日本通信販賣所の新創[illegible]繪畫輸入商會[illegible]商會を組織せられた、該商會は[illegible]其他の雜貨品を同胞間に最低價を以て供給する目的である、目下春夏服の賣捌をして居らる、壹弗以上の注文は寸法書により調製すると云ふ事だ。

●協會文藝會　去る土曜日の晩グロ[illegible]ブランド街のキースト敎青年會[illegible]於て日本人キリスト協會と[illegible]藝會が催された、[illegible]虛無思想と日本の文藝[illegible]を試みた其他山[illegible]演說があつた[illegible]

●加州州會の排日案

▲[illegible]

今回加州州會に提出された排日[illegible]案は[illegible]

▲土地所有權案[illegible]

新着

二月號雜誌卅餘種

日本雜貨　たろし賣

瀧藤小川商店

本社印刷所の日英兩國活字と**各種附屬品**は凡て**新調**である上に**大小の機械**は熟練なる**日米人數名**に依つて運轉されてるからドンナ大きなものでも又小さいものでも早くて立派に出來る、精巧美麗な印刷物を安價で注文仕たい人は當印刷部に來ると「態來、宜しい」大滿足であります

●當社營業部の特色●

▲レタヘッド▲レッテル▲キヤタログ▲名刺▲ビルヘッド▲外一切

高尚に**美術**的に仕上げます　兎に角ツライヤルに御注文下さい　**日、清、英**等の飜譯、電氣版等も請負いたします。御用命の節は電話なればチエルシイの六四七二、御手紙なれば第六街(三)八 THE JAPANESE TIMES 又は G. & A. PRINTING CO. にて御申越下さい

THE JAPANESE TIMES CO.
Address, 258 ... Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6473
Subscription Rates
One Copy $ .05
Six Months 1.00
One Year 2.00
Postage included
Saturday, March 22nd, 1913

Tornadoes and Floods in the Western States

Japan's Premier and the Seiyukai

The Manifesto and the Policies of the New Party led by Prince Katsura

In our earlier issue we ... Prince Katsura's ... formation of a new Party. On February ... the Prince issued the manifesto of the new Party ...

Consul Numano

Miss Ruth St. Denis and ... of Women of Old Japan

PASSENGERS ON BOARD THE "Tenyo Maru" Celebrate President Wilson's Inauguration Dr. Takamine's Speech

紐育新報

共濟會に對する吾人の希望

[illegible]

歐州の新しい女

[illegible]

●故國の政界

[illegible]

寸鐵

[illegible]

●[illegible]人モーガン氏逝く

[illegible]

……して英國にて七千五百万弗はモールガン會社の……自身の配當分なり、氏の父君死……一千七百万弗を三人の遺族に……會社の實……の損失ありき……

[illegible]

●支那の議員選擧終了 支那共和國上下兩院議員の選擧は此程終了し第一議會は四月八日を以て開催せらる……

[illegible]

▲義捐金募集▼

米國中西部に起りし今回の大被害は實に人生の歴史ありて以來未曾有の一大悲慘事として苟にも相互仁愛の義を解するもの、座視するに忍びざる所也、依て吾社は在留同胞諸君より汎く義捐金を募集し以て過去に於ける米國人の高誼に酬ゆる所あらんとす、大方の諸士は揮つて應分の寄與あらん事を

紐育新報社

●騷擾事件賠[illegible]決定

一月十[illegible]大騷擾事件[illegible]

●上院握り潰す

[illegible]

●御容體益良好

[illegible]

●日清米三國協約

（以下二十七日發電）

米[illegible]兩國政府は[illegible]

●堀宮補の昇進

[illegible]

トルコの屈服

[illegible]

東京電報

▲廿六日東京發

營業兩稅の減額

[illegible]

●移民問題答辨

[illegible]

●明治記念節過通

[illegible]

●帝國議會閉院式

[illegible]

●飛行家慘死

[illegible]

●山本首相の言明

[illegible]

●陸海軍大臣は現役大中將に限れる

[illegible]

人材登用

[illegible]

寄附者人名

賞弟と殺す

●日本人学生…

●マン…氏の責任…

●邦字入英文…

●樂友會の第一回…

夏場玉屋うり度し

●十…法案の…

樂友會…演奏

大…入場券

東京特電

▲政府動彈演説

帝國議會報

▲客辨攻撃

◎日米間郵便

物發着表

繪畫雜感（其二）

木村生

僕の米國感

みな字

●新女新藏

●日本の資產家

●拔手入門●

市俄古日日新報

白眼臺より

懸 物

一昨ゐる十八日の夜は、春が人間に職を分配した時には嫌な日である。第一靴が重からアイスウオターが突入して來る。二三丁も足を運べば帽子の後ろ…

白眼臺の春

市俄古の新機運

●阿部領事の送別

本社印刷所の日英兩國活字と**各種附屬品**は凡て**新調**である上に**大小の機械**は熟練なる**日米人數名**に依つて運轉されてるからドンナ大きなものでも又小さいものでも早くて立派に出來る、精巧美麗な印刷物を安價で注文仕たい人は當印刷部に來ると應來、宜しい大滿足でありまず

●當社營業部の特色●

▲レターヘッド▲レツテル▲キヤタログ▲名刺▲ビルヘッド▲外一切**高尚**に**美術**的に仕上げなす、兎に角ツライヤーに御注文下さい**日**、**清**、**英**等の繙譯、電氣盤等も請負いたします、御用命の節は電話なればチエルシイの六四七二、御手紙なれば第六街（三八 THE JAPANESE TIMES 又は G. & A. PRINTING CO. にて御申込下さい

THE JAPANESE TIMES CO.

Address 238 5th Ave N. Y. C.

Phone Chelsea 6473

Subscription Rates

One Copy

Six Months

One Year

Postage included

Saturday, April 5th, 1913

Japan's Foreign Trade And Economic Condition During 1913

Presidential Election in China

THE BANK OF JAPAN

Dr. Jacoby on Japan and Western Ideals

Dr. W. H. Page-- New American Ambassador To London

Contributions of Atlantic City Japanese Society to the Ohio Flood Relief Fund

紐育新報

THE JAPANESE TIMES

猛省より得たる教訓

珍田大使と武富安

日本の食産家



排日法案と珍田大使の抗議

申込むと共に抗議

[illegible]

排日案と故國

[illegible]

屈辱の觀念

待遇

[illegible]

用萬圓

[illegible]

▲義捐金募集▼

米國中西部に起りし今回の大被害は實に人生の歴史ありて以來未曾有の一大悲慘事にして苟くも相互仁愛の義を解するもの、座視するに忍びざる所也、依て吾社は在留同胞諸君より汎く義捐金を募集し以て過去に於ける米國人の高義に酬ゆる所あらんとす　大方の諸士は挿つて應分の寄與あらん事を

大陸各銀行分取扱所

紐育新報社

[illegible]

共濟會春期大會

夏場下屋ゆれ度し

●下宿讓渡

●菊池對金親事件

●大博參加決定

東京電報

閣僚辭退發表

文行文官任用令相當の改正を施さん

飛行家へ同情

陸軍二個師團の減税

大博と日本

山本首相の答辯演説

鐵道の現在及將來

陸海軍大臣は現役大中將を以て

日米間郵便物發着表

三月二十九日 ●	三月三十一日 ●
四月 一日 ◯	二十八日 △
五日 ●	四月 七日 ●

続 書窓雑感 其二

赤 羽 生

……

●渡米日記の数頁

末 廣 生

……

「何もさうも仕方がないでせうね」と笑顔……私を顧みた……「むだだね、仕様がないよ」……

……彼等の役目だ、さうして彼等……言ひ換へていへば、クク……な国なるアメリカの政府と、あ……本の文學界とが……

……先生と好一對の……▲何等……を飾るの……精神的打撃の……性となる……日本人をノレームするは甚酷に失する……近頃日本人集会所の……腐敗は其極度に達している「マア好い……」と放任している間にパチルス……の繁殖し終には救済し能はざるの結果を來たすを想はざるべからず……▲發賣禁止になつたバクッ……者が再び文學から賣出れた其……新報紙上の廣告にある如しだ……一般素讀の士は同書は……極る……を以て一貫されいる如く……なる謬見で……

紐育新報

●白眼堂より

▼投込▲

本社印刷所の日英兩國活字と**各種附屬品**は凡て**新調**である上に**大小の機械**は熟練なる**日米人數名**に依つて運轉されてるからドンナ大きなものでも又小さいものでも早くて立派に出來る、精巧美麗な印刷物で安價で注文仕たい人は當印刷部に來ると一應來、宜しい大満足であります

●當社營業部の特色●

▲レタヘッド▲レッテル▲キヤタログ▲名刺▲ビルヘッド▲外一切**高尚**に**美術**的に仕上げます。兎に角ソサイヤルに御注文下さい**日**、**清**、**英**等の飜譯、電氣盤等も請負いたします、御用命の節は電話なればチエルシイの六四七二で御手紙なれば第六街二二二八 THE JAPANESE TIMES 又は C. & A. PRINTING CO. にて御申越下さい

THE JAPANESE TIMES
Address 2?5 ?th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 6377
[illegible]
Saturday, April 12th, 1913

RECOGNITION OF CHINA

[illegible]

Speech of Japan's Premier in the Diet

[illegible]

Opening Of The Chinese Parliament

[illegible]

Kiaumont Church Calls On Secretary Bryan

[illegible]

Anti-Alien Land Bill in the California Legislature

[illegible]

THE YOKOHAMA SPECIE BANK

[illegible]

JAPANESE MINISTER AT PEKING MR. IJUIN RECALLED

[illegible]

紐育新報

日米問題解決策

吾輩は記者である

寸鐵

日本の資産家

●抗議と要求

[illegible]

▲義捐金募集▼

米國中西部に起りし今回の大被害は實に人生の歴史ありて以來未曾有の一大悲慘事として荷くも相互仁愛の義を解するもの、座視するに忍びざる所也　依て吾社は在留同胞諸君より汎く義捐金を募り以て過去に於ける米國人の高義に酬ゆる所あらんとす　大方の諸士は挙つて應分の寄與あらん事を

紐育新報社

●排日案と大統領

[illegible]

●宋教仁遭難後

[illegible]

●御禮廣告

[illegible]

竹中エバ
同松太郎
遺族一同

英語教授

[illegible]

ドクタ
村瀬九郎

The Yokohama Specie Bank, Ltd.

本店　横濱
預金

横濱正金銀行紐育出張所

本邦送金は無手數料にて精々御便宜に取扱可申候

▲寫眞助手及勸誘員募集▼

堀　寫眞

御料理御宿
高木との

▲生命保險▼

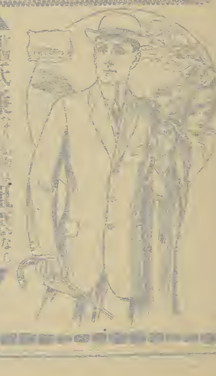
特別代理人
早川保次郎

✚診察時間

高見豊彦

疑●惑●は●御●無●用

▲低廉なる價格にて粗惡なし▼



坂野洋服調進所

排日土地案の可決

[illegible]

●吉峯博士無事着　…着時事新報…は二月十八日…横濱には…大谷嘉兵衛氏等…数十名の盛…一旦グランドホテル…にて入京し…櫻井博士…成瀬仁藏氏…諸名士の歡迎を…

夏場玉屋うり度し

…有望なる場所、玉…類一切附…價格、家賃等に就ては新報社内…部に御問合せあれ度し

●土地案と日本協會　東京なる國會…支部評議員會長より土地案の否…動を求むる電報あり、國會々員サ…ドセー、ラッセル氏は極力盡力し…ある旨返電したりと

●吉野盛衛事夫妻の無事着　同氏…無事着…の出迎を受…

共濟會春期大會

四月十九日（土曜）午后七時半開會
ノーネギーホール、チャンバー、オブ、ミュージック（東五十七丁目第七街角）
入場無料
會員及友人諸君の御來會を乞ふ
紐育日本人共濟會

日本人入用

…屋に經驗ある日本人一名入用…高給を支拂ふ、希望者は本社へ

紐育の同胞に激す

…州の土地案は…重大の關係あるのみならず…地案が同州上院を通過し…議が無効に終るが如き事あらんか…日東帝國の威信は…に墜ち…

日米週報社
新育新報社

寄附者人名

中部大學…青森縣人會…

●取合…







東京電報

排日案と輿論の沸騰

外務省の意嚮

國民黨常議員決議

臨時集會

陳伯其他の意見

日米間郵便物發着表

絵画雑感

日本政變と露紙

技手入用

市俄古週報新報

●白眼竈より

四月十二日 桑港

……加州に於ては日本……條約に……

●市俄古の……

●近藤夫人安着

●藤井茂氏南加行

●市俄古日本人美以教會大演說會

●北米中部……

●島津紳氏の招待

●青年會文學會

●野球消息

●南滿……

本社印刷所の日英兩國活字と**各種附屬品**は凡て**新調**である上に**大小の機械**は熟練なる**日米人數名**に依つて運轉されてるからドンナ大きなものでも又小さいものでも早くて立派に出來る、精巧美麗な印刷物を安價で注文仕たい人は當印刷部に來ると「應來、宜しい」大滿足であります

●當社營業部の特色●

▲レタヘッド▲ジヤアナル▲キヤタログ▲名刺▲ビルヘッド▲外一切

高尚に**美術**的に仕上げます、兎に角ツライヤルに御注文下さい

日、清、英等の飜譯、電氣盤等も請負いたします、御用命の節は電話ならばチエルレイの六四七二、御手紙なれば第六街二三八 THE JAPANESE TIMES 又は E & A PRINTING CO. にて御申越下さい

THE JAPANESE TIMES

Saturday, April 19th, 1913

California Alien Land Bill

Main Issues Involved in Japan's Recent Political Agitation--- Present Cabinet's Attitude

Dr. Nagao Ariga as Legislative Adviser to China

Japan-Latin-America Exhibition

THE CHINA TRADE

TOKYO EXHIBITION

The Chinese in Russian Territory

Baron Shibusawa to President Russell of Japan Society

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

日米問題解決策

（承前）

[illegible]

実點に立って…

[illegible]

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES …
[illegible]
Entered at N. Y. Post Office as second-class matter …

日本經濟界



寸鐵

[illegible]

日本の資産家

五十万圓以上

[illegible]

加州絵か危殆

[illegible]

大統領の直接抗議

[illegible]

排日案と諸新聞の意見

[illegible]

諸名家の意見

[illegible]

總領事任命

●日本人入用

夏場玉屋より渡し

●大演說會

共濟職業周旋部

獨立新營

森壽代治

排日案と故國

演說會の盛況

國技館の辯士

高橋博士意見

永遠に解決すべき問題

諸名士の時局論

內田前外相

博士夫人廣重雄氏

加奈太及び南米

都築男

太平洋會起つ

●演說會

歸國憤慨

●對米外交の答辯

●中野氏の奔走

三井物産會社横濱正金銀行高田商會

●各新聞社に交涉

●慰問使渡米

●米國記者訪問

○日米間郵便物發着表

母國訪問團に付て山本秀造氏に答ふ

悲惨なる歐洲の同胞

高等技手入用

平和と戰爭

新日銀總裁

歯科

伊東田清吉

診察

小春錄郎

貸室

[illegible]新報

●[illegible]人の自由

[illegible]

▼投込▲▲

[illegible]

●故國近信

▲首相の答辨書

[illegible]

THE JAPANESE TIMES

THE JAPANESE TIMES CO.
address 236 ... Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 8473

Subscription Rates

One Copy
Six Months 1.00
One Year 2.00

Postage included

Saturday, April 26th, 1913

The Japanese Question in California

Japan and The United States

Move by President Wilson to modify California Anti-Japanese Land Bill

Leading Items on the Japanese Question in California

Japanese Farmers and Tillers of the Soil in California

Mutual Aid Society of Japanese Residents in New York

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

THE JAPANESE TIMES

日米問題解決策

寸鐵

日本の資産家

加州に於ける土地法案は日本の國威に關する問題也

形勢愈々險惡

生れて居る米國

東南部の排日論者

條約改正 現行條約破棄す

エ博士の同情

駐日米國大使新任

家永博士の大演說

●國民大演說會の光景

●夏場玉屋より度し

●在留民大會之決議文

●日米同志への返電

「貴電幷見時局問題に對し熱誠に盡力中」

●興論は喜ぶ変相

牛ぞ

[illegible]

▲霞ヶ関の憂慮

交換条件

要求・事業港學童

問題當時の布・物

禁止如

[illegible]

▲牧野外相演説

[illegible]

▲山本首相意見

[illegible]

●地方官大更迭

[illegible]

●平沼専蔵氏死去

[illegible]

○日本間郵便物發着表

[illegible]

母國訪問團に付て山本秀造氏に答ふ

技手入用

加州問題

稀有の大金剛石發見

抵當に白骨

診察

小倉篤郎

歯科

日本雑貨並にリンネル類

森村ブラザース

MORIMURA BROTHERS

546-8 Broadway N. Y. City

Phone: 8810 Spring

日本御料理

原徳館

支那料理

御貸間案

ドンブキ

小島實

日人事務所

玉突場

遠東茶園

豆腐屋

英語教授

支那料理

萬雲里酒樓

御下宿 中川

日本人職業周旋所

西谷高等旅館

紐育新報

●白眼鏡の觀測

●日本人基督教會 常川獎學金

●日本人入用

東京電報

交換條件

交換條件

The Japanese Times Co.
Address, 298 5th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 5475
Saturday, May 3rd 1913

President Yuan Shih Kai and Nationalist Party

Meeting of Japan Society

China Loan at Last Signed

Letter of Dr. Griffis on Naturalization of Japanese

Japanese Budget for 1913 - 14

Mongolian Declaration of War

Meeting of Japanese Residents to discuss California Situation

紐育新報

加州に於ける土地法案は日本の國威に關する問題也

南新聞社に與ふ



●排日案通過

●排斥日案の通過

●排牛島案の通過

●珍田大使

●日本人は百弗か

謹告

菊池東陽

独立経営

共済職業周旋部

森喜代治

土地所有權と國際法を論ず

下女化と兄位

米國と日本人

加州問題

[illegible]

商況

[illegible]

▼投込▲

[illegible]

奇妙の裁判

[illegible]

夏場玉屋うり度し

[illegible]

日本人入用

[illegible]

正式抗議提出

[illegible]

珍田大使 排日土地案に對し抗議

内閣會議 確答

[illegible]

天洋丸出帆日 繰上げ

[illegible]

●上院の態度

●土地案通過と日本

日本人の特色たる自制自重の觀念で發揮

●吾政府の態度

●大會の打電

●添田博士等も渡米

●慰問委員送別會

●添田氏の使命

●歸化權は輿論

●慰問使の出發

●日米間郵便物發着表

THE JAPANESE TIMES CO.
Address 235 5th Ave N. Y. C.
Phone Chelsea 5473
Subscription Rate
One Copy
Six Months 1.00
One Year 2.00
Saturday, May 10th, 1913

California Legislature

[illegible]

China Recognized By the United States

[illegible]

Japans Formal Protest Presented to Bryan by Ambassador in Person

[illegible]

Text of the California Land Act

[illegible]

Import of Raw Silk and Silk Industry in America

By a Member of Arai & Co.

[illegible]

紐育新報

THE JAPANESE TIMES

●項門の一針

▲排日問題の研究

●…博士の…

●寸鐵

⊙陛下御良好

十八、二十一

⊙民國の風雲

●山本内閣反對の外

●英國の排日感

米排日 親

人種問題

西諸國

全体を敵とするの

血族的密接なる

全然愚計

● 放言

本邦を擊退するに

● 家屋貸度し

東京電報

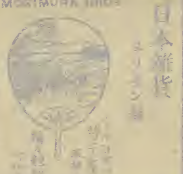
● 五老會議

▼ 御挨拶廣告 ▲

岡野正

日本雜貨 おろし賣

瀧藤小川商店



武市岡野
自由亭
S. OKANO

+ 診察
小春銀郎

● 商賣有玉突
場
御下宿 中川

遠東茶園



無比廉價販賣

MOGI, MOMONOI & CO.





夏場向新荷着廣告

陶磁器、玩具、アンチモニー製品、爆竹籠類、造花、手拭地、其他製品種々

取揃へ居り候間倍舊御愛顧の程希願上候

紐育市
バークレー街十一番
茂木桃井組





寄宿舎

ミッション

■ 日本雜貨 卸小賣

■ 法律顧問
民事刑事訴訟
辯護士

● 御貸間案

中韓寶

夏場向新荷着
日本ペン商會

西村高等旅館

理髮學校

CLOUDS OF CHINA

SUNG'S SLAYER SLAIN

Supposed Murderer Killed By Poison in a Cell at the Mixed Court

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

加州に於ける土地法案は日本の國威に關する問題也

珍田大使に與ふる書



●日米問題

●戰爭無し

武藤安太郎

●人種問題なり

●大學總長全部更迭

●母國訪問團員募集

▲出發九月下旬 ▲歸米十二月下旬

▲往復一切の費用二百七十五弗也

●團員の特點

▲徵兵猶豫中

▽注意へ

林富平

共濟會職業周旋部

獨立經營

森孝代治

奇妙の裁判

夏場玉屋うり度し

●北村福松

北村福松

北村ヒサ
北村萬吉
竹田久吉

移轉!!

村瀬九郎
岡田満

秦光重

寄宿舍



無比廉價販賣

MOGI, MOMONOI & CO.



△夏場向新荷
取揃
多治見商會

▲營業廣告

即御
理髪
湖子舍

自由亭

日本雑貨賣

東京館

理髪學校





夏場向新荷着廣告

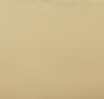
陶器、玩具、アンチモニー製品、煤竹籠類、造花、手拭地、其他製品種々

取揃へ居り候間舊倍御愛顧の程
希願上候

紐育市
パークレー街十一番

茂木桃井組





東京電報

加奈太移民制限

大相撲入り替り

排日案と故國名家の意見

日米間郵便物發着表

寄書

加州問題

官學特權廢止案

紐育新報

佛蘭西

加州知事返電

日本人の不動産所有權を規定する事なし吾州の權内に屬す ことを爲す者也、

白眼録より

本社印刷所の日英兩國活字と各種附屬品は見て新調である上に大小の機械は熟練なる日米人數名に依つて運轉されてるからドンナ大きなものでも又小さいものでも早くて立派に出來る、精巧美麗な印刷物を安價で注文仕たい人は當印刷部に來ると「應來、宜しい」大滿足であります

●當社營業部の特色●

▲レタヘッド▲レッテル▲キヤタログ▲名刺▲ビルヘッド▲外一切

高尚に美術的に仕上げます　兎に角ツライヤルに御注文下さい

日、清、英等の飜譯、電氣版等も請負いたします、御用命の節は電話なればチエルシイの六四七三、御手紙なれば第六街二三八　THE JAPANESE TIMES　又は　C. & A. PRINTING CO.　にて御申越下さい

THE JAPANESE TIMES

THE JAPANESE TIMES CO.
Kenzo Kai, Publisher
Address, 232 4th Ave., N. Y. C.
Phone Chelsea 6473

Subscription Rates
One Copy
Six Months 1.00
One Year 2.00

Saturday May 17th 1913

Dr. MOTT'S PROPOSAL

President Wilson's Last Appeal to Governor Johnson and the Governor's Reply

Secret Agreement with Russia Concerning Mongolia said to have Been Signed

Pioneer Work of A Japanese Woman in Mongolia—Mrs. Ichinomiya's Mission

NO. 9[illegible] VOL. 3　　THE JAPANESE TIMES　　SATURDAY, MAY [illegible]

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi K[illegible], Editor & Pub
23[illegible] Sixth Av., N. Y. City
Tel. [illegible] Chelsea
Subscription Rates
5c a copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N. Y. Post Office
as second class matter under
act of [illegible] 1879

紐育新報定價（前金郵稅共）
一部金五仙　六ヶ月分一弗
一ヶ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政[illegible]認可
發行兼編輯人　[illegible]健一
[illegible]
紐育市第六街二三[illegible]
電話チェルシイ[illegible]七三

○排日法の通過と時局の將來

現下日米間に存在する條約の明文[illegible]塗[illegible]に血路を一方に開きたるウェッブ法は遂に加州に於ける兩院協議會を通過し、今や知事ジョンソン氏の署名を俟て完全に立法の形式を具備するに至らんとす。然れ共其依然として排日を目的とし、日米條約の精神並に明文に背馳する非立憲の法律なることは、如何に强辯を逞ふするも到底蔽ひ盡し得べきにあらざるは識者の夙に道破する所也、ウェッブ法第一條に曰く「合衆國の法律に依りて市民となり得る特權を有する外國人は市民と均等に州内に於て土地の所有、賣買、併に之に關する總ての權利を享有す」と、是れ明かに加州高等法院の判決例に依りて歸化權を有せざる外國人として認定せられたる日本人が、新法の惠澤に[illegible]得ざることを規定せるものにして同一の結果を奏すべきにあらずや、若し米國政府にして日米通商條約第十四條を正當に解釋せば日本人の權利及び特典保護の契約履行を阻害する偏頗沒理の法律たることを發見するに苦しまざるべき也、[illegible]二條に[illegible]は「前條に規定せられざる外國人は其本國と合衆國との間に締結せられたる條約に規定せる範圍内に於て土地の所有、賣買其他之に關する一切の權利を享有す」とあるは現存する條約の精神と明文とを自家の欲するが儘に曲解して、條約中日本人に對して一般的に土地所有を許與するの明確なる成文なきを奇貨とし、以て此第二條を規定せば日米條約に抵觸すとの攻擊論難を免るゝを得んとの猾手段に外ならず、然れ共既に條約の明文に依りて英佛獨伊の列國々民と均等の待遇、特典並に權利の保障を要求し得べき吾人は、如斯州法の制定を以て飽迄條約上の權利を侵害せられたるものなりと主張するを當然なりとすべし

前國法第二條の末項に於て農業の目的を以て土地を貸借せんとする場合には其期限は三ヶ年を超るを許す[illegible]と規定せるが如き、是れ亦條約第一條の明文を蔑視せるものなり、今後に於ける在留日本人は僅々三ヶ年の契約の下に誰か安じて農業の經營に從事し得べけんや、況んや三ヶ年後、更に新契約を締結せんと欲せば他人の名義を用ゆるにあらざれば恐くは同法違反の故を以て契約の無效を宣告せらるべき疑点あるに於てをや、其他歸化權なき若くは條約に依りて土地所有權を有せざる外國人（即ち邦人）より其現在所有する土地の相續權を剝奪せるが如き、ウェッブ法制定の目的の那邊に存するやを推知すべきのみ、所謂「ピーナッツ、ポリテシャン」を以て代表せられたる加州々會加州民多數の利益と日米國交の大局とを省慮せず、漫然邦人の發展を以て州民の不利益なりと誣ゐ以て如斯排日的法律を制定勵行せんとするに對しては、吾人は斷乎たる覺悟を以て之が根本的解決を期待せざるべからず、一時の彌縫糊塗の小策は決して永久に日米の親善を企圖し太平洋の和平を維持する所以の道にあらざる也、而かも知事ジョンソン氏が本月十四日を以て國務卿に致せる返電が、縷々ウェッブ法の排日を目的とせざるを辯疏しつゝ一面華盛頓聯邦議會を通過してタフト大統領の否認する所となれる、彼のデリングハム移民法の明文に論及して中央政府に肉迫せるは、畢竟遺憾なく彼自身が排日黨の巨魁たる馬脚を曝露せるものにあらずや、遮莫吾人は煽動的政客の一標本として、「モッブ、サイコロジイ」に盲從するを以て能事とするジョンソン氏の如きを對手として無益の論爭を繼續すべきにあらず何となれば排日の問題は既に地方的政略的性質より變じて、國家的、論理的問題となれるものなればなり、想ふに世界列强の間に於げる日本外交の眞價は、客觀的には、排日問題の解決如何に依りて評定せらるゝに至るべき必然の傾向を示するものと謂ふべく、吾人が優柔なる故國當路者を鞭撻督勵して强硬なる抗議と峻嚴なる要求との持續を提唱するは、實に此点に顧みる所あるを以て也

蓋し排日法の通過に對する維爾遜内閣の意中は容易に忖度し得べからず、曩に排日案成立の形勢切迫せるに際しては武雷安氏を特派して陽に其通過を防遏せんとするの態度を示したりと雖、武雷安氏がサクラメントに滯在中、加州檢事總長ウェッブ氏の手に依りて發表せられたる新法の起草に關しては、別に反對の意見を公にせず、寧ろ其議案の提出を默認せるもの、如し、世間或は聯邦政府が加州知事及び州會に對して條約の明文に違反するの非難を蒙らざるべき程度に於て排日の目的を達するの方法を案出せん事を慫慂し、以て州權尊重の意を灰かすと共に立法の責任を轉嫁せんとするの[illegible]たるの形跡あるを指摘するもの[illegible]、故に吾人は故國の當路者にして全然維爾遜内閣の「公正」と「好意」とに依頼して排日問題を解決せん事を冀望せば、外交上意外の失敗を招致すべきを豫言するに躊躇せず

吾人は未だ珍田大使の提出せる抗議の内容と之に對する維爾遜内閣の答辯とを閲讀せざるを以て、時局の將來が如何なる方面に推移すべきやを速斷し得ざれ雖、若し米國政府の答辯が、道路傳ふるが如く加州々會の措置を回護して日米條約違反にあらずと强辯し、正面より日本の主張を「イグノアー」するの態度に出でたりとせん乎、吾人は宜敷正に當路者をして

第一　米國に對して條約の精神並に明文に背馳せるを再說して其反省を求むると共に其責任の所在を問ひ

第二　ウェッブ法の條約違反なるや否やに關せず、歸化法改正の當然なるを提議して其言質を得るに努めしめ

第三　外交上の手段として[illegible]國と合縱連衡して[illegible]得ずんば日米條約を破棄するの決意を示し

第四　米國政府にして[illegible]適當の[illegible]なくして條約違反を敢てするに於ては日本は移民制限に關する紳士の契約履行の責任に任ぜざることを通告すべし

如上は單に日米外交談判の範圍に過ぎず、彼の巴奈馬大博覧會に對する參加を中止し、若くは加州人に對して特種の[illegible]法を[illegible]議會に提出するが如き、或は東洋汽船會社に命令して[illegible]を[illegible]するが如きは時局の推移に依りて更に考慮せらるべき問題たるべきを失はざるべき也

白眼臺より（承前）

鄙仙

如斯支那が發展の機運に乘じて内政を根本に改革し、產業に武備に[illegible]たなる[illegible]につかば、吾人の[illegible]州政策は谷々窮迫[illegible]を來して發展の途を[illegible]るゝに至るべし、恰も加州の地に於て日本人が排斥せらるゝ如く滿州の地に於て日本人が排斥せらるゝの時期無之と云ふを得ず

現在我國の立場よりすこして滿州政策に力を注ぎ吾人の地盤を固むるは誠に當然の事にして何人も異論なしと稱せらる、而して現在に於て我國の政治的及び產業的勢力が滿州に於て最優勢なるは明白なる事實也、然れ共若し支那共和國の將來か我國の滿州政策に强大なる壓迫を與へなば或は吾人の大陸的發展の運命は假令現在に於ては全然何等の障害なくも、[illegible]めて容易に迅速に開拓せられつゝあるが如きも[illegible]は要するに一時的現象に過ぎざる也、今日單に滿州の利權にのみ[illegible]して國家百年の大計を忘れば今より五十年を出でずして島人は永久に島人たらざる可らざるの運命に遭遇するやも難料也

年々五十万以上の過超人口を有する我國は今より五十年にして約二千万の人口[illegible]、而一、斯る多數の人口に對して吾人は何處に食料品を求め、何處に住宅を求め、何處に職業を求め、彼等の生命を維持し得べきや、既に今日に於てすら、吾人の主食品たる米穀の不足を告げて[illegible]して勞働者の購買力は次第に減少の傾向を呈しつゝあるにあらずや、もし此狀態に於て人口九千万に達したる五十年後の我國は如何なる狀態に陥るならんか、これ吾人が[illegible]して安閑として看過すべき問題にあらず、又遠きに起る問題にあらず[illegible]直ちに解決せざる可らざる國家の大問題なり

吾人近時の傾向を見るに、米作者自身すら外國產の米穀によりて一家を支ふるの必要に迫まれり、或は云はん米作者は高價なる内國米を輸出して廉價なる外國米を其食料に供するなりと、說[illegible]一理なきにあらざれども米穀輸出の狀況を一見せば吾人は斯種の說に對して多くの注意を拂ふを得ず、もし五十年を經過せば日本は米作地として經濟上極めて不利益の地位に立つべきは近來の傾向に照して[illegible]むも可らざる事也、内國產の米が其產額の十分一以上輸出せらるゝの希望なければども、大農式の諸外國に於ける米作は益盛大を來し將來内國米をして競爭の餘地なからしむるや[illegible]難圖也、而して米作者に對する保護政策は我國の商工業者が次第に議會に勢力を加へつゝある現在多くの希望を許するを得ず、或は他日商工業派の勢力が議會の多數を制して全然米作者を壓迫して輸入米を歡迎して一般勞働者の購買力の餘裕を資する事もやあらん、果して然りとせば約千八百万の米作者の運命は誠に險惡なり

一般の勞働者に對して海外の天地が必要なる如く日本の農民中米作を以て累代の生命とせる者に對して又同樣に必要なりと云ふべし、如此我國の現在に照して將來の大勢を察せば吾人が滿州以外に於て我國の超過人口を移し、訓練なき普通の勞働者や將に急迫を受んしつゝある米作者に對して衣食住の道を講て彼等の發展に備ふ可は今日の急務怠慢す可らざる國民的大要求なり

（未完）



夜の市にて

月女

[illegible]の下闇[illegible]しるをあざむく螢火も[illegible]れにはくゝもしさこ[illegible]し[illegible]と五月雨の降る夜の新句の燈火にしばした[illegible]すむ[illegible]の夜の巷のさゝやし人はさながら己が戀に[illegible]サブウェイの出口に[illegible]

（寸鐵）

▲排日　法案通過後の米國[illegible]其色彩を[illegible]したるに[illegible]戰爭と云爲するの[illegible]紛々たるも[illegible]

▲自家　の[illegible]するかに[illegible]せしめ[illegible]し筆尖を以て世間を[illegible]

▲平生　自由平等を口にし博愛公[illegible]を筆にする彼等が文明の眞價[illegible]べきのみ霞關の迷夢を[illegible]

▲日本　の抗議に對して維爾遜内閣は如何の美辭麗句を列ねんとする[illegible]時局の將來は彼等が答辯如何に依る

▲吾人　は正々堂々として[illegible]條約違反を責むると同時に[illegible]たる者は亦爾に歸るを以てすべき[illegible]

▲彼等　にして若し權力即正義なり黃金則最善なりとの世界觀を抱かば是れ實に大なる誤謬なり[illegible]

▲物質　的文明の皮相の[illegible]トに[illegible]して以て得たりとするもの[illegible]以て精神的文明の進步を自白[illegible]

▲新興　國民たる吾人は高遠なる[illegible]想と雄大なる抱負とを而して[illegible]技倆とを有す嗚呼米人何かあらんや

▲白人　を以て文明の專賣特許[illegible]有するが如くに說きたる時代は[illegible]歷史上の事實となり了せり[illegible]

▲若夫　時代の思潮を察せず[illegible]を排斥し侮蔑するが如き[illegible]人自ら攘夷鎖國の政策を復活せんとする[illegible]

▲紐育　邦人の公共團体として[illegible]人會の設立を唱ふる者[illegible]を加へんとす議論は無益實行[illegible]

▲理窟　として日本人會創立の必要は問題にあらず[illegible]如何にして有力なる團体を編成すべき乎が[illegible]

▲共濟　會の事務所を[illegible]に置くが如き問題の爲めに[illegible]つて議論する輩と到底[illegible]は不出來

▲偏狹　なる島國的根性の弱点を暴露する邦人が幾千の多きに達する[illegible]日本人會の難有味を感ずることなき[illegible]

▲議論　を爲さむが爲めにのみ[illegible]を爲し平素虛心平氣となるの修養なき連中を會員として[illegible]

●加州知事署名と日本

（廿一日東京發電）加州知事が排日土地案に署名せりとの報導に對し全國民の激昂甚だしく、其程度は學童問題當時以上なるを以て政府は目下全力を注いで之が鎭靜に努めつゝあるも事態頗る困難なり

日本人排斥は人種問題なりとの觀念は一般に增加しつゝありて連年續發する加州議會の排日案を防止すべく何等かの方法を講ぜざる可らずとは之亦一般の輿論なるが時局に關し著名なる某高等官は語りて曰く

日本人は今回の事件が**國家の名譽に關する**重大問題なりと感ぜざる能はず、現下の問題は平和に解決するを得可きも日米國交の親善を永久に持續するが爲の切要なる手段は一部米人の日本に對する感情を一變せしむるに在り云々

●渡米實業團の集會（十九日東京發電）一千九百九年に渡米したる全國實業團の一行は本日京都に於て大集會を催ふし、排日問題に關し討議を盡し米國實業家と提携して圓滿なる事局の解決を爲す可く決議し其方法として歸化權の獲得と條約の改訂は最も必要なる條件なりとせり、全國の新聞紙は加州知事ジョンソン氏の大統領に對する答書を攻擊して餘力を剩さず、ジョンソン氏は國法の下に隱れて自己の責任を轉嫁せんと試むるものなりと論ぜり

●江原服部兩代議士の着桑

排日問題の實情研究として政友、國民兩黨より派遣されたる江原素六服部綾雄兩代議士は去十九日コレヤ號にて桑港に着せり、今兩氏の談として同地發電の傳ふる所を記さんに

江原代議士は曰く

予は日本の多數黨たる政友會を代表し日米國交の親善を畫せんが爲めに來れり、予は加州問題に關し自己の意見を發表する以前先づ加州に於ける吾同胞の狀態並に事態の眞相を研究せんと欲す、日本國民は在加州同胞に同情し、平和に此問題を解決すべく努めつゝあり云々

服部代議士は曰く

予は國民黨の代表者として來れり日米條約は不完全なるか故に予は其改訂を希望す、土地法案に關しては予は日本人の歸化權獲得を切要とするものにして斯は全國民の輿論なり而かも如何にして之を得べきかは未定の問題なり云々

●加州知事の署名と米國の應答

▲加州知事の署名　久しく期待されたる排日土地案は去十九日加州知事ジョンソン氏の手によりて署名されたり

●米國日本の抗議に答ふ　ジョンソン氏署名の電報中央政府に達すると同時に大統領ウィルソン氏は國務卿武雷安氏と協商したる上珍田大使の來訪を請ひ、武氏は自ら日本政府の抗議に對する米國政府の應答書を朗讀して之を大使に手渡したり

右回答は珍田大使の手によりて直ちに東京政府に打電されたるが其內容は極めて秘密に付せられ居るを以て知り難きも左は應答書中の重要事項なる可しと信ぜらる

一　北米合衆國政府は加州土地案を以て一千九百十一年の日米條約に抵觸せざるものと認むる事

一　華府政府は土地法案の防止に關し出來得る限りの努力を爲したること

一　米國は日本人の待遇に何等差別的の意向を有せず、又日本の國威を毀損するが如き希望なき事

一　米國政體の組織上、土地に關する制法の權利は各州に存する事

一　米國政府は今回の事件を以て外交手段により解決す可き希望を有する事

▲土地案實施の期　知事の署名を經たる土地案は州會結了後三ヶ月の後實施せらる可きものにて八月十日は即ち其期日なりと

●加州大學總長の排日意見　加州大學總長ホイラー氏は去る二十日當港解纜のカイザー、ウイルヘルム號にて渡歐の途に向け出發の際土地案に對し新聞記者に語りて曰く、

排日土地案は正當なり　若し該法案にして通過せざりしならば加州は數年ならずして日本人の爲に占有せらるゝに至りしならん、頃日來の挑發的新聞記事は痛く世人に不安の念を抱かしめたれ雖此問題なれば深く憂ふるに足らず加州々會には煽動的政治家あらず、彼等は何れも眞面目なる州民の代表者なり云々

●時局と研究會　政府を信賴す

排日問題に對し貴族院有志は曩に各派の有志聯合して山本首相に會見し圓滿解決の希望を致したるも爾來同院側に於ては何等の行動に出でざるが就中同院の最有力團體たる研究會の態度に就き聞く處に依れば同會は各派と共に既に當局者に希望を致したることゆゑ此上は政府當局者を信賴して外交上機宜を失せざる樣最善の道を講ぜしむるを得策なりとし今後は其成行を注視し飽迄政府の後援者たらん事を期するにありと一領袖は語れり

●羅馬法の飜譯　帝國學士院の事業　末松顧問官の擔任

世界法律の淵源たる羅馬法は原文羅甸語を以て記述され其文章今人の容易に理解し能はざるものあり泰西の文物東漸せし以來我國にては法律、政治、經濟、宗教、教育、文學、天文、地理、歷史等大小の書籍大底は飜譯されしも獨り羅馬法に至りては原文の難解なる意味の高雅なる普通法學者の適當に飜譯する事を難ずる所なりしが帝國學士院にては此缺陷を補はんとて過般來博士諸大家中より飜譯者其人を選ばんとせしも今日迄適當の人を見出さゞりしが先頃此事業を末松樞密顧問官に懇囑する事に衆議一決したるより末松子爵も快諾し爾來羅甸文の原書に依りて晝夜兼行浩瀚なる羅馬法の飜譯に盡すいしつゝあり爲に同子爵は今春の花にも反きたりとて此程何須清々等閒歌、千古遺文蔫味多、點撿幾篇羅馬法、三春容易夢中過の一絕を得たりとて訪客に示したりと但し右の飜譯は今後尚數月を要すべく成功の上は大學は勿論各專門學校の教科書又は個人の參考書ともなるべしと云ふ

◎新渡戸博士復職運動　同博士は去月廿二日第一高等學校長を免ぜられ同時に文部省視學官瀨戸虎記氏其後任に任命されたるが多年同博士の薰陶を受け深く其人格を崇拜し居る同校千の學生は博士の辭任默視するに忍びずとて一大會合を催ふし委員を選んで文部當局者を訪問せしむる等校長復職運動を開始したり、此報を聞くや新渡戸博士は直ちに學生等を倫理講堂に招き其好意を謝したる上右運動を中止せんことを懇話したれば學生等も其意を諒とし解散したりと

●歸化權問題と米國　歸化權を獲得する事は日米問題を解決するに最も切要なりとは日本の學者政治家の一致する所なるが斯は畢竟日本側の說にとゞまり米國側より見れば事甚だ困難なる理由あり、華盛頓に於て一般に信ぜらるゝ所を記さんに、もし日本政府より斯かる要求ありたりと假定すればウヰルソンは現下の難局よりも更に一層困難なる地位に置かるゝ事となるべし、何となれば日本人に與ふるに他外人と同樣の待遇及自由を以てすべきは多數米國人の意見なるも歸化權を與ふる事に就ては上下兩院議員中に多數の反對論者あるが爲なりと

●大統領ウ氏排日議員を戒む　ミシソピー州選出議員シッソン氏は二週間前議會に於て激烈なる排日演說を試み頗る世人の注意を惹きたるが今回又もや議會に於て排日土地案に關する意見を發表すべしと豫告せし爲ウ氏は大ひに憂慮し此際米國議會の議員が輕操なる排日的演說を爲すは日本國民の誤解を招き延ひては時局をして益困難の位置に導くものなりとて直ちにシッソン氏を招きて懇談する所ありしがシッソン氏も且豫告し置きて何事も言はざるは甚だ不見識次第にはあり旁々不得要領の演說を爲す筈なりと廿一日の華府通信に見へたり

●朝鮮移民募集　總數千二百戶

本年九月末日迄に申込むべき第四回東拓朝鮮移民は今回東拓會社に於て甲乙兩種を通じ總數千二百戶を募集し之を京畿道の一府七郡忠清南道十三郡全羅北道五郡全羅南道十七郡慶尚北道十四郡慶尚南道一府二郡平安北道一府三郡咸鏡南道三郡江原道一郡即ち十一道五府八十一郡に亘り配住せしむる事に決定し之が募集方を夫々內地各府縣に移牒する所ありたるが從來の朝鮮移民は重に溫暖なる南部を望み北部朝鮮移住を希望するもの少なかりしも前同より漸時北部朝鮮にも移住せしむるの方針を執るに至れりと

▼市俄古便り▲

●市俄古大學日本人倶樂部に於ては前週水曜日同大學宗教社會學科長ヘンダーソン博士を招待して晩餐會を催した、同博士は先きに印度を經て滿韓清及び日本の國狀を親しく視察して四月初旬歸米せられたのであつたが歡迎會は同氏多忙の爲め延引せられた次第だ、當夜は在學同胞十五名以外阿部領事、山口秀太郎の諸氏出席せられ、主客肝膽相照らして談笑、食後同先生の演說があつた

●ヘンダーソン博士夫人は市俄古大學の同胞一同を自宅に招いで茶話會を催さるゝ由、追て日を撰んで樂しき一夕を過したいと

●市俄古大學商科笠井重次氏は本夏卒業の筈なるか過日討論會辨士に豫選せられ、日米問題に關して一大氣焔を吐いて時局の解決に後援せんと目下頻りに準備して居らる

●ワード、イン、シカゴの日本部に對する概況は既に報じて置いたか昨年有志者の間に數百弗の寄附金を募り、せめて一神殿を建設したいと二婦人は運動して居らるゝそふなや、市俄古大學の杉能雄氏は其間に立ちて種々周旋の勞を取つて居らる

●前週土曜日のチャンス、デーは恐ろしい盛んなもので州知事迄も出席し、殆んど州の歡迎會かの觀があつた、驚く勿れ觀衆四万人、自働車の數千五百臺、ベース、ボールも斯樣なつては驚くの外は無い

●昨年ノース、ウエスターン大學でマスター、オブ、アーツの學位を得られた棟方八郎氏は來月初旬當地出發歸朝の筈

●ヒラム、ジョンソン、ウオーター、ジョンソン、ジャキ、ジョンソンと云へば米國の三ジョンソンとして有名なものだ、然るに本年はブルモース、ジョンソンは排日で彌々名を高めウオター、ジョンソンはノーランド五十六回のレコードを作つた獨りジャキ先生のみは大弱りじや

●東京青山の秋穗女塾と云へば東都に於て最も評番のよい、清いホームであるか、其建設者である秋穗女史は塾の基本金の募集を兼ねて昨年來米國各地を巡行中であつたが、二週間前當市に見られた、前日曜の晩はレーキ街の基督教協會で事業に關して概略を語られたか會衆は速時に金貳拾五弗を募つて女史に送つたそふである

●加洲羅府で十數年間傳道して居らるゝ稻葉牧師及同夫人は先週年會出席の途次當地に立ち寄られ前日曜の晩はグローブランド街の青年會で說敎せられたと云ふ事

●宮坂隷造氏は過日市俄古街に一レストラントを買入れ目下苦心經營中

●永井剛の者　五尺に足らぬ小男なれど斗酒敢て辭せずと云ふ名物男前日曜の晩は何を感じたか青年會に暴れ込んで大醉狂をやつて、卅五丁の警察分署に引渡されたと云ふ事だ剛の者もこれには閉口したろう

●見逃し給ふなよ　オハイオ洲コロンビア町のフランクリンカウンテー銀行の破產當時金拾貳弗五拾仙同銀行に預金を有せし日本人大井原三四郎に向つて先日同行清算人より該預金額を市俄古領事館に送り付けし由なり、三四郎君何處にありや、領事館では切りに索し求めつゝあり

●清水宗次郎君のニューヨーク行　去る五日知己友人に送られてミシガン中央線にてニューヨークに向はる

●ニューヨーク大學日本學生同窓會　本月卅一日午后七時若松に於て卒業祝賀會を兼ね大懇親會を開催する筈なるが、同會員中宿所不明の人ありて一々通知するに困難なれば同大學に關係ありし人にて出席希望者は同校內幹事宮川節郎氏宛に申込まる可しと

●共濟會々費領收（本週火曜日締切）
金拾貳弗。關根五男兒　六弗宛　石川春水　高木たつを　千本木正治　五弗　高木舜三　四弗宛　新井田つる子　古谷竹之助　西村庄太郎　參弗宛　岡部又太郎　瀧吉太郎　曾根各吉　柳生磐吉　貳弗宛　有働勝彥　小野壯平　岡宮義一　岡宮弗み　壹弗宛　松島泰夫　水野德路　鈴木光次　犬塚順一　貳拾五仙宛　粕谷富太郎　橋爪源吾　宮本貫一　岡田三朗　青木嗣夫　小島要　榎本榮一　山口堅吉　奥代重厚　西郷豊二　梶原貞　岩山直介

大正二年五月廿日
會計　一宮鈴太郎

○今上陛下御不例（廿二日東京發電）

今上陛下には去十八日以來御風邪の氣味にて御加養中なりしか本日侍醫局より一般に告示されたる左の御容態書は痛く國民を驚惶せしめたり

今上天皇陛下には風邪の爲め御微恙中の處本日肺欣衝に變症し給へり目下の御容態は別に憂慮するに足らずと拜診し奉るも御熱高し

●米國大統領の御見舞電報　右御不例の報達するやウキルソン氏は直ちに叮重なる御見舞の電報を發したるか在東京なる米國代理公使よりは未だ何等の詳報達せずと

●日本の不滿足（廿二日東京發電）

米國の回答に接したる日本の朝野は甚だしく失望せり且米國政府か排日土地案の撤退に關し何等適當の手段を講ず可き事を表明せざりし點は外務當局者の殊更に失望せし所なり、牧野外相は本日珍田大使に向つて條約上の解釋に付き極力主張す可く命令したるか武雷安氏の提供したるレフワレンダムは其成功疑はしき爲歡迎せられざる模樣なり、歸化權要求は一般の輿論なるも日本政府の方針は未定なり

●牧野外相の言明　廿二日夜東京より桑港新世界に達せる電報に依れば外相は立憲同志會代表者安達、富田兩氏に對し左の如く語れりと

予は米國政府の回答を受取りたるも未だ公表する能はず、本事件を訴訟とす可きかに就ては兩國政府に於て目下熟慮中なり且歸化權問題に關しても同樣なり、時局は頗る困難なるか予は急速且圓滿なる解決に向つて珍田大使に命令を發せり云々

●華府政府の樂觀　日本不滿足の來電にも不拘大統領以下時局に關して頗る樂觀的なりと

●日本協會の催ほし　同會は昨日內外名士諸新聞記者等數百名を招待し一午餐を供したるが當日は前駐日大使たりしグリスコム、家永博士其他諸名士の時局に關する演說ありて非常の盛會なりき

●栗栖官補來着と齊藤副領事の招宴　布哇より轉任の同官補は去十九日着任したり依て齊藤副領事は同廿二日日本倶樂部に諸有志新聞記者等約四十名を招きて栗栖官補紹介の宴を張れり

●讀者へ注意　ニューヨーク市衛生局は今回市內の春期大掃除を行ふ筈にて一般の注意を公示したり、サブウヱー、サイドウオクに唾し、又は新聞紙其他を規定の場所以外に棄てるやうの事を爲す可らず、又旅館、圖體等多數人の集まる場所にるは殊に注意して不潔物の始末に無遺憾樣せざれば罰金を申付かる可し

●柴田悠四郎氏の歸朝　在亞市の同氏は病患の爲め歸朝療養の事に決し十六日桑港出帆の天洋丸にて橫濱に向け出發せられたり

●社告　本社印刷部員に欠員を生せし爲目下日本より呼寄手續中の專門家到着迄乍遺憾本紙を四頁大となすの止むなきに至れり、讀者の寬容を祈る

故北村福松　葬儀の際は御懇切なる御弔意を賜はり且つ遠路態々御會葬被下御芳志の段難有感謝の至りに御座候、一々拜趨御禮可申上の處混雜中御尊名伺ひ洩れも可有之と存じ乍略儀以紙上御厚禮申述候

妻　北村ヒサ
男　北村萬吉
友人總代　竹田久吉










California Legislation and Race Prejudice

The development of events in connection with the Japanese-California question shows that it is drifting to the point apprehended by President Wilson and other far-sighted statesmen. A local affair of no great importance is in danger of being raised to the dignity of a world problem, which in its magnitude is out of all proportion to the material and economic interests involved in the case. This, however, would be, if let alone, the logical consequence of the step which the California Legislature and its Governor here, in defiance to the representations of President Wilson, elected themselves to take.

Even a cursory review of the California situation with regard to the Japanese land ownership reveals that the material interests at stake are insignificant. The number of Japanese residents in the Golden State forms only 2.32 of the entire population, and, furthermore, the former shows a constant tendency to decrease. The lands owned by the Japanese are but a mustard seed in the empire State of California with the total value amounting to a beggarly sum of half a million dollars or so.

It is, then, sufficiently clear that "a very grave problem" confronting California [illegible] Johnson's reply to Secretary Bryan, is not the economic interest of the State that is menaced by the presence and activity of the Japanese. To put it curtly, the root of the California legislation is the race question. The frequent recurrence of this kind of hostile legislation is [illegible] point of the analysis.

Among all the barriers that [illegible] man from his fellow being [illegible] the [illegible] strangers [illegible] than that of race. [illegible] this wall of separation [illegible] the west [illegible] barrier [illegible] to break it down. Christianity with its doctrine of the fatherhood of God to all humanity and the brotherhood of man has been [illegible] the last nineteen centuries [illegible] proclaiming against the folly, if not the crime of racial hatred. Lately Democracy with its pet dogma of inherent equal rights of men has joined its force to the storming of the fortress. These attempts have, however, hitherto proved futile. The fortress of race prejudice remains almost as invulnerable as ever. The sentiment of race prejudice has such a subtle none the less potent power upon human beings of different race that none but time, culture, mutual association and benign influence of Christianity, could subdue. It, therefore, [illegible] for the greatest effort of [illegible] to prepare the way [illegible] without much [illegible] or hindrance. Will it not be a sad commentary upon the imperfection of modern civilization, if it cannot muster the forces of virtue and intelligence strong enough to combat this beast of human passions, and allow it to run riot?

There is not a least doubt that the [illegible] of California [illegible] the American [illegible] result [illegible] is the [illegible] from among the American [illegible] friendship and good will the Japanese people have [illegible] the others. [illegible] that [illegible] the [illegible] is in this truth. America first introduced Japan to the world and thus opened the way for her [illegible] career during the last half a century. During that period what an incalculable benefit has America bestowed upon us by extending to us her helping hand in the hour of our need? When Japan was struggling hard to break off the yoke of old Treaties, concluded at the time when diplomacy was an unknown science to her, the Americans were among the first who recognized the justice of her contention. The stigma of [illegible] independence—the [illegible] of extraterritoriality was thus wiped out. When we fought Russia with all the [illegible] risks involved, America gave us the [illegible] moral and financial support. To crown all, America first affixed seal to the Treaty which gave us the tariff autonomy and thus the full recognition of our equality with the great Powers. Of the American teachers, lawyers, scientists, engineers, missionaries and benefactors who gave us the benefit of their knowledge, virtue and wealth, it is idle for us to [illegible].

Such being the past record, our faith in the American friendship cannot be easily shaken. Even in the present dispute the American government and the American people at large stood with Japan. Such a [illegible] justice as displayed by the American people in the present case [illegible] what one might call the sentiment of patriotism [illegible] right or wrong with one's own countrymen—this is indeed well worthy of our emulation. Nor can we consider that the attitude of the Federal Government and the American people at large has undergone any change since the Alien Land Act became a law of California. The Act is there. The spirit of the Act remains the same as it was when objected to, only the phraseology has been changed. If it violated spirit in the dictates of justice before its enactment, it would be so even now. We cannot imagine for a moment that the Federal Government exerted all its efforts as it did for the simple purpose of modifying its phraseology in order to bring it into harmony with the letter of the existing Treaty. What we ask for is not the soothing words, but the substance of justice. We have, therefore, every reason to believe that President Wilson will not cease his labours until an adjustment satisfactory to the Japanese people was made until the principle of the American Government as enunciated in his inaugural address [illegible] justice [illegible] been amply exemplified in the present case.

●日米問題と英國の諸新聞　タイムスは本問題を以て單に米國に限れる一小問題に非ず實は黄白兩人種の將來に對する世界的大事件なりとし米國西部諸洲の主張は元より幾分誇大の嫌なきに非ざるも其主張に充分の根底ありとし且つ他人所有のガーデンに入込まんとする日本の態度は須く穏當ならざる可らずと論じ、デーリーニュース、ポールモールガゼット兩紙は加洲事件の影響は英領加奈陀濠洲等に及び事態頗る困難となる可き來を豫測し居れるが一般の歩調は概して排黄人的なり

投書籠

▲朝二に止宿するた客がビシ二本を入れたまゝ佐々洋服店へプレスに送つた縞柄が似て居た所から粗忽にも小僧が他の華客に屬するものと想ひど[illegible]返上したるに其人が猫婆宗の信者であつたから[illegible]後脚と出掛たのが運惡く露見に及んだ之れが眞相であつて一華客の投書は大邊相違する點がある何も鯉に釣うとしたのでなく鮒に引掛つたのだと洒流れ半分辨解して置く(一友人)▲日本人青年會を中心とする青年諸氏は多士濟々揃にして將來囑望すべき人物尠しとせず然れ雖終始パン問だいにあく齪する爲め徒らに蛟龍池中に蟄居するの觀あるは慨嘆の至りならずや(矯正生)▲某桂庵で二三の日本人が朝鮮人の金を四角の物で卷き上げんと企み却つて百弗餘をしてやられたそうだ(長耳生)▲此程加州地方を旅行して來た人の談に曰く西部の排日熱は實際噴々の豫想以上で散髮所に行けばノージャプと斷った飲食店に這入れば何時迄待つても給仕人が來ない此位いの事なら多少我慢が出來るが田舍路などに差掛ると電車に乘ろと待つて居ると車掌奴日本人と見るや決して停鈴を發せず素通りするの不便を蒙るは旅行者の最も苦痛である云々(蹇障生)

紐育新報

頂門の一針

親善論の價値

吾民族の抱負

寸鐵

●土地案と日米会商

時の交渉

●特別任用法改正

●大陸本年度支出額の漫延說

●大借款と政争

●日本政府の再交渉

●…事件判決

●合衆國再考…

謹告

施福と意識

家屋賃貸し

▼御挨拶▲

岡野井八

遠東茶園

御下宿 中川

前途有望なる賓物は望の方

場 玉突

診察

小谷銀郎

武市岡野

自由亭

S. OKANO

日本雑貨 卸小賣

瀧瀬小川商店

MORIMURA BROS.

日本雑貨 ブリキン類



森村ブラザース



無比廉價販賣

MOGI, MOMONOI & CO.



MIYAKO

みやこ

開業廣告

寄宿舎

日本雑貨卸小賣

法律顧問

民事刑事訴訟

辯護士

生命保險

特別代理人

早川保太郎

夏場向新荷着

日本人商會

夏場向新荷着廣告

陶器類、玩具、アンチモニー製品、楳竹籠類、造花、手拭地、其他製品種々

取揃へ居り候間舊倍御愛顧の程

希願上候



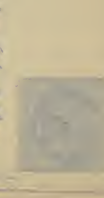


紐育市

バークレー街十一番

茂木桃井組





NATURALIZATION LAW

Unique Work of A Japanese Women in Mongolia Mrs. Ichinomiya's Mission

(Continued)

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

吾民族の抱負

故國之名士

▼社告▲

日米兩國の關係

特別通信

員を置き時局に關する重要事項は不絶電報を以て

紐育新報

寸鐵

●東京電報

▲中華民國の動搖

萬一の事變

▲山本內閣好評

行政整理で七千萬圓

●滬田氏の華府着

RACE HATRED

[illegible]

NATIONALISTS VOTE AGAINST LOAN

[illegible]

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

●…兩氏の使命に就て

●加藤男…支那

寂見 …諾傳し

日米抑留問答

米國政府の回答

米條約の撤廃 …反対 …能はずと …信す

獲得 …歸化權

陸軍大臣更迭

▼柔術教授を求む▲

桃園の亡き戀人へ

▲日本人農業者を歡迎す

富會社

位置

日本人殖民企業者

風土病

Japanese Times
236 6th Ave.

PEACE MISSION

紐育新報

時論一束

對支外交

社告

滊車滊船切符取次

日本郵船會社

一手賣社

右御注文取次ぎ致候

本社營業部

東京評信

[illegible]

演說の大要

捨てられた米婦人

NATURALIZATION RIGHTS

JAPANESE WOMEN

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

添田博士を送る

●民族の抱負

●バルカンの再觀亂

有栖川宮殿下薨去

[illegible]

御名残り

[illegible]

貸室

[illegible]

母國訪問團募集

[illegible]

讀者諸君

江原翁を訪ふ

CHINESE AFFAIRS

Chinese Finds New Island

紐育新報

紐育日本人會設立の議



吾民族の抱負

●光宮御帰朝

●桂公の容態不良

[illegible]

旅館譲渡

小松ツル
同　一雄

佐々洋服店
SASSA

營業時間午前八時より午后十時迄

ドンチキ

＋診察時間

高見豊彦

日本人職業周旋所

職業周旋所

森喜代治

母國訪問團募集

西村高等旅館

歯科

伊東田清吾

御下宿

倉田平次

基督教修道會

寄宿舍

▲貸室

東京館

●御貸間業

中島

ALBANY RESTAURANT
114 W. 14th ST.

アルバニー洋食店

藤田

鴨井久

元山崎下宿
Murray HILL 2958
47 Prospect Pl. bet 1st & 2nd Ave.
and E. 42nd Street

會席御料理
若松
電話モーニングサイド七一五四

▲御下宿▼
中西

大正館
比嘉盛榮

支那料理
萬雲里

日本人口入事務所

夏向食料品新荷着
新柄浴衣色々
新刊書籍雑誌類
片桐兄弟商會

◎排日問題と僕

營業部

歸朝者

特別車

桐

母國訪問團本部

歸朝廣告

DR. ARIGA ON CHINA

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

明治天皇の御一年祭に際し大正國民の覺悟を論す

時局余談



東京評信

●東北の暴風雨

●島根縣下の大火

一五日午前一時島根縣隱岐國西郷町字西町山根新開文蔵より出火し同支社・吉病院其他五十九戸棟數百五十を燒し五時鎭火したるが損害約十万圓に及び八當に死傷なかりしが其混雑名状すべからず光景慘澹を極む

●技術兵養成

●支那の撤兵

●大禮使官制々定　來る二十一日より…

●農業権移る

●中村詩氏

●天長節御延期

月二十一日…

●中華民國益動亂す

●日本の將來

天涯

吾人はジンゴーに非ず、戦爭を厭ふ者也、然れども如何に……必ずしも……然れども……突進する……の如し、一方熱すれば後退し、……米國讓るか、日本讓るか……[illegible]

●中米政策の……[illegible]

●清國……[illegible]

●明治天皇御一年祭

[illegible]

社告

▲手……
▲……

日本行汽車汽船切符取次

右敏速に取扱致し申候

營業部

○排日問題概

[illegible]

●……大……[illegible]

Statement of ownership, management, circulation, &c. of the Japanese Times published weekly at New York required by act of Aug. 24 1912. Editor, Kenichi Kai ... Managing Editor Kenichi ... Business Mgr. ... Pub. The Japanese Times Co. ... Owners ... Known bondholders, mortgagees and other security holders, holding 1 percent or more of total amount of bonds, mortgages or other securities: None.

Kenichi Kai sworn to and subscribed before me ... 1913. ... Notary Public N. Y. Co. ... (my commission expires ...)

METROPOLITAN ART MUSEUM AND JAPANESE ARTS

[illegible]

M. M. SAKANO, Tailor
New York City
Phone Madison Sq. ...

疑惑は御無用
▲代價は低廉なりとて決して品物は粗惡ならず▼
坂野洋服調進所

The Yokohama Specie Bank, Ltd.
New York
横濱正金銀行紐育出張所

精巧美麗の印刷物　本社營業部

郵便發着表

藤井旅館支店　ホテルタコマ

JOSEPH APICELLO
NEW YORK

御下宿　中川

遠東茶園

特別東

新荷到着

東京大阪新聞取次
東京報知新聞　一ヶ月
同　二六新報　同
同　萬新報　同
大阪朝日新聞　同
日本郵便切手

博文堂書店

Dr. Tachibana
橘典市
御料理御宿　高木

▲貸室▼
閑靜にして清潔なる

奈良漬　福神漬
醬油　羊かん
白味噌　梅ぼし
精白米　乾のり
右何れも新しく參りました斗り何卒御用命を乞フ

大正二年三月　紐育　蓄音器の矢野
KEYKUYA S. Yano

御宴會の御料理
懷石御料理
朝日
高等御旅館
61 W. 38th. St. N. Y. City

TOYO KIKUCHI
PORTRAIT STUDIO
菊地

御料理
東洋旅館

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

●排日問題と吾民族の抱負　（七）　裕　德



●日本人を充分に容れ得るメキシコに移住せよ

●女權論者

THE JAPANESE TIMES Published Weekly by JAPANESE TIMES

有川宮殿下

[illegible]

歸朝者に告ぐ

▲本團は愈々來る九月二十日開[illegible]特別車

▲[illegible]

▲募集人員に制限あり至急申込を要す

▲其他詳細の事項は直接本部へ照會ありたし

▲母國訪問團本部▼

日本第三抗議

日本は右の米國政府の回答に對し[illegible]
議を爲す可[illegible]

●日本政府の[illegible]

[illegible]本は支那の[illegible]

[illegible]

桂公益衰弱

[illegible]に陷りたる桂公は其後益々衰弱を來し到底[illegible]見込みなく政界の一時特に立[illegible]協商會内部は引續き動搖を重ね[illegible]

●支那留學生[illegible]

●山座公使赴任　支那擾亂益險惡になり今後の狀勢容易く豫想し難く事[illegible]

メキシコと日本

[illegible]

●故林伯[illegible]

従四位勳四等[illegible]

●新渡戸稻造博士[illegible]

▲日露戰爭の當時に[illegible]次官として大[illegible]

▲歐州[illegible]

●末廣博士到着 …名高き…大…博士は五十八…天洋丸便にて…着し以來在留同胞の爲に…日米問題に關する講演を試み大に其意見を發表しつゝあるが博士…に對する意見は左の如くにて…博士は此問題が次…議會の大問着を起すに至りて…會が之によりて現政府に肉薄すべきは必然なりと云ふ

●三菱…部長桐島像一氏は…去月廿五日…地出發ボストンナイヤガラ經由歸朝の途に就けり

●日本石油會社專務松方乙彥氏は…武田氏と共に本日出發渡歐す

●逓信省技師矢澤久次郎氏は去廿九日來着ホテルアスターにあり

●…亥吉氏 商業視察として來市…日本倶樂部にあり

●文部省…生…忠氏は松田氏と共に來着ホテルアスターに在り

千葉…原氏著
○排日問題梗概

一部…税共金五十…排日問題の眞相を知らんと欲する者の座右に不可缺好著にして殊に…

ニユーヨーク
新報社營業部

●大…氣…技師松…貞次郎氏は…事業視察の爲此程來着ホテル…に在り

●…氏の歸朝並記者招請 久しく…ホテルアスターに滯在しつゝ…氏は愈々來月…日當…朝する筈にて去三十一日當…の邦字新聞記者並特派員諸氏を招き…晝餐を饗し、食後新ホテル…設計を説明したる…氏の企畫にかゝ…の石造…屋…を標準とする…等は和洋折衷…せしむる計畫な…有力者及び米…に於て…居る由なれば…ホテル業界に一…

●…氏の…

本社營業部

▲諸種印刷物
▲日本行汽車汽船切符取次
▲手紙取次
▲各國語飜譯
▲通辨

紐育新報社

移轉

…村瀬丸…
…阿…

武山隆野
自由亭
S. BRAND

MORIMURA BROS.
日本雜貨
森村ブラザース

…雜貨…
…流…小川商店

…御下宿…

無比廉價販賣
MOGI, MOMONOI & CO.





日本雜貨直輸入販賣

▲「夏場好向品」▼

陶磁器、玩具、アンチモニー製品、漆器、竹籠類、造花、絹製ノベルチー、其他種々
取揃へ居り候間舊倍御愛顧の程希願上候

紐育市パークレー街廿五番（改正番地）
茂木桃井組

支店……
Mogi, Momonoi & Co.
F. W. Fushbrook, Agent

……最新廻轉花車……



▲夏場向新荷
取揃
多…見商會

…開業廣告

MIYAKO

■日本雜貨卸賣■

■法律顧問
民事及刑事訴訟
辨護士

▲…生命保險…▼
特別代理人
早川保次郎

夏場向新荷着
日本…商會

…ミウシヨン…
…光…



東京評信

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

アウトルックの所説を讀む

[illegible]

●巴西の邦人歡迎

[illegible]

●吾民族の抱負

[illegible]

紐育新報

大正二年八月九日

[illegible]

歸朝者に急ぐ 特別車

▲本[illegible]は愈々來る九月[illegible]日[illegible]

▲本[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲集[illegible]員[illegible] 制限

▲[illegible]

▲文科 [illegible]

[illegible]

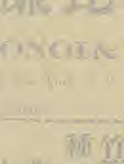
人身自由衛賢草
濱口熊嶽

謹告

本社營業部
諸種印刷物
日本行汽車汽船
切符取次
手紙取次
各國語飜譯
通辨
紐育新報社

移轉
村瀬九郎
岡田

自由亭
武市岡野



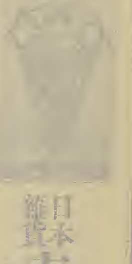
雜貨
小川商店

MIYAKO
開業廣告

夏季向新荷
取扱
商會

無比廉價販賣
MOGI, MOMONOI & CO.





日本雜貨直輸入販賣
「夏場好向品」
陶器、玩具、アンチモニー製品、其他竹籠類、造花、絹製ノベルチー、種々取揃へ居り候間舊倍御愛顧の程希上候
紐育市バークレー街廿五番
茂木桃井組
支店
Mogi, Momonoi & Co.
V. W. Rushbrook Agen

最新廻轉花車
日本雜貨大賣



法律顧問
民事、刑事訴訟
辨護士

生命保險
特別代理人
早川保次郎

夏季向新荷着
日本商會

ミツシヨン

東京評信

[illegible]

新刊新聞雑誌名表

[illegible]

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

故國外交の近事

詩 壇

○長 ……

乙 女 心

巴水春秋

時局余談

東京電報

アウトルツク誌所説と日本

東京評信

歸朝者に對する特別車

制限

紐育（紐約）領事と在留民の不平

濱口熊嶽來る

● バンダービルト

家庭の人となれ

[illegible]

紐育新報

管見一束

巴水春秋

歐洲戰費の膨脹と國民の負擔力

●米墨關係

●山座公使の逝

●浪人會と怒る

●筆の嵐

○排日問題の概

本社營業部

▲諸印刷物

▲日本行汽車汽船切符取次

▲手紙取次

▲各國語飜譯

▲通辯

紐育新報社



營業部

雜貨たれ賣

流藤小川商店



日本雜貨

森村ブラザース

武市岡野

自由亭

S. OKANO

御下宿

移轉

村瀬九郎

岡田

無比廉價販賣

MOGI, MOMONOI & CO.





夏期向新荷

取揃

多備見物會

日本雜貨直輸入販賣

▲夏期向品▲

陶器、玩具、アンチモニー製品、漆器、竹籠類、造花、絹製ハンケチーフ、其他種々

取揃へ居り候間倍舊御愛顧の程奉願上候

紐青市ブロードウエー街廿五番

茂木桃井組

支店



▲最新型輪花車

日本雜貨

法律顧問

民事刑事訴訟

辯護士

生命保險

特別代理人

早川保太郎

日本

夏季向商品



東京消信

表面は先づ……

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

米墨國交の危機

後藤男縱談

▲山本内閣

●抗議書提出

米國法廷の裁決に委ぬると

●故林伯の日記

同盟は日英獨三國

●米國の高等學……

●本年は大豊作

●全艦艇二軍港設備

●袋の嵐

[illegible]

●袋國途に屈す

[illegible]

●□□第一試訴起る

[illegible]

●ギ□□□□□米 日本に在留□□□□年大、同志社等に教授し□□宗教、教育等に□□

●□□□氏病死 倉田旅舘に在りし安藤□□一氏は豫て盲腸炎にて入院中なりしが去廿五日死去したりと氣の毒の極と云ふべし

●黄白結婚 ニューヨーク□□□フク在住の山岡伊三郎なる人はジョンソン孃と云ふ米婦人と結婚したる由

●□□氏の溺死 □□□□人倉石秀作なる人はメーン州ポートランド附近□□ーキにて水泳中溺死したりと

●料亭井筒の新開業 田中氏は□□十九丁目三百□八番に御□理料理屋□菓子屋を開業、□□□來を□る由

九月一日開業
○鍋類すき燒
○ろばしる粉
○お菓子るい
午十二時より　夜十二時まで
□□□□□目
井づつ

中□原□著
○排日問題梗概
□□□價金五十□
排日問題の眞相を知らんと欲する者の座右に不可缺なる好著にして殊に在留同胞の知己親友へ贈物として適當なり、三十部丈取寄せおきたれば賣切れぬ内に申込みあるべし
ニューヨーク□□□
新□社營業部

菊水

品南樓

移轉!!
□□□□□ 村瀬九郎
□科醫 岡田滿

御下宿

武市岡野
自由亭
S. OKANO

MORIMURA BROS
日本雜貨
及リ子ン類
森村ブラザース

日本雜貨おろし賣
瀧藤小川商店

MIYAKO

開業廣告

夏場向新荷
取撿
多治見商會

無比廉價販賣
MOGI, MOMONOI & Co.

日本雜貨直輸入販賣
「夏場好向品」
陶器、玩具、アンチモニー製品、提灯類、竹籠類、造花、絹製ハンケチー其他種々取揃へ居り候間倍舊御愛顧の程希上候
紐育市バークレー街廿五番
茂木桃井組
支店
Mogi, Momonoi & Co.
W. W. Rathbone, Agent

最新廻轉花車□

■日本雜貨□賣■

■法律顧問
民事、刑事訴訟
辯護士

▲生命保險▼
特別代理人
早川保次郎

夏場向新荷□着
日本□□商會

□トツシヨ

東京評信

▲ …

郵便發着表

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kamemi Kai, Editor & Prop.
Tel.
Entered at N. Y. Post Office

墨國實情

[illegible]

東京評信

[illegible]

外交問題の外に御警戒す可きは東京株式取引所の直取引問題と中國興業株式會社[illegible]に有之候。

[illegible]

●試訴に付き訓電

●暴風雨詳報
▲死者二千人以上
▲起業家損害莫大

●孫逸仙氏着神

●政府の方針一變

●墨國の屈議

●汽車衝突

黄塔

[illegible]

自然の降伏

[illegible]

投書欄

[illegible]

郵便發着表

[illegible]

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor & Pub.
238 Sixth Ave, N. Y. City,
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N.Y. Post Office
as second class matter under
act of March 3rd 1879

定價（前金郵税共）一部金五仙 六ヶ月分一弗 一ヶ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政院認可
發行兼編輯人 甲斐健一
發行所 紐育市第六街二三八 紐育新報社
電話チエルシイ六四七三

日英同盟始末（一）

故林董伯手記

左に掲載せるは頃日世界の視聽を鐘めたる時事新報所載「日英同盟始末」にして其筋より續稿の發表を差止められたる同伯の手記なり

第一章 日英同盟協約の起源

日英同盟の說は數年前殊に明治卅一年膠州灣及旅順大連灣事件以來英國新聞雜誌に上り殖民大臣チエムバーレン氏も亦一夕晩餐の後本使の前任公使加藤高明氏に向ひ極東問題に關し日英兩國にて話合を爲す事の利益ある事を閑話したりしも兩國政府にて眞面目に之を協議する事なかりし、然るに昨年（明治卅四年）三四月の頃倫敦駐在獨逸國臨時代理公使エカードスタイン男屢余を訪ひ自分一個の意見にては東洋の平和を維持する事は日英獨三國の同盟に若くはなし而して自分が承知する處にては英國政府の大臣中にもチエンバーレン氏バルフオーア氏ランスダウン侯デブオンシャー公の如き有力者は孰くに此持論にて近くはソールスベリー侯も亦此說を容るゝに至れり獨逸にては民間に英國排斥論盛んなるも獨逸政府は決して然らず殊に最も高貴の御方二名（此意は察するに獨逸皇帝及宰相ビューロー伯ならん故ビクトリア女皇崩御の際英國現皇帝と獨逸皇帝とがオズボーン離宮に於て閑話の際に話したりしが故に其邊の消息を得しものと見ゆ）は三國同盟に贊成なるが故に今日本政府より口開きをなさば此事は必ず成就すべしと云へり

エカードスタイン男が此の如き勸誘を爲したりし本意は何れにありしやは或は眞實に三國同盟を作成せんが爲め其筋の意を受けて之を余に語りたるものか或は他に目的ありて此手段を取りしものか其邊は今に確かむる事を得ざるも果して男が云へるが如く英國政府に於て日本と同盟をなすの意ありとせば獨逸の加入するとせざるとに論なく我國の爲め大に利益ある結合たるは論を俟たず少くとも英國政府の意向を探る事は益ありて少しも害なき事故夫れとなく之を探る事の許可を仰ぎしに昨年（明治卅四年）四月十六日電報を以て帝國政府にては何分の意見を發表し難きも政府を羈束せざる限りに於て余一個の意見として英國政府の意向を探る事差し支へなき旨訓令あり依て余は四月十七日ランスダウン侯に會語の序を以て清國問題に論及し同國の前途頗る憂慮に堪へざる事より東洋の平和のため日英兩國にて何とか永遠の取極めを爲す事の緊切なる事を余一個の意見として闡陳し侯の意見を尋ねたるに自分も何とかせざるべからずとは信じ居るも當時首相ソールスベリー侯不在に付英國政府にても未だ此の如き重大なる事を議したる事なし然し何か善き思ひ付きあれば悦んで之を談合すべしと挨拶し猶余が立ち去らんとするに際し侯より此の如き協商は必ずしも二國のみに限らざるべく他國を引入るゝも可ならんとの質問ありし之をエカードスタイン男の語る所に對照し觀察するに英國政府にても折り／＼は此の如き問題を議したる事あるべく又獨逸政府の意向をも折に觸れ探り見たる事あるにあらずやと思はる去りながらソールスベリー侯不在にては迚も如此重大なる事件に關し纏りのつく筈なきにより暫く英國政府の模樣を注視し侯の歸英を待ち更に口を開く事となし其旨帝國政府に電報せり尤も漠然日英兩國間に永遠の取極めを爲すとのみにては帝國政府が訓令を發するにも目的を立て難かるべきに付豫め條件を假定する方事を運はすの便法なりと思考し帝國政府にて愈同盟を爲すの意あらば凡そ左の基礎により立約しては如何と電報を以て其意向を伺ひたり

第一 開門主義と清國領土の保全を維持する事

第二 何國と雖も既に發表したる條約により清國より得たる外更に領土上の權利を得る事を不許

第三 日本は朝鮮に於て他國よりも巨大の利害關係を有するに付同盟國は朝鮮に對し自由の行動を許すべし

第四 同盟國の一國他國と開戰する事あるも他の同盟國は中立を守り之を助けざる可し然れども若し第二國來りて同盟國の敵を援くる時は他の同盟國は直に其同盟國を援くべし

第五 英獨協商は依然有効たるべき事

第六 本同盟は極東洋に關する事件のみに關係し其動作の範圍も極東洋以外に出づる事なかるべし

然るに帝國政府は之等の箇條に對し何の意見をも明示せず單にランスダウン侯が此の如き協商は必ずしも二國のみに限らざるべしと云ひしは英獨の間に或は夫れとなく話し合ひたる事あるが如くに想像せられ其有無を知る事緊要なるに付一個の責任を以て之を確むべき旨訓令せり

俳句

五峯



雨を呼ぶ蛙なき止んで湖に雲低う飛ぶ

○

牧場の垣つくろはず草高く月澄める

●歸朝雜感

村井保固氏談

▲歸朝して何時も遺憾に思ふのは故國全般を覆ふ不景氣の聲である、世界列强の仲間入をしたと誇つて居る吾國民が一方に於て生活難、就職難重税の負擔等に苦しんで居る有樣は海外に在て呑氣な生活をなしつゝある人の想像以上である、

△就中重税の負擔は人民疲弊の根原とも云へく直接間接に人民の蒙る重税の外未だに戰時税を徵收して居る次第でウインドーにまで課税したと云ふ英國の昔も日本の現在には及ぶまいと思はれる位である日本の金利は目下平均一割を示して居るが斯る高利を拂つて眞面目な事業に利益を得る事は到底不可能である、

▲斯樣な不景氣を招いた原因は勿論日露戰役以來日本が實力不相當の外觀を張らねばならぬ地位に陷り必要上年年不得策な遺繰算段の瀰縫を事とした惡結果に外ならぬが、吾輩一個の考を言へば寧ろ一大パニツクが來て倒れるものは倒し起る筈のものは起して日本の財界に一大革新の氣運を與へる必要があると思ふ、不自然な瀰縫策や投期的虛業心でもつて國富の增進を畫した所が何の役にも立ちはせぬ、

▲日米問題に就ては澁澤さんや中野さん方が盡力されたのに森村さんや吾輩が何も仕なかつたのは不都合であるといつて晩香坡の新聞記者に小言を受けたが實際吾輩は何も仕なかつた、併し辯明がましく聞へるか知らぬが夫には聊か理由がある、

▲第一吾輩は加州乃至在米日本人問題に就て日本の有力者諸君と頗る見解を異にして居る、永く海外に在て實際の事情を詳知する人には甚だ奇異に思はれるか知らぬが日本の人は同化とか永住とかいふ言を口にするやうになつた癖に在米日本人は何時迄も日本の臣民たらざるべからずとの觀念を持て居る、であるから吾輩の如く世界的見地から日本人の海外發展を希望する者は如何にも不忠君非愛國の人間なるかの如くに誤解され一つ間違へば殺されるかも知れぬのである、

▲日本の有力者が斯る狹隘な觀念を抱いて居る所へ在米日本人はだうかといふに事件の發生する毎に故國政府や有力者の後援を頼むといふ習慣が聊か熾烈に失せぬかとの嫌があると思ふ、勿論市民權なき外國人として勢ひ斯やうな習慣を成すのは大に同情に値するが苟にも海外に在つて身を立てんと志すものには今一層の獨立心が必要であると共に斯る習慣は往々にして米人の誤解を招く基となるのである、

▲更に吾輩が世人と意見の異なる點は吾民族の海外發展は米國よりも寧ろ朝鮮、滿洲、支那及南洋にありとする所に在る、若し米國のみが吾民族の發展地として唯一の場所ならば無論日米問題の爲に國命を賭する程の發奮心も必要であろうが左もなくば出來得る丈距離の近い地方に移住し比較的幸福な生活を爲すに便宜ある方法を採るのが得策と思ふ、

▲米國は勿論土地も廣し國も豐であつて吾移民の生活も他に比して遙かに高等であらう、乍併斯までに嫌はれ厭れて迄も行かねばならぬ必要は決してない、（未完）

●日本國旗を引裂く

九日化京發電

▲又々南京の排日騷ぎ

南京駐在日本領事の使者は同地騷擾中國籍を表明するため小さき旭日旗を掲げて市内を通行し居たるに支那兵は之に對して散々に侮辱を加へ國旗を奪取りてズタ／＼に引裂きたる上足下に蹂躙したる趣き同地日本領事より報告あり、右に對し支那政府は目下の狀態に於て如何ともすべき術なく只條件の輕重に關せず日本の要求に應ずるの覺悟を爲すも英國が日本の强壓的方針を欲せざるを一縷の頼りとなし居るのみ、北京の日本公使は南京の殺害事件要求に關し本國政府より未だ何等の命令に接せざるも該要求の頗る重かる可き事は一般の豫期する所なり

●要求と日英同盟 デーリーテレグラフの東京通信員は曰く、日本は支那に對し外交上の手段に出づるの外英國の意向を求めたる上ならでは他の要求方法を採ることなかるべしと雖も揚子江一帶の地は兩同盟國協議の大主点たるならんと

●阿部政務局長殺害者の一人自殺す 阿部氏を暗殺したる兇漢の一人は岡田なる一學生にして其後某辯護士宅に潛伏し居たるが阿部氏埋葬の當日遺書を認め支那地圖の上に端座し切腹して絶命せり、右遺書には南京殺害事件に憤慨せし結果兇行を敢てせし旨を記し尚は自分は武士の後裔なれば自盡すと認めあり

●二六紙の發行停止 阿部氏の遭難を「天誅」なりと絶叫せしため其發行を停止されたり

●我陸戰隊の南京上陸 十日の上海發電に曰く、日本巡洋艦數隻は在留自國民保護の目的を以て速射砲と共に百名の陸戰隊を上陸せしめたりと

●政務局長後任

英國大使館參事官小池張造氏（元紐育總領事）は阿部氏の後任として政務局長たるに内決せりと八日東京發電に見ゆ

●日本軍人の南方援助 柴陸軍中將は日本陸軍士官及兵卒が政府の許可を經ずして南軍を援助せし事を公表せり

●山本首相の聲言、軍事會議 （八日東京發電）山本首相は日比谷大會委員に面會し支那に出兵するは同國の分割を招致すべき恐あるを以て其必要なしと語り且つ對支外交は頗る强硬の態度に出づべしと聲言したり長谷川河村兩陸軍大將は日光なる陛下の御別邸に參上して軍事上重要なる事件に關し御諮問に奉答せり、支那政府は殺害事件につき陳謝の意を表し平和的に事を角決へんことを希望し來れり東京大紛擾の結果として各大臣の警戒は甚だ嚴重にして數多の煽動者は捕縛されたり

（特別廣告）

更に三名入團の餘地あり

▲領事館届出の都合あり
▲大至急申込みありたし

母國訪問團

●紐育市長ゲーナー氏逝く

當市長ゲーナー氏は保養のため歐州へ航行の途中去十一日バルチック號内にて頓死したる旨無線電信にて通報ありたり

右に付市會議長アードルフ、エル、クライン氏正規により市長の職に就きたり

●南京の邦人殺害と民心の激昂

南京に於ける吾邦人の殺害は痛く吾民心を激昂せしめ或新聞の如きは當局者に向つて急速なる軍事的行動により民國の要港を占領すべしと唱へ居れり、右に付山本首相は吾政府の方針に關し日光に御避暑中なる今上陛下の勅命を乞ふべく急遽同地に赴けり

●阿部政務局長暗殺さる

外務省政務局長阿部守太郎氏は本日退省の途米國大使館附近に至りし時突然二人の兇漢現はれ、一人が背後より氏を擁せる間に他の一人は短劍にて氏の腹部を突刺し其儘暗に乘じて何處ともなく遁走し去れり、阿部氏は負傷後直ちに自宅に送り屆けられたる上手術を受けしが最初生命に別條なかるべしとの診斷なりしも翌六日遂に死去したり（以上二項五日東京發電）

記者曰ノ右電報中に氏の顔は孫逸仙氏に酷似し居る爲め人違ひにて暗殺されたるものかとあれども頗る疑はし、別項參照

●東京の大騷擾

▲一萬五千の群集外務省に押掛け
▲首相以下の自邸を襲ふ
（七日東京發電）

阿部政務局長暗殺は益々都下の民心を沸騰せしめ一萬五千の市民及男女學生等は本日日比谷公園に一大集會を開き頻りに加州問題、支那問題に對する吾當局者の無能を攻撃し殊に南京に於ける邦人殺害は吾國旗を辱かしむるものなれば當局者は此際宜しく**軍事的強壓手段**を用ゐて吾要求を貫徹すべく然らざれば牧野外相は速かに辭職すべしと決議するに至れり、會衆の多數は重に學生にて最初は別段不穩の態度を示さゞりしも突然「外務省に押掛けよ」と叫ぶ者あるや俄かに騷擾し初め公園内は忽ち阿鼻叫喚の一大修羅場と變じ辛ふじて一命を助かりたるもの數多あり斯くて

▲一同は直ちに外務省に押掛け面會を求めたるも豫て急報に接し居る同省は堅く門扉を鎖して入しめず蝟集の中氣早の連中は亂暴にも門扉を破壞せんと試みしも目的を達せざりしを以て代表者數名は止を得ず墻を越へて門内に入り當局者に面會の上要求する所あり結局來る十五日に外相自ら面會すべしとの約言を得て門外に在りたる群集に此旨を報告し一同拍手歡呼して同所を引上げたり而して此騷擾に對し當局者は日露平和條約締結當時の經驗に鑑み聊かも警察權の干渉を試みざりき

▲牧野外相邸に向ふ　外務省を引上げたる彼等は其足にて市外三田の地に在る外相邸を襲ひしも憲兵の爲に妨げられて目的を達せざりき

▲第二市民大會　七日夜基督教青年會會堂に於て開かれ會衆は其決議を以て再び外務省を襲撃し歸途松井外務次官邸を襲ひたるが外務省の窓硝子は悉く破壞され折柄通りかゝりし電車自働車等は投石を受けて進行する能はず約五時間は全然交通遮斷の姿なりき

▲外相夫人の折衝　首相邸を襲ひし市民大會委員は七日夜牧野外相邸を訪ひしが夫人は心善く面會して主人不在の旨を告げ茶菓を供して巧に内訌の功を遂げたり、邸外に在りし群集は篝火をたいて夜半に至り、一隊は**首相の自邸を襲ひたる**も憲兵の用意嚴重なりしを以て近づく能はず雨中に佇立して夜を徹せり

▲軍人社會の激昂　南京の邦人殺害及漢口に於ける吾陸軍士官の虐待は痛く**軍人社會**を怒らしめ居れり

●吾政府の決意

去八日倫敦デーリーテレグラフ及メール東京通信員の所報によれば日本政府は支那問題に關し極めて愼重の態度に出づべく決心し居れるは明かにして支那近海へ有力なる艦隊増派の議は既に決したるものゝ如く場合によりては戰略上樞要なる地域を占領するやも難圖、當局者は南京事件及漢口事件に付き支那政府に對する要求案の準備中なりと、尚南方亡命客に對する日本の同情は彼等内部の腐敗と卑怯なる行爲の曝露と共に痛く減退せり隨て今回の日本政府の對支行動が如何なる方法に出づるを問はず彼等亡命客とは何等の關係なしと云ふ

●添田博士の報告大演説

▲桑港大博覽會參同の必要を縷述し今後の我對米政策を痛切に説破す

在米慰問の使命を果して歸朝せる法學博士添田壽一氏は卅日午前農商務省外務省並に山本總理大臣を歴訪して最近の米國事情を縷述し桑港大博覽會には是非參同の必要あるを詳細に説明せり

▲商業會議所の演説　卅日午後より東京商業會議所に於て全國聯合商業會議所並に對米同志會に對する添田博士の報告ありたるが澁澤男司會者として先づ添田神谷兩氏に對する謝辭を述べ次に添田博士の詳細なる報告に移りたるが博士は大要左の如き演説をなせり

一、慰問使としての使命逐行の次第
二、在米日本人の事情
三、土地案の經過
四、今後の施設如何
五、這次排日問題より得たる教訓
六、日米兩國民雙方の任務

の數項に分ちて説明し今回の事件に對し在米同胞が愼重なる態度を持して輕擧盲動せざりしは誠に文明的動作なりと賞讚し尚ほ應急の策も既に成立せる上永住的決心も鞏固にして在留同胞の前途は極めて有望なりと説き轉じ今後の方針としては政府は抗議すべきは飽迄抗議して臨機適當の策を講じ土地所有は我國に於ても外人に許可し國籍は二重にならぬやうの解決を遂げ國民教育の方針を改良し移民に對する方針は是非共一定に確立すべく又婦人渡航者は之を奬勵し而して我國民は米國の事情を學びて誤解なきに勉め進んで我國民をも理解さするの機關を創設し今や我國に向つて米國の輿論が好調を呈せむとするの機會に乘じて益々之を利導するを計る可し而して在米同胞には大に同情に大博覽會には進んで參同の意志を徹底するに勉め此際姑息的解決方法は止め人種的僻見の如きは我亦斷じて之を打破し日米兩國民の永久的親和策を立てよと結論したるが出席者一同感に入れり（八月卅日新世界紙着電）

●江原慰問使歸朝　立憲政友會を代表せる在米慰問使江原素六氏は秘書山本邦之助氏同伴本日春洋丸にて無事歸朝せり、氏は往訪の記者に對し在米同胞の發展と意氣の盛なるを激賞し排日問題に就ては解決の容易ならざるを説き桑港大博には此際特に贊同の必要なるを信ずる旨語れり

●羅府觀光團歡迎　一行は今朝入京をしたるが直ちに二重橋外に赴き宮城を參拜し夫れより早稻田なる大隈伯邸を訪問熱心なる歡迎を受け正午は東京商業會議所會頭中野武營氏より午餐會に招待されたる後一行打揃ふて帝國劇場に赴きたり

●二百十日無事

二百十日は平穩無事に通過したり
（以上三項二日東京發電）

●百萬圓僞造事件

▲前警保局長古賀氏豫審に
▲有罪と決す

會て西園寺内閣の警保局長たりし古賀廉造氏は昨年冬支那紙幣（第一次革命戰爭當時發兌流用せしもの）百萬圓を日本内地に於て僞造したる事件に關し八月廿五日豫審の結果有罪と決するに至りし爲め全東京市上下を擧りて事の意外なるに愕然色を失し何れも呆然として言ふ所を知らざる有様なり

▲共謀犯首魁捕縛　該事件は當時稀有の大犯罪として日、英、支三國の官憲を驚かしたるも即ち前警保局長古賀廉造氏の弟に當る古川某が廉造氏の實父源吾氏外八名と共謀し日本内地に於て支那紙幣百萬圓を僞造し之を支那に於て行使せしため香港に送附したるに同地に於ける英國官憲の發覺する所となりたるものにて共謀者の首魁古川は該僞造紙幣引換人として香港に出張し同地官憲の手に捕縛せらるゝに至りたり

▲古賀廉造氏公判　斯く古川が香港に監禁中古賀廉造氏より紹介名刺を所持し居る事が發覺し其香港官憲より日本當局に照會し來りしかば古賀廉造氏も亦連累者の一人と見做され支那紙幣僞造教唆の下に告發せられしが愈豫審終局し有罪と決したれば九月末公判に附せらるゝ筈

▲關係なしと稱す　然るに古賀廉造氏は飽く迄自己の潔白を主張し古川は當時古賀氏の實父源吾氏邸宅の留守居をなし居りしも自身は支那紙幣僞造事件には何等の關係も有せず元より之が相談に與かりし事なしと主張し居れり

▲古賀廉造氏の略歴　氏は從四位勳三等佐賀縣士族にして安政五年一月十六日を以て生れ當年五十六歳明治九年法學校生となり尋で東京大學に入り法科大學を卒業し同十七年法律學士の稱號を受け同十九年任官して檢事に任せられ從七位に叙せらる同廿二年獨佛兩國に差遣され歸朝後東京地方裁判所檢事、東京控訴院檢事に歴任し同卅一年大審院檢事となり三十五年大審院判事に轉じ其間法典調査會委員法典に關する政府委員文官高等試驗委員たると數次後官を辭し野に閑地に在りしも西園寺内閣組織成るや擧げられて警保局長となり二回同職を務む

●要求條件

十一日北京發

日本政府の要求左の如し
一、被害者へ損害金を支拂ふ事
二、犯人の所罰
三、支那政府の謝罪
四、南京駐在軍總督張勳は同地日本領事館へ謝罪の意を表し且つ部下の軍隊を以て同館前を整列通過せしむる事
日本は右條件を提げて支ナ政府の即決を促せり

●日支兵の衝突　兩國の鐵道守備兵衝突し三名の支ナ兵射殺さる

●牧野外相門前に自殺す（十一日東京發）松本某なる者牧野外相に面會を求め拒絶されたるより懷中に匿し持てる短劍を取出し自ら腹部に突立てたるが重傷なれば生命覺束なし

日米新協約説

第三抗議にて抗議打切りとなすこ[illegible]時に日米兩當局間にて新協約締結のため新たに交渉開始されたりとの浮説起り而して其協約は珍田大使の立案せる所にして在米日本人の土地所有並に營業權其他諸種の權利の確保を計るの目的なりと傳ふ浮説俄かに信じ難けれど若し此交渉開始にして事實ならば遠からず事實の内容に關して確聞するを得べし

桑博贊同纏る

桑博贊同に對する當時の意見は既に屢發表されし所にして只民間實業家の意見容易く一致し難き模樣ありしが添田博士一行歸著後大に米國の實情に就て得る手あり從つて全國各商業會議所の意向も畧纏り各實業家に於ても贊同出品に關し何等の異議なきに至りたるより桑博會計劃誘員の來着を待ちて新たに贊同に關する發表をなし之れと同時に各方面の施設に着手する方針なりと

●[illegible]稽なる[illegible]日病　去十[illegible]日[illegible]電報として英字新聞に噴飯の記事現はる曰く、當州陸軍々令部に於ては重要を藏せる日本人團体の存在に關し内密に調査中なりしが[illegible]の報告に依れば日本人は二年前より彼等全体の利益を増進する目的を以て各地に四十餘の非營利的團体を組織せるが此等は何れも州法に違反せるものに非ざるも數々日本より渡來する官吏とも非官吏ともつかざる訪問者と會見せり、而してロサンゼルス附近にも此種の團体あり一朝事あれば直に所要に應ずる丈の軍備を備へ居れり[illegible]司令部は加州及太平洋沿岸の[illegible]なる地圖を發見せる[illegible]侵入なるやに就ては語る所なし云云、各地日本人會の事を夢に見たるのなるべし抱腹絶倒の噴飯事こ[illegible]讀者の一[illegible]に供ふ

●在米邦人飛行界▲[illegible]二十名の輩出　羅府より女流飛行家[illegible]を出したるは更に[illegible]飛行界に一異彩を添へたるものなるが今[illegible]で輩出せる重なる飛行家を[illegible]れば[illegible]、武石浩波[illegible]を始めとし南加シーラの飛行學校の卒業[illegible]しては坂本壽一、野島銀藏、佐[illegible]の三氏ありスローン飛行學校より星野米藏氏あり野[illegible]兩氏は選[illegible]般歸[illegible]、目下故國飛行界に頭角を上げんとしつゝあるが其他シャトルには高左右隆之助外一二の新進飛行家ありサンデーゴーカーチス學校卒業生としては中村德治氏ありシーラ飛行學校には坪田　海野　淺川　坂田　榊原諸氏在學のカーチス學校にも目下二名の在學者あり是等飛行家の沿岸出身者として一齊に活躍する際は在米邦人社會の無二の誇りとなるに至る可し

●日本婦人飛行家の嚆矢　ロサンゼルスに一婦人洋服裁縫業を營み居る南[illegible]よね子は今回飛行家たらんとの目的を以てシーラ飛行學校に入學し九月一日より稽古に取掛る筈なり

●山崎快英氏の慘死　エール大學卒業後當地に於て英語教授をなし其後亞市近藤[illegible]當地支店支配人として今日に至りし同氏はキングストン夏場閉鎖の爲め去二日同地に出張中旅宿の三階より墜落し逆惡しくも人事不省に陷入る程の大怪我をなしたるが急報に接したる同氏夫人（白人）並に森村組の天野重次氏は直ちに急行一先づ當地に連れ歸り入院せしめたるも藥石効なく去五日遂に永眠したり。こゝに氣の毒なるは目下姙娠九ケ月の夫人にて昨年歳縫中過つて一明を失ひ今又杖とも柱とも頼む最愛の夫を喪ふ、重ね／＼の不幸續きに詮術もなく手足纏ひの子供さへある身のみ[illegible]悲嘆に擾暮れ居るとの事なり、右に就き前記天野氏並知友諸氏は始末に關し種々盡力中なるが山崎氏の[illegible]を受けたるもの若くは知人にて香奠等寄贈し度人は當市ブロードウェー五四六天野重次氏宛に申[illegible]込まるべし

●ニューヨーク母國訪問團出發期　ニューヨーク[illegible]氏主催の同團は夏期の終了と共に俄かに人員增加の模樣なるが諸般の準備も略整ひたるを以て來卅一日特別車にて當地出發母國訪問の途に就くべしと

●高峯博士[illegible]確定　來十五日家族[illegible]歐州より歸着の旨報知ありしと

●[illegible]保田氏　去七日無事歸着、氏の歸朝談は載せて第一面にあり

●河上[illegible]氏　既報の如く桑港日本人會の招聘に應じ今月末出發同地に向ふ由なり

●森村組の大宴會　同組にては村井重役　田中　山口三氏の歸米祝宴並に山本氏の歸朝中山氏の市俄古支店赴任送別を兼ね本日午後六時より日本倶樂部に於て店員一同の大宴會催さるべし、因に山本　中山兩氏は多分來週出發すべしと

●岡倉覺三氏逝く　日本美術院の創設者として將たボストン美術館日本支那部の監督として内外人に知られたる同氏は當月四日東京に於て病沒（享年五十二）せりとの△報あり、氏明治十四年大學卒業後文部省書記官となり爾來吾國美術界の爲に貢獻する所多く殊に英文著書「ゼ、ブック、オブ、チー」『東洋的理想』「日本の覺醒」及米國各地に於ける講演等によりて吾國の精華を西洋に紹介したる功績大なるものあるは世人の皆知る所なり

●淺野總一郎令息　淺野良三氏は今回東洋汽船會社桑港支店長として去[illegible]五日着桑せるが斯は同社營業方針の變更と共に一切の船員に日本人を使用することゝなりし結果なりと桑港發報に見ゆ

●文學博士姉崎正治氏　ハーベード大學東洋哲學講座擔任として來米したる同氏は去一日晩香波に到着したる由

●田中實氏　歸朝中なりし森村組の同氏は昨日歸着したり

●上中啓三郎氏　高峯事務所の同氏は此程故國より歸着

●中村繁松氏　アルバニーに於て雜貨業を營み居れる同氏は此程歸市せり

●山口岩三郎氏　歸朝中なりしが夫人令息同伴昨日歸着せり

●野村駿吉、原清一兩氏　三井物産當地支店詰として來任せり

●沼野鈴子夫人並に令息洋一氏　は去四日地洋丸にて着桑せり

●撞球家田村幾次郎氏　は此程西部より來着田村浩次氏との手合も濟みたるにて近々の内市俄古のカルビンテモレス氏と競技の契約にて目下練習中なりと

●早石醫師の公許　嘗て當地に在りたる同醫師は今回オレゴン政廳より醫師開業の免狀を得たりと

●飯島總領事邸招宴　去十一日夜内日本人の宗教家、通信員、新聞記者等を招きて晩餐を饗せり

●京大教授[illegible]企氏　は地質學研究のため來市

●遞信省技師畠山敏行氏　は此程來市、當年中滯在の上視察の筈

●シカゴ大學の笠[illegible]重次氏は萬國平和協會の囑托により來十八日ホテルアスターにて平和演説を試むべし

●三井物産の高木氏　は墨國に出張



東京評信

八月二十一日發　[illegible]骨生

▲八月に入りてより今廿一日迄の三週間に於て東京は僅かに三回の夕立あるのみにて、日々の炎天にて水道も斷水するかと氣遣はれ、現に瀧濱水等の贅澤用は一切之を斷水せしめたる有様に有之、近年になき好き土用に御座候。關西地方の一部と北陸道とには一回豪雨有之候も其他の地方は概して東京と同じく晴天打續きたる事とて或は旱魃を訴へ水論雨乞等に騒ぎたる地方もあれど要するに好順氣にて稲は平作の三割上作即ち六千万石の收獲を豫想され居り候。斯く日本唯一の産物たる米の上作の見込立ちたるに係はらず尚ほ東京及地方共に不景氣に候は、稅制の宜しきを得ざると貨幣の濫増の結果に外ならず候、されば過日來は田舎の盂蘭盆會等ありしが何地も例年の如く賑しからず候。五六年前迄は東京を出ること僅にして涼しき稲風に送られ來る盆踊の優暢なる音頭を耳にするを得たるに昨今は此の俗も警察側より風俗壊亂として干渉する爲めに次第に亡び行き、蕪村の「四五人に月落ちかゝる踊かな」の趣は最早見る事を得ざるは遺憾千萬に有之候。都にては料理屋とか待合とかにて頻りに風俗壊亂が行はれ、且つ吉原と云ふ公娼地が寂れ行くに反しそこらの横町に首將軍横行し、到處に風俗壊亂は盛に行はるゝ様相成り候に係らず之等は少しも取締られずして、却つて一年に一回の盆踊が風俗壊亂で取締らるゝは其意を得ざる次第に候へ共、日本の政治は兎角に此調子、弱い者虐めにて困る事に候。一故國を去る三千里外の御地方にて此の盆踊の俗を開始し、大に踊つて米人を驚かし呉れては如何にや、敢て風流の紳士淑女に御相談申上候

▲前便にも一寸申送りたる桑港博覽會參加問題は昨今愈々やかましく相成り新聞紙の中には堂々社說を以て參加を取消すべしと論ずるものさへ有之候。其要旨は、同博覽會に參加するは在留邦人及一部當業者の利益あるも而かも國家全体の體面を棄てゝ一部在留者及當業者の利益を計る能はず、若し之に參加せんか、米國人は愈々日本政府を見くびるに至るべし、故に斷乎として拒絶し、日本人の意氣地を示すに若かず、一部人士の利益を犧牲とするも止むを得ざる次第也と云ふに有之候。此說は頗る人氣に投じ居り當局者も未だ決しかね居候へども、今日より參加するも豫定通りの日本式大庭園を作るの餘日も無之、且つ出品勸誘も好果を奏せざるべく、結局參加取消の方が利益ならんと考へられ居るやに聞及候。併し又一部人士は、仇を以て仇に報ゆるは野蠻行爲なり、米人が吾に仇を加ふるも吾は飽迄も正義人道によりこゝに對はざるべからず、此の如き機會を利用して以し此の人道を示し、之に參加して一方は吾の飽迄も仁義を重んずるを明かにすると共に他の一方には吾文明程度を彼れに示し、決して吾を排する理由あらざるを實物を以て彼米人に自覺せしむるを得策とすと主張する人も有之候。蓋し之れ所謂王道なるべく候へ共此參加說は極めて人氣乏しく候

▲支那問題は混沌として尚ほ大勢の定まるもの無之候。尤も目下尚ほ頑強に對抗しつゝある南京の革軍も、首領なき事とて到底天下を制すべくもあらねば結局は北方の袁世凱が政策成効し一時少康を得べしと觀測せらるれ共、さりとて少しも安心は出來ず警戒を要する事勿論なれば、政府並に有志者も皆注意を怠らず候。今回の動亂に於て袁世凱が奏功したるは言ふ迄もなく列國の借款に日本の與つて力あるは隱れもなき事實に候、然るに拘はらず、南方革黨の屛息するや、袁世凱は早くも日本政府に對し惡聲を放ち、排日の傾向一般に現はれ居るよりして、最初より嚴正中立を主張したる民間政客は、頻りに政府が袁世凱を過信し政策を誤りたるを攻撃致し、由來袁世凱の反覆常なく日本に好意を有し居らざるは廿年以前より知れ切つたる事なるに、政府は之を考へず、彼の爲めに借款に盡力し以て吾商業上の大得意地たる南方の惡感情を買ひたるは取り返しのつかぬ失態なりと迄も切論致し居候。此事は何れ此冬の議會に提出され質問さるゝ事と存候。

▲原内務大臣、高橋大藏大臣は山形及東北地方に巡遊し、山本農商務大臣は北海道に赴き、何れも政友會の黨勢擴張運動を爲しつゝあり到處好人氣にて以前に新政黨の後藤新平男や憲政擁護會の犬養尾崎氏等が遊說せし場所を一々に覆して歩行きつゝある全盛に引替へ、擁護會は其後は火の消へたる如く、尾崎行雄氏等も多少行惱みの体にて新政黨も亦餘り氣勢擧らず、此處現政府否な政友會の万歳を唱ふる外無之、斯くて現閣は尚ほ壽命を保ち可得と被存候。併し昨今の豫算編成期に於て現に陸軍の二個師團増加の問題にて多少は行惱み居るものらしく候、此問題は陸軍の豫定の事とも云ふ可く、陸軍部にては整理金のみにて新たに經費を要求せずに之を實行せんの意あるに對し、山本首相は、斯くては陸軍の整理なるものは一も之れ無き事となり、海軍と權衡を失すとし、前の西園寺首相と同一の意見を抱き居るとの事に候へば、少くとも此問題は現閣が此年を越すに就ての難關たるべく候へ共、而かも此問題のみにて内閣瓦解する如き事は千萬可無之と觀測され居候、果て然らば愈以て山本内閣は萬歳に候。

▲武州所澤の飛行隊にては關東平野大飛行と云ふを計畫致し去十八日より第一日は土浦行、第二日は宇都宮行、第三日は足利行、第四日は横濱濱行、第五日は横濱行、第六日は高崎行といふ日程にて日本にては先ず開闢以來と可申大飛行をなすこと相成り第一日の去十八日には長澤中尉の操縦にて出發し、豫井の土浦を越へ長驅して水戸に入りたるは可なりしも、歸途墜落し、幸に人間に怪俄なかりしも、飛行器破損せしため第二日よりの飛行も全部中止致候。右の航空距離は百二十基より二百基の間なるがまだ／＼日本にては是が大飛行に有之候。世界の各强國に於ては飛行機は既に實用の期に入り居れるに日本にては未だ輕業の域を脫せざるは慨嘆に堪へず候、

▲天皇、皇后兩陛下には去十八日御出發日光田母澤御用邸へ行幸啓あらせられ候。還幸は九月中の御事と承り及び候。

▲一昨日來やゝ秋冷を覺へ申候、向島百花園の萩が咲き初め、是れより正宗の味うまく相成可申候匆々

投書籠

▲日本人は凡て劣等人種なるかの如く思惟さるゝは排日の原因に與つて大なる所、然るに近頃迄「生捕りの野蠻人」として觀世物に供せられたるフキリツピン人を日本人なりと僞證し働口を周旋する日本人桂庵があるは不都合千万ではないか、僕は在米同胞全体のため場合によつたら斷乎たる處置を取る決心だ（學僕生）

▲獨りで新育なる題下の通信文中最も振つとるのは、梯子段を上つたり下りたりしてゐる黒鼠が猫に追はれてドツコイショ、を遺憾なく描寫しとる邊りで、流石支那街通の吾輩も成程と感心した、ヨイショ色男記者（一讀生）

▲道樂の中にも色々あるが其上旬ツブン値のきくのは寫眞道樂だそうだ。五六年働いた儲金をすつかり寫眞道樂に注ぎ込んだ御蔭で旅費だけ持て歸國した一知人は北海道に出掛け米國寫眞學士の大看板を揭げ大繁盛を極めて居る（無道樂）

▲不慮の災禍に罹り異郷の露と消へし今井古賀の両氏遭難記事を讀みて予は同情の念に堪へず血涙禁ずる能はざりし、臨終の際に於ける古賀氏の一糸亂れずグツトバイを連呼しながら從容永き眠につきし壯絶悲絶なる物語を聞くもの誰か泣かざらんや嗚呼悲し、謹で吊意を表すると爾云（胞）

▲先週兩新聞の誤字を拾つた一閑人があつたが、日米の經濟論新報の政治論にもウンザリする。それより如何にせば早く成功が出來るか、如何にせばイヽカヽが持てるか位を指導してもらう方が新育の如き無味乾燥の天地に在る吾々には餘程インテレスチングだ（ハイ）

▲夏場もコヽ數日のうちに終りを告げるのだが今歳もあまり面白くないチンボール君やダラー兵衛殿が大分居るそうだが今の内は冬場をやるからですむもの丶、節季が詰つて閙屋をクリスマスの會合はどうなる事やら（店小僧）

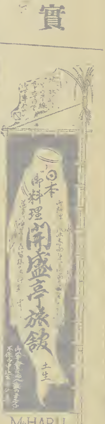
新育日本間 郵便發着表

ニユーヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
マヌカ號	桑港	九月十二日
ナイル號	同	九月十五日
靜岡丸	沙港	九月十八日
ジャパン號	晩香波	九月十九日
ミチソタ號	沙港	九月廿四日
日本丸	桑港	九月廿五日
モンゴリヤ號	同	九月廿六日

●日本より到着日

九月六日　同九日　同十六日
同十七日　同廿五日　同廿七日
同廿八日　同卅日



THE JAPANESE TIMES

紐育新報

東京の騒擾

歸朝雜感



日英同盟始末

更に三名入閣

●支那内閣改造

●徴兵忌避糺彈

●米作依然良好

○排日問題一斑





紐育の此頃

ダンエー戯評

本社營業部

▲諸印刷物

▲日本行汽車汽船

▲切符取次

▲手紙取次

▲各國語飜譯

▲通辨

紐育新報社

郵便發着表

生前左右論

四十女の

愛と少青年

婦人の四十

日米戰爭

日露未來戰

ナイト

寬爽録



THE JAPANESE TIMES

紐育新報

THE JAPANESE TIMES

聯問使の報告に就て

見の資格を生ぜしめんとするの嫌あるは吾人の甚だ遺憾とする所なり……吾人が茲に言を寄して……

……は事實として事を爲せしめよ、粉黛萬疊、綿繡百端、徒らに……の少許に安せんとする……の根本要義ならずや



和歌 五峯

落日の窓にもたれて物おもふ

今日この頃を誰と語らん

歸朝雜感

高峯博士談

▲五年振りに歸朝して第一に……事は横濱に上陸して東京に至る……

●柴中將支那談

●牧野外相の演說

●發行者自白

●過激派内閣更迭を迫る

日本に對し極めて冷淡なり

●巴西移民の

歸化權獲得は殆ど絶望

訴訟の提起は寧ろ見合すに如かず

東京評信

●秋期大會

●キノ…

●中田通譯殺さる

●日米…

▲慈善演藝會▼





善罵劍

▲新しき事業を企畫する者あるや是等の輩は其事業の性質如何を究むる事なく直ちに得意の破壞を試みんとするなり、林富平君により企畫されたる母國訪問團の如き不幸にして彼等鼠輩の妨害に會ひ中途にして退團者數名を出したるが爲君は經濟上不勘損耗を招くに至りしと聞く、利害の觀念を眼中に置かず飽までも當初の宣言を實行せんとする君の勇氣は賞すべく君を窮地に陷れんとする奴輩の心事は可憐となす

▲近時在留青年社會の腐敗墮落を歎ずるの聲高し……以て適應の救濟策を講ずるの必要なきは更に大に疑ふ……宗教團體は下積に非ず……善女の寄附金募集等のみにて非ざるなり、當事者たる者起て大に降魔の利劍を揮ひ……

●谷中村の義人田中正造翁死す

谷中村……田中正造翁は……下羽田……四郎方にて……四日死去せり……

▲父と共に……

▲東京……

▲買収事件起るや……四十二年以來は専ら……谷中村

●移民問題の……國交上……外交問題に對して……

投書欄

◎旅券讓渡

◎桂庵業と希望の人へ

大和

御禮廣告

本社營業部

諸印刷物

▲日本行汽車汽船切符取次

▲手紙取次

▲各國語翻譯

▲通辨

紐育新報社

新着郵便發着表

船名		
ニューヨーク本局		
日本丸		

博文堂

日露未來戰

生殖左右論

四十女の……

戀と年少青年

歳婦人の四十

懇切告白

藤井旅館支店

御下宿 中川

歯科

御下宿 中島商

旅館 朝日

料理 柳倉

日本食料品

横濱正金銀行

The Yokohama Specie Bank, Ltd.

御注文の好機

坂野洋服調製所

M. M. SAKANO, Tailor

菊地

TOYO SAKURAI

東洋旅館

支那料理

食堂

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly
JAPANESE TIMES Co.

英國の態度

▲支那の…

●柴中將支那談

●日本の對支政策

●慈善演藝會

東京評信

新開業

○鍋類すき燒
○うはじる粉
○わ菓子るい

正午十二時より夜十二時まで

井づつ

✚診察時間

高見豊彦

御下宿

NIPPON YUSEN KAISHA
Japan Mail S. S. Co. Ltd.
Tokyo, Japan.

職業周旋所

CALDWELL & CO.

日本雜貨一賣

西村高等旅館

會席御料理

若松

大正館

貨物輸送

日米人事務所

新荷着

御下宿

東京館

飛行界の此頃




阿部局長遺聽

詳報

投書欄

大會の婦人演說

▲觀たる日本人を

本社營業部

▲諸印刷物

▲日本行旅券査證

▲切符取次

▲手紙取次

▲各國語飜譯

▲通辨

紐育新報社

郵便發着表

紐育新報

對支方針

[illegible]

○政界危言

[illegible]



●支那共和國承認

[illegible]

▲紐育茶話會▼

[illegible]

日米新交渉説

桂公遂に薨去

●觀光團の方針

Statement of Ownership... of THE NEW YORK TIMES (Japanese), published weekly at New York, N. Y. ... of August 24, 1912.

Editor ... K. Kai ...

Managing Editor ... K. Kai ...

Business Manager ... A. Sandburg ...

Publisher ... Japanese Times Co. ...

Owners ... Japanese Times Co. ... K. Kai ...

Known bondholders, mortgagees, and other security holders ... None.

Business Manager

Sworn to and subscribed before me this 24 ... day of ... 1912.

Notary Public N. Y. Co. ...

(My commission expires ...)

御禮廣告

林富平

旅館讓受廣告

下宿

やまと

地所家屋賣渡し

●排日問題概

貝爾傳道所

●外交官と大使館

▲▲日本人[illegible]

▲本社營業部

▲新聞廣告

▲日本行汽車汽船切符取次

▲手紙取次

▲各國語飜譯

▲通辨

紐育新報社

郵便發着表

生殖と不妊論

婦人の四十

愛と四十女の

青少年に

日米戰爭

日露未來戰

ナイト

博文堂

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave, N. Y. City
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
[illegible] $2.00 One Year
Postage included
Entered at N. Y. Post Office as second class matter under act of March 3rd 1879

新刊紐育新報定價（前金郵稅共）一ヶ月分[illegible] 一ヶ年分金二弗
千九百十一年[illegible]郵政省認可
發行兼編輯人　甲斐健一
發行所　紐育新報社
紐育市第六街二三八
電話チエルシイ六四七三

●謬れる故國の同化論

排日土地問題の發生以來故國人士の米國及在米同胞に關する智識著しく[illegible]し就中移民の同化問題乃至兒童教育問題に對する識者の意見は稍や[illegible]を帶び來り「土着永住をなすべし米國の風俗習慣と同化せざるべからず」とは等しく其一致する所となり來れり、斯は畢竟するに在米同胞の發達は昔日の移民政策や若くは偏狹なる國家中心思想を以て其目的を達し難きを自覺したる必然の結果なりと云はざるべからず、然るに吾人の先輩「萬朝報」記者は其同化論に於て吾國民性を沒却するとの不可を論じ

排日問題を視察し同胞を歴訪して歸れる添田、[illegible]兩氏を初めとし我在米同胞の同化力乏しきを嘆ずる者不尠、而かも其偏狹なる社交性の[illegible]ざる所以を論せり、然れども其所謂偏狹とは故國を懷しむるの情に由來てしものにして此感殊に濃きは吾同胞の特性なり人類相寄りて共同の生活を營む以上之に同化するの必要あるや論なきも今日の如き國家的社會を爲せる狀態に在りては一國民をして全然他國民に同化せよと唱ふるは社會主義の夢想を實現せよと言ふに同じ日本人の到底忍ぶ能はざる所なり、況んや主義を知らざる國民に同化するをや、之れ移民に非ずして歸化を勸むるなり、同化に非ずして服從を強ふるなり且同化力に富むと稱せらるゝ佛蘭西人の殖民政策が何れに在るも其本國の國語を忘れず其移住地の日用語をさへ知らんと欲せざる英吉利人の殖民政策に比し遙かに成果の擧らざるが如きは所謂同化力の必ずしも移民成功の秘訣に非ざるを語るものに非ずや

論じ且「移民は一種の國家的運動にして其發展は國民元氣の消長に關す」「愛國心を放棄せよと云ふは日本國民の所為に[illegible]を反對す」と說けり、即ち萬朝記者は在米同胞を以て飽迄も記者の所謂「在外の適當なる吾民」たらしめ吾國家政策の運用に供せんとするものにして米人の排日理由として主張する「米國領土内に一帝國の存在」を實現せんと欲する意見なり、若し此所見が一個人の口より出でしものならんには吾人亦何をか云はん而かも平常進歩主義の鼓吹者を以て任ずる朝報記者の口よりして此言を聞くは甚だ意外の感なき能はず、殊に此謬れる移民論が日米交渉の失敗に激せる吾國民の在米同胞觀に悪影響を與へん事を怖るゝなり

吾移民政策を論ずる者の第一に心得ざる可らざる事は吾在米移民に對する政策は之を十六世紀時代に於て歐洲諸國が施せる政策と大に其趣を異にせざる可らざる事之れなり、云ふ迄もなく往日西、和、英、佛の諸國が、野蠻未開の地に移民を送りし時代にありては移民地を制服し土着民に母國の[illegible]を移植するを目的とせしが故に移住民其者は故國同化の必要を[illegible]しと雖も吾等日本人の移住地たる米國は既に嚴然たる國家的機關を有し國民の生活は自國以上の[illegible]にあり、斯の如き移住地に對して積極的に其國家政策を實現せしめんとするは時代の推移と移住地國民の文野を混同せる謬論に非ずや、更に吾人か朝報記者及其所說を同うせる人々に注意し度事は諸氏が如何なる手段方法を講じて在米同胞を永久に「在外の日本國民」たらしめんと欲するも畢竟徒勞に屬す可きこと之なり勿論歷史的將た遺傳的に薰育された吾在米同胞の愛鄉心が歐州移民と異なり一代にして同化せず、排日論者の口實多く此点に存する事は事實なるも試みに其子孫たる米國出生の本兒童の狀態を研究すれば思半ばに過ぐるものあらん、彼等は華族とは如何に貴きものか大勳位とは如何に難有ものかを辨せず、巧みなる英語もて其母を買物に導けども親孝行は十八歳迄にて[illegible]なりと心得るなり、即ち彼等は純然精神的に米國化したる日本人なりと云ふを得べし、[illegible]る在米日本人に對し一時と場所とを異にせる英吉利西人の殖民政策を應用し以て國家政策の運用に供せんと欲するが如きは偶々以て米人の反感を激層せしめ在米邦人の發達に幾多の障碍を齎すの惡結果を招くやも知る可らず、祖國を愛し其發達を冀ふ赤心に於て現時の在米同胞は敢て人後に落つる者に非ず、而かも偏狹なる國家中心思想が具體的形式に現はれて米人の排日思想を高からしめたるは既往に於ける在米同胞自身の經驗に徴して明かなりとす、吾人は萬朝報と其所說を同うする人々が[illegible]年頭更に一歩を進めて其思想を開展し新たなる人口過剩處分法、吾民族の世界的發展に向って努力せる所あらんことを希望するものなり

●アルトマン氏の逝去に就て

千本木生

富豪アルトマン氏の逝去に就き九千萬弗の遺產處分法が世人の注意を惹きたるは氏の遺產處分の方法なり、然り氏の遺產處分法は社會主義に傾ける近時の學者の主張する博愛主義を實行せる一例にして大に注意す可き價値ある事と共に吾人は更に氏が[illegible]の商人として[illegible]特種の權勢に屈從せず[illegible]して一大成功を成せる事實より學ぶ處なかる可らざるなり

近時經濟學者殊に富米國經濟學者の頻りに所說せる所は、現今米國に於て大なる財產を作らんとする者は、總て政界に有力なる政治家と結托し法律上獨占專有の權利を得るか、若くは之れと同一の結果を收め得るトラストを組織するに非ざれば[illegible]はずとなすもの如し、然り吾人は現今の獨占事業なる者か財力を比較的少數の富豪に歸せしめたる[illegible]を認むる者なりと雖、以上の方手段に出づるにあらざれば事業家として成功する能はずとなす[illegible]は吾人は[illegible]せざるを得ず、アルトマン氏の例は能く之を證し、余りあるに非ずや獨占事業說流行の結果として多數の世人は各その不了解を認識し[illegible]社會主義に[illegible]る傾向あり、吾人は斯る論者に向ってアルトマン氏の成功に就きて一考すべきを勸告せざるを得ず、アルトマン氏の成功は普通事業家の[illegible]條として服膺す可き勤勉鋭進主義を實行せるに過ぎず、氏の取扱ひたる商品は何等專有の性質を有せず又其事業の性質は他に競爭者の創業を[illegible]化し得る者にあらざる事は敢て詳述するの要なし、吾人は氏一人の成功を見て此說を述ぶる者に非ず、氏と同種類の營業に從事して成功したる者、米國を通じて觀察せば[illegible]に枚擧に遑あらず、社會の進歩と共に言論の機會は益々增進せられ千變[illegible]、近時マーシャル、フィールド、ワナメーカー[illegible]大富豪の如き、若くはロックフェラー[illegible]氏が僅々十數年間に二三百万弗の富を爲せし如き本より[illegible]トラスト說に[illegible]して[illegible]々單純なる物品[illegible]により[illegible]爲されたる成功にあらずや、吾人は余りに[illegible]トラスト說に重きを置きて自己の[illegible]業心を失はざらん事を希望す

●米墨關係又險惡

▲ウエルタ將軍のクーデーター

▲百十名の議員を投獄す

去十日の墨國議會は過般現內閣の無能を極端に攻擊したる上院議員ドミンゲッツ氏の行方不明に關しウエルタ臨時大統領に向って嚴密なる調査を要求し若し容れられざるに於ては議會を解散し他の場所に於て會議すべしとの意向を示せしかウエルタ將軍は[illegible]會の行動を以て行政司法兩權の權域を犯せるものとなし數百の軍兵を以て議會の內外を取圍ましめ該決議案の撤回を要求したる後百十名の議員を拘禁して二獄に投じ、政廳及市內の要所[illegible]には[illegible]砲、軍糧彈藥等を配置して不時の[illegible]變に備ふるに至れり、ウエルタ將軍は過般米國政府の要求に屈服し自分は來る廿六日の總選擧に候補者たらざる可きを約したる結果、米墨關係は一時小康を得たるの觀ありしが今回のクーデーターにより又々險惡の兆候を呈し來れり、即ちウィルソン氏はウエルタ將軍今回の行動を以て[illegible]に對する不信の行爲なりとし且如斯情勢の下に執行せらるゝ可き總選擧が公平を保ち難きは勿論[illegible]て米國政府は其結果を承認し能はずとの嚴重なる通牒を發し目下墨國政府の回答を待ちつゝあり

●又もや悲慘なる洋上の慘劇

コラ[illegible]ヤムラインのヴォルチュルノ號は般客六百五十名を載せロッタダムより紐育に向け航行の途中去九日夜突然火災を起し極力防火に努めたるも其効なく翌朝六時遂に沈沒したるが同號船は[illegible]火の望なきを悟るむると同時に無線電信を以て四方に救助を求めたる結果當時航行中なりしカーマニア號外九隻の船舶は直に馳せて遭難船に到り勇敢に救助に努めしため五百廿一名丈は無事なるを得たるも餘の百廿餘名は不幸にも行方不明となれり[illegible]去十三日以來[illegible]救助船にありし[illegible]其悲絶凄絶な[illegible]が聞くだに傷[illegible]心の[illegible]みならずと云ふ可し

●紐育飛行の結果

已報の如く新育タイムス社の[illegible]飛行は去十三日[illegible]擧行されたり、當日は[illegible]天候に風力意外に強く擧行時刻に[illegible]に從ひ益々其度を加へ來りしより實行如何あらんかと心配せしも多かりしが勇敢なる五名の新進飛行家は午後三時三十三分を前後して[illegible]豫定の如くマンハッタン島を一周して出發點たるオークウード、ハイツ練習場に歸着し上競爭したり尤も前記の如き天候なりし[illegible]二千餘の[illegible]觀覧者等も[illegible]位置を保つべき[illegible]頗る[illegible]如く[illegible]附近に[illegible]の如き強風力に抗し[illegible]左右に廻轉して容易に進まず[illegible]上に[illegible]る數万の觀客は手に汗を握りたる位なりき、各競爭者の飛行時間と新育タイムス社の六十哩競爭懸賞金を得たる人々は左の如し

一等　懸賞金千弗　ラッケー氏　五十二分五十四秒
二等　七百五十弗　ナイルス氏　五十四分五十五秒
三等　五百弗　ウード氏　五十八分十九秒
[illegible]時間九分六秒　キルパトリック氏
[illegible]時間十四分七秒　ジャンナス氏

●新育州知事革職

職權亂用、選擧費惡用其他八ヶ條の理由を以て州會より彈劾を受けたる後彈劾裁判に附せられ爾來審理中なりし新育州知事サルザー氏は去十六日愈裁判確定し有罪の宣告を受けて革職せらるゝ事となれり

●非島獨立方針　民主黨の政綱たりし非利賓獨立問題は愈々ウィルソン氏の政策として明確に發表せられたり、即ち今回非島總督として新たに任命されたるフランシス、バートン、ハリソン氏は去六日着任と同時に左の宣言をなせり

米國政府の方針は米國自身の利益を目的とするよりも寧ろ土着人民の幸福繁榮を企圖するに在り、而して今後施設せらる可き事業は其何事たるを不問凡て非島獨立の準備として決行さる[illegible]其第一着手として土着議員を增員さるべし、吾等は非島人民が一日も早く獨立に應ずるの準備成らん事を希望するものなりと云々

●モンロー主義を棄てよ

新育ヘラルド紙は墨國問題を列強との協商によりて解決すべしと提議せしが、西米戰爭當時駐西公使たりし目下ルイス、ブィルコーリヤ、ジョナル紙持主なるワターソン氏は此提議に同意し曰く、吾米國人の多數は實際の政治に就て殆んど盲目なり、モンロー主義は早く既に其使命を終へたり北アメリカを英國と分領し居る吾等が米大陸に帝權を認めずといふが如きは抑も陳腐なる思想ならずや、米國は一日も早く此の提案を容れて歐州列強と共にウエルタ政府を承認して墨國問題を解決すべく然らざれば事態は益々紛糾し來りて米國獨り困難の地位に立たざる可らざるに至らん

母國の此頃

▲外交無能の聲　日米問題乃至對支問題に對する故國新聞の論調は頗る激烈を極め政友會派を除くの外筆を極めて現內閣の外交無能を攻擊して居る、官僚派の味方たりし國民、二六等が復讐的態度を以て現內閣を攻擊するのは當然として黨閥以外の大朝は九月十八日紙上「外政根本の振作を要す」と題し吾當局者が無事の日に備ふる事を爲さず、事起りて俄かに狼狽するの結果國民を憤慨せしむるを難じ、大坂每日は連日の紙上極めて峻烈なる筆鋒を以て「吾外政の振興上、外務大臣を更迭するは刻下の急務なり」と迄論じて居る

▲支那問題に對する新政黨の態度は明確ならず、幹部領袖連中加藤男の如きは本問題に關し現政府に警告を與ふるは可なれども政爭の具に供すは不可なりと論ずる一方大石氏や末派少壯派は極めて强硬なる主張を爲したやうである

▲支那紙幣百萬圓僞造事件　の裁判は去月十八日東京地方裁判所で開廷され被告の一人なる前警保局長古賀廉造氏も審問を受けた、氏は刑法學者として嘗ては帝大其他の私立大學に教授たり又永く大審院檢事として司法界に重きを爲した人だけに氏の平素を知る者は勿論世間は皆驚異の眼を以て本件を迎へ傍聽は當日早朝より押掛けた爲に開廷時刻前既に滿員となつた

▲僞造事件の張本　は古賀氏と同縣同村にて乳兄弟の間柄なる古川武一外數名にて目下香港ブイクトリア監獄に服役中である、さうして古賀氏の嫌疑といふは古川が計畫成功の曉には三十五万圓の報酬中から時の安樂警視總監に二万圓。古賀氏に六万圓を與へるといふ約束をしたと云ふ事と、古賀氏が本件を鑑定して「中華民國は未だ國家と稱すべきものに非ず從て此紙幣製造は恰かも繪端書同樣のものなれば法律上差し支へなし」と助言したといふ二つにあるらしい次回の審問は去月廿七日に開かれた筈である

▲大隈伯の元氣　大したもので九月中に北陸漫遊をなし到る處大氣焔を吐いて居る、高岡から仙臺に向ふ途中の滊車の中で新聞記者を煙に卷いた氣焔の如きは轉載して讀者諸君の溜飲を下げ度い位であるが餘り長いから止す、兎に角五十回演說の豫定を七十回もやつたと云ふのであるから其衝天の意氣には實に驚かざるを得ない

●即位式と電信電話の增設　遞信省にては明年秋朝京都に於て行はせらるべき即位式には遞信事務非常に多忙を極むべきを以て之が取扱に遺憾なきを期するため東京京都間に電線を增置する外種々の設備をなす筈にて追て關係當局との間に具体的協議を爲して決飛すべく經費は小規模のものとせば廿万圓位に過ぎざるも完全を期するに於ては八十万圓位を要すべしと

●大連日支記者大會　第二回東三省日支記者大會本會議は去月廿三日午前八時より開會し一同記念撮影を爲し金子氏會長席に就き會長の式辭大內民政署長其他の祝辭各大臣兩院議長桂公後藤男其他の祝電百餘通を披露し正午一先づ休息午後一時再開兩國記者の演說あり、演說後各種提案に付審議の結果左の決議案を可決し午後六時半散會し晚餐會に移れり

▲第一決議　東三省記者大會は言論自由の主義を尊重し將來不法なる言論壓迫に對しては互に擁護する事を決議す

▲第二決議　奉天記者提出案東亞の時局は益々日支言論界の統一的活動を急とするものあり大會は全員一致を以て茲に次の決議を爲す　一、大亞細亞主義を取る事　一、領土分割に反對する事　一、經濟的同盟を主張す

尙ほ來年四月奉天に第三回大會を開く事となれり

●橫濱に眞症ペスト現る　橫濱市足曳町一丁目十一當地兒玉友治方同居伊勢崎町署巡查坂本清一氏(四一)が十六日突然發熱し十七日に至るも熱度降らざるより缺勤し南吉田町の醫師關惟義氏に診斷を乞ひ引續き治療中なりしに十九日午後四時遂に死亡したるが死因に不審の點あるより關醫師は其旨伊勢佐木署に報告し警察本部よりは警察醫を現場に出張せしめて死体の檢案を爲せしにペストの疑ある事を發見したれば直に之を細菌檢查所に報じ防疫官出張殆体より血液を取り細菌の培養試驗を爲し廿二日午後眞症ペストと確定したるが發生の原因に就ては目下取調中なるが神奈川縣廳衛生課長石田善吉氏の談によれば今回のは突發生のものにて今後の傳播はなかるべしと

●法制局長官更迭　行政裁判所長山脇法學博士は去六月十三日依願免官となり同長官の椅子は久しく缺員の處廿日左の如く新任併せて法制局長官の更迭發表せられたり

任行政裁判所長官（一等）　法制局長官　岡野敬次郎

任法制局長官（一等）　朝鮮總督府司法部長官　倉富勇三郎

●東洋語學校設立案　東洋貿易の發展に資するため大坂商業會議所は右に關し十九日夜委員會を開き協議の結果別に單獨の語學校を創立するは經費の許さゞる所なるを以て先づ市立高等商業學校に交涉し同校內に東洋語學部を創立せしめ支那語馬來語を始め其他の東洋各國語の教授を開始する事に決定し今西林三郎氏を委員長とし四名の委員を擧げ之が交涉に當らしむる由

●公衆無線電話實施　遞信省式無線電話は此程より屢實地試驗の結果愈有効と認めたるを以て本年度より一般公衆用として實施する事に內定したる由なれども船舶並に各無線電信局に特種の技術者を置くや否やは未定なれど是の實施費用は僅に廿萬圓內外に過ぎずと

●長春の排貨計畫　廿日三井物產長春支店より同地方は日本商品に對しボイコットを行ふの計畫ありとの報ありしが滿洲地方は本年は旱魃にして農產物凶作のため一般に景氣沈靜せる折柄ボイコットをなせば益々不況を招く基なるを以て支那商中には反對の者も尠からず假令實行せらるゝも決して恐るゝに足らざる可しと云ふ

●日英銀行解散　日本橋區通二丁目の資本金拂込二百万圓の日英銀行は我國に創立せられたるは八年前の事なるが昨年五月業務發展の目的の爲に日宗生命の營業所を買收の上現所に移轉したるも其營業方針の我が商習慣と相容いざるものありて業況兎角振はず今回解散に決し一兩日前を以て主務省に對し屆出の手續を了したりと尙同行は從來第百銀行を親銀行として東京手形交換所の代理交換に加盟し來りたるが解散の結果廿日限り代理交換解約となれり

●女子學院の內訌納まる　女子學院長矢島楫子女史は本年八十一歲の高齡なるも矍鑠として壯者を凌ぐ程なるが去月九日突然宣教師會へ辭職を申出で後任として學監三谷民子女史を推薦したり、事の起りは去八月中女史が北海道に避暑中學院より來狀あり、從來學院に對する女子の功績を感謝したる上牧師校長が退隱する時に捧ぐる最高尊稱プレシデントエミリダスを呈し尙年金若干金を贈呈せんとす引繼は多分十一月頃ならんと云ふ意味にて言辭頗る不遜を極め同女史歸京後正式の辭職勸告狀を受取りたる結果愈々辭職したる次第なるが同學院出身者はミッションの冷酷なる態度に憤慨し就中內外人の學院關係者間に勢力ある中島力造氏夫人、長谷川タキ子女子等は一方宣教師側の意見を聞きたる上更に矢島刀自の歸校を勸告する等百方盡力したる結果双方の意志疏通し刀自は依然校長として留任する事となり紛紜は無事に落着したり、同院は明治十四年女史が創立してより費用は總て宣教師會より仰ぎたれど學院の全權は一に女子の手中に在り既に一千餘人の子女を社會に出したるが最近女史は院務の全權を弟子にして又宣教師間に評判善き學監三谷民子女史に一任せる嫌ありたると一面には學院の程度を高め[illegible]大學に[illegible]議宣教師會に起りたる爲め此際[illegible]にして英語を話し得ざる女史に對し暗に辭職を勸告したる譯なりしと

●文科大學の內職禁止は虛[illegible]　上田文科大學長の談に曰く、近來大學教授內職禁止の說頻りに傳へらるゝも全く跡方もなき虛報にして思ふに今夏山川總長より內職報告を徵せられたる所より斯る揣摩臆測の說を生じたるに過ぎざるべし素より文科大學教授中にも各方面に內職を營みつゝある者は決して少しとせず若し內職の爲に大學教授の本分を閑却し若くは之が爲に內職先に於て或は大學內に於て不許を來たすが如き事あらば余の如きも極力此內職の弊を除かん事を欲する者なれども等しく內職と云ふも其の範圍や極めて廣く官公立學校に兼職するも私立學校に教授するも又雜誌の原稿を書くも一種の內職にして一概に內職禁止は絕對に不可能の事なりと云はざるべからず是は程度の問題に屬し從つて學校又は文部省より命令を以て禁止すべき事項にあらずして教授自身の德義心に訴ふべき性質のものと信ず又教授淘汰の說も文部省の希望如何に係らず當分何等の異動なかるべし

●日本兒童出生率

▲白人十一人に三人の割合
▲土地法も之には敵し難し

桑港に於ける加州知事ジョンソン氏の機關新聞ブルチン紙が櫻府特報として傳ふる所に依ればサクラメント郡に於ける日本兒童の出生率は非常に多く前週の如きは同郡に屆出でられたる出生屆出の中四分の一以上は日本人にてサクラメント市衞生局にて調査せる統計に依れば出生兒童十一人の中三人迄は日本人の割合なりと即ち九月廿一日より同廿七日に至る一週間に出生登錄を爲せる兒童廿二人中六人は日本兒童なりしと右の如く日本兒童出生率の甚だ高きは白人間に多大の驚怖を與へたるが如く同通信は左の如き報道を附加へたり曰く日本人は前州會を通過したる外國人土地所有權法により市民となる事を得ざる理由を以て土地所有權を奪はれたるも當國に於て出生したる彼等の兒童は當然市民權を有し從つて自由に土地所有を爲す事を得べきを以て現在日本人の所有する土地は依然として日本人の手を離れざるのみならず日本人兒童の增加と共に日本人所有の土地は益々增加するに至るべし聞くが如くんば日本人は土地法打破の方法として土地を購入せんとしつゝありと誠に寒心に不堪云々

●フロリダ州の排日運動　國務卿武雷安氏の從弟に當るゼンニング氏は其所有地に日本人を移住せしめんと企畫中なりとは豫て聞及ぶ所なりしが此說一度世間に傳はるや同地方の有志家及び選出議員クラーク氏等俄かに排日運動を開始せり、在フロリダの社友より寄せたるタムパタイムス紙の社說及び同州排日派の意見を湊合すれば同州は現に黑人問題に苦しみつゝあるに更に他の異敎徒を誘ひ來りて新たなる人種問題社會問題を起さんとするは迂愚の極なり、フロリダ州は白皙人種の樂土たらざるべからず、と全然加州問題當時の排日理由を轉用しつゝあり、尙クラーク氏は州知事ツランメル氏に臨時州會の召集を要求し排日土地法案を通せしむべく運動中なりと云ふ

●母國中部地方風水害　和歌山縣大坂府名古屋地方並に福井縣方面に風水害あり例により損害悲慘を極むるも汽車及通信機不通となり樣子明かならず

●東京市民の大祝賀準備　來る天長節祝日には全國民盛大に之を奉祝する希望にて殊に東京市にては當日國民大行列其他盛んなる催を試むる計劃あり目下其準備中又來る十六日より早稻田開校三十年記念會を催す都合なるを以て市內活氣橫溢の趣あり

●大寫眞館開業　岡田猪之吉氏は今回西四十二丁目百三十六番に最新式寫眞館を開業し大小各種の注文に應ずべしと云ふ

●亞市通信　同市日本人會は本月二日午後七時近藤會長私宅に於て定期大會を開けり、來會者十八名近藤氏の開會の辭、林專任幹事の事務及會計報告をなし、天長節祝賀會開催の件、貯金獎勵團設立其他二三の重要事項を議し、役員の改選を行ひたるが左の諸氏當選、十一時散會せり

會長　近藤佐重郞　幹事　手塚米一
林鐵次　大谷政吉　加藤菊次郞
內山万次郞　水谷涉三（在森村組）

△河合、若宮兩氏歸朝　林商店員河合孝吉、茂木桃井組支店若宮彌助兩氏は母堂見舞として來卅日桑港發船春洋丸にて歸朝の筈（狂水生）

●內國債償還　本紙第三面橫濱正金銀行出張所特別廣告を一覽あるべし

●天長節祝宴　來卅一日ホテルアスターに於て飯島總領事主催の天長節祝宴催さるゝ筈にて內外人數百名へ案內狀を發せり

●姉崎博士歡迎　日本協會は來廿二日ローヤス倶樂部に於て同博士のレセプシヨンを催す筈司會者はメービー博士

●高峯博士　は今月末西部地方へ旅行の筈なりと

●大使館二等書記官太田爲吉氏　は賜暇靜養のため目下當地滯在武市伊東良吉氏宅に在り

●大坂商船會社取締役山岡順太郞氏　は同行者二名と共に此程歐州より來着ホテルアスターに在り一兩日中華府を經て歸朝すべく市俄古支店主任村田正藏氏も同行シカゴへ歸任の筈

●慶應義塾長鎌田榮吉氏　は此程歐州より來市ホテルアスターに在り十九日出發歸朝の筈

●關東都督府財務局長蠑山長次郞氏　は過日來直ホテルアスターに在り不日歐州へ向け出發すべし

●東北大學敎助授東海林農學士　は豫て華府に滯在中なりしが不日獨逸へ留學の筈なり

●總領事飯島氏夫人　はエムプレス、オブ、エシア號にて來廿五日晚香波着今月末日頃來市の豫定なり

▲共濟會　慈善演藝會▼

場所　カーネギー、ライシユム、五十七丁目七街角
時日、十月十八日午後七時半開場
正八時演藝開始
入場料　廿五仙
福引券　三枚廿五仙、一枚拾仙
入場券福引券　は各下宿屋又は團体により御買求めを乞ふ
福引券　は當日開札すべし
共濟會

●河上淸氏　滯市中なりし同氏は去十五日出發せり氏は近々家族と共に桑港に移轉し日米問題に付盡力することとなるべし

●同志社敎授浦口文次氏　は過日來市ハーバード大學に入學せり

●駒場農大敎授文部省留學生小出滿二氏　は此程來市暫時滯在の筈

●大坂の實業家福田吉之助氏　は若松に滯在中

●桑港日米社員小林定次郞氏　は前週來市ホテルナバールに在り

●伊與田支配人　茂木桃井組の同氏は過日故國より歸米したり

●瀧川、伊東兩氏　ゼ子ラルエレクトリツク會社に在りし兩氏は去十七日來市日本倶樂部に在り

●修道會の講演　來廿四日同會にてエール大學敎授朝河氏の「國民宗敎の着眼点に就て」と題する講演ある筈なり

觀光日誌

シャトルより　林生

滿千里汽車は市俄古に到着いた、綺に落とかゝつた夕陽が町端れの寂しい秋を唄ふやうな鋭い紅蓮の焔を吐いてガラスに燃へとる間をくゞつてデポー停車場に入つた時は正に午后［illegible］時、郵船會社の同地詰［illegible］君［illegible］ミルオーキー鐵道の人々等［illegible］に一行を出迎へ人員荷物の運搬は少しもヅラブルのないやうに豫め設備してあつた、

一行は十時四十分發車する團員のみ使用する特別寢臺車を擁したのち五時間の自由行動を取つた、龜井君の厚意により僕は米國一の稱ある支那料理金城樓に案内された、チャプスイと云へば下等人の飲食するものに限られたるものと思惟する新育附近の人々は同樓の仕掛の宏大なる事や裝飾の善美を盡しとる事は慥てたき其出入する華客が孰れも上流なるには一驚を喫するであらう、在米支那人が全土の津々浦々に迄紹介されて

［illegible］では各自の苦勞比べを初めるから中々賑かである、一行中に一人の滑稽家あり先天的諧謔に富んだ男で世界中の浮いた噂は遭逢の奇變なるだけ變化萬態、實より虚に出で有より無に入り人を煙に卷かずば止まぬ底の人物、其人あるがため憂いものさ云はれる旅は大分其實を失つた譯である

東洋行の麥粉、ム、ヘイコンを重に其地方で引受けとる北ダコタを過ぎてモンタナ州に入つた、相愛の仲を黄白ゆゑに引裂かれたから奮然志を立て戀に死して事業に活きんとして單身馬を驅つて深山幽谷の間を跋蹤して金鑛を發見すると云ふ筋の活動寫眞でお馴染の本場は此邊であると僕が活辯代理をやると一同大喝采、大きな斧で一削りに取つたやうな石崖が積み重つて其破隙に痩せた松が代らぬ綠を誇つとるかと思へば逆さまに山影を落す瑠璃一碧の湖を渡つて行く誠に水村送り水廓迎ふの好絶景（續く）

［illegible］スイの［illegible］上品は我輸入品［illegible］華客を［illegible］る生糸に匹敵すると云ふ事である、咄半分としても小さなサアクルで共喰ばかりやつとる在米日本人はシナサンを眞似て商賈事をやるのも面白からうて、オヤ觀光日記が飛んでもない所へ沫つた、夜景を辭した團人は所々の夜景を見て停車場に歸へたが既に團員は各自の寢臺を撰定し中には汽車の中で日本の［illegible］の夢を通つとる者がある

翌朝の［illegible］に起された時は吾々の［illegible］者［illegible］を以て有名な［illegible］の中に過ぎ［illegible］野［illegible］る平所の［illegible］ない［illegible］る平野であるが見渡す限り開拓されてあるのを見れば農業は盛大であら、今しも秋の收穫を終り所々に小山の［illegible］大［illegible］原の［illegible］を云ふかたの小［illegible］秋を傷［illegible］趣味を［illegible］都會生活にな［illegible］意外の眺めに［illegible］なかつた、［illegible］相互に［illegible］變［illegible］今［illegible］

●富豪村野山人翁の美擧

乃木大將を崇拜して壹百万圓を公共事業に捧ぐ

關西實業界の長老たる神戸の村野山人氏は乃木大將夫妻殉死一週年の九月十三日を以て突然實業界を退隱すべき事を發表し氏が社長たる神戸電氣會社を始め南海鐵道豐川鐵道京坂電車の

▲各取締役を辭し たり氏は豫て内心深く決する所ありしも今日迄堅く秘して語らず夫妻相携へて乃木將軍夫妻週年祭參列のため上京中突然東京より電報等を以て前記諸會社及び各關係先へ夫々退隱の通知を發したり氏は豫て乃木大將夫妻の殉死に感奮し一面後進のために進路を開かん事を決意したるが其全財産を

▲公共事業に擲ち たしとは五年前決意したるものにて是より先き一男を亡ひ嗣子なく四十年間孜々蓄積したる巨萬の富を讓るべきものなきより寧ろ之を散じて貧窮子弟のため徒弟學校を設けんとし當時の兵庫縣知事服部一三氏神戸市長鹿島房次郎二氏に之を明かし且つ諮するに死後の遺産處分を以てせり而して氏は

▲全財産壹百萬圓 を悉く徒弟學校の資金に充て其百萬圓より生ずる一ケ年の利子五万圓を其維持費に充つるものなるが一方乃木神社を創建し之に對して十萬圓を投ずるものにて其祭典及び維持費は宅も他より寄附を仰かず一切氏の獨力を以て支辨する筈なるが若し生存中落成を見ざる時は同氏の遺志を繼承せん事を是又服部知事鹿島市長に依託し斯くて氏は夫人須美子（五七）と共に

▲乃木神社の社守となりて老後を送り靜かに日夕大將夫妻の靈を奉慰せんとするものなり創建の地は明治天皇桃山御陵の存する山城國伏見の地を相し社殿の結構は總て神戸湊川神社を摸し用材其他も乃木將軍に縁故あるものを用ゆべしと

投書籠

▲近頃は薩張り籠が振ひませんね、投書欄は新育同胞社會の反射鏡とも云へるし又吾々讀者を笑はして大なる慰籍を與へます投書家諸君一番奮發して本欄を賑はし給へ（愛讀者）

▲新聞屋の活字間違は珍數事でもないが日米週報も紐育新報も揃ひも揃つて共濟會演藝會廣告文を門違つて居る一方はカーネギーライシユームを五十五丁目とし一方は午後七時半開場を八時半として居る［illegible］玉シツカリシロ（一會員）

▲此頃［illegible］胞社會の風紀が一体に亂れて來て眞面目な生活をする者がないとの評判が領事館に入り飯島總領事は大變心配して居られます（注進屋）

▲君ん所の親爺は今から十年經てば當地の同胞社會に澤山の藥鑵頭と白髮翁が出來るだらうと會ふ人每に話しの心配を話して居る、人の振り見て吾振り直せだ、四十近くなつて妻なしで了ないの御本尊御自身はドーテスかね（一本參る生）

▲井筒のターナー君は商買繁昌で僅か一ケ月足らずにシコタマだくり込むだらしい貧乏人は借りに行き給へ、田中君は借られぬ先に移轉してモー氣の利いた所に行き給（五十五丁目生）

▲米國歸りの男横々で食へなくなり大福餅を盜んで捕縛されたと云ふ小記事を新聞で見た、新育の薄馬鹿共早く發心せぬと同樣の運命に陷入るよ（贅六）

▲モシ／＼貴方何方オヤ［illegible］サン姿しビックリしたよ、ウイサ［illegible］やないか千［illegible］、オヤ［illegible］御金を持て來て下さるつて、アノ本當、濟まないのねえ、貴方ノ／［illegible］るたあ知らなかつたですもの、チャチサタデーの［illegible］來て［illegible］載な待つて居ますよ。、、、ヒシナ電話を二人も四人にもかけ續けて居るズイキの化物見たいな女が居る年は二十七八よ、大［illegible］運の盡きない阿魔ですよ僕も此手にかゝつて夏場で儲けた金を皆取られた（後悔生）

▲共濟會の秋期大會福引の女持金時計を取るべき百六十枚の福引券を買つてレコに呉れた者作あり（九十七［illegible］）

新育日本間郵便發着表

ニューヨーク本局締切午［illegible］八時半

船名	經由地	發送
ペルシヤ	桑港	十三日
阿波丸	沙港	十六日
インデヤ	晩香波	十七日
香港丸	桑港	十九日
コリヤ	同	廿三日
［illegible］タニ	晩香波	廿四日
春洋丸	桑港	廿五日
佐渡丸	沙港	卅一日

●日本より到着 十月十五日 十八日 廿二日 廿六日［illegible］

THE JAPANESE TIMES

紐育新報

THE JAPANESE TIMES [illegible]

發行兼編輯人 [illegible] 紐育新報社
紐育市西六十街 [illegible]

天長祝日

[illegible]

時代の變遷とモンロー主義

モンロー主義は千八百廿三年以來米國歷代の政治家が其意識に繼承し來れる政策にして [illegible] 外交の政策を [illegible]

[illegible] 駐英大使 [illegible] ウエルタ將軍はウォルソン氏 [illegible] ウエルタ將軍を排斥 [illegible] 米國外務卿 [illegible]

[illegible]



桂公の死

▲桂公は死なれた、[illegible]

[illegible]

利權獲得

[illegible]

●露國の對支要求 [illegible] 北京通信員の所報に依れば露國は今回支那政府に對し外蒙古の獨立 [illegible] 新要求をなせりと

英米の反感

墨國問題に關し英米兩國の態度 [illegible]

●ウエルタ將軍の辭職 [illegible]

[illegible]

●三年禁錮

●松田法相病む

遺

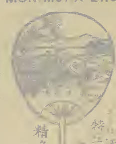
[illegible]

紐育の日本人

……會秋季大會……
……國を開發す可しと

旅館讓受廣告
……十四丁目……やまと

下宿
……やまと旅館……

日本雜貨
森村ブラザース
MORIMURA BROS

精々勉強

雜貨たなし賣
瀧澤小川商店

みやこ旅館
御たのしみの設備あり
案内清潔、料理……

菊水

移轉!!
村瀬九郎
岡田滿

The J. O. Clothing CO.
Lafayette Street
ASTOR PLACE
New York
米國最大の洋服店
日人のセールスマン

支店
日本食料品何でも有ります
ボストン

日本御料理 開盛亭旅館
M. HABU
New York City

地所家屋賣渡し

日本人職業周旋所

陶器及雜貨
多治見商會

SASSA
68 W. 38TH ST. N. Y.
PHONE GREELEY 2878

秋が來ました追々寒くなります、意氣で高等な洋服を御望みの方は
第三十八丁目六十八番
佐々洋服店
に御越の上、店に取揃たる秋冬の服地を御一覽の上御注文を願ます



法律顧問
民事及刑事訴訟
辯護士

生命保險
特別代理人
早川保次郎

ALBANY RESTAURANT
14th St.
アルバニー食店

秋期大會雜評

▲要するに本年の秋期大會は大失敗であつた

大失策

▲寄書

紐育の殿方へ

▲鋼子を日本人に要む

不思議なる

No. [illegible] VOL. [illegible]

THE JAPANESE TIMES

SATURDAY, Nov. [illegible] 1913

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
[illegible]
[illegible] Ave. N. Y. City
Tel. [illegible]
Subscription Rates
5c. A Copy $2.50 One Year
Postage Included
Entered as 2nd Class Matter [illegible]
[illegible] March 3rd 1879

サルザー氏の革職に就て

千本木生

職[illegible]、選擧費私用其他の理由を以て州會より彈劾を受け、後彈劾裁判に附せられたる知事サルザー氏は遂に有罪の宣告を受けて其職から去るに至れり。抑も彈劾裁判なるものは其類例甚だ少なく議會本來の權能たる立法以外特に司法上の行爲を爲す場合を意味し、英國に於ては議院政治の[illegible]行はれ來れる千三百三十年サイモン、デ、ベレスフォードが國王に於て彈劾裁判を受けたる事ありたる以來、其後千七百八十八年にワーレン、ヘスチング、千八百六年にメルビル卿が彈劾裁判を受けたる後絶えて其例なく。米國に於ても千八百[illegible]年に合衆國地方裁判所判事チヨンピケリング氏が酒氣を帶びて法廷に出席し、判事として威嚴を缺くの行爲あり且つ不法なる判決を下したるに依り彈劾裁判に附せられたる外僅に[illegible]先例ありたるに過ぎず、從つて彈劾裁判なる者の權限若くは權域に就ては未だ法學者間に一定の意見なるもの無きが如く、或は刑法上の犯罪に對してのみ用ひらるべき者と解釋され或は政府者の職務執行に關する不正行爲に對しても用ゆべしと主張せられ、其說區々として一定せずと雖も千八百六十八年大統領アンドリュー、ヂョンソン氏が彈劾裁判に附せられたる時の例に依れば刑法上の犯罪にあらざるも政府當局者として國民の倚信を失墜するの罪ある行爲ありたる場合には彈劾裁判に附すべしとの說に歸着せるが如し、[illegible]サルザー氏の有罪宣告も此說と同一の論旨に基きたるものならずし[illegible]、兎にも角にも氏の彈劾事件は[illegible]政界に於ける一汚點と云ふべく、[illegible]氏の如き[illegible]生涯を[illegible]來れる人にして斯る失錯をなせしを惜しまずんばあらず[illegible]

[illegible]して家計の窮之に[illegible]じ或は州會に或[illegible]粹するに二十[illegible]州知事に擧げ[illegible]九ケ月、此の悲[illegible]能はざる[illegible]し難き[illegible]るも誰か一掬同[illegible]氏がアルバニー[illegible]年來の居住地た[illegible]は大暴中央停車[illegible]や復再び氏を州[illegible]ふあり、之れ同[illegible]に對する反感に[illegible]去の功績を認識[illegible]も、今後氏の政[illegible]び昔日の如きも[illegible]能はず、假令氏[illegible]沮喪するも、氏[illegible]して落武者とし[illegible]く氏を戴きて黨[illegible]如き事は萬無か[illegible]公事に委せ[illegible]なく、て可ならんや

[illegible]りに自己の罪無きを辯明し、タマニーホールの專橫を攻擊し、當事[illegible]フォー氏の指揮の下に行はれたる彈劾裁判の如き之れ實に[illegible]

●日本人發展の新天地

[illegible]

●墨國問題の[illegible]

[illegible]

●紐育市長選擧

[illegible]

●桑博問題協議

神谷商業會議所は桑港大博賛否問題に就き協議を始めたるが席上米國を十分に調査して歸りたる添田博士神谷兩氏の報告あり添田博士は日米間の案件は關係極めて大なる所以を說き參加運動の必要なる事と是に依て日米融和の見込あり在留同胞も大に奮發し居れりと言ひ最後に桑港大博には必ず賛同するの要ありと論せり

●神谷氏の墨國論

神谷忠雄氏は日米間の移民制限に關する紳士的協約なる者の日本に大不利益なるを論じ日米交渉の早晩失敗に終るべきを述べ殊に墨國の現在及將來を論じて日本國民は此方面に向つて大に着目せざる可らずと結論す

●中野氏の意見　東京商業會議所長中野武營氏は日米間の問題は眼前の解決のみにては不可ならず永久的根本的に解決するの運動を要すと論せり

●日米新條約說

▲根本的解決の意向　日米新條約說に關しては我外交當局者は口を緘して何事も語らず然も我政府に於ては最初より加州排日問題の善後策として單に外交的抗議及排日的土地法案に對する試驗訴訟の提起等の方法を以て充分なりと爲すに非ず今回の問題を機として別に根本的に其解決を圖る意向ありしは再三既報の如し而して根本的方法として先づ一、歸化權の獲得二、條約に依りて米國に於ける邦人の土地所有權を認めしむる事の二方法あるが歸化權を獲得するは國家の面目上米國をして其國內法を改正せしめざるべからざるも這は上下兩院の決定を待たざるべからざるを以て事頗る容易ならず、條約の締結は只上院三分の二以上の同意を得れば可なるを以て歸化權の獲得に比すれば稍々容易なり故に我政府にては先づ此方法に向つて全力を盡すべき意向ありしなり然も當時米國に於ては偶々對墨問題を始め關稅問題幣制問題等の重要なる問題あり爲めに米國當局者は殆んど之に忙殺され居たるを以て今日迄實際の交渉に入り得ざりし氣味あるも今や米國議會も漸く閉會に近づき來り幣制問題の落着には尚多少の時日を要すべきも關稅問題は將に決定を見んとしつゝあるを以て米國當局に於ても自然我交渉に應じ得る事となる

▲正式交渉開始か　左れば我政府に於て近く米國に對し正式に本問題の交渉を開始するに至るべきは之を推察するに難からざるなり而して米國政府に於ては充分我政府の立場を了解し問題の解決に就て適當の方法あらば可成協力して解決に努むべき旨を屢聲明せる由なれば努めて我交渉に應ずる事となるべきも果して上院が之に同意を與ふるやは大に疑問なり現在に於ける米國上院は政府黨たる民主黨議員多數を占め居れるも民主黨從來の立場より云へば本問題の如きは寧ろ反對の立場に在るを以て假令新條約締結に對して米國政府が同意するとするも政府反對黨たる共和黨は元より民主黨の如き果して之に同意するや否や要するに本問題の前途は未だ容易に樂觀を許さゞるものあり尙曩に我政府より提起せし第三回抗議に對しては未だ何等の回答なしと云ふ

●陸軍と新聞記者　本月行はるべき陸軍秋期大演習と新聞記者に關し名古屋方面に出張中なる長谷川參謀總長の談話として故國最近着新聞の報ずる所を見るに曰く、今度の大演習には新聞記者諸君を大に歡迎する筈である兎角陸軍の方は之れまで新聞に良く書かれないので困るから之から後は記者諸君を歡迎して大に融和の途を講じなければならぬ海軍の方は將校が海外に出て外國人と外交の衝に當つた者が多いから新聞記者等に當りが良いが陸軍には武骨者が揃つて居るから新聞記者の待遇が下手である大演習を機會に大に記者諸君を歡迎して陸軍の評判を取直さねばならぬ云々

●賣藥法規則改正　內務省より本議會に提出すべき賣藥法規則改正案は國庫收入の關係及印紙稅等に關し內務省より大藏省に交渉中の所最近に至り大藏省の要望を容れ修正する事となしたるが其內容は大略左の如く決定し近く中央衞生會に諮問せらるべしといふ

一、賣藥廣告に對し制限を加ふ事
二、海外輸出賣藥に關しては本邦の規定に依らず輸出先の規定に依る事
三、劇藥配合量を擴大する事
四、賣藥請賣鑑札制度を廢止の事

等にして賣藥の製造權を藥劑師のみに限定する案は多分立消へとなるべし

●桂公の葬儀　陸軍大將從一位大勳位公爵桂太郎の葬儀は去月十九日午前八時芝增上寺に於て淨土宗の儀式を以て執行され院殿大居士號を贈られたり墓所は世田ヶ谷松蔭神社裏なり尙公は生前の勳功により從一位に叙せられ菊花頸飾章を賜はりたりと

●深野前知事等拘引さる　名古屋遊廓の移轉問題は遂に大疑獄を釀すに至り遊廓移轉運動に關聯せる不正事件の曝露を見るに至り深野前愛知縣知事安藤代議士加藤前市長奧田商業會議所長兼松市會議長及前市會議員等悉く拘引され監獄に收監されたるを以て各關係者等戰々恟々大狼狽を始めたり

●古賀氏事件と桂公　三ケ年の入獄を宣告されたる古賀氏は此裁判に服從する能はずとて直ちに東京控訴院に控訴する旨を告げ其手續を終へたるが保釋金提供の假出獄は許されず、尙事件裁判中辯護人高木益太郞氏は「本件起訴の動機は桂公が外相兼任時代にて被告古賀氏は桂公攻撃の演說を爲したる程なれば機逸すべからずとなし川上警視總監に命じ安樂古賀の兩氏を獄に擧げんとし事歷然たり」と陳べたる由にて權變術數計り知り難き政界の裏面には斯の如き事實の伏在したりしやも知れずと思はる

●南米の新領事館　外務省來年度豫算概算は既に大藏省へ廻附濟みとなり同省にては來月初旬迄に各省よりの全部提出さるゝを俟つて査定せらるゝ筈なるが外務省豫算に就て聞くに本年度よりは多少增額されある由なり尤も本年度は本省總額納三百四十萬圓なりしが行政整理の結果納一割減額されたるものより約五分位增額計上されあり、夫は南米伯爾西爾國サンパウロ州に於ける邦人（現在七千人）本年末迄に渡航すべき四千人を合せて約一万一千餘の多數に上るべきを以て同州に領事館創建の必要あり尙ほ其他に二ケ所の新設領事館費用と本省分に於ける僅少なる費額の斯要求なりと

●海外實業練習生の派遣　農商務省に於ける海外實業練習生は應募者四十餘名の內經費の都合上漸く六八名を採用するに過ぎざる[illegible]練習生に給與する經費は米國七十圓歐州六十圓南洋四十五圓支那三十圓等の割合なりと云ふ

●伯國移民南阿着　八月廿八日神戶出帆の帝國丸にて渡米の途に就きたる伯國コーヒー移民千七百五名は本月一日午後二時無事アフリカ英領ナタルに到着せる由にて船中六名の產兒あり乘客何れも元氣旺盛なりと

●中上川氏獎學資金　故中上川彥次郞氏の生前其の知遇を受けたる人々の間には同氏に對する追慕の情を表する爲め何か記念物を遺さんとの考ありしも世間普通の記念碑像の建立の如きは固より氏の意に非らざるべし氏は故福澤先生の令甥として先生の愛撫薰育の下に人となり慶應義塾の先輩として仰がれたる人なれば其記念として獎學資金を醵集し之を慶應義塾に委托し後進獎勵の資に供することそ故人の志に適ふと共に又故人の故先生に對する志に副ふ所以なるべしとて去月七日は恰も氏の十三周忌に相當するを以て當日其計畫を發表し同感者の贊成を求め朝吹英二、波多野承五郞、和田豐治武藤山治氏等より夫れ〳〵相談に及びし筈なり

●鳩白飛行後援會　武石浩玻氏の在米中其後援として成立せしスメルザー飛行會社は氏の悲壯なる最期によりて今回組織を變じたり即ち武石氏の意志を繼承して其目的を遂行せんが爲め在米同胞飛行家の後進者を援助し母國飛行界に貢獻せんことを期しスメルザ飛行會社に屬する株主は擧つて權利を放棄し別に友人數名をも加へ舊株主の出資と武石氏遺族よりの寄附及有志の寄附金を以て基本金とし其名も白鳩飛行後援會と改稱し本部を南加州スメルザに置けり其事業左の如し

一　毎年一回武石氏の飛行當日を以て記念追悼會を故人に因ある各地に開く
二　在米同胞飛行家にして本會の有望と認めたる者に對し資金を貸與し若くは給與す
三　隨時飛行機に關する會報を發行斯界の進步を內外に紹介す

●支那の無線電信　支那政府は北京張家口廣東、スワトウ、漢口、上海等に無線電信を裝置し有線電信障碍の場合に備ふることとし其設置方をテレフンケン會社に契約したる由完成の上は我國の長崎臺灣及大連の無線電信局と連絡を爲すに至るべし

●天長節祝會一束

▲飯島總領事官邸祝賀式　去月卅一日午前九時半より十一時迄の間西八十六丁目二番地の官邸に於て祝賀式を擧行し在留者多數の參會ありたり

▲ホテルアスターの祝會　飯島總領事主催の大祝宴會は本日午後八時半よりレセプシヨン始まり同九時祝宴に移る筈にて内外人多數の參會あるべく且つ家永、姉崎兩博士並知名米人の演説ある筈なれば定めし盛會なるべし

▲基督教徒聯合祝賀會　本日午後八時より修道會舘に於て美以教會、ニユーヨークミツシヨン、修道會の聯合天長節祝賀會を催す筈なり

▲各旅舘の祝賀會　朝日、若松、東洋倶樂部、都、自由亭、東東舘、其他の各旅舘に於ては商會員、止宿者等の祝宴催さるゝ由なり

▲日本倶樂部の祝賀會　は、昨卅日高峯博士司會の下に開催され同博士の開會の辭、飯島總領事の演説了つて後會員一同の君が代合唱あり次に今上天皇陛下の萬歳に三唱して第一式を了れり、夫れより興に移り橋爪氏の謡曲、某氏の尺八、某米人手品師の巧妙なる奇術等滿堂の大喝采を博せり、參會者は百餘名にて非常の盛會なりき

●旅舘並料理店横濱舘　は舊東洋舘を讓り受け諸事改良の上大勉強にて華客の便宜を圖る由なり

●吉田旅舘の開業　吉田宗章氏は今回レキシントン街六二四に新旅舘を開業家具一切新調大奮發にて千客万來を待つとの事

●大洋服店　第三面廣告にあるエフビー、キユー洋服店は確實を以て市内に聞ゆる大店なるが殊に仕立方の巧妙にして日本人の體格に適合する点は本社員の實驗せし所なり

●青年會舘新設の議　去十月廿七日新舘設立につき相談會を開きたるが新舘新設を決議したる通り一人分擔額千弗宛にて基本金一千弗を募集し同舘青年の理想的ホームを建設するに決し、委員數名を選びたり多分十一月中旬には開舘の運びに至るべしと

●村井[illegible]　[illegible]村井保固氏[illegible]倶樂部に金一萬弗[illegible]は跡方もなき風説に過ぎずとは氏より直接に聞きし所なり

●桑港ポートラ祭の盛況　ブルボア局の大平洋發見四百年の祝典たるポートラ祭は去月廿二日より五日間施行され市内は加州各地よりの群集により非常の雜踏を極め全市の裝飾と種々なる催しにて非常の盛觀を呈したる由なるが中にも在留邦人の一手になりしユニオン公園の宮殿並に日本人街の裝飾は意匠萬端美事の出來ばへにて市民の大喝采を博し當日の女皇及市公吏其他より丁重なる謝辭を受け諸新聞紙は筆を揃へて賛嘆措かざりしと、右電報に對し新育イブニングポスト紙は曰く、此日本人の美擧に對して數萬の觀客は特別なる感謝の意を表明したり、而して今次の祭典が他に何等の効果なかりしとするも少くとも日本人が米國の美術界に價値ある貢獻を爲し得る事を證明して餘あるのみならず、加州人さへも尚且つ此意義を諒得したるに非ずや云々

●横濱の黒死病　ペスト發生以來益々蔓延の兆あるため日本橋河岸は大警戒をなせり

●日金銀行貸出　支那政府は天津なる新育銀行より二百萬圓の借款をなせり又吉林省は横濱正金銀行より四百万圓の借款をなせり

●米大使舘書記官東大入學　米國大使舘一等書記官シー、アーネル氏は豫て日本國文學の研究に專心し居たるがこの程遂に東大文科大學に入學願を提出したり同科教授會議及山川總長は勿論之を許可するに決したるも何分外國の高等官にもあり且つは先例なき事とて米國大使舘に照會中の所正科生として入學差し支へなき旨通牒ありたるを以て文科大學は廿七日同書記官に對し正式に入學許可書を發したり

●服部綾雄氏來東せん　氏の歸程は俄かに模樣換へとなりたるものゝ如く近々來東し各地を視察すべしと

●日米交換教授　メービー博士の來朝に對し日本より米國に派遣すべき交換教授は豫て人選中なりし所愈々東北大學農科學長農學博士佐藤昌介氏と決定其旨發表されたる由にて同博士は本年十二月中渡米し博士の學べるジヨンス、ホプキンス大學を始め東部及中部の著名大學に於て數回の講演を爲す筈なりと

●田中移民課長來らん　外務省通商局移民課長田中都吉氏は今回歐米出張を命ぜられたるが重なる使命は南米視察に在るものゝ如しと

●姉崎博士の講話　去廿五日日本倶樂部員の請により日本の思想界に關する一場の講話を試みたり

●高峯博士西遊期日　本月七日當地出發西部地方へ旅行の筈なるが隨員は高峯事務所員田口西田の兩氏なり

●藤本孝太郎氏　政府の歐米留學生として過去二年間歐州各地に研究しつゝありし氏は此程來着ニユジヤージー州ミチオラ奥代氏宅に在り漸時滯在の筈

●滿鐵理事野々村金五郎氏　は本日歐州へ向け出發

●日本地質調査所々長井上長次郎氏　は去廿九日來着

●博文舘營業部長羽田福太郎氏　は出版業視察のため過日來市ホテルアスターにあり

●山地海軍大佐　此程歐州より來市暫時滯在の筈

●竹内中佐　は去廿八日華府より來れり

●岡部芳郎氏　新たに發起さるべき日本發聲活動寫眞會社に入るとなり不日歸朝すべしと

●佛教徒を攻撃す

先きに桑港出發に際し「同化の夢」を説いて物議を起したる日本基督教青年同盟會主事山本邦之助氏は東京にて發行せらるゝ雜誌「基督世界」第一千五百六十七號に「日米問題の一大禍因は佛教徒に在り」と題する一文を掲載したるが其要旨は佛教徒の偏狹なる愛國心と偶像崇拜と標準の低き道徳とが凡て排日の原因をなせると斷じ其例證としてその論點を[illegible]

在米佛教徒の手に經營さるゝ小學校の教育方針は偏狹忠君愛國主義で正々堂々愛國心を鼓吹し忠君愛國を標榜し之を大義名分として押し出すのである左れば同化論者に對しては直ちに非國民叛逆者と稱して常々平和を攪亂する事を以て能事として居る

のみならず次ぎにフレスノ事件を論じて曰く

彼のフレスノ問題の如きは佛教徒と醜類とが結託したものであつて醜類がクリスチヤンを誣ひたのである加之佛教徒は内地其儘の佛教を移殖して廣大なる寺院を建立し大ぴらに迷信を鼓吹し一方には善男善女の篤信を利用して金圓を捲き上ぐる事ばかり考へて居る

更に醜業婦問題に亘りて曰く

彼等は同胞の將來を慮る識者の意見を却けて愚民を惑はし同胞の大缺陷たる不徳を咎めず特に日本の國辱とする醜業婦をも看過し其繁榮を以て國威を揚ぐるの一方法と心得兩者相呼應して國體擁護危險思想退治の美名の下にキリスト教の迫害をやる云々

佛教徒の周圍に漂ふ色彩と思想とが往々排日の原因となるは事實なれど佛教全体を迷信と喝破せるに至つては甚だ大膽に過ぎたりと云はざるべからず殊に氏の肩書が肩書なる丈異教に對する嫉視と嫌惡と自家吹聽の商賣氣と見られて多少のセンセイシヨンを感ぜしめざるにあらず兎に角近來の一大物議となるべき議論なるべし

▲●長廣舌●▼

水野幸吉君は今度出世して勅參になつた▲元來が鬼面驚人流の先生だから大法螺の本家たる支那人を屁古魔すには持て來いだらう▲御昇進御祝として紐育總領事時代の逸話を紹介しやう▲▲或時ワシントン大使舘から内田大使が來るといふ電報を受け取つた▲先生イヤに豪傑ブリ癖に實際は中々の神經病で官に對す官海遊泳術にかけては拔かりのない才子と來て居るから電報を受取るや否や館員を叱り飛ばして俄かに大掃除を始めた▲イヤ君のペンは汚れてるとか椅子の置き工合が惡いとか、ヤレ君の鼻毛を切れ給へナンカンとキセノ〜騒いだ上げく日頃仲の惡い紫藤書記官を捉へては「チイ紫藤君大使が御出になるから[illegible]」とやつた▲内田は同藩の後輩、彼が小供の時代には數へてやつた位の紫藤君、膝付き合はしたら君、僕、失敬の間柄だから水野は何をキヨト／＼して居るんだと云ふ位の考へで別に頓着せずに居ると大人又やつて來て▲オイ君片づけんかねとやつた、紫藤老人グツと癪に障り▲僕は僕丈の職務を守つて居るので大使が來やうが來まいが此通りで澤山だ、君は君の好きなやうに行つたら可からうとシツペ返しを喰はしたので流石の小豪傑ギヤフンと參つたげな





紐育の日本人（一）

飛耳張目生

▲新育を中心として此大西洋沿岸に在留する日本人の總數は約五千人と註せられて居る、而して此中の約三千乃至四千人は新育市並其附近に散在して各種の事業、職業に從事するものであるが最も多數を占めて居るのが家内的勞働者で全數の八割若くは夫れ以上を占め、あとの二割は官吏、學生、商人、美術家、洗濯屋、料理兼下宿業、自働車運轉手、牛商半勞働者等である、勿論此外に新聞或は通信に從事する階級あつて其生活狀態は頗る奇々珍妙であるが天機洩す可らずだから暫時御預りとする、先づ最も多數を占むる家内的勞働者の生活狀態から書ひて見る、若し此記事中に誤謬の点があつたら御訂正を願ひたい

▲家内的勞働者の中にもクック（料理人）バトラ（給仕人）ハウスウォーカー（掃除人）メード（待女）等色々の種類があつて何れも富裕な米國人の家庭に働く、詰まり日本で女のする仕事を五尺の男子がする譯である、職業に貴賤上下の別なしとする米國でもドメスチツク、ウォーカーと言へば最下等な職業と見られて居るのに斯くも多數の同胞が何故此業に從事して居るかといふに其理由は實に同情に堪へぬものがある、理窟は後廻はしとして先づ其

▲實際の生活狀態を見ると朝から晩迄家の内に働いて居て主婦を初め下女に至る迄何時も女を相手の仕事であるから其精神上及肉體上に及ぼす影響は甚だ夥だしひ、試みに永年家内勞働に從事して居る日本人の英語を聞いて見ると平生の用語からサ[illegible]レドが殆んど女のやうで商人や學生の英語とは全く別物である、身體の健康はだうかと云ふに、從事する仕事が油臭い臺所や、空氣の流通の惡い家の中で拭掃除をするので自然外出して日光を浴び、新鮮な空氣を吸ふ機會が少い爲めに健康は自然良い方ではない、死亡者や病氣で歸國する者に肺病患者の多いのは慥かに家内的勞働をする結果だと思はれる

▲人間生れてサーバントとなる勿れといふ古い言葉があるか無いか知らぬが男にとつて下男奉公は全く愉快な仕事ではない、殊に困難なのは主人公なるミセスの御氣嫌を伺ひ奉る事で疳癪玉の破裂し易い日本人には取分けて苦しい仕事に違いない

▲日本人を雇用する家は概して金持ちでさうして普通の女では勤らぬ家か、但しは家内に何か曰くのイキサツある金持ちの家庭で最も多いのは疳癪持の奥樣の在らせらるゝ家である、普通の家なれば一ケ月二十弗乃至三十弗位の女で何等の差支はない筈であるのに高い給料を出して日本人を使用するのであるから主人公が自分の氣隨氣儘を行りたいと望むのも無理のない話で、奉公人となつた以上、此呼吸を飲込んでやれば比較的辛抱も仕よいといふものだがサテ日本人には夫れが出來ない、從つて働き先を代へることが多い所から或西洋婦人は日本人のサーバントを評して「フェリーボート」（渡し船）と言つたさうな、全くスーツケースをブラ下げて連りと行つたり來たりする風彩は、朝來て晩に歸る油賣同樣餘り見上げたものでない

▲家内的勞働者の給料は一ケ月三十五弗以上七十五弗迄で普通は四五十弗内外、六十弗以上といふ口は稀であるし又夫れ丈の資格を持つた者は澤山ない、日露戰爭前後には國恩の餘光とでも云はふか一にもジャパン二にもジャップ、日本人のクックが拵へた料理を日本人の給仕から食べさしてもらわなくては体裁が惡いやうな一般の氣風で日本人の需用が格外に多く、給料も五六十弗は平氣で取れたものでグリーンホーンでさへ四十弗は御茶の子であつた、然るに其後日米の關係が少々怪しくなり、日本人勞働者の缺点がボチ〳〵不評判となりかけて以來戰役當時の人氣は次第〳〵に下り坂となつて近來は給料も安くなつた、先づ四十弗から四十五弗、五十弗以上の口は澤山ないやうになつた、榮古盛衰は世の習ひと諦めて安い給料でも辛抱すればよいのに未だに戰役當時の人氣を夢みて年中下宿屋籠城の强の者、桂庵常置委員の榮任を辱ふする古狸が澤山あるから助らない

▲右に掲げた給料は立派な寢室をもらひ、うまい三度の御飯を頂いての純收入で、小さな雜貨小賣商などの純益よりも以上で日本なれば郡長樣以上の捧給と云ふ譯になるのであるから本人の心得次第によつては相當の貯蓄も出來る、獨立の人間となる資本も出來る筈であるが、實際はどうかといふと眞面目に貯蓄する者は十中の二三、あとは何れも貯蓄銀行の看板に後ろを見せる卑怯者である

餘興評

中田生

待ちに待つた赤い幕が漸と開いたので參會者は悦びましたが薄汚ないピヤノの裏を見せられたのには閉口、誰れもピヤノの裏を見に來やしませんしとコボして居ました、字を書いた人は中々上手、多分砂文字屋の親方息でしやう、高木さんの洋歌は毛唐人か悦んで聞いて居た、淺井君の滑稽小話は演説のやうで笑話にはまだ〳〵、武者諸君の立廻りは些か舞臺に食ツ付き過ぎて居た、今二三年御修業を要む、バイオリンは可なり[illegible]フロツクコートの人役者もアノ位歩行いたら隨分御疲れ、服装は御イクラ失禮

[illegible]（中田小僧）

●（投書欄）●

「ミソレ」「奇眼」兩君の投書は露骨なる人身攻撃にて縱令事實なりとするも公平なる判斷に非ずと認め掲載せず（籠係り）

▲廿四歲女に申します　ニューヨークの日本人は凡て品行方正でないから結婚は怖いと仰つやりますけれど失禮ながら吾々仲間の者に不品行の者は居ない、新聞紙上で攻撃をなさるなら玉石混合の御筆法は御免を蒙りたい（眞面目生）

▲當第五街に或商買をして居た僞[illegible]といふ男は商賣を始める前から破産を目的として開業し諸所方々の問屋を倒した上にハドソンオークをして貯蓄しざる者數名かゝり凡そ千八百弗を巻き上げ全く詐僞同樣の行き方をして内外人に大迷惑をかけた、此事は社に於ても充分御承知であるに何も書かないのは如何いふ譯です、マサカ鼻藥ではあるまい（憤慨生）

▲廿四歲女君、餘り高尚なことを云つてもらいますまいよ、口で許り立派なことを言つても犬コ一丈では滿足すまいが、エー貴ツ子御免なせーこシ[illegible]

▲オイ〳〵新聞屋の隊長九十[illegible]の内幕は、、、[illegible]

▲近日の内揭者即ちイガ栗坊主直接御社に參つて委細言上仕る（イガク）

▲本欄への投書は可成簡短にして趣味あるものを歡迎す、個人[illegible]

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave N. Y. City.
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rate
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered N.Y. Post Office
as second class matter under
act of March 3rd 1879

有料拾定價 □六ケ月分一弗 前金郵税共
□一部金[illegible] □一ケ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政院認可
發行兼編輯人 甲斐健一
發行所 紐育新報社
紐育市第六街二三八
電話チエルシイ六四七三

青年會々館設立の急要

増澤丈兒

日本人青年會は創設以來已に六ケ年の星霜を閲みし、其間時に會勢の浮沈消長ありしと雖も今尚ほ八十有余名の會員を有す、而て其主旨たるや日本人青年相合してスウイートホームを作り孤獨の寂寞を慰籍し又各自の趣味を向上し延いては日本人が米國に於ける品位を高めんとするに在りき、不幸にして今春經濟上の都合により一旦其會館を閉鎖するの已むなきに至りしが今又會館再設の議起りて其準備已に成りぬ。

由來紐育同胞間には下宿業者余りに多くして止宿者至つて少なきがため是が經營に困難を感じつゝある者其の數を知らず、この時に際して青年會が再び止宿所を會館内に設くると云ふは極めて議論の存する所なりされど吾人の聞く所に依れば近時支那町賭博所閉鎖せられし以來、日本人下宿屋に賭博盛んに流行し殊に甚しきは賭博場を目的として新に下宿屋を開業する等のとあり、從つて趣味の下劣になりし事實に驚くの外なく、之れがため賭博等に趣味を有せざる眞面目の青年は夫れ等下宿屋に止宿するに忍びざるもの多きが如しさは云へ、部屋借り住ひは孤獨の感に堪へず、又市中廣しと雖も日本人青年の爲めに適當なる止宿所なきを以て已むを得ず彼等青年は如上の下宿屋に生活し居ると云ふ。されば平素日本人の米國に於ける品位を高むるを以て使命とせる青年會は止宿部經營の困難なる故を以て、あたら青淨無辜なる青年の汚損するを傍觀するに堪へざるなり。之れ青年會が今回會館中に敢て止宿部を設けたる理由にして所詮こは社會の供給に應せんとするに過ぎざるべし。

吾人屢々聞く。在留同胞識者の間にも日本青年の風紀廢頽氣力消沈を憂ふるものありて之が救濟策として[illegible]の必要を唱へ或は貯蓄奨勵法を設くべしと云へりと。吾人は夫れ等の如き方法を以て墮落せる青年の風儀を矯正し又氣風を挽回せんと欲する先輩識者の衷情を痛く感謝し併せてそれ等の主意を奉ずるに努めんと欲す。而して青年會は是等の外徒然を慰籍する機關及趣味を向上し得べき機會を作りて前者の缺を補はんことを期す、是れ青年會が更に在來の圖書館を一層擴張し又新に運動機關を設けんとする所以也然りと雖も吾人たるもの尚ほ未だ經驗に乏しく又富財十分ならざるため本會の前途に敢て困難を感ずる事無きかを憂ふ。依て今や青年會々館成らんとするに際し本會の主意を述べて廣く同胞間の識者及び先輩に精神的及物質的後援を乞はんと欲す。

●日本人發展の新天地（承前）

▲在墨日本人の生活狀態に就て　グワダラハラは十二万の人口を有する大都市なるが此處には紀州の人にして南方氏と稱する大成功者あり其積財到底他より窺ひ知る能はざる程にして内外人共に南方氏を目して田舎領事と稱し其勢力亦素晴らしき者あり氏はメキシコ婦人と結婚し居れるが余の見る所を以てせば同國に於て大成功を爲し得んには同國婦人と結婚し須らく墨國化するを最大條件と信ず其成功者を見るに悉く皆然らざるはなし蓋し米國の婦人は虚榮の念旺盛なれども墨國婦人に至りては爾く虚榮心に驅らるゝが如き事なく殊に我日本人と結婚するを歡ぶの風あれば自然家庭も圓滿を保ち得べし余の最も敬々服々せしは如何にして同國に赴きしものかシチー、メキシコに四十名の沖繩縣人ありて孰れも皆目覺しき活動を爲し居れる事なり其一人はレストラントを起し外國人相手に盛んに營業し莫大なる利益を見つゝあり、他は悉く自働車運轉手として雇はれ一ケ月四十圓以上五十圓の給料を得毎月相當の貯蓄をなし居れば是等の沖繩縣人は蓄財と共に獨立事業に當らんと業務に精勵し居れるは嬉しかりき

▲革命戰爭と云ふは大袈裟なり　近時新聞紙を賑かすものは墨國の革命戰爭なり、余も亦革命戰爭には多大の興味を以て渡墨したるものなれども其實地を見るに及んで聊か失望せざるを得ざりき戰爭と云はんより寧ろ喧嘩なり大喧嘩也銃砲を用ゐる喧嘩にして我等の眼より見れば時は戰爭と名づけ難き位なり然れども墨國のためには大戰爭にしてウエルタ現大統領の天下の繼續するや否や是亦疑問の一なり然れども過般ウエルタ大統領が米國公使に對し退去命令を發したる一事はウエルタ將軍の威望を繋ぐに足り敵も味方も共にウエルタ將軍を賞賛し居ればヂアス派にして勢力を盛り返さゞる限りウエルタ大統領の天下のみ然かも此く内爭の絶へざるに於ては米國に併呑されずとすも其保護國たるに至るは免れ難き所也是は單り余の觀察のみに非ずして彼地内外有識者の共に認識する所ならずんばあらず

▲支那人日本人に化けて營業　墨國の視察を終へたる後玖馬嶋に旅行したるが同地には太平氏と云ひ當地正金支店長赤井雄氏の知友あり且つ余と其縣を同じくする長野縣人なるを以て太平氏の歡迎を受けたるが太平氏亦巨萬の産を積み居れり、玖馬ハバナ港は三十万の人口あり内支那人三千ありて（玖馬全嶋の支那人二萬以上三萬）彼等は日本人の歡迎さるゝを見須らく日本人に早替りするに如かずと其商店の如き日本人商店と銘打つに至りぬ斯の如く我日本人は歡迎され居るに拘らず而かも墨國と云ひ玖馬といひ我同胞は數ふるに足らず豈遺憾至極の沙汰に非ずや要するに墨國のみならず南米の地は我日本人の發展すべき新天地として政府も國民も共に其研究を怠るべきに非ざる也云々（東福寺ドクトル談）

●袁世凱國民黨を撲滅す

本月三日の北京發電に曰く、袁世凱は議會の急進派たる國民黨の存在を以て政務の進捗を害するものとし昨夜十二時長文の宣言を發して三百名の國民黨議員を議會より放逐すると共に北京城内に戒嚴令を布き部下を放つて熾んに同黨員を捕縛せしめつゝあるが彼の黨與は此高壓手段を以て少くとも袁の地盤をより鞏固ならしむるものとして喜び、國民黨の同情者さへも這回の出來事は全く第二革命派領袖等の輕擧盲動に基因する必然の結果となし居れり、袁世凱は今や全く議會を自己の掌中に收め得たれば交涉中なりし借款其他の事務は急速に處理せらるべく、滿朝の遺臣を各省大臣に任命するの準備は着々として進行し居れり

●日米電信料の値下げ交涉

日本政府は巴奈馬運河の開通、日米貿易の增進に鑑みる所あり日米兩國間の電報料減率の交涉を爲すべき希望を有すと（三日東京發）

●最後通牒か

▲米國政府は去三日駐墨代理公使をして强硬なる通告書を墨國政府に致さしめウエルタ將軍の引退を主要なる條件とし、且つ後任者として現陸軍大臣たるオレリヤノ將軍並にウエルタ將軍の配下を推薦すべからずとの要求をなせり、右に對し墨國政府は未だ何等の回答を與へずと雖も墨都に於ける某消息通の談に依ればウエルタ將軍の現在の立場は該要求を容れて潔く引退するか若くは米國公使に歸國旅券を交附するか二者其一を選ばざるべからずと、尚ウエルタ將軍と親近の間柄なる人々は何れも米國政府が叛軍の將カランザ氏を援けんとの意志を有する事を了知し居りて、斯の如き要求は畢竟現政府を叛軍に降服せしめんとするものにして到底不可能の事なりと聲言せり

▲外交團と協議　如何なる目的なりしかは知るに由なきもウエルタ將軍は去三日各國外交團を招きて何事か協議する所ありたるが獨、諾、露の三國公使は目下ブエラクルツに於てウイルソン氏の使節リンド氏と商議中なりしを以て欠席したりと

▲武雷安氏の態度　前記米國政府の要求に關し武氏の新聞記者に答ふる所は頗る朦朧にして其眞想を捕捉するに難しと雖も示威運動に類せる米國軍艦の行動及び陸軍移動の說頻繁なるより察すれば今回の要求は前回のものに比し更に一層强硬なりと見て差支へなからん

▲獨紙の米國政策非難　獨逸の新聞紙は政派の異同を問はず何れも筆を揃へてウイルソン氏の對墨方針を非難し、之れ畢竟ずるにスタンダード石油會社を利するの外何等の効果なかるべしと論じ居れり

●女壯士の英國首相要擊

首相アスキス氏は去一日令孃及グラハム夫人と自働車に同乘して故バナマン卿の銅像除幕式に赴かんとせし途中路傍に集まり居たる女壯士の一隊は突然前路に立ち塞がりて自働車の進行を差し止め車中に向つて唐辛しの粉を振りかけ、鞭を以て氏を亂打せんと試みしが警官の保護によりて漸く事なきを得たり

●市長改選結果

左しも猛烈を極めたりし紐育市長以下の改選は豫報の如く去四日を以て擧行されたるが其結果は全然聯合派の勝利に歸し、多年市の政權を把握して專横啻ならざりしタマニー派は一敗地に塗れて又起つ能はざるの觀を呈するに至れり、今回十二万一千二百九ノ過半數を以て强敵マツコール氏を破り新市長となれるジョン、パロイ、ミッチエル氏は當年滿卅四歲の青年にして紐育始まつて以來の最少年市長なりと、名譽といふべし

市重役當選結果左の如し

市長　ジョン、パロイミッチエル氏
市參事會長　ジョージ、マッカニー氏
算盤監督課長　ウイリヤム、エー、プレンダーガスト氏

此他各區長市會議員等の要職は殆んど總て共和黨、獨立民主黨、進步派を打つて一丸とせる聯合派の當選を見るに至り、市吏員選擧と同日に行はれたる州會議員の選擧も之亦タマニー一派の全敗となり、同派の爲めに彈劾罷職されたる前紐育州知事サルザー氏は當市第六區より推され大多數を以て州會議員に當選したり

●各選擧の結果

紐育州に於ける選擧の結果は民主派の敗北といふよりも寧ろタマニー派の敗戰といふべく當日他州に於て行はれたる州知事以下選擧の結果は依然として全國に於ける民主黨の優勢を示すものゝ如く、マサチユセツ、ニユージヤジー、マリーランド諸州も亦然り

●ディアス氏刺さる

目下玖馬島ハバナ府に亡命中なるディアス氏は去六日同地公園に於て部下と共に音樂を聞きつゝありしに五名のメキシコ人突然背後より現はれ、ナイフ短銃等を以て氏を害せんと試みたるが氏は頸部に二ケ所の輕傷を受けたるのみなりしと

●仲小路廉氏脫黨、德富蘇峯氏も亦去らん

桂公歿後何事か不平不滿の姿なりし氏は此程斷然意を決して立憲同志會を脫會せるが、德富氏も亦脫黨と決せり、氏脫黨の理由は豫て快からざる高藤高明男が桂公の歿後を受けて幹部に入りしため氏自ら永く同黨に止るを潔しとせざるに在りと觀測せらる

●新市長

▲年齒僅かに卅有四、勁敵タマニー派の候補者マッコール氏を敗りて榮譽ある紐育新市長の月桂冠を贏ち得たる者をジョン　パロイ　ミッチエルとなす

▲一千九百六年紐育市法律顧問局の助手となりてより以來會計撿査院市參事會長等の要職に就きウイルソン氏の大統領となるや拔擢されて紐育港の稅關長となり今又民衆の輿望を荷ふて新たに大紐育の市長となる、其の榮達の速かなる寧ろ破天荒と言はざるべからず

▲ピットは二十三歲にして英國首相の印綬を帶び、アレキサンダー、ハミルトンは廿五歲にして國會議員たり、兩者等しく赫々たる偉勳を後世子孫に遺せしと雖も而かも今日の時勢に於てミッチエルの如きは蓋し異數ならずとせんや

▲彼が長身痩軀を被へる蕭洒たる服裝は一見恰も貴公子の如くなりと雖も而かも其精悍の氣魄は肩守の間に溢れ、一度び拳を擧げて空を搏たんか政界の伏魔殿たるタマニーホールの魑魅魍魎は忽ちにして懾伏逃避せずんば止まざらんとするの慨あり、吾人はタマニー派の跋扈に飽ける紐育の腐敗政治が此前途有望なる青年政治家の快手腕によりて廓清の實を擧げん事を期待せんことを欲す

紐育新報　第百二十號　（土曜日）　大正二年十一月八日

●東京の大長節

曉來の天氣晴朗青山に於ける觀兵式は壯觀を極めたり　聖駕の過らせ給ふ所沿道堵を爲し盛儀を拜觀し感極まつて泣くものあり晝は國旗の大行列ありて之に加はる者總計二十萬人彩色天を蓋へり夜は提灯行列ありて紅火實に雲を燒くが如く隨處に起る萬歳の聲殷々として殆んど絕へず本日の佳節を期して大正博覽會の上棟式を行へるに是亦盛觀を極めたり聖代の盛事瑞雲靄靆八百八街津々浦々聖壽の無疆を賀するの狀盛觀偉觀筆舌に絕したり

●外相五千人を招く　天長節の當夜外務大臣は内外の貴顯五千人を招待し一大夜會を催したり

●江原翁の表彰　在米同胞慰問の爲め渡米して過般歸朝したる江原素六氏は緣綬章を下賜功勞を表彰せられたり

●横濱のペスト

横濱のペストは病毒益々猖獗となり市民一般戰々恂々たる有様なり

●明治神宮建立確定　明治神宮建立の事確定し内宮は代々木に外宮は青山と略決定したり

●大博參同問題略々纒まる　全國聯合商業會議所は本日桑港大博參同問題に關し協議する所ありたるが大体に於ては最早一人の反對者なく略々參同贊成に決したれど政府にては未だ態度を明瞭にせざる中進んで確定方針を發表し難しと云ふに在り殊に過般協議の結果贊同不贊同大体の方針は一に外務省の手に一任し置きたるにより外務省より確然たる公表なき間暫らく時機を見るに決し而して聯合會議所の方針は機宜の處置を中野會頭に委任し置けるにより外務の態度決定次第聯合會議所の參同方針は同氏によりて發表さるべし

●新政黨の動搖　前内閣農相たりし仲小路廉氏は先に立憲同志會より脫黨したるが後藤新平男も脫黨の意向を表白したり官僚分子は漸次同會より脫會すべきも代議士には異動なかるべし

●紐育觀光團の安着

林富平氏主催の母國觀光團は去月廿七日シャトル觀光團と共に無事東京に著したり

（以上六項東京電報）

●敷設權獲得顛末

洮南鐵道敷設權の獲得は第一革命後袁世凱が假大統領となりし際の伊集院駐支公使と袁世凱との間に始めて交涉を開始されたるものにして當時は別に具体的の交涉をなさず單に南滿州及び東蒙古開發のため鐵道敷設の急務なるを說くに止まり袁も亦稍我意を諒としたり、かくて今春孫逸仙が中華民國鐵道總裁として我國に來朝するや更に孫氏に對しても交涉する所あり氏も亦同鐵道を以て滿蒙開發には缺くべからざるものとなし次で現任外交總長孫寶琦及び李盛鐸の兩氏來朝の際にも亦該鐵道の交涉を爲したるが兩氏歸國後袁世凱に復命の結果茲に稍具体的に交涉の步を進め越して去八月山座公使赴任匆々袁世凱に對し本問題の交涉に努むる所あり、偶南京事件勃發したるにより同公使は兩國感情疎隔のため該交涉の立消ゑとならんことを虞れ且つ支那共和國承認の期も切迫せるを以て少くとも承認以前に於て大体なりとも解決するを得策とし屢折衝の結果去五日圖らずも支那共和國承認の前日に於て急遽袁世凱と山座公使との間に假契約の調印を了したる次第なりと

●政治界の變調　頃者桂公の薨去を傳ふるや世間先づ立憲同志會の將來を語る者甚だ多きが如くなるも桂公の復起つべからざるとは新政黨幹部の夙に知れる所にして加藤大浦後藤大石諸氏間には其善後策に就て既に幾度か密議を重ねたる趣なり同志會幹部今後の行動は蓋し其豫定の徑路を履むの外あるべからず且つ其一領袖の如きは爲に自ら期する所あるものゝ如くなれば近き將來に於て雨か風かは知らず何等かの[illegible]を生じ來るや論なし是より先山本首相と加藤高明男との間に外交問題に就き協議する所あり由來此二人の間には親交極めて厚きものあり互に相敬重すると深し、是がため當時内閣の一員すら余に語るに首相と男との間に立ち入りたる相談ありたる事を以てしたる事あり他の一方には犬養氏亦山本首相と深き關係あり而して氏と加藤男とは齋しく支那問題に就て駁突を避け居れるが或は將來同志會は山本伯の賓客として政治界に立ち政友會中の薩派と相呼應して更に新黨を成すべしと傳ふるものあり近頃政友會と薩派勢力との間には一種の摩擦を生じて事毎に不調和を暴露し來るの色あり山本首相が政友會の跋扈を厭惡すればする程政友會員の要求は加大するものあり山本首相としては此に控御の策を講ぜざるべからざる情勢なり

●露紙の北滿併合論　露都新聞レーチは極東問題に關する社說を掲げて左の如く曰へり　極東に於ける露國の同胞は上下を通じて北滿の併合を熱望せざるなし此際政府は宜しく絕東に在る同胞の叫聲に鑑みざるべからずと此記事は少からず露都の人心を動かしつゝあり

●西伯利亞移民政策　露國内務省は明年百万留を以て西伯利亞農民のために五十の穀物倉庫を建立せんとす

●無線電信隊の教練　陸軍省にては今般愈々無線電信隊を中野氣球隊跡に新設獨立する事に内定し既に明年度豫算に其編成費を要求したる由なるが目下無線電信に關する學術技術は中野電信隊より適當の將校下士及び成績抜萃の兵卒數名を選び專修せしめつゝあるが元來工兵隊の現役年限は三ヶ年の處電信隊のみは步兵隊と同じく在營二ヶ年の後除隊せしむを規定なるも今般新設せらるべき同隊教育は頗る研究熟練を要するを以て是が實行の曉には一般特科隊と同様三ヶ年に延長する事となるべしと

●桂公の戒名　故桂公の戒名は芝增上寺住職堀尾大僧正により左の如く指定されたり

長雲院殿忠譽義道清澄大居士

●外交官試驗合格者　去八月以來外務省にて執行中なりし外交官領事官試驗は一二三次の試驗を經て漸く決了したるが受驗者五十四名の中左の八名合格せり

▲福岡縣平民矢野眞▲京都府士族岩手嘉雄▲富山縣平民加藤外松▲福井縣平民栗山茂▲熊本縣士族[illegible]正之▲群馬縣士族藤井啓之助▲千葉縣平民白鳥敏夫▲東京府士族朝岡健

●政務局長任命　外務省政務局長阿部守太郎氏の後任として新に歸朝したる小池英國大使館參事官に對し去月十三日左の如く任命ありたり

大使館參事官　小池張造
任外務省政務局長（二等）

●女子の遣外練習生　農商務省に於ける本年度の海外實業練習生は合計十五名を採用するに決したが最も目新らしく感ぜらるゝは特に裁縫術刺繡及びレース練習として女子一名を採用したる事にして十一月一日より夫々海外に派遣されたる筈

●大野洒竹氏逝く　東京京橋區本挽町五の二大野病院長なる醫學士大野豐太氏（四二）は先頃一度重患に罹りしが再び本復したるに去月二日より又復[illegible]腫症に罹り鎌倉の本宅にて療養中の處去月十二日死去したり氏は熊本縣玉名郡彌富村の人にして青年時代より非常に俳句に趣味を有し洒竹と號し居し事は人の知る所の如し

●牧野外相の桂公談　桂公の薨去により政界轉た寂寥を感ず公天資俊邁年僅かに二十二戊申の戰功を錄せられ永年賞典祿二百五十石を賜はりたり西郷隆盛が維新第一の功臣として賞典祿二千石を賜はりし事を回顧すれば公の青年已に穎脫せる事を知るに足るべし維新の初め公の同僚先輩が競ふて出仕したるに拘らず公一人獨逸に留學し業を終へ一旦歸朝したるも直ちに又獨逸公使館附武官として赴任し十年の久しき海外に在りて修養を怠らざりき青年修養時代久しく海外に在りたる事は後年公の事業に益する事尠少ならざりき即ち公が總理大臣の重職に就くや獨逸語に巧なりしため外國大公使と直接議論を上下し世界の大勢に通曉する事を得たるなり桂公は外國の事情に通じ圓滿なる人物なれば外交家として卓越なるべきを想像するに難からず公の關係せし外交問題多けれども其中最も重要なりしものは朝鮮合併と日露戰爭なりしならん此兩者は共に小村侯の功多きに因るならんも桂公が列國の情勢に通曉し一定の方針を確立し之を斷行したるの功績亦決して沒すべからずポーツマウスの談判に關しては世間兎角の批評あり後世の定論を竢たざるべからざるも輿論の不滿を顧ずして和を講じ輿論の歸向を察し一轍を辭し能く帝國の威名を保ちたるは多とすべし而も公の長ずる所は外交方面に非ずして寧ろ政治方面なりしならん桂公が内閣を組織せる後議會を[illegible]する二回に及びしも或る一派の如く議會を無視するの意思ありしに非ず陸軍大臣たる時代より議會と共に國事を料理せんとの意志より總理大臣となりては政友會と或は協し或は情意投合し遂に伊藤公に倣ひ新政黨を樹立し自ら政黨の首領となり議會政治を實行せんと企つるに至れり藩閥政治より議會政治に移るの過渡時代十四五年間に於て公の如きは蓋し最も重要缺くべからざる人物なりしならん晩年の偉圖未だ成らずして空しく偉材を懷いて黄泉に入る我が政界のため惜しむべきなり

▼新店開業廣告▲

謹啓名位益々御清適の段奉慶賀候、陳者弊店儀來る十一月十五日より東五十九丁目百十番百十二番地（レキシントン及びパーク街の間）に於て竹田商店の名儀の下に日本食料品一切日本小間物、呉服反物、賣藥、食器類、小説雜誌、陶器、玩具等一般の雜貨品販賣營業仕候間左記兩店何れなりとも各位の御便利に應じ陸續御注文御引立の程偏に奉願上候敬白

紐育市東五十九丁目百十、十二番
電話　プラザ　一六七八
竹田商店
H. TAKEDA & CO.
110-112 E. 59St New York City
Tel. Plaza 1678

紐育市パークロー一九二
電話　ウォース　壹二壹
竹田北村商會
TAKEDA KITAMURA & CO.
19 Park Raw New York City
Tel. Worth 121

▲寄書▼

●水野氏に就て

淡懐子

長廣舌に水野總領事の事が出て居たが、ともすれば話頭に上るのは同氏である、何といつてもニューヨークへ來て一番深い印象を内外人に與へたのは前に今西夫人後に水野總領事であつたらう、今だに米人は氏をチャーミングな人として忘れない、一体氏は一寸人を好き嫌ひする所がある、新報記者なども嫌はれた方なのであらう、併し始め嫌ひな人でも後に好きになるとムヤミに好きになる樣な事がある、三等書記官か何かで獨逸に居た時の公使夫人は獨逸皇帝をチャームしたと云ふ評判のある有名な女傑であつたが水野が何だか不[illegible]の樣に見ゆるので夫人は青書生の癖に生意氣なデシャバリと思へば水野の方でもハイカラな知つたかぶりと云ふ調子で仲の惡さ加減頻りであつたが其中に相互に知り合つて見るとモウ實に意氣の投合したよい友達となつてしまつた、今日でも公使夫人の手紙が來ると子供のやうに嬉しがつて最愛の峯子夫人の前でホメ立てる所なぞは中々の見ものである、氏が豪傑であるか、ないがは知らぬが昔から豪傑の資格の一として數ねられてる人をチャームする力はエライ者である。僕は斷つて置くが同氏に對して何等恩怨なき者である

●亞市便り

▲天長節祝會　去三十一日亞市日本人會主催の下に天長節祝賀會を藤花茶房に於て開催せり、出席者廿五名林鐵次氏司會者として開會の辭を述べ最も嚴肅なる第一式を了りたる後晩餐に移り種々餘興多き隱藝等出で各自十二分の歡を盡して散會したるは午後十一時頃なりき

▲亞市日本人會長近藤佐重郎氏並夫人は飯島總領事主催の天長節祝會に出席のため出新中なりしが去二日歸市せり

▲赤羽雪邦畫伯　六七年前より當市ボードウォークに畫室を有せし日本水彩畫家赤羽氏は今回費府の美術家チンデル氏の需により不日當地を引拂ひ當冬中滯在の豫定にて費府に赴かるゝ由なり（狂水生）

●飯島總領事主催天長節祝會　既報の如く去月卅一日夜ホテルアスターに於て開催され、出席者は内外紳士淑女二百餘名にて外人は重に日本と直接間接の關係ありたる人々なりき午後九時レセプション了り直ちに晩餐に移りたるが食後飯島總領事は除ろに起ちて開會の辭を述べ次に日本協會々長リンゼー、ラッセル氏日本倶樂部會長高峯博士兩氏の發聲にて天皇陛下並に米國大統領の萬歳を三唱し、右了りて後ゼーブ、シフマッカネー、メービー博士、家永博士諸氏の日米國交、東西兩洋文明の融和に關する趣味深き演說等あり、非常の盛會にて一同散會したるは十二時半なりき、因に飯島總領事夫人の着紐延引のため當夜のホステスは高峯博士夫人之に代れり

●共濟會の役員會　去五日夜一宮會計自宅に於て開會、通常報告、墓地基金、幹事增俸、會計報告等の諸件に就き協議したり、尙當夜出席したる總領事飯島氏其他の役員諸氏十一名は目下某々有力者間にて計畫中なる新育日本人會創立に關し意見を交換する所ありしが結局一同贊成すべしとの意を洩せり（尤も此件が共濟會役員會と何等の交渉なきとは明かなりとす）尙日本人會創立は特種の事情の下に至急創立の必要に迫られ居る由なれば具体的成案として世人の前に提供せらるゝの日は遠きに非ざるべし

●高峯博士出發延期　七日出發の筈なりしが都合により來る十日に延期せり

●大橋秀三郎氏の選擧權獲得運動　同氏は豫て企畫中なりし日本人選擧權獲得運動本部の組織に關し來十一日午後八時半西百九街二二九なる自宅に於て發起人會を開くべく諸方面に勸誘狀を發したるが目下日米兩國間の關係昔日の如くならず殊に兩國の懸案未だ解決に至らざる今日斯の如き運動は恐らく徒勞に屬すべしと云ふ者あり

●末廣博士の談　末廣博士は目下シヤトル滯在中なるが同博士は到る所に於て加州土地法の野蠻極まる所以を講演し更に墨國問題にも論及しつゝあり即ち左に紹介するは「墨國と日本」と題する同博士所論の一端なり、若し日本政府にして喧嘩腰とならばメキシコへ多くの移民を出し得べきも甚しく米政府へ氣兼せる傾きあり余の知れる近藤某の如きは農商務省技師迄勤めシッカリしたる人物にして目下墨國內にて堅實に漁業に從事せるに拘らず彼の要求に應じて官憲が旅券を下す人員は一ヶ年三四名に限ぎず斯くて充分有望なる事業にあり付きながら人手無きため活動し能はざるものゝ如し勿論墨國は米國と異なり給料も安くして土人の如きは三十五六仙乃至六十仙を得るに過ぎざる有樣なれば同胞の突然多數入り込むも香しき事なかるべし左れど我政府の米國に對する遠慮は餘りに甚しきを以て我々は事情を述べて反省を求め相當に邦人の移住を計る所なくんばあらず云々

●フロリダの排日に就て　小數の同胞が加州よりフロリダに移住の計畫を爲し居るとて臨時州會を開くとか排日法を制定するとか騒ぎ出し同州の諸新聞も亦雷同して一時世間の噂に上りしが右は前州知事ゼンニング氏に對し私憤を抱ける國會議員クラーク氏が日本人とゼ氏所有地との關係を嗅ぎ出し殊更大ケ裟に吹き立てたるに由るものにてツマリ日本人は同氏等のダシに使はれた次第なりとフロリダ在任の村田由三氏より通信ありたり

●幣原喜重郎氏轉任　華府大使館參事官なる同氏は今回英國日本大使館に轉任を命ぜられ、後任として佛國大使館一等書記官三浦彌五郎氏來任する筈なりと三日發の東京發信に見へたり

●津田梅子女史　去卅一日桑港出帆春洋丸にて歸朝の途に就けるが同女史がエキザミナー紙記者の質問に答へたる一節に曰く、進歩思想を持つて居る女學生等は米國遊學を非常に希望して居ますから若し來るとしたら此加州大學にも大勢入學するやうになるでしやう併し加州では日本の女學生なんか來て欲しくはないのでしやう

●春洋丸便乘歸朝知名諸氏　鎌田榮吉、關和知、藤野幹、小寺源吾、津田梅子、クック世界漫遊團一行

●竹田商店の新店　三面上段特別廣告を見られよ

●東洋倶樂部の賣渡　今回河添村治氏一個にて經營する事となれり

●酒を飲む人へ　少々値段が上つた

特別廣告

謹啓各位益々御清福之段奉賀候、却說弊館儀は今回臨時株主總會の結果として前河添旅館持主河添村治氏に賣渡す事となり、來十一月廿日より同氏名義の下に從前の營業を繼續致され候間倍舊の御引立を蒙り度伏て奉希上候

東洋倶樂部株主一同

●細川侯家より七十万圓を詐取す　日本よりの最近信によれば舊熊本藩主細川護成侯の家從瀧井某は仲買者數名の甘言に乘せられ主家の財產七十万圓を引出して相場を試み失敗したると發覺し此程逮捕されたる由にて右仲買業者の一人石井某は警視廳の檢擧を恐れ姿を昏まし居たりしが去月廿二日遂に自殺の意を決し高田馬場にて列車の進行し來るを待受けヒラリと身を躍らしてレール內に飛込み轢死を遂げたりと

●桑港の天長節騒ぎ　桑港領事沼野安太郎氏が其主催にかゝる天長節祝會に於て在留有志家を招待するに甚だ不公平を極めたりとて新世界社及四五の實業家は參會を謝絕し今猶物議紛々たりとの報あり、同地は在留者多數なるのみならず內外人に對する官憲の手心頗る細心の注意を要するものあるべし

紐育の日本人(二)

飛耳張目生

家内的勞働者の貯蓄出來ざる理由

▲紐育に在る日本人の家内的勞働者が相當の高給を得居りながら何故に貯蓄せぬかと云ふに單に彼等は意氣地がないからとケナシては公平でない其處には大ひに同情すべき理由があつて又パブリックメンや宗教家の一考を煩はしたいものがある

▲第一彼等には彼等の勞働に酬ゆべき慰籍といふものが更にない、青年時代に無くて叶はぬ其慰籍を缺ひてる上に彼等を監督して眞面目な生活に導く所の親兄弟親戚がない、而かも其慰籍が精神的にも物質的にも缺けて居るのであるから彼等の生活狀態は勢ひ放縦自在、餓へたる虎を野群に放つと同じからざるを得ないのだ

▲例令へばミセスから御無理御尤の御小言を頂載してジーット痴癪玉を鵜呑にし終日の働きを仕舞つて切めても憂さ晴しに芝居に出掛けるとする、活動寫眞なら兎に角であるがドラマにしろブォデビルにしろアー面白いと感ずる程度は外國人の三分の一にも足らぬ、歌は勿論珍粉漢紛西洋人かキャッ／＼と言つて笑ひ興ずる茶番落語も不絕觀客の耳を樂ます音樂も半分以上は解らぬから到底日本で演劇を見るやうな娛樂は得られぬ、ベースボールや拳闘の如き誰にも解る、ソシて活潑なものは彼等の就職時間と多く衝突するタイムに行はれるから見物に行けない

▲萬事がコンナ調子で面白くない所から自然燒け半分になり酒、女、賭け事等で平生の欝憤を洩す事になる隨つて金が蓄らぬと斯うなる

▲尤も比較的眞面目な者は精神上の慰籍を得んが爲めに宗教團体又は其他の會合に加入し、平生は讀書などして樂んで居る、併し是等の比較的眞面目な者にさへ金の溜り難くい理由があると云ふのは紐育で日本人を使用する家は大低金持であるから時候の代り目には必ず居を移す、冬は大低市內の本邸に住む者多數であるが夏になると家族打揃ふて避暑地の別邸に移り、又は歐州に旅行する、從つて雇人の出入が頗る頻繁である

▲コンナ居心地のよい奉公口は滅多にはない自分も永く辛抱して貯蓄しやうと樂んで居ると、前記のやうな事情で解雇され更に他の働き口にあに付く迄遊ばねばならぬ、眞面目で居ながら運の惡い者になると二年も三年も斯ういふ境遇を續けて居るのがある、之も金の溜らぬ一つの理由である

▲今一つの理由は生活費用の高い事である、西部に在る同胞は氣候の變化なきため春着一着で一年中を押通す事も出來、オーブアコートなどは無くても濟むし食事は一食十五仙乃至廿五仙で立派なものが食べられる然るに東部地方は氣候の變化が日本同様であるから春夏秋冬少くとも冬夏の二季には必ず衣服の新調を要するのみならずシャツ、ネクタイ、靴其他の必需品をも併せて買はねばならず、普通の生活費は一日二弗以下では過されない、酒の好きな者などに至ると一日の生活費が平均三弗以上に上ぼる

▲勿論衣服なども一着十五弗か精々廿弗の出來合ひ物で濟まされぬ事はないが出來合物は大低日本人の小さな身體に適せず、殊に見れ坊を好む日本人だから安くても廿五弗以上三四十弗の物、靴なども四五弗以下の物は穿かぬ、朝たにヱスサを送り夕べにはエスマダムを迎ふるサーブアントも新調の衣服を着て外出する風彩を見ると一個堂々たるジャパニーズゼントルマンで之亦金の溜らぬ一つの理由である

解剖臺上の桂公爵

故桂公爵遺命に基ける同公遺骸の解剖は去月十四日夜十二時より翌十五日午前二時に亘りて桂公邸に於て執行されたるが

▲西洋人に劣らず　桂公は生前西洋人と日本人との腦の組織發達に於て日本人は西洋人に劣れりとの説を往々なす者あるを遺憾として機會あればその眞僞を立證し誤謬を改めんとの希望を有せし者の如く公自らは日露戰爭及びその戰後の經營に關して自分より公言するは烏滸がましきも自分は西洋人に劣らざる相當の働を成したりと信ずるものにて決して西洋人と腦の組織及び能力に於て劣るものと信ぜず云々とて鎌倉に療養の際七八月に涉り醫師及び家人に數回其意を洩し萬一自分が死亡する等の事あらば必ず頭腦及び軀幹を解剖して醫學研究の資料に供せよと嚴かに命じ置きたる由にてさてこそ今回の事に及べるなりといふ

▲解剖は公の持説　公は亦常に「ガンベッタ、ビスマルク、ナポレオン三世、ゲーテ及びシルレルの如き世界の偉人は躬ら其死體を解剖料材に提供して醫學界に貢献せるが我國にても伊藤公の如き大政治家は宜しく死體を提供して解剖材料とし參考に資すべきは國家の公益なるべし、併し伊藤公はハルビンにて俄かに悲慘の最後を遂げ遂に其機會を得ざりしは是非もなし」と語り居たる由なるが公は又膓部の痼疾が病源不明瞭なるを遺憾とし自ら癌研究會の會長となり之がために盡力する所ありし程なれど公自身の疾病は依然として其病名判然せず、醫界及び世　に疑惑を胎して空しく死するが如何にも快からずとて家人に死後解剖に附すべき旨を命じ置きしものなりと

▲詳細なる解剖　然るに公は遂に薨去の事あり家人近親の人々は如何に公の遺命とは云へ他事ならぬ遺骸に刃を當つる事なればかな子夫人の意中をも測りかね誰とてこれを言ひ出す者なかりしが十四日に至り却つてかな子未亡人より納棺式も最早迫りたれば公爵生前の遺命に從ひ腦髓及軀幹を解剖に附してはと云ひ出でしより近親の人々も之に同意し公の病室なりし二階の室に於て三浦、佐藤北里、青山、吉本、伊丹の六博士及び家人親族側よりかな子未亡人長島隆二、天岡直嘉、伊藤文吉、井上三郎諸氏並に後藤男は醫師として尙ほ生前公の希望を聞き居たる人なれば之を加へて一同立合ひの上醫科大學教授長與又郎博士執刀の下に十四日夜十二時より二時間に渉り精細なる解剖を爲せり

▲公の腦量　右に就き長與博士は語つて曰く、執刀に先つて井上三郎氏が「解剖に就ては何等の制限も置かぬ、遺憾なく解剖して呉れ」との言葉があつたので私は心持よく解剖が出來たのは大に感謝する所である、腹部の方の結果は全く胃癌で、夫から腦の方は血栓が集まつて血管が非常に大きくなり從つて腦の大部分が腐つて居たから何うする事も出來ない、之が直接の死因を爲して居る、腦量は本邦人の青年男子は平均千三百五十六瓦であるが、**公のは千六百瓦**あつた、腦量が多い少ないで強ち人物を律する譯には行かないが偉人は概して腦量が多い様である、泰西の偉人の中でビスマークは千八百七瓦ナポレオンは千五百瓦バイロンは千八百七瓦ツルゲネーフは圖拔けて二千十二カントは千六百瓦で桂公と同量である、之に反し科學者として斯界の尊敬せる有名なるブンセンは僅かに千二百瓦でガンベッタの如きも千三百十三瓦しかない、けれども野蠻人は概して少ないのは事實だタスマニヤ人の如きは僅に千百瓦位しかない云々

紐育日本間郵便發着表

ニューヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
春洋丸	桑港	十一月三日
タコマ丸	タコマ	五日
サイベリヤ	桑港	十日
横濱丸	沙港	十三日
チヤイナ	桑港	十七日
メキシコ丸	タコマ	二十日
マンチユリヤ	桑港	廿四日
因幡丸	沙港	廿七日
地洋丸	桑港	十二月一日
シカゴ丸	タコマ	三日

●日本より到着日　十一月一日　六日　九日　十三日　十五日

No. 121 VOL. 3

THE JAPANESE TIMES

SATURDAY, Nov. 15th 1913

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave, N. Y. City.
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N. Y. Post Office
as secod class matter under
act of March 3rd 1879

新報定價（前金郵税共）
□一部金五仙□六ヶ月分一弗
□一ヶ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政院認可
發行兼編輯人 甲斐健一
發行所 紐育新報社
紐育市第六街二三八
電話チエルシイ六四七三

紐育日本人會の設立に就て

曩に添田博士來遊の當時新育日本人會創立の議は一部同胞間より提唱せられたりしと雖も時期猶未だ熟せざりしものありしか遂に其成立を見るに至らずして止みしが爾來日米問題の解決渉々しからざるものあり、在米同胞一致協力の必要日を追ふて益々切なるを加へ來りしと共に故國との聯絡を保つ上に於て日本人會の創設は一日も苟せにす可らざる當頭の緊急問題となれり、茲に於てか平生當地在留同胞社界の事業統一に腐心し居る飯島總領事或は日米問題の解決に全力を傾注しつゝある高峯博士の如きは勿論嘗ては日本人會の創立に反對の意見を有せし人々も自ら進むで緊急創立の必要を論ずるに至り當地有力者輩の意見は略ぼ一致せるものゝ如し、吾人は日米關係を動機として將に起らんとする日本人會が單に日米問題の解決てふ大旗色の下に行動するのみならず、在留同胞社會の秩序的改善及其實質的發展に向つて努力する所あらんとを望み且つ發起人諸氏の意亦此点に存す可きは蓋し疑を容れざる所なり

念ふに四五の大會社組織に成れる事業の外東部地方に於ける吾邦人の事業が稍もすれば停滯不振の舊情に甘んずるの傾向を有し、就中小資本を以て各種の事業を營まんと欲する者若くは特種專門の職業を以て身を立てんと欲する者に不便を感ぜしめし事多き所以は畢竟ずるに吾同胞が完全なる統一的社會組織を欠き、各人をして其依據する所を知らしむるの機關なく、一般は俗惡なる個人思想に驅られて、個々別々の行動を敢てし、聊かも融會共通の全局に利益ある事を悟らざるに職由す、今や將に日本人會は成らんとし在留同胞社會の欠陷は之に依りて新たに改善の曙光に接せんとす、吾人豈慶賀せざるを得んや

乍併茲に日本人會創立の議と相伴ふて起り來りし問題は從來同胞社會の唯一機關たりし日本人共濟會を新日本人會と合併すべきや否やの問題之なり、合併を可とする論者は在留同胞の公共事業に對する觀念を統一し其精力を集中して日本人全体の福利增進を圖るべしとなし、日本人會の事業費は之を一般の寄附金に待つ事となさば單に共濟會の基礎を危ふせざるのみならず結局一般の救濟事業を促進する所以なりとし、合併を不可とする論者は日本人會の創立には何等の異論なきも事業の性質著しく相違せる兩會の合同は或は以て光榮ある歴史を有する共濟會の事業に影響を及ぼすやも計る可らず、宜しく先づ日本人會を創立し、機熟するを俟つて合併の擧に出づるも敢て遲しとなさずと主張す、贊否兩論何れに歸着す可きかは未だ俄に卜知し難しと雖も[illegible]日本人會の基本的合併成案が共濟會の事業に何等の惡影響を及ぼすの患なく、却て一般慈善事業の發達を促すものならんには須く兩會の合一を圖り、在留同胞社會の統一的組織に向つて一歩を進めん事を希望して止まざる者なり、敢て江湖諸賢の公論に訴ふ

●滑稽なる米墨外交

十八階樓主人

▲日本と米國とは外交政策なるものに就て兄たり難く、弟たり難き間にある、日本の外交が常に無主義無定見で、支那に對しても米國に對しても何時もグータラベーのコン〳〵チキと來てるのは誰も知つて居るが米國の對墨政策といつたら恐らく天下第一の滑稽小話と云ふ可きであらう

▲ウヰルソンは到處にプリンシプルとか、ピースとか云つて政治なるものは恰も聖書の教文を實行するものなるかの如くに演說して歩いてるがサテ實際の御手際如何と拜見して見ると御覽の通りでイヤハヤ御氣の毒千萬の至りじや、先生は矢ッ張りプリンストンで講釋をやつてる方が可い

▲元來米國人は外交なるものを知らぬ、巴里でも、倫敦でも、伯林でも市內到處の倶樂部やカフエーで評論される主要のトピックは何時でも外交である、所が米國の倶樂部や集會所ではベドスボール、アクトレス氣の利いた所でビジネス即ちダラデモクラシーだ

▲試みに米國中の新聞で堂々とウヰルソンの對墨政策を批評してるものが有るか無いかを調べて見給へ、ヨシあるにしても不眞面目な徹底せぬ駄評に過ぎないであらう凡そ一國が戰爭に依て事を決するか否かの大問題に逢着して居る際に當つて國民の輿論が如斯冷淡を極むると云ふ事は決してあるべき筈のものでない

▲斯様に外交に就ては無經驗で而かも冷淡な米國民の代表者たるウヰルソンの外交政策が面白く行く道理がない、戰爭[illegible]を聞いて辭職しろと迫つても一向利目がない所から、苦し紛れに今度は方法を代へて對墨餓鬼政策と出掛けた米國人は勿論歐州各國民も墨國政府に金を貸すべからずと云ふ虫の好い話である

▲隣りの娘は中々別嬪ぢやが己れの氣に食はぬから村の若い者共は決して惚れてはならぬと言つた所で何になる、縱令頑固老爺の米國が何と云つてもメキシコと云ふ別嬪がキャンデーが好きと云へば歐州の若い者共は花も持て行くしキャンデーも持て行く、從つて双方の經濟的關係が深くなればなる程婚期が近づいて來て禿藥頭の米國を疎遠にするやうになるのだ

▲ウヰルソンは公平な選擧を墨國に要求するが天下何物か之に過ぎたる愚說あらんやだ、墨西古のやうな未開國で而も宗教に蠱毒されてる國に立憲とか議會とか云ふやうな事を並べた所で夫は畢竟するに机上の空論に過ぎないのである、墨國をして米國の如くあれと望むのは赤兒に對して大人の如くあれと望むのと何等の撰ぶ所はないのだ

▲現在の墨國に於て要する所の人物は英國公使の言つた通りストロングハンドの鐵血政治家である、而してウエルタは現在の墨國を統治するに適した人物である、空理に馳せて實際に疎い政治家は到底一國の外交を談ずるに足りない學究である。

●四海同胞主義と學生

宮川生

▲當地學生間に於て近時最も世人の注意と趣味とを引けるはコスモポリタン倶樂部の新發展なるべく候同倶樂部はニューヨーク市基督教青年會大學生部の監督のもとに設立せられたるものにて當市の各大學に留學せる外國人學生の社交團体に候

▲コスモポリタン倶樂部の目的とせる所は會員相互の社會的、智育的及び道德的の向上を計り外國學生と米國學生との交情を密接にし米國人の家庭的生活の趣味を解し進んでは各國留學生によりて萬國平和のため何等か成さるべき所あるべきを期待致し居るものに候

▲毎日曜夕には會員何れも倶樂部に集りて夕食を共にし食後は名士の短かき講演を聞く事と致し居り、政治家、學者宗教家、大學総長等常に知名の士を迎へ申候日本人としては嘗て新渡戸博士を迎へ近くは家永博士及び來栖領事官補等出席致され候

▲政治、宗教、工學、理化。法律、醫學、商業、財政等種々の異れる科目を學べる而して異れる毛色と顔とを有する數十の青年が四海同胞てふ同一の主義の下に英語を以て談笑し議論し食事し時には郊外に遠足する所などは眞に愉快なる光景に候

△會長は土耳古人、副會長は印度人幹事は日本人、會計は支那人、專任書記は米國人の各學生にて各種の委員も諸國人よく混合せられ居り候倶樂部は事業を始めて僅に三年余に相成候が團体として組織せられたるは近時の事にて現在の四十七名の會員は何れも發起人とも云ふべき人々に有之候

▲倶樂部はコロンビヤ大學の側にて常に會員のために開放し且つ訪問客を歡迎致す由に候發起人の四十七士は熱心に新會員を募り居り候同胞中の諸團体も必要に候がコスモポリタン倶樂部の如く各國人聯合の仕事も亦無益にてはこれなかるべく、四十名にある當地在留の新舊學生のこれに趣味を持たれん事こそ望ましく候

▲コロムビヤ小丘上西百十四丁目五百五十四番に倶樂部はこれあり候毎週日本人學生には日曜夕食と講演とに招待狀を發送致し候が、特に姓名をもれの人も之れあり候ふべく、何人にても散歩の際にでも御立ち寄りなされては如何に候哉、年若き團体のことて萬事完備とまでは勿論至り申さず熱心なる同胞學生諸氏の協力御盡力を切望せる由に候先は匆々頓首

●日本軍艦墨國に派遣（十二日東京發）

日本政府は墨國に於ける邦人保護の目的を以て巡洋艦出雲を派遣する事に決し出雲は目下横須賀にて發艦準備中なり、右に對し日本政府は本日其說明書を發表し、在墨邦人二千[illegible]に於て出來得る丈の盡力を爲しつゝあるも最近の情報は[illegible]の危險に[illegible]ふる必要を感せしむと云へり尚軍艦派遣に關しては日本は豫て米國政府と交渉を重ねたるものゝ如し

●袁世凱の地盤愈堅固なり

南方派の滅絶と國會[illegible]に成功したる袁は現在の議院制度を以て不便なりとし新たに自家直任の[illegible]員各省総督及大[illegible]の七十一名を以て成れる議政[illegible]を設け上院を廢止し現在の[illegible]九十六名を減じ三百名となすべく宣言せり、但し現在の議會は依然非公式の集會[illegible]定數に充たざるが故に實際の政治[illegible]しては何等の交渉なしと

●餓鬼政策

煩悶中の米國と頑强の墨國

▲餓鬼政策 幾度か平和手段によりウエルタの辭職を勸告するも[illegible]れざるより米國が窮餘の一策として案出したるは墨國に向つて資本の供給を杜絶すべしとの餓鬼政策にして[illegible]府は革命軍に武器を供給しウエルタ政府を顚覆せしむべしとなす方針に云々

反對せる[illegible]卿武官[illegible]氏の提案なりしこ、此提案は歐州諸國の[illegible]する所なりと米國新聞は報ずれども實行は覺束なからん

▲リンド氏墨都を去る ウイルソン氏の特使たるリンド氏は墨國政府に對し議會の解散を實行すべき旨を要求し十二日午後七時を期して其回答を求めたるも同刻限に至り何等の回答に接せざりしを以て愈交渉斷絶と認め同夜八時墨都出發ブエラクルツに引上げ歸國の準備中なるが墨都に於ける米國人は夫々引上げの準備に忙はしと

▲愈武力干渉か 在墨都倫敦タイムス通信員は曰く、ウイルソン氏の餓鬼政策にして奏功せざるに於ては米國は結局武力的手段によりて墨國の要港を封鎖し新たに總選擧を行はしめ最初の要求を貫徹すべしと[illegible]ざる事は確かなるべしと云々

▲老[illegible]將軍の勸告 目下巴里に在る老[illegible]はマデロ黨ウエルタ黨及自由[illegible]の[illegible]に墨國の現狀に[illegible]なるが氏はウエルタ[illegible]一片の[illegible]を送り、現在の問題はウエルタ將軍が大統領として適任なるか否か將又革命[illegible]

●英國首相アスクヰス氏の演說と同國の對墨政策 英國首相アスクヰス氏は去十[illegible]日[illegible]宴會席上に於て[illegible]に就て左の如く[illegible]り

[illegible]

●横須賀に於ける觀艦式（十一月十一日東京發）本日陛下御臨幸の上觀艦式を横須賀軍港に於て行はせられ、參列艦數五十五隻頗る壯觀を極めたり、式終りて後陛下には毎歳之を擧行す可き旨仰出されたりと

●桑博賛同決議文到着　桑港在留同胞の大博賛同決議文六日朝都下各新聞に掲載せられ多大の注意を喚起せり亦沙港觀光團長藤岡紫朗氏は熱心に桑博賛同の必要を遊說中なるが未だ朝野の意見何れとも確定するに至らず

●網島氏の渡米　米國人宣教師を動かして人種的偏見を緩和せんとの組合教會の決議に依り同教會牧師網島佳吉氏は來月の地洋丸にて渡航の上沿岸各地より東部に向けて遊說を爲す筈なり

●金剛艦安着　巡洋戰艦金剛は五日無事横須賀に着港、廻航將士の歡迎頗る盛んなり

●三教懇親會　三宗教聯同懇親會は四日夜精養軒にて開會坂谷東京市長座長席に就き決議の結果今後毎年開會に決せり

●新政黨大分裂　桂公逝いて漸く二週日なるに立憲同志會は將に瓦解せんとす即ち同黨の領袖たる後藤新平男は脫黨して寺内伯を擁立せんと計畫しつゝあり尤も加藤高明男大石正巳氏等の如きは現狀を維持せん計畫なれど黨中には相融和せざる異分子少からざれば大分裂を免れざるべく從つて近く政界にば大動搖起らん

●西園寺侯叙勳

本年二月の政變以來京都の別莊或は東京の本邸に在りて閑日月を樂める前の總理大臣西園寺公望侯は多年の功勞により近々大勳位に叙せらるべしとの說あり

●岡警保局長政友會に入黨す　去月廿四日現內閣の警保局長岡喜七郎氏は政友會に入黨の手續を了せり

●墨國答禮使來朝

メキシコにては曩に其獨立百年祭に當り日本より時の駐米大使内田康哉子を參列せしめたるに對し之が答禮としてヂアス將軍を日本に送る筈なりしも或事情の下に俄かに變更となりしより今回デラバーラ將軍を謝禮使として特派し其一行去月廿八日到着したりと

●文展審査發表　目下開會中の文部省美術展覽會出品審査の結果は去月廿五日審査委員によりて發表されたり其結果第一部（洋畫）第二部（日本畫）及び第三部（彫刻）の全部を通じて二等及び三等に入選受賞せしもの卅四名あり中日本畫の二等に當選せし堅山南風氏の「難船」と題する作品には文展開館以來嘖々たる好評を博して大に世人の注意を惹しものあり南風氏は熊本の人當年廿七歳今より四年前上京し刻苦々學を重ねつゝある青年畫家にして都下諸新聞紙は何れも競ふて讚辭を呈し我美術界の天才兒となせり兎に角感ずべき好青年と云ふべし

●後藤尾崎密約　愈々立憲同志會より脫したる男爵後藤新平氏は數年來の政敵たりし尾崎氏と結び相提携して政界に立つべく密約をなせり其結果政友倶樂部と後藤男と去就を共にせる立憲同志會脫黨者とを打て一團とせる新政黨組織せらるべし、後藤尾崎兩氏の握手は政界の奇現象として多大の興味を以て迎へらる

●開南丸の沈沒　東郷大將が命名に係る白瀨中尉が南極探撿に使用したる開南丸は去月九日午前七時伊勢國津の沖合航行中志摩國志摩郡菅島燈臺沖數哩の地点にて暗礁に乘り上げ破壞沈沒せり積荷は木材炭等にて幸に乘組員十名は無事なりしと

●革命派銃殺　河南省都督張鎮芳は近頃第二革命關係者數十名を銃殺し同地の治安を維持すと稱し居れるが其内首謀者闞子固なる者の口述を發表せり曰く現今孫逸仙黃興等は日露英佛印度の五國に結び飛行機を使用し袁世凱を暗殺し又北京城內の某地点に隧道を作り總督府に達せしめ爆烈彈を以て袁を暗殺する計畫あり日本人の隧道工事に通ぜる者と相結べるが孫は日佛間に友人多く又露國無黨と連絡し蒙古東三省にて事を舉ぐるの約束をなせり又去月廿日上海に達したる來信によれば黃興は不日大連に赴くべし支那內地にて之が準備をなすべしとありしと

●航路補助と郵船　航路補助整理額は現在の三分の一叉は四分の一減說等傳へられつゝありて其額の可なり多額に上る可き事及之と同時に巴奈馬航路開始の儀は今日の場合殆んど望みの餘地なきものゝ如く之に對する三會社側の態度如何は頗る注目を惹きつゝあるか東洋汽船社は伊坂專務の米國及巴奈馬視察より歸朝に際し巴奈馬航路に對して樂觀說を試みたるあり又大坂商船は既に巴奈馬航路新設準備として新船數隻を注文せるやに傳へられたるに反し獨り郵船當事者に至りては多くは悲觀說に傾き外部に向つては該問題に對する意見希望を仄かす事など寧ろ之を避けんとするもの如くなりしも最近某重役の談に依れば同社のカルカッタ航路は勿論濠州航路も該地に於ける排他主義の旺盛に赴くに伴ひ益持餘しつゝありて政府其他に對する事情の許すあらば之を放擲し他の有望なる方面に向つて發展せんとするの意ある折から前記補助削減は專ら郵船に向つて加へらるべき事略推測に難からざる情勢なるより郵船當事者に於ても能ふべくんば此際濠州航路に代ふるに巴奈馬新航路を以てし一方に於て削られたる分を他方に於て取戻さんとの意向漸く明瞭ならんとし其方針に決きて盛んに政府筋及某政黨筋に對して運動中にして少くとも會社經營並は航路狀態等より推すも此際郵船を措きては他に抜駈けの功名を博せんとする如き者は未だ出で來らざるか如しと

●米國中西部の降雪大被害　去九日以來ペンバニア　ブアジニア　の西部よりオハイヲ　ミシガン　地方へかけ本年最初の降雪あり殊に猛烈なる風さへ加はりたれば之かため人命、財産、船舶、交通機關等に及ぼせし以上各州の損害は實に夥しく、クリーブランド市の如きは積雪廿一時に及び交通の斷絕と共に一時食糧欠乏の危險に頻せし位なりしが被害都市はデトロイト　クリブーランド　ヒッツバグ　バフワロー　カムバランド市俄古地方及ミシガン州各地の都會なり

●莫大なるワイエムシーエー寄附金　當地基督教青年會の事業及基教婦人會館新設の目的を以て義捐金四百萬弗を募集する計畫あり、其第一回會合は去十一日クシマン夫人主催の下にホテルアスターに於て開かれたるが同夜の來會者は何れも米國著名の富豪名士にして席上ロックフエラー翁の三十五萬弗を劈頭とし合計百九十八万余弗の據金あり、各寄附者の姓名金額を讀み上げたる時は滿場の拍手暫しも止まず大成功を以て終りを告げたりと、著名富豪の寄金額左の如し

三十五萬弗	ロックフエラー
三十万弗	ストレート夫人
二十五万弗宛	トツプ及トツチ孃
廿一万五千弗	無名▲（女の友）
二十万弗	セフワード夫人

此婦人館新設費の外に彼の有名なるラッセル、セーチ夫人は近頃七十五弗を寄附したりと

●日本の軍器供給説　ヘラルド紙の華盛頓通信員は曰く、華盛頓陸軍參謀本部が墨都より得たる秘報に依ればウエルタ將軍は三井物産會社の手を經て日本より二万個の小銃と千五百萬個の彈藥買入の契約をなし遲くとも一月中に其全部を受取る筈にてウエルタ政府は此外同じく三井を通じて四十五個の野砲を買入れ既に入手したるが華府陸軍省の材料によりて算すれば新たに買入れたる右野砲を合せ墨國陸軍の砲力は合計三百五十個となり米國現在の野戰砲三百七十八に對し有力なる對抗力を有すべし

●首相外相の對墨政策協議（十四日東京發）　山本首相は對墨問題に關し昨日牧野外相と面談を遂げしが巡洋艦出雲派遣の確定は不尠一般の注意を惹き諸新聞紙は、日本が西半球の政治問題に關係を有するに至れるものとなし熾んに論議しつゝあり出雲は十一月廿日發程すべく、前華府大使館一等書記官にて現外務省電信課長たる殖原正直氏は安達公使補助のため西班牙語通譯を從へ出雲に同乘渡墨する事に決せり、出雲指揮官海軍大佐森山氏なり

●ニューヨーク大學生同窓會　去八日若松に於て総會を開けり卒業生學生打ち交りて談笑の内に夕餐を共にし千本木會長の司會にて宮川幹事の報告演説會員の講演、來栖領事官補演説等あり役員の改選ありて會長に荒川、幹事に西尾、會計に上村の諸氏當選し十時半散會したり出席者は左の十六名なりき

千本木　酒井　小島　荒川　松田　組谷　宮川　岩崎　前川　沖口　足立　竹原　上村　西尾　今村
來賓　來栖領事官補

●日、共兩會合併贊否　既報の如く當市日本人會の創立は日米問題の現狀に鑑み至急成立を要する事となり居れるが右に關し現在の共濟會と合併すべきや否やの疑問起り有志家は夫々研究中の由にて飯島總領事、一宮氏等は日本人會創立と同時に共濟會を合併し在留同胞一致協力して積極、消極兩方面に於ける一般の發達を期すべしと唱へ、高見氏等は日本人會の創立には贊成なるも、合併後共濟會事業の發展に特種の具体的成案なき以上合併に反對なりと主張し高峯氏守岡氏等は共濟會には存立の歴史もあり又特種の事情もあるべければ一應日本人會を創立し、時機の到るを待て新たに合併するも可ならんとの意見を有し居れり。兎に角大方の研究を望む

●同胞の慘死　廣島縣ジョージ鶴崎なる人は三十八丁目四本氏經營の洋食店に就職中、去十二日夕方誤つて同所の昇降器にはさまれ無慘の死を遂げたる由にて跡始末はチャレー中川氏が引受け葬式は十六日午後二時執行する筈なり

●修道會の講演　本日午後八時より同會館に於て讀書會あり竹原常太氏の「ドラマに就て」と題する講演ある筈

●田川氏の說敎　來十六日午後八時より西百四丁目グレース敎會に於て開催さるべき當市日本人基督敎聯合會にては目下滯留中なる田川代議士の說敎あるべく同胞諸君の來聽を希望すとの事なり

●福井氏の勝利　ウエストフキルドゴルフ倶樂部のドクトルシンクレアーカップ最終の仕合は高峯研究所の福井藤吉氏並にキャプテンバー氏との間に雌雄を決する事となり去一日同倶樂部に於て擧行せられ午前中十八ホールに於て福井氏ツウアップに越せしか午後再び競技を續けしが最終のラウンドに於て福井氏奮戰終に四アップ三にてバアー氏を破り今秋同倶樂部の月桂冠は福井氏の掌裡に歸せりと云ふ、バアー氏は同クラブに於ける錚々たる老練の好プレーヤーにして米人會員の囑望の双肩に擔ひ最後迄宜く戰びたるも福井氏の妙技に敵する能はず兜を脱ぐに至りしぞ、因に同倶樂部には日本人會員廿有餘名に達し頗る米人會員と親交を結びつゝありと云ふ

●大橋氏選擧權獲得期成會　去十一日發起會を同氏住宅にて開催したる結果長會大橋氏副會長ウイリヤムスビーデン氏並にホイト氏會計ジョージマーロー會計監査役に池本精一氏當選したる由

●四十四丁目座の日本角力並柔術　目下同座にて興行中なる同一行は非常の大評判にてぷログラムのヘッドラインに出で居る位なるか來る十七日は特に「ジャパンデー」とし市内の邦人有力者の觀覽あるべしとの事なり(廣告參照)

●代議士田川太吉郎氏　十二日歐州より來着ホテルアスターに在り

●代議士法學博士神藤才一氏　十二日歐州より來着日本倶樂部に在う

●日本郵船會社造船係河上邦彦氏　十二日歐州より來市ホテルアスターに在り、近々加奈陀を視察し一應當地に引返したる上更に渡歐の筈

●鐵道院技師工學士中村謙一氏　は此程來市三ヶ月許り滯在の豫定

●三井物産會社員增井清七氏　は此程歸朝、同社員野村陽一君は不日出發南方を視察して歸朝の筈なり

●藤吉作平氏　多年ボストン市に在りて紡績業研究中なりし同君は目出度業成り去十二日出發獨逸に向へ約一ヶ年間同國にて斯業を視察したる上歸朝の筈

●岡部外交官補轉任　倫敦大使館へ轉任を命ぜられ十五日出發渡英す

●日本電氣會社員前田五四郎氏　は十三日來市暫時滯地の筈

●同胞魚毒に中つて死す　鹿兒島縣人ジョージ古川なる人は新育州ナチユラルブリッヂ、ジムマーマン夫人宅に就職中去十三日夜日本より送り越せし魚を食し其毒に中てられたる後々メーオード熱を併發し翌朝五時遂に死亡したる由なるが跡始末一切は同人の平生出入したる鴨井下宿屋主人が引受け世話することとなれり因に同人へは毎年國許より魚を送り來るを例とせし由なり

●桑港日米社の五千號紀念祝賀　同紙の五千號紀念祝賀會は去九日同地日本倶樂部にて開かれ尚ナショナル座に於て盛んなる紀念演藝會を催したりと

●新廣告紹介　神經衰弱病者の福音(第二面)日本婦人の絹糸縫箔師入用

●末廣博士墨國行　久しく米國に在りて排日土地法案其他日米間の關係を調査中なりし京都帝國大學敎授法學博士末廣重雄氏は去十日海路メキシコに向ひたり、歸途は再び米國に來る事なく同地より直接日本に歸る事となるべしと云ふ

紐育の日本人（二）

飛耳張目生

如何なる種類の人が家内的勞働に從事しつゝあるか

▲と云ふに夫れは特種の階級に限られてない、士工農商一切を網羅して居る、上は華族の三男、陸軍中將の悴れ、富豪の令息、代議士の弟から下は土方人足の孫に至る迄玉石混合千差萬別の種類の人が下男奉公に從事しつゝあるが併し之を大別すると書生的の者と純然たる勞働者の二種に分たれる

▲西部ではスクールボーイなる特別の書生的勞働者があつて一週間一弗五十仙乃至二弗の薄給を得て苦學する者澤山あるが東部にはさう云ふ口が殆んど絶無であるから苦學青年の爲めには尠からず不便である、ソコデ東部地方の大中學に學んで居る者は鄕里から學資を得る者の外は夏期休業中避暑地の球場若くは家內的勞働に從事して金を貯め九月の央頃から學校に行くのである、尤も右にも述べたやうに物價が高價であるから苦學を欲する者には東部より西部の方が迥かに便宜であり且つ當人の爲にも發奮興起の機會が多い

▲何故スクールボーイが西部にあつて東部に無いかと云ふに東部には歐羅巴から移民として來る女が澤山であるから中流以下の者は安い給料で是等の女を使用する、又高い給料の日本人を使用する金持の家では純然たるサーバントの外に學僕を置く必要を感じない、學生に關しては後段に書くこととして先づ本文の家內的勞働者から片を付けることにしやう

▲書生的家內勞働者は何れも日本で相當の家庭に育つた敎育ある者で學習院とか早稻田とか同志社とか又は其他の官私學校を出た者である、夫から又西部のハイスクールなどに居て例の東部熱に浮されて來た結果色々な境遇に制せられて不得已家內的勞働に從事する者も澤山ある

▲是等の書生的家內勞働者の中には立派な學問を有ち相當な見識を備へ所謂適材適所の途さへつけてやれば國の爲とも社會の爲ともなるべき人物があるのであるが、可憐彼等は立身出世の階段を見出すのに極めて不便な境遇に在るのだ

▲彼等の學問見識が如何に立派でも英語英文が外國人以上に巧みに出來ても、彼等の皮膚の色が違つて居る爲に銀行會社の書記は愚か、煙草屋の賣子乃至メッセンヂャーボーイとなる事さへ出來ない、ソコデ彼等は最後の避難所としてコッソリ皿を洗ふことになる

▲然らは彼等は何故に一日も早く歸國して夫れ相當の口を求めぬかと云ふに第一彼等は頭ばかり高くて金を貯蓄する方法を知らぬ、否方法丈は立派に知つて居るかも分らぬが實行する事をせぬ、次に彼等の從事する仕事は下男奉公だから自然在留日本人の先輩や時々漫遊し來る故國の名流に接する機會も少なく、不知不識の間に月日は遠慮なく經つて成功のチャンスは頭に殖へる白髪の數と反比例に益々少なくなつて來る

▲僕は自分の寡聞無學を嘆ずると共に立派な學問見識を端へた是等の人々が何故に自己の力で自己の新運命を開拓する事を爲さぬかを疑ふ、例令就職難生活難の聲が全國に充ちて居らうが、ヨシ排日の叫が世界到る所に喧しからうが「確かに出來る」とテーブルを叩いて大勇猛不退轉の覺悟を決めれば大槪の事は出來るものである、イヤ人間到處少くとも飯の食へぬ道理はない、僕をして忌憚なく言はしむれば之等の人々は實に此大勇猛心を欠いて居る

▲御幣を擔ぐやうであるが人間の成功不成功は確かに運命なるものと深い關係を持つて居る、ソシテ人間一生の間に必ず一度や二度の好機會なるものは廻り合せて來る、併し各人の從事する職業の如何によつて幸運の風の清く吹く所と、然らざるとの區別あることは吾々の特に注意を要する點だと思ふ

▲如何に勤勉忍耐して風雲に乘ずるの機會を待たうと準備して居ても其人の在る所の地位が恰度幸運の風の吹いて來る反對の方面であると其人はあたら運命をキャッチする機會を取逃す許りでなく、徒らに精力を消耗して遂には淪落不遇に一生を終る事になる、さうして家內的勞働は運命の風の一番清く吹ない所で而も前途多望なる青年の勇氣を阻喪せしむる所である、僕は純然たる勞働者諸君は別として之等の學問見返ある青年が一日も早く現在の境遇から蟬脫して南米なり、メキシコなり、支那なり南洋なり此處ぞと思つた方面へ高飛びせんことを希望する

▲話が聊か理に落ちて失敬した、以下少しく一般の書生的家內勞働者に就て書いて見やう

投書籠

▲ブルックリンには日白人の混血兒が凡そ二十餘名あつて女の子が澤山ありあります、併し以上の女の子供は言ひ合したやうに吾々日本人を嫌ひますが、どういふ譯なんでしやう（武市生）▲貴社投書欄は非常に面白く拜見すれど例令個人の名前なきも往々にして人身攻撃的のものあり事實の有無は兎も角もさして餘り皮肉なる者や女の顏を眞赤にさせるやうなものは掲載せざるやう主筆氏の注意を望む（上町讀者）▲飛耳張目生の「ニューヨークの日本人」は愈々出でゝ愈々面白いが無暗矢鱈に素ッ破拔くと承知せんぞ、第一鄕里の親達から妙な邪推をされると吾々も大に迷惑する、モ少し体裁よくやつてくれ（痛み入り生）▲日本人會設立大贊成である、共濟會を同會と合併するとの議論は中々愼重の考慮を要すると思へど僕丈は贊成なり（公共子）▲一週間僅か四頁の新聞の中に日米又は世界の重なる出來事を書き盡すのは困難でありましやが新報には政治論が多過ぎると思ふ、俳壇は薩張り振はぬが之も在留同胞の趣味の墮落してる好い證據であると思ふ（憤慨生）▲世間が何と云つても構はぬから女に關する記事は山のやうに載せ給へ、猫に鰹節、男に女、ギ筆君中々分つチョルよ（同人）▲日白結婚の可否に就て在留同胞間の意見を募つては如何にや僕は大贊成の方ですが（野呂イズム）▲ボストンの投書家「公平生」よ該事實は當社に於ても承知し居れり何れ精探の上にて（記者）

新日本間 紐育 郵便發着表

ニューヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
チャイナ	桑港	十七日
メキシコ丸	タコマ	二十日
マンチユリヤ	桑港	廿四日
因幡丸	沙港	廿七日

●日本より到着日

十一月十六日　十七日

NO. 123 VOL. 3

THE JAPANESE TIMES

SATURDAY, Nov. 22nd 1913.

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave, N. Y. City.
Tel. 6473 Chelsea
Subscriation Rates
5c.A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N.Y. Post Office
as secod class matter under
act of March 3rd 1879

月極報定價（前金郵稅共）
□一部金五仙□六ヶ月分一弗
□一ヶ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政院認可
發行兼編輯人　甲斐健一
發行所　紐育新報社
紐育市第六街二三八
電話チエルシイ六四七三

異種族排斥と英領殖民地

英領印度の土人勞働者が大擧して同盟罷工を企てたる珍事は別項所載ダーハン飛電の報ずる所の如し、不法なる太平洋沿岸諸州民の言動によりて甚大の苦痛を感じつゝある吾人は深き興味を以て此報導に接せざるを得ず、殊に同盟罷工の理由が賃金の增額を要求するに非ず、勞役時間の短縮を欲するに非ず、單に英領諸國民と同等の待遇を得んとするに至つては吾人の感興更に深きを覺へずんば非ざるなり、試みに世界に散在せる英領諸殖民地の人民が同じくジョージ五世陛下の治下にある印度人に對して如何なる待遇を與へつゝあるかを檢するに濠州に於て印度人を過するに他の東洋人を排斥すると同樣の方法を以てし印度移民は英語及他の歐州の一國語の試驗を受けざるべからざる規定あり、南亞非利加にては印度人の妻女が例令其本國に於て法律上差支へなき正當の者なりと雖も二人以上の妻女ある時は一夫多妻者として取扱はれ直ちに法律違反者として其刑に服せざるべからず、加奈陀に於ては印度總督並に加奈陀總督との間に特別の協約あるにも不拘更に之より甚しきものあり、即ち印度人は加奈陀に於て居住の權利を有するも移民法によりて其妻女及兒孫を同行するを禁じ、印度より加奈陀に直通航路なきに拘らず直航者に非ざれば上陸を許さずといふが如き亂暴極まる法律を設け、英領コロンビヤに於てはヨリ更に峻嚴苛察なる惡法を作制して異種同國民の渡來を絕滅せんとす、吾人は政治上の問題が必ずしも一に倫理道德上の觀念より判斷す可きものに非ざる事を了知し居る者りと雖も而かも印度人の場合に於ては英領殖民地人民の暴狀に向つて何等のエキスキユースを與ふるの理由を見出す能はず、彼等が排斥の根本理由を總括して云へば英領殖民地は總て之れ白皙人種の專有たらしめざる可らずてふ謬想に基き此目的を達せんが爲には人道に違反するも、正理に違ふも、將た異種族の家庭を破壞するも敢て妨げずと爲す者にして彼等獨特の俗惡なる個人主義に沒頭せるの狀、言語同斷の沙汰なりと云はざる可らざるなり

乍併彼等が須く冷靜に考慮せざる可らざる問題は彼等の間斷なき東洋人排斥が大英帝國の運命に關して如何なる影響を及ぼすべきやの問題之なり、蓋し英國の今日あるは世界の寶庫たる印度を有するが爲にして一度び此寶庫を失ふ事あらんか散布せる殖民地は獨立して數多の小弱國となり、大英帝國の存在は全然其價値なきに至るは今更ら努々するを須ゐず故に賢明なる歷代の英國政治家は其腦漿を傾注して印度の防備に腐心し外交軍備悉く此地点を基礎として施設せざるなく、殊に土民の懷柔策としては可成彼等の傳習を破壞せずして其智的欲望に遠からしむるの方針に出でたるは明かなり、然るに時代の進步と日本の勃興とは端なくも印度人民に覺醒の氣運を與へ日新の智識を味へる土民は所在相應じて私かに英國の羈絆を脫せんと謀るのみならず、極東に於ける利權の保護と印度の防備を含める日英同盟の價値は紛糾せる支那問題と相關聯して稍や其効力を疑はるゝに至れるは現在英國政府の東洋政策に對して苦心の存する所に非ずや、若し殖民地人民の東洋人排斥が單に本國政府の苦痛に止まり敢て其殖民地に些の影響を及ぼさざるに於ては則ち止む可しと爲すも、苟も母國傳來の政策を破壞するが如き彼等の行動が漸次印度人民の獨立心を助長せしめ英國の印度失脚と共に殖民地の運命亦危殆なるの疑あらば彼等は須く自省して以て其言動を愼むを要す、吾人は今回の大同盟罷工が飽迄其主張を固持して讓る事なく頑迷なる白皙人種の殖民地人民に與ふる一大警鐘たらん事を切望す。

●末廣博士と大博贊否問題

添田博士等慰問使諸君歸朝し桑博に關する意見を發表してより其贊同の取消しの可否少くとも出品拒絕の可否に關し當局者にも意見岐れ民間に於ても種々の議論ありて未だ歸着する所なきが如し然るに桑港大博覽會社よりは吾國の贊同出品を促すべく十月上旬に勸誘員を派遣する樣子なるを以て勸誘員の日本に到着する迄に國論を一定し置くの必要あるべく之に關する吾輩の意見を述べ參考に供せんとす

贊同取消を不可なりとする論者添田博士等の言ふ所を聞くに此際我國は出來得る丈の好意を以て之に贊同せば我政府と國民の態度に感じ米國一般の感情和らぐべく排日熱も緩和せらるべしと云ふ事なるが之は全く日本人の心を以て米國人の心を推せるものといふべく若し此際我國民と米國民と其位置を換へたらんには米國民は必ずや其贊同を取消すに相違なかるべし感情を露骨に發はすは米國人の習癖なるを以て我國民が此際感情を抑へて好意を示すも米國民は果して其好意を買ふべきか疑なき能はず加之吾輩は贊同が直ちに排日熱を緩和するの望なきものたるを論ずる他の理由を有す讀者の記臆にも新たなる如く桑港に大博を開く事となりたるは先年ニユーオルレアン市と競爭をなしたる結果にして當時巴奈馬運河の開通を記念すべき大博覽會を何れの地に開くべきかに就ては米國中央議會の大問題となり加州選出の議員等は排日運動を爲さゞるべき事を議會に宣言して他州議員の贊同を得辛うじて桑港に開く事となりしものなり事情此の如くなるを以て加州は米國民に對し少くも大博の濟む迄は排日運動を爲さゞるの義務を負へるわけなり然るに日本か列國に率先して贊同したる好意を無視し其議會に於てなしたる宣言に違反して激烈なる排日運動を敢てし遂に土地法を制定せり斯る連中の事なれば日本が此際腹の虫を殺して大博に贊同出品したりとて之が爲め直ちに排日熱を緩和するなど思ひも寄らぬ事と云ふべし飜つて贊同取消又は出品拒絕論者の主張を聞くに我國は加州の土地法に依りて甚しき侮辱を受けながら米國との親交のためなりなど稱して贊同出品するが如きは之れ恰も一方に打たれながら尙其の暴行者に媚を呈するの類にして卑屈千萬却つて相手の侮りを招く所以に非ずやと之れ一應尤もなる言ひ分なり我國には桑港學童問題の爲め今回は排日土地案のため劣等人民たるの扱を受け非常なる侮辱を蒙りたるのみならず今日猶加州の或地方に於ては日本人の學童を隔離する所あり或は全く其入學を許さぬ學校もあり（一ヶ所は其地方在住日本人の生活狀態未だ面白からざるがため地方人民は殘念乍ら已むを得ざることなりと諦め居れり）又法律上日本人の土地購入を禁止する迄もなく或地方に於ては地主連中相會して日本人に土地を賣らざる事を決議したる所もあり其の他日本人なる故に社會上種々迫害を受けつゝあり（未完）

其時々

レーキウードにて　多郎



野末から雲が湧く。僕は瓢然と散步に出る、うら枯の野路や、枯木立の中を只目途もなくさまよふ、サラサラと落葉に音がして時雨るゝ、寂しい／＼自然の聲に耳を傾けながら默然として考へる。

都の空が戀しくも感ぜらるゝ、然し止まらねばならぬとの覺悟が、何となく悲慘のやうに思はるゝ。

◉歌日記（二）

五峯

○

戀のなやみ胸につゝみて黑き海ながめて居れば涙ぐまるゝ

○

黑しほの渦まくあたり白鷗さぶくらきに迷ふ我れに似てかなし

○

白樺の木立の丘にゆふ日照りあわたゞしげに鳩の飛ぶ見ゆ

○

草も木も皆な枯れつくし砦のみ黑づみて見る朧月夜に

●眼中米國なし

▲干涉なしと斷言す　二人の米國人は十九日早朝ウェルタ將軍を訪ひ、若し米國の干涉ありたる場合排米暴動の起るなきやを質し、且つ其際在墨米國婦人少女の保護に關する意見を求めたるに將軍は即座に答へて曰く「米國政府は德義的勸告以外何等武力的干涉を爲さゞるべきに就き諸君は安心して可なり、只万一の場合首都に暴徒の騷擾を見るに至り余の力を以て防遏し能はざる事あるやも計り難しと雖も余は歸國を希望するも其準備なき米國人に向つては可成遺憾なきやう取計ふ可し」云々」尙墨都の官吏社會は米國の方針を以て一般にブラフに過ぎずと云ひ居れり

▲革命軍との交涉斷絕　過日來ウィルソン氏の特使ヘール氏は革命軍首將カランザ將軍と數回の交涉を重ね來りしが將軍はヘール氏が大統領の親任狀を所有せずとの口實を以て談判繼續を中止し直ちに南方に向つて去れり

▲英國の軍艦派遣　西印度諸島警備の任に在る英國巡洋艦三隻は在墨英人保護の爲めヴェラクルズに急行の命令を受けたり、此事に關し華府政は何等の通告にも接せざるも佛國及び日本は軍艦派遣の趣を通牒し來れりと

▲墨國の臨時重稅賦課　米國の餓鬼政策に苦しめられつゝあるウェルタ將軍は新たに要する軍備擴張の財源として綿一キログラムに對し八仙づゝの課稅を徵集する旨を宣言せり、尙將軍は米國政府の忠言に應じて辭職するの意なきのみならず益々自己の地盤を固ふせんが爲め去廿日開會されたる新議會に出席して自家の政策を辯護せり因に重稅賦課は之によりて得る所により兵士の月給を支拂ひ以て彼等の背反を防ぐにありと

●出雲到着期

當地總領事館着電（廿日）墨國在留民保護として派遣せらるべき巡洋艦出雲は十一月廿日橫須賀を拔錨、十二月七日布哇ホノルルに寄港、翌十一日同地出發の上十二月廿日頃墨國マンサニオ港に到着の豫定なり

●モンロー主義と認ず

墨國著名の國際法學者として將た前同國議會の議長たりしエメテリオ、デ、ラ、カルザ氏は目下當市の旅館ウオルドオフ アストリアに滯在中なるが氏は米墨關係に對する新聞記者の質問に答へて曰く、過去廿年間余の米國に來りしは前後實に二十回にして米國民が正義を奉ずるの点に於て毫も疑ふものに非ず、然れども余は貴國の所謂モンロー主義なるものを以て何等信を置くに足らずと爲す者なり、貴國は決して吾墨國の內政に干涉す可きに非ず、革命軍の主將カランザ將軍がウエルタ將軍以上に貴國の提言に傾聽すべしと爲すは大なる謬想にして華府政府が事件の最初よりして誤れる報告に其對墨政策を置きし證據はカランザ將軍の提案を拒絕せしに徵して明かなるにあらずや、ウエルタは現在の墨國中に於て唯一の人物なり若し華府政府が依然として其謬れる政策を變ぜざらんか米墨戰爭は期せずして起るべきなり云々

●在南亞印度人の大同盟罷工

南亞非利加ダーバン、ナタル、レデースミス、ケートプタウン各地よりの來電によれば同地方に於ける東印度人は去十七日より一大同盟罷工を宣言し同時に所在の砂糖畑を燒くに至り人心實に恟々たるものあり、當局者は万一の變事を豫想して遂に戒嚴令を執行するに至りたるが、印度人は自己等の困厄に對し英本國政府の注意を喚起せんがため隊列を作りてナタル、トランスバル間の國境を橫りたり、同地方に於ける鐵道、砂糖、茶の勞役は殆んど全く印度人の手中にあるを以て今回の打擊によりて被る所の損害は蓋し莫大なるべし

●ムーアー氏辭職說

外交上にて國務卿武雷安氏と意見を異にし三月一日辭職すべしと傳へられたる國務省顧問ムーアー博士は右風說を以て全然無根の揑造說なりと打消せり

戰線十五里の大演習

十三日東京發

▲飛行機六臺參加

大元帥陛下には大演習御統監のため昨日名古屋離宮に行幸あり十三日より機動演習中なりし第三名古屋、第九金澤、第十三高崎、第十五豐橋中東加越の四ヶ師團及騎砲工輜重の若干部隊は現に豫定陣地に到着し東京軍は閑院宮大將殿下司令官となられ西軍は大將川村景明子之を揮指し今早曉より名古屋の西方關ヶ原に至る大平原に於て一大逆擊戰開始されたるが未曾有の壯觀とも稱すべきは飛行機六臺の參加して各二臺宛敵味方となり東西兩軍に分屬し秋空高く入り亂れて飛び交ふ樣壯觀を極め戰線實に十五里に亘り一方には雄飛川架橋の大工事あり地上空中兩つながら空前の壯觀を極めたるが薄暮前兩軍戰鬪を休止して後講評あり兩軍の戰鬪は尚明後日迄繼續せられ大元帥陛下には引續き御統監あらせらるゝ筈なり

●臨時法相任命　文部大臣奧田美人氏は本日臨時司法大臣兼任を命ぜられたり

松田法相危篤

法相松田正久氏は現職の儘引籠り靜養の筈なるが同氏の病氣は中々の重態にて到底快復の見込なかるべし

●法相兼任事情　奧田文相が臨時司法大臣を兼任するに至りしは後任の選定困難なる松田氏をして在職の儘に其終りを全ふせしめんため辭任せしめざる次第なりとの噂あり

ル氏招待運動

米國ハーバード大學出身の日米人を以て組織されたるハーバード俱樂部は日米兩國民の意志疏通を一層促進せしめんが爲め同校長ローエル博士及前大統領にして進步黨の首領なるルーズベルト氏を日本に招待するの決議をなし同俱樂部員一同其運動に着手したり

●墨國遣艦に關し外相の說明　牧野外相は墨國への軍艦派遣に關し本日其理由を說明せり曰く支那動亂のため吾政府は夥多の軍艦及軍隊を派遣せり支那に在るも墨國に在るも均しく之れ日本帝國の臣民たり獨り墨國在留帝國臣民に對してのみ不公平なるべからず否な此方面の在留同胞のため寧ろ大に保護奬勵の必要ありと某記者に聲明せり

●世論は吾政府の英斷を激賞す　世論は曩に墨國遣日使節デアス將軍を体好く拒絕したる吾政府が態度一變今回遣艦の大勇斷に出でたるに對し大に激賞しつゝあり

●出雲の解纜期　軍艦出雲は準備既に整ひ多分來る十七八日頃解纜の運びなるべし來る十二月十日過ぎ墨國目的地に到着凡そ六ヶ月碇泊の豫定なり無論形勢の如何に依り伸縮あるべし

議會の召集

帝國議會は來月二十四日に召集さるべし

▲撿事総長新補　文部大臣奧田義人氏は本月十一日臨時撿事総長兼任を命ぜらる

（以上十一日東京發）

●貴公子二名男爵を授けらる　前の將軍德川慶喜公の九男及侍從長として明治大帝に奉仕せし德大寺實則公の三男は共に男爵を授けらる

●勅任參事官任命　政友會代議士江藤哲藏氏並に原内相の秘書官高橋光威氏は何れも今回勅任參事的に任命されたるが兩氏の任命は文官任用令改正後人材登用の手始めなりと

●後藤男の外遊　此程立憲同志會より脫退せし後藤男は不日外遊の途に就くべしと

●寒氣益々酷し　昨今各地の寒氣非常に甚しく帝都にては未だ初雪を見ざるも寒冷日に加はりつゝあり

●政友會の黨首問題　政友會は立憲同志會の動搖に乘じ其結束を新にして益々黨勢を擴張せんとし例の議員誘致策に就ても過般來頻りに畫策する所あり政治季節に入るを待つて少くとも兩三名の復黨若くは入黨者あるとを豫期しつゝあり斯て議會に於ては確實に過半數を維持し得べきも目下同會當面の問題として總裁問題を始め幹部の內情に多少の引懸りあり桂公逝きて敵將を失ひたる事は豫想に違はず同會の事大的情勢を促進して權勢迎合の連中を集結し得る傾向となりしも山本伯は依然として黨首たるを肯せず纔に次官連の入黨を以て不平連を慰撫するの一方には西園寺公復活の成算なく加ふるに松田正久氏病に臥しつゝあり若し松田氏にして從來の如く黨務を見る能はざる場合ありとせば最高幹部今日の狀態にては頗る懸念に堪へざるものあり原敬氏の勢力は黨の六七分を操縱し得んも氏の專斷を喜ばざる分子亦尠からざれば此際有力なる黨首を得る事は同會の結束を鞏固ならしむる捷徑なれば山本伯が何處迄も黨首たるを肯せざるに於ては再び西園寺公を起こすべしとの說も所謂違詔の帳消しをなす形式として其復活の前提たるべしと觀測する者あり政界漸く動搖せんとする折柄同會が內に結束を固くして外に向はんとする事大的主義運動は密かに各方面に亘りて行はれ居れるが如く彼の鐵道政策を根本とする新財政策に基き諸般の積極政策も黨多年の主張を現實して絕對多數黨の地位を確實にせんとする手段に外ならざるなり

●露支協約　外務當局の談に曰く本年七月外蒙古問問に關し露國の自由行動聲明以來同問題に關する露支兩國間の交涉は一時中絕の有樣なりしが最近支那共和政府の成立と同時に露支間の交涉順調に進捗し近く調印を見るに至るべし其內容は大体如左

一、支那は外蒙古の自治を認むる事

二、露國は蒙古に於ける支那の宗主權を認むる事

三、支那は蒙古に官吏を駐在せしむる事を得るも其駐在地は露支兩國の協商を要す

四、支那は蒙古駐在官吏護衞の目的以外に軍隊を派遣する事を得ず

五、支那は蒙古に移民を送る事を得ず

等なるが右の外支那政府は更に露蒙協約附屬議定書全部をも承認したるを以て結局支那政府は全然露國政府の主張通り屈讓したるものと云ふべく唯境界劃定問題のみは兩國の意見容易に一致せざるを以て近々露支蒙三國協議を開く事となり居れり

●駐日公使決定　衆議院書記官長林長民は日本駐劄公使に任命せらるべく氏は早稻田出身にて內外人間に譽れあり

●天理敎々勢隆々たり　一時は愚民を惑はす迷信敎とまで天下の指彈を受けたる同敎も今や信徒數四百万を數へ全國の敎會三千一百餘に上り殊に大坂は天理信徒の中心とも云ふべく敎會も二百卅二の多きを有するなど其隆盛恰も旭日登天の勢あり最近の統計に依れば平均一年間に四千の信徒を增しつゝありて之等の信徒もあらゆる階級を網羅し現に法學博士廣池千九郎氏の如きは熱烈なる信者として天理中學名譽校長たり、四百万の同敎徒中一異彩を放てるが此程大坂丹波市に催ふしたる同敎信徒大會の盛觀は全く本願寺派をも凌ぐ程なりしと

●福來博士免官　千里眼、透視の研究者として有名なる同博士は今回帝國文科大學助敎授を免ぜらる

●再渡航者撿査の方法　是迄再渡船者にしてトラホーム又は十二指腸虫のため上陸を拒絶されしものは一應華府當局へ上告せし上ならでは合衆國法庭に護身令の申請を乞ふ事能はざる規定なりしが今回中央政府の方針變更され今後は再渡航者と雖も初渡航者の移民と同じく各地移民局の決定を以て終審とし華府への上告を許さざる事とし其代り再渡航者に限り移民局内にて治療を許可する事にせし由尤も之が護身令申請の爲には今日迄の如く無用の時日を費さゞる事にて移民にて上陸を拒絶さるゝと同時に直に之を出願し得る故却つて便宜なるべしと云ふ

●布哇の市民權獲得出願者　馬哇島に二百名あり　縣書記官々房のクッシンハム氏は市民權證下附のため日本語通辯ハクォレ氏を伴ひ馬哇島に出張したるか同島に於ける市民權獲得出願者は百七十五人乃至二百人に達する由にて内九割五分迄は日本人並に支那人なりと尚出願者の一人より得る手數料は五弗の由

●同胞の遺骸現はる　羅府グランド街の元日本旅館跡家屋改築のため取毀したるに同館裏手階段の下に於て一日本人の遺骸發見せしか數年を經過せるもの、如く肉も皮も既に腐れ盡し上衣を纏ひ居り附近に帽子靴藥瓶茶瓶呑茶碗一冊の手帳あり探偵は之を日本人會に示して調査したるに所持者の姓名なければ此日本旅館主人石田某の撿印押捺しあるを以て同人を喚問したるに遺骸の主は五年前行方不明となりたる和歌山縣人新川仲之助と判明したるか死因は多分自殺ならむが許婚の婦人が他に嫁したる報知を得遂に失望の極遺言狀を遺して失踪せしなりと探偵は鼠一匹死んでも臭氣あるに大の男か腐敗するに臭氣なかりしかと訊問せしに當時何だか變な匂かするにぞ樟腦や香水にて防臭したるが死人ありとは氣付かざりしとは隨分馬鹿氣た怖ろしき事なり

●在墨同胞の保護　我政府はメキシコ内危險の地に在る同胞を場合によりては他の安全の地に移し其生命を保護せんか又は墨國より一時歸國せしめんかとの計畫あり

●勞働大會の排日案　シャトルにて去十一日開催の沿岸代表者會議に於て決議されたる排日移民禁止決議案は十三日華州勞働組合會長イー、ピー、マーシュ氏により大會議場に提出されたるが議案の内容は支那人排斥法を擴張して日本人朝鮮人印度人總ての亞細亞人に迄及ぼす事現行移民法を嚴重に勵行し更に教育的條項を設けて移民排斥の目的を達すべき事今期議會に向つて太平洋沿岸に完全なる移民留置所を增設せんため其費用の支出を要求すべき事等にしてマーシュ氏は以上を勞働大會の移民問題の要目として努力すべき事を極力要求したり

●高峯博士消息　目下西部旅行中なる同博士は十六日羅府に着同地に一兩日間を費し桑港に赴きたる筈なり

●樺山海軍少佐　去廿日華府より到着日本倶樂部に滞在中なり

●松岡外務二等書記官　華府に來らん　目下露都に在勤中なる大使館二等書記官の同氏は今回華府へ轉任を命せられ近く來任の筈なるが氏は今より約十二年前オレゴン州ポートランドのカレッヂを卒業し歸朝後外交官試驗に及第したる秀才にして年齡卅四歲、若手外交官中頗る評判善き人なり

●神藤代議士　滞在中の同氏は廿日珍田大使訪問のため華府に赴きたるか來る廿四日歸市廿七日頃出發歸朝の筈なり

●大坂正金銀行支店の時枝誠之氏より此程本社へ書信あり辱知諸君へ御無沙汰の御詫して呉れとの事、書信の一節に曰く

日本も中々進步したよ、餘り永く外國に居ると馬鹿になるよ、時には日本に洋行するか可ひ、國語改良論は此大坂などにはチト六ケし過ぎますあ。ワカリマヘンワ、ケッタイダスヨ

●野田氏の死去　本年始めより當地にて肺病に罹り其後菊水生人河合氏等の厚意により加州に赴き療養を續け去八月始め歸國したる東京の人野田初太郎氏は同月廿四日東京に着し翌廿五日北里病院に入院せしか不幸にも同廿六日死去したる旨此程同氏の弟より通じ越せしと

●青年會館成る　豫て計畫中なりし青年會は愈々新設の準備整ひ此程東五十七丁目四六五に宏大なる家屋を借入れたり、眞面目なる青年の來泊を歡迎す

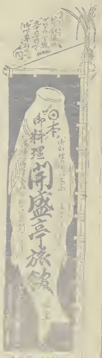
●修道會講演　本月午後八時より讀書會あり東京市助役田川太吉郎氏の「歐本の都市に於ける各種事業」と題する講話あり明日曜日には東京基督教青年會フキッシャー氏の說教あるべし

●新開業料理店「千歲」　東五十九丁目一三一番にて新たに開業百客萬來を待つとの事にて昨廿一日は知人を招待して開業披露の宴を催したり

●新廣告紹介　ウイリヤムブラウン會社、青年會、千歲料理店

共濟會領收金額（十一月十七日締切）
（一）會費十二弗宛 高木契一 楠井貫一、六弗宛 牛窪弟一郎 寺下文一郎、五弗宛 山本豐吉 合エミリー、五弗宛 高田雄稻 小野正一、四弗 井上熊三郎、三弗宛 田中金次郎 水野精一、二弗宛 舟木幸三 淺井富次郎、一弗五十仙宛 白江信三 下間豐吉 松田清吉 山本清太郎 田中吉太郎 牛窪夫人及牛窪よね子、一弗廿五仙 增澤丈兒 一弗 長見倉之進
（二）墓地基金寄附 五十弗宛 大倉組 古谷西村商會 日本綿花會社、二十五弗宛 關根商會 中西庄子 茂木喜太郎、二十弗 葛西文吉、十弗 山本豐吉、五弗宛 山田清二 塚口辰三 一弗 田中金次郎
累計 金貳千九十弗九十八仙也









●紐育の日本人(二)

飛耳張目生

生ま半書生的家内勞働者

▲前章に述べた書生的家內勞働者は高尚な學問を修め、相當な見識と品格とを備へた不遇に泣く純然たる書生を意味したものであるが爰にいふ生ま半書生の家内的勞働者は讀んで字の如く書生ともつかず、又勞働者とも付かぬ半噛りの連中で在留同胞中の最も不感心な分子である

▲是等生ま半書生の中には高等學校や中學程度の學校、若くは同志、慶應、早稻田等を半途で退學した者が多く普通の教育丈は受けて居るが其教育たるや元々半熟で而かも實際社會の生活には殆んど無經驗の青年であるから獨立して事業を經營する程の勇氣も膽力もなく、サリトテ一生勞働者として金を貯蓄する上の決心も忍耐もない、口元許り達者で不平不滿の間に其日〳〵を過ごして行く斯ういふ青年はサーバントとして最も不適當な資格を備へて居る

▲彼等は半熟の學問を修めた結果やら、個人主義の米國に居て色々な感化を受けるやらで「個人の權利」といふ事は極端に信仰するが「服從の美德」に就ては全く風馬牛で而かも怠惰な上に橫着千萬である

▲例令ば一家の主婦から多少とも無理な命令を受けるとか或は時として多數の來客があるとして自分の仕事が殖へるかすると忽ち不平を唱へ出す、而己ならず主婦の起居動作が淑女的でないと見ると「うちの婆奴は下等だ」と輕蔑の念を起し、一所に働いて居る純然たる勞働者の下男下女共をば「無教育者」と嘲けつて機會もあれば仕事の上にも例の「コミヤリ」を行らうとするから自然主從の間、下僕同志の間も折り合が惡くなつて永く勤らない、所謂フエリーボートの連中は多く此階級の產物である

▲夫れから此生ま半書生の家內的勞働者は仕事の點に就ても生ま半である、純然たる勞働者の辛抱人であると少しでも休める時間あれば邦語料理書や友人に就て料理法、給仕法を習ひ、其實驗をやつて見て首尾よく成功すると夫れを唯一の樂しみとするから自然腕も進歩し、主人公の覺へも目出度、銀行の貯金も何時の間にか殖へて來る、所が生ま半君に至ると頭からクツク、ウエターの仕事を輕蔑してるから少しでも油賣りの時間を見出すと女にからかつたり、ケツチンテーブルの上に兩足を上げて文藝俱樂部、女學世界の寫眞を見詰めながら五寸程の涎を流して居る、某學校の教授になつた、某女と結婚して子供が二人あるなどいふ事が目につく、何だか羨ましひなーと思ひながら自分を省ると白い涎れ掛けをブラ下げてカチヤン〳〵、愈々癪に障る、一杯グツトやつて溜飲を下げざるを得なくなる

▲理屈ケ間敷て、同輩と衝突し易く仕事の出來ぬ癖に給料の高きを望むサーバントを誰が歡迎するものか、一週間居ては御拂ひ箱となり、一ケ月居ては飛び出し、流々轉々、一所不住、下宿屋、桂庵、働き先の間に三角線を引いて其間を往來するから遂には「三角坊不得要領居士」となつて社會的に死んでしまう

▲乍併以上は此階級中の不良なる分子であつて中には感心な心掛を持つて神妙に勤め、時には鄕里の親兄弟に送金して慰めたり、又は弟ノ學資金を貢ぐやうな人物もあるが要するに此階級に屬する者は純然たる勞働者に比較すると心中常に不平不滿の念絕へず、見る物聞くもの悉く癪の種となつて世を恨み人を呪ふ傾向を帶び、精神狀態から平生の行動に至る迄自然的な者は一人もない

▲彼等と雖も懷かしき父母弟妹に袖を別ら、愛する知己朋友に勵まされて渡米した當初の考はコンナつもりでは無かつたのだ、國に居た時分官敎師や新聞雜誌の記事で見た米國は「四海兄弟、自由平等」の理想國で而かも黃金の雨の降る天國だと豫期して居た、然るに實際來て見ると中々さうでない、米國といふ國は政治上に於ては一切平等の自由國であるが社會上に於ては歐州、日本と何等異る所なき階級制度の國である事を見出さざるを得なかつた、同じく神の子たる亞非利加人は米國人と同席して神の御前に跪く資格なき所である事を知つた、自分等でさへ同族の穢多を輕蔑するが米國人も矢張り毛色の變つた異人種に平等の恩惠を於す事は嫌いな國民である事を悟つた働けば比較的高給を得られるが決して黃金の雨の降る國でない事を知つた

▲如斯彼等が理想と實際社會の懸隔著しき事を悟つた頃に鄕里の新聞を擴げて見ると、同級生の某々は外交官になつた、陸軍士官をして居る、

●土地法と遺產

同問題に就き近着東京新聞は左の報道をなし來れり

加州土地法が實施期に入りてより既に二ケ月有餘其間未だ何等の損害も發生せざりしが最近加州フレスノ市に於て松尾平六の死去せるにより其遺產處分に關し土地法實施以來茲に第一の問題を生ずべき端緒を開きたり松尾氏には妻と一人の子あり其子は米國於て出生したれば合衆國の法律によりて米國の國籍を有し市民權を有するが故に其子が亡父の遺產たる土地を相續するは當然の權利なるも加州民法に「遺言なき場合には妻と子との間に遺產を分配すべき」規定ある由なれば若し斯る規定のあるありて遺產を二分せざるを得ざるに於ては妻は日本人にして市民權を有せず其所有に歸すべき土地は加州土地法に依り州に沒收の上競賣に附せらるゝに至る次第なるが現在に於ては松尾氏の死亡に問題の生じ得べき事實か起りたりと云ふに過ぎずして今後遺產の處分に關し州が介入せば訴訟を提起すべき法律問題を生ずれども若し或は其土地が分割するに不適當(例令ば分割せば著しく價格を減ずる等の理由により)にして全部其子が之る相續するが如き事あらば問題を生ずべき理由なきに至るを以て玆暫く專實が如何に發展するかを見ざるべからず

紐育日本間郵便發着表

ニューヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
マンチユリヤ	桑港	廿四日
因幡丸	沙港	廿七日
地洋丸	桑港	十二月一日
シカゴ丸	タコマ	三日

●日本より到着日

十一月廿六日
同　廿九日
十二月　四日
同　六日
同　十日
同　十三日

NO. 128 VOL. 2

THE JAPANESE TIMES

SATURDAY, Nov. 29th 1913

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave, N. Y. City,
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N.Y. Post Office
as second class matter under
Act of March 3rd 1879

月刊報定價（前金郵稅共）
一部金五仙一六ヶ月分一弗
一ヶ年分金二弗

千九百十一年六月廿四日郵政院認可

發行兼編輯人　甲斐健一
發行所　紐育新報社
紐育市第六街二三八
電話チエルシイ六四七三

末廣博士と大博賛否問題（承前）

○啓發運動との關係

▲黒人種同樣劣等人扱ひをされ所謂一等國民の面目は全く蹈み潰さる吾輩は斯る侮辱を受け居りながら出品とは思ひもよらぬ事なりとの議論が在留日本人の口より出でざる事を怪しむ位なり中野氏始め故國の有力なる人々が賛同取消し又は出品拒絶論を爲すは一應無理ならぬ事なりと考へざるを得ず

▲人或は桑港の大博覽會は一營利會社の事業にして其重役等は本春土地案が加州議會の問題となりし際熱心に之が反對運動をなしたるに非ずや不幸彼等の盡力は畵餅に歸したれども其好意は多とせざるべからず、されば賛同を取消し又は出品を拒絶するは恩を仇にて酬ゆるものに非ずやと云ふものあるが如くなれども之は大博の事情を十分に解せざるものと云はざるべからず、成程大博は一面は會社の經營に過ぎざれども他の一面には公の性質を有する事をも注意するを要す

▲此大博に對しては加州政府は五百萬圓の補助をなし米國政府も同額の補助をなしたるのみならずなか〳〵に大博の成功に力瘤を入れ居る次第なり、米國政府が之を單純なる私人の事業と見ず廣く米國の事業と考ふる事は最近に英獨二國が賛同を拒絶したるに對して其決意を飜すべく米國政府はローズルト氏を英獨二國に派遣するの考へありとの風説に徴しても知るを得べし

▲尤も氏の歐州行は先約の南米行の爲實行されざるべし、さらば賛同取消し又は出品拒絶は決して單に大博會社に對する事柄に非ず、結局土地法を制定して日本人を侮辱したる加州に對し更に又加州の土地法に裏書をなし日米間最近の外交談判に於て日本の抗議に對し木にて鼻を括るが如き挨拶をなせる米國政府に對する一のデモンストレーションたるべし

▲若し英獨二國愈々賛同せず最も肝要なる日本も亦賛同を取消すとか或は少くとも出品を拒絶するとなれば一般米國人によりて巴奈馬運河の開通大紀念と思惟せらるゝ折角の大博覽會も或は不成功に終るべく餘りに我儘にして傍若無人なる米國にはよきレッスンともなる事あるべけれど感情論としては桑港大博賛同は取消すべきなり若し約束せるの故を以て政府としては之を取消す能はずとなさば宜しく出品を拒絶すべきなり此際米國の甘心を得んが爲に強ひて心にもなき事をなすの要非ざるべし

▲然らば桑博賛同は取消すべきか或は之を取消さずとするも出品丈にても拒絶すべきかと云ふに感情一片にて決すべからず茲に愼重なる考慮を要すべき一の先決問題あり何ぞや他なし日米問題を解決する方法として在留日本人間に主張さるゝ啓發運動の問題即ち之れなり此運動が日米問題解決の上に幾何の効能ありやは頗る疑問に屬すと雖も若し日米問題の解決が此際此方法を外にしては他になしとするならば大博取消し又は出品拒絶と云ふが如き事あるべからざるなり

▲啓發運動は今日に於ては米國在留民團体によりて行はれんとしつゝあれども資金不充分にして大規模に之をなし能はず又永續的のものたるを得ざる事情あるを以て之に多大なる期待をなし難し此運動を以て日米問題を解決し得るには非常の大規模のものとし而して十年十五年の歲月を努力を要ずべきが故に之が成功を見んとならば是非とも故國同胞の助力無かる可らず

▲否夫れのみならず餘りに公に云へぬ事ながら大に政府の助力を仰がざるべからず、若し故國に於て此際官民協力して啓發運動を爲す考なれば其の一の方法として日本を米國に紹介するの機會を與ふる大博を利用すべし且つ啓發運動の必要を認むる以上は例令ひ感情上甚だ面白からざるものありとするも出來る丈忍び賛同取消し出品拒絶などは思止まらざるべからず

▲されど猶茲に注意すべき事あり其の第一は桑港大博の敷地が陸軍省の用地なる事なり陸軍省の用地なるが故に將來何時軍事上の必要よりして之を取上ぐるやも知るべからざれば現在の計畫の如く百廿万圓の賛同費を全部大博の爲に費し永久的に立派なる建築をなす事は甚だつまらぬ事なり建物などは不体裁ならざる限り成るべく費用を節する樣にすべし此の如くにして百廿萬圓の賛同費より剩餘金を得れば之を啓發運動に投ずるを可しとす

▲第二に注意すべきは先年の英國博覽會に於ては日本村など稱するものを作り日本の生活狀態を紹介せんとして大なる失策をなしたる事あり不体裁極まる煎餅屋や飴賣りや桶屋の如きものを文明國の眞中に連れ出して晒し者となすが如きは歐米人の侮りを招く事當然なり斯る出品を許したる當局者る氣が知れぬ事ながら過ぎたるを責むるも詮なしとして今回の大博にも我國の名譽を考へぬ興業師等は又々如何なる不体裁を演出せんとも限らざれば決して油斷あるべからず、折角日本の長所を紹介せんとして却て彼等の侮りを招き排日の氣焔を昂むる恐れなきに非ざれば愈々大博に出品する事となれば官憲の周到なる注意を望む

▲要するに大博賛同出品の可否は感情を以て決すべからず啓發運動の必要ありや否やを先決問題として決定すべきなり啓發運動の必要に就ては何れ歸朝の上重ねて論ずるつもりなれ共若し故國の人士が既に其必要を認むるならば大博賛同及出品には大に賛成せられん事を希望せざるを得ず而も此事たるや單に吾輩一個の希望のみにあらずして在米同胞九萬の等しく希望して止まざる所也（終）

●墨國大亂混

▲餓鬼政策稍成功　人心恟々たり　手を代へ品を代へたる談判も威嚇も更に頑強なるウエルタを動かすに足らず、一方叛軍の首領カランザとの交渉も斷絶に了りて大ひに男前を下げたるより窮餘の一策として俄かに思ひ付いたる米國政府の餓鬼政策は稍其効を奏したるものゝ如くウエルタ政府は目下非常の窮境に陷入り、反徒征伐として各方面に派遣せる軍隊の勢成甚だ揚らざるのみか直轄の軍隊さへ給料未拂に憤りて將に反噬を試みんとするの形勢なり

▲叛軍の勝利　米國々境に近きジュレズ市は目下叛軍の首將ブイラの占領に歸し居れるが去廿四日以來政府軍との間に行はれたる二日間の戰鬪は頗る激烈を極めたる由にて結果は叛軍の勝利となり政府軍は十五門の大砲を失ひ五百名の兵卒は捕虜となれり

▲革命軍は烏合の衆　ジュレズ市を占領し尚政府軍の防禦に成功したる首領ブイラの勢威は目下隆々たるものあり、殆んどカランザを凌ぐ許りの勢なるが戰勝に驕れる彼の態度は近來著しくカランザの反感を買ひ兩者の分離は免るべからずとの事なり彼は革命軍と稱するも其實眼中國家なき野心家馬賊輩の集まりと云ふを適當なりとす

▲石油產地の危險　墨國石油の一大產地たるタクスパム市の附近に在る反軍の將アグイラーは英國人の事業たるカウドリー石油會社を以て政府軍を招致したるものとし速かに官憲を退去せしめざるに於ては同會社の石油タンクに向つて發砲し全市を焼土たらしむべしと威嚇し居れるが米國軍艦ロードアイランドは石油產地保護のため同市の北方なるメキシコ港に在り

▲首都在留外人の防禦準備　首都メキシコシチー在留の外國人一同は團結して各自の人命財產を[illegible]する事に決し其準備として數ヶ月間を[illegible]るに足るべき食料品[illegible]買入れに忙しきが斯は地方に於ける[illegible]と南方に於て新たに起りたる[illegible]叛軍の爲め首都の運命日夕を期すべからざるを認めたるに由る、英國公使は在留英國人一般に訓令を發し可成國公使館附近に轉居すべき事を勸告せり

●ニカラガ前大統領當地に於て捕縛　數年前ニカラガ大統領として一時其勢威を逞ふしたるゼラヤ將軍は千九百一年四月二名の同國人を謀殺したりとの嫌疑を受け米國に逃亡し來りしが同國政府は米國政府に對し其搜索捕縛方を依頼し來り物色中去廿六日夜當市ウエストエンド街のアパートメントハウスに於て捕縛されたり

●大慈善事業寄附金募集成功　基敎青年會及婦人會館設立の目的を以て二週間以内に四百萬弗の寄附金募集に取掛りたる事は既報の如くなるが同計畫は非常の大成功にて去廿六日迄に集まりたる金額は總計四百五萬二千五百一弗に達し即ち豫定額を超過するの好結果を得たり

●米國陸軍飛行家職務に斃る　加州サンデーゴ市に於て練習中なりし米國陸軍飛行部員ケレー氏並陸軍士官エリングトンの兩氏は去廿四日同地にて新式飛行機の試乘中八十呎の高所より墜落し即死せりと、因に米國陸海軍に飛行機を採用してより以來職務に殉じたる人員數は總計廿六名に達したる由

●カーネギー翁七十八歳に達す　去廿六日はカーネギー翁七十八回の誕生日に相當せるが翁は老齡に拘らず身體至つて健全に同日早朝に起床し夫人と共に徒歩にて長時間の市内見物を試み午後は新聞記者等の質問に應じ不和問題、墨國事變等に關し種々なる談話をなせりと

●加州土地問題と日獨關係

[illegible]革命戰は北方叛軍の戰略[illegible]獨逸及獨逸將校より出で南[illegible]日本將校少[illegible]革命戰は間接の日[illegible]たるが兩國故[illegible]の加州土地問題より兩國關係を見て左の說をなせるあり一顧に値すべし

[illegible]加州日本人土地所有權禁止問題は今[illegible]は未解決の儘なるが本問題[illegible]米國の輿論に訴ふる外なきが如し奈何せん日本には本問題解決の一手段として米國に提供すべき何等交換條件を有せざるを以て本問題は例令泣寢入りに終らざる迄も當分の間は有耶無耶の裡に推移する外なきは遺憾なり蓋し日本が正式抗議によりて日本人の土地所有權を承認せしめんとするに於ては米國が逆襲的に等しく米人の日本に於ける土地所有權を要求するは必然の事實にして日本に取りて一種の打擊たるを免れざれば日本が幾度正式抗議を繰り返すも結局徒勞に歸するの外なく然らば如何にして本問題を進行すべきかは當面に歸着する設問なるがこれに就て少しく注意を要すべきは帝國政府が獨り米國政府を當の敵とし毫も米國の背後に獨逸あるを閑却せる一事なり元來加州に於ける獨逸人の勢力は今や牢として拔くべからざるものありて獨逸人の加州に於ける經濟的社會的地位は頗る優勢のものなるが彼等獨逸人は日本人の加州移住を以て加州人日用食料品の價格を支配せしむるにより若くは獨逸農民は將來日本農民に壓迫せらるゝ慮れあるものとなし背後より頻りに米國人を煽動し益々米人の排日思想を激發せしめつゝあり是れ實に加州問題の意外に難產なる所以なれば此際獨逸人の感情を融和すべき手段に着眼し延いて米人一般の輿論を喚起せば同問題の解決は寧ろ極めて易々たらんのみ殊に他日加州人の一般投票に依て本問題を解決せんとの豫望あるに於ては米人よりも寧ろ在米獨逸人及西班牙人に對して其感情を矯むべき適當の方法を講せざるべからず只夫れ獨逸人をして排日的煽動の黑幕より離れしめんには所詮利を以てする外なく帝國の利權を侵害せられざる範圍に於て支那に於ける獨逸人の利權獲得を認容し其上に於て臨機獨逸人を懷柔するの外他に方策なし或は日米戰爭を賭すと云ひ或は萬國仲裁裁判に俟つべしなど云ふが日米の開戰は帝國二りの貿易を灰之に歸せしむるものにして素より取るに足らず若し夫れ仲裁々判に至りては勝算寧ろ米國に在り決して望を囑すべきものに非ざるは殆んど明白の事實なれば其際に處する日本側の方途としては本獨西就中獨逸人懷柔に心を傾け徐ろに米國の輿論を改造すべく努むるの外なく要するに之を措いて他に良策なく土地案の前途は爲に曠日彌久を免れざるは遺憾なりと

●山縣議長辭任

樞密院議長山縣公爵の辭表提出に就ては或は健康近來兎角勝れざるものありとためなりといひ或は長閥の勢力挽回の陰謀を含めりとも稱し諸説紛々たり

●山縣公の後任　山縣の樞密院議長辭職は果して御許あるや否やは疑はしきも後任者として松方、井上、西園寺等の諸侯之に擬せられ居るか松方說最も有力なる如し

●大戰艦起工式　二万噸の超ド級第四號戰闘艦昨日横須賀に於て起工式を擧げたり

●日本は嚴正中立　軍艦出雲に便乘墨國に向ひたる埴原外務書記官東京出發前語りたる所なりとて新聞紙の報ずる所左の如し

日本は墨國の關係に就ては嚴正中立を維持すべし又出雲艦は日本居留民の保護に任じ必要の場合には内地の居留民と聯絡を保ち行動すべし尚余は墨都に着したる後各國代表者と會見を遂ぐる考なり

●軍艦出雲解纜光景　出雲出發の光景は頗る壯觀を極めたり折柄の風雨にも拘らず見送人は特別船を仕立て灣外迄隨航し君が代を三唱して其行を盛にせり見送人の中には齊藤海軍大臣を始めとし多數の高官を見受けたり

●出雲艦長の人物　出雲艦長森山慶二郎氏は海軍部内有數の秀才なり又外交官としても恥しからざる伎倆を有し英佛兩語を良くし實に得易からざる有爲の士と認めらる尚ほ出雲は布哇ホノルル經由マンザニオに向ふ豫定なり

（以上廿日東京發）

●御即位式

明年御擧行の筈なる今上陛下の御即位式は莊嚴と質素とを旨とせらるべく政府は國庫支辨三百萬圓を明年度豫算に計上せりと云ふ

●墨國派艦と世論　東京朝日新聞は出雲艦の墨國派遣を論じて此派遣は山本首相が牧野外相に旨を含めて實行せしめたるものにして在墨居留民の保護は表面の理由に過ぎず其實國民の注意を外に轉ぜんとする對内政略にして對外の意味は全々之れ無しと論じたり

●名古屋疑獄豫審決定　近來の大事件として世人を驚かしたる名古屋疑獄[illegible]の豫審決定し被告なる[illegible]知縣知事深野一三氏を始め[illegible]藤、兼松、渡邊等の諸氏は[illegible]定を受け公判に廻されたり

●出雲艦治岸を巡視せん　出雲艦はマンザニロ港到着後暫々[illegible]を警戒し四月頃迄墨國近海に[illegible]居る準備にて此費用は四十万圓の[illegible]定、西班牙公使館二等書記官三浦[illegible]治郎氏は今回墨國公使館在勤を[illegible]られたり

●大演習終了

濃飛の野に於て數日間[illegible]戰をなしたる陸軍大演習は本日結了せり此大[illegible]習中に於ても面目を施したるは飛行機隊にして畏多くも　大元帥陛下より勅語を賜りたり

●關代議士視察談　萬國議員會議に列席し米國を經て歸朝したる關[illegible]氏は歐米漫遊中の視察談を頻りに發表しつゝありて各新聞紙上は同氏の談話にて賑ひ居れり

（以上二項十六日東京發）

●日米通信機關設置

東京商業會議所頭取中野武營氏等の發起にて國精調査を爲さんとして日米通信機關を設置せり主任者は[illegible]常治氏と決定す

●日英新協商　日英兩國は揚子江流域に於ける利權につき平均を保つ事能はずして累を同盟協約に及ぼさんとする憂ありとの風說ありたるが去十七日の倫敦デーリーテレグラフ特電の報ずる所に依れば北京に於ては兩國とも支那に於ける相互の位置を再び確定し其優越的利權を相互に保證する覺書を交換したりとの噂あり其眞僞如何は未だ確聞する能はざるが日本は南滿、東蒙古、内蒙古、直隷に於て英國は揚子江流域に於て優越權あるを相互に保證する所ありしやなり

●日本醫界の聲譽　今夏英京倫敦に於て開會せられたる万國醫師大會は英國皇帝を會長としコンノート殿下を司會者となし出席者七千名を收容せる空前の盛會にして日本醫學者よりの出席総員は七十五名に達せしが此内内地より出席せるものは五六名に過ぎず他は概ね獨逸在學中の文部省留學生なりしは聊か遺憾に感せらるゝも最近發表せられたる同會々報[illegible]

●外國航路の一新　日本郵船會社の巨船香取丸が愈々去八日歐州航路に就役すると共に從來の同航路船丹後丸（七千四百六十三噸）濠州航路に配されし日光丸（五九四七噸）熊野丸（五〇七六噸）と共に今後の定航に就くべく同ほ北米航路の讃岐丸（四一一一噸）は近く就役すべき香取の姉妹船鹿島丸（〇五五九噸）の歐州航路に就くと同時に現在の安藝丸（六四四七噸）と交代して北米定期より引揚げ因幡丸と共に印度カルカッタ航路に配さるべしと云ふ尚ほ東洋汽船會社の南米航路は益々發展するに伴ひ曩に其使用船舶の改善を感じ既に新造ターピン船安洋丸を配船したるが英國に注文したる靜洋丸廻航したるにつき來る廿三日より同航路中の最小船武洋丸と交代し就役する事となれり同船は武洋丸にに比し構造及び設備を頗る改良したるが故に今後墨國及南米方面に關係ある當業者は益々至大の便宜を蒙るべく武洋丸は靜洋丸と共に英人の賃貸船としてメキシコ南洋方面と波斯英本國方面の重油輸送任務に就くべく斯くて桑港航路の天洋、地洋、春洋と共に我對外定期航路船は一新面目を呈するに至れり

●慶喜公薨去す

公爵德川慶喜氏は廿一日夜遂に薨去されたり享年七十六

●大禮使総裁及御用係決定　明年京都に於て御擧行の　今上陛下御即位式の大禮使及御用係は左の如く決定されたり

大禮使総裁　伏見宮貞愛親王殿下
司事務長官　内務大臣　原敬
御用係　顧問官　伊東己代治
同　細川潤次郎

●陸軍と增師案　陸軍側は例の增師問題を固執し愈々本期議會に之を提出する模樣なり





●高峯博士の新事業

▲オレンジ業界の革命

加州各方面のオレンジ栽培地にて未熟或は其他の故障のため年々放棄するオレンジは少くも五万貨車に達すべしとの事なるが殊に一昨年來南加方面の同業界に霜害の襲來頻々たるため斯業の前途に關して少からず杞憂を懷かしめ居る際茲に一道の光明を與ふべき革命の新計畫は高峯タカヂアスターゼ博士の手に依りて完成されたり博士は從來オレンジ園又はパッキンハウスにて廢物となる多量のオレンジが態々運搬費用支出の上放棄さるゝを認め甚だ遺憾の事として其利用法に就き年來研究を重ぬる所あり當市に於ける博士所屬の化學研究所にて上中助手を主任として研究を繼續せしめたる結果遂にグレープヂュース同樣の飲料製造法を發明し防腐貯藏各方面の研究に良好なる成績を擧げたるため白人會社をして其製造に著手せしむる事となりたるが差し當り本社は桑港に置かるゝ事となり尚オレンジの產地とは多少遠隔せるローダイのグレープヂュース製造所にて昨年來廢業したる一會社ありたるにより新たに其工場を買ひ入れ前記上中助手及び西田技師を主任として愈々事業に着手せるが博士及び兩氏は十九日夜用務にてローダイに赴き事業開始に關し種々取調べをなしたる由なり

●高峯博士の動靜　本月九日當地出發公私兩務を帶びて西部に赴きたる同博士は十八日羅府より桑港に着し目下同地に在り、別項所載の新發明事業に關する用向の外日米問題及啓發運動等につき太平洋沿岸在留有志家と種々打合せ中の由にて且つ到處盛んなる歡迎を受けつゝありと、歸市期は未定なり

●白婦人使用禁止案　目下開會中なるシャトルの勞働大會に於てウィラバ港勞働組合の代表者ジョーヂバーンスは日本人及支那人の經營せる各種事業にて白婦人並に少女を使用するの弊害を列擧して大に批難演說をなし今後東洋人の白婦人使用を一切禁止せんため中央政府より新法律を發布せしむる樣今期勞働大會の決議を求むとて一條の新提案を提出したるが目下議塲内にては同提案に對し何等深甚の注意を拂はず從つて差したる議論を惹起するに至らざるべしと沙港通信に見ゆ

●マンスフキールド農園　本紙廣告に見ゆる同農園は四五年前合田金次郎氏によりて創業せられ其後村上氏共同經營者として加入したるが合田氏は三年前事情ありて同農園の經營を村上氏に一任し自身は他の仕事に從事する事となれり、該農園は總計二百七十三英町あり土地は尤も家畜農園及果實農園に適し頗る有望なるも、資本缺乏のため氏は目下僅かに土地の一部分を使用し主としてコーン、ライ其他野菜の培養及養鷄に從事し居れり始めは無經驗の事とて且つ土地に知人なきため隨分困難多かりしも村上氏の熱心なる努力に依り最近一二年の結果は漸次良好に向ひ本年度は相當の收益ありたりといふ因に本社員千本木氏は過日同農園に出張し實地視察し來りたれば右に關し詳細を知らんと欲する人は同氏に問に合はさるべし

●其手に乘るな　傳馬にて生命保險のエーゼントをなし居たる高木光次郎と稱する男は同地ロゼンベス東洋會社の日本人部主任となり會社の新株募集に關し應募者と悶着を起し且つ同地在留同胞より多額の金錢を捲き上げたる事發覺し傳馬新報並コロラド新報より一齊射撃を受けしため數日前何れかへ逐轉して行方知れずなりしとの事にて噓か眞か知らざれども下宿を出る時同人はニューヨークへ赴く由語りしとの噂なれば當地在留者は用心して此手の詐僞にかゝらぬやう注意ありたきものなり

●新育同胞と啓發運動　今回某所に達したる內報に依れば新育在留同胞は米人間に一種の啓發運動を爲すに就き母國實業家の援助を仰がんとて此程澁澤男に宛て年額四万弗の補助を仰ぎ度旨依賴し遣りたりと而して其四万弗の內譯は同地ジャパンソサイチーへ一万弗講演費一万弗對新聞雜誌費一万弗其他一万弗（此項目不詳）なるが之に就ては今回來桑せる高峯博士も能く事情を了知し居らるゝやにて更に豫算を編みて七八万弗を要求しては如何と新育同胞は考へ居るに似たりと桑港日米紙は報ぜり

●神藤代議士出發　當地に滯留中なりし同氏は去廿七日出發、櫻面都、羅府桑港地方の實狀を視察したる上來月中旬桑港より歸朝の筈なり

●代議士清水市太郎氏　去廿五日來着ホテルマッハッタンに在るが海牙にて日米議員の間に組織されたる平和會の用務を終へたる上歸朝の筈

●田川代議士　ボストン地方視察中

●横山海軍少佐、奥倉海軍少佐　は日本俱樂部に在り

●帝國丸事務長伊藤政太郎、醫師口羽雅介事務員楠瀨大太郎の諸氏は過日費府より來り若松に在り尚同船醫新榮定四郎氏は廿五日伯剌西より來着朝日に在り

●古田雅堂氏の結婚　森村組店員なる同氏は去十月十七日地主延之助氏の親戚青木孝子孃と目出度結婚

大角力、柔術興行

日本大角力三十名、男女柔術家十餘名のはなばなしき興行あり、日本人諸君の來觀を望む、期日は

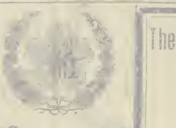
●十二月一日より三日迄三日間
Loew's Delancey Street Theatre
Delancey and Suffolk St.

サブで行けばキャナル町にて下車

●十二月四日より同六日迄三日間は
Shubert Theatre
Broadway and Howard Ave. Brooklyn
に於て興行

觀覽料僅に十仙より廿五仙迄
マーカス、ロー興行會社







紐育の日本人(四)

飛耳張目生

▲不平不滿燒け半分の生涯を送る半書生家内的勞働者の慰籍は何かといふに愚にもつかぬ駄法螺を吹いてコケ嚇かしを行るとだ、ヤレ僕は某地の大學に居てソシオロヂーをやつたとか、ヤレ拙者は西部の某地で新聞の一面を受け持つて居たとか、或は雜誌の表紙丈け覺へ込んだ大學者大政治家、大文豪の名前を並べて熾んに熱を吹いて居る、昨年當地の總領事館に出頭して自分はシャトル旭新聞ニューヨーク支社主任だから證明して吳れと申込んだ男があつたさうであるが斯ういふ手合や、僕はプリンスの悴れ、カウント、バロンの弟であるなど〻言つて歐州より新來のオサンドンをたぶらかす連中は多く此半書生階級の特產物である

▲日本に歸つても兩親に合はす顔が無く、米國に居た所でケッチン働きをするのは嫌だし、ト云つて今更ら何をすると云て見込もない、只空々寂々と面白くもない不平生涯を送つて居ると云ふのが當地に於ける半書生勞働者の現狀である

▲僕は日常之等の人々と接する度毎にツク〴〵可情の念に驅られ「五百餘萬の人口を有する大都會のニューヨークに何か斯う云ふ人々に適當な仕事がありさうなものぢや」と連りに考へて見たり或は先輩者諸君の意見を聞いて見るが薩張り妙案が浮ばぬ、只前途見込のない而も不適當な家内的勞働に從事するよりも一つその事墨國若くは南米に高飛びして生命がけの仕事を試みたらと思ふ丈である

○純然たる家内的勞働者

▲日本人の純然たる家内的勞働者の有様はどうであるかといふに其生活狀態は他と著しく異る所はないが職務に忠實で金を貯蓄する者が比較的に多く、書生的勞働者の様に理窟ケ間敷ないからサーバントとして主婦たる人の最も歡迎する所である、是等の勞働者は日本から帆前船に乘つて來たり或は布哇から轉航して來た者が多數である、勿論教育の程度は低い

▲此階級に屬する勞働者は書生的勞働者のやうに未來の大臣宰相を夢みた事もなく、又自由とか權利とか鹿爪らしい而かも下男奉公に不必要な考を持つた者は甚だ稀で、只日本流に「主人は主人、家來は家來」といふ觀念を以て立はたらき少しでも休むタイムがあれば臺所の片隅でも掃くとか、金具を磨いて綺麗にするとか諸事眞面目に仕事をする、さうして將來の希望とても至つて單純で米國で貯蓄した金を持て日本に歸り可成別嬪を妻に迎へて一生を安全に暮したいといふのが多數である

●布哇近信

▲朝鮮人の請願　在留朝鮮人にして近時帝國總領事館に其保護を願出づる者あるが右は排日を標榜する國民會のため高壓手段を以て毎月多くの會費を徴收さるゝに忍びずとなすにあり最近布哇島ヒロ鮮人より總領事館に請願し來りたる願書の内容によれば

▲國民會の會員　朝鮮人間には國民會と稱する團体を組織し居れるが其會員の會費と云ふは一人一ヶ月五弗即ち一ヶ年六十弗の規定にして同會は集金人を島地に派して嫌應なしに右會費を徴集し若し不平を漏す者あれば機關新聞國民報を以て攻擊するが故に多數朝鮮人は其苦痛に堪へず一方經濟狀態を見るに耕地勞役者が一ヶ月五弗の金員を徴收されては日々の生計に苦しむべく斯くては錦衣歸朝等は到底望むべくもあらず何卒國民會の横暴より救ひ出されん事を請願すと云ふに在り

▲會館と新聞社　更に他の者よりの請願書を見るに國民會の所謂首腦者は國民會館を新築し且つ國民報新聞社を建築する事とし約一万弗の金員を募集せんとす斯くては在布哇の朝鮮人は國民會の首腦者二三人の為に犠牲となる者にして到底堪ふべきに非ざれば帝國總領事館の力を以て斯る横暴手段を制止されたしとあり此種の請願書は漸次其數を加へつゝある所より察すれば在留朝鮮人の多くは國民會に對して不物を抱き居るものと思はる

▲永瀧總領事談　右に就て總領事の意見を叩けば曰く、米國領土に於ては予の職權を以て如何とも為す能はず又國民會は布哇縣に屆出で居る團体なれば正面より是に向つて干渉し能はざるや論なし然れども多數朝鮮人の請願に對しては熟考の上何とか保護方法を講ぜざるべからず素と〳〵國民報が如何なる事を報道するも其新聞紙は支那朝には入られざる事となり居れば大したる影響は無かる可しと雖も聴くによれば國民會の組織と云ふは警察部或は司法部と云ふが如く自治制を執り自ら稱して國家組織と為し居れば朝駐人中には之が為め迷惑を蒙り居るもの少からざる可く從つて請願書頻々到來する所以なるべし此事に就ては尚ほ熟考する所あるべし云々

▲河一清に就て　天長節夜會に際し國民報が警察部長河一清と報じたるは國民會内の警察部長の由にてオハフ郡警察とは何等の關係なき次第なりと云ふ然れども新聞紙上自稱警察の文字を用ゆるが如きは不穩當の甚だしきものなるを以て是等の事に就ても何とか方法の講ぜらるべく何れにするも國民會に對する不平に就て帝國總領事館に請願し來る事の增加は注目すべき事なり因に永瀧總領事は例令如何に國民會に於て排日を標榜するも總領事館の方針は何處迄も親近せしめんとするに在りて彼等を疎外する事なしと知るべし

●帝國丸の費府寄港　ブラジル移民三千餘名を載せて同國に赴きたる帝國丸は目下費府に碇泊中、約十日間同地に滯留し石油其他の商品を搭載したる上スエズ經由歸國すべしと

●共濟會役員會　來十二月二日午後七時半總領事官邸に於て開催の筈

紐育日本間郵便發着表

ニューヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
地洋丸	桑港	十二月一日
シカゴ丸	タコマ	三日

●日本より到着日

十一月廿九日
十二月四日
同六日
同十日
同十三日

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave. N. Y. City,
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N. Y. Post Office
as second class matter under
act of March 3rd 1879

日刊報定價（前金郵稅共）
□一部金五仙□六ヶ月分一弗
□一ヶ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政院認可
發行兼編輯人　甲斐健一
發行所　新育新報社
紐育市第六街二三八
電話チエルシイ六四七三

青年會館と英學夜學校

在新育青年中の純良なる分子に温かきホームを與ふるの目的を以て企畫されたる青年會館は今や會員諸君の努力と先輩諸氏の後援とによりて新たに設立せられ近く其開館式を擧げんとす、吾人は奇しき運命に捕はれて異域流寓の生活に一身の將來を謬らんとする在留青年が新會館の設立と共に稗益する所多かるべきを思ひ中心實に慶賀に堪へざる者なり然れ雖同會が今後の方針として在留青年に貢献するに足るべき如何なる具体的成案を有するかは吾人の切に聞かんと欲する所にして殊に會館設立に關し多額の金員を寄與したる先輩有志の好意に對し當事者諸君の責任亦決して輕からざるを思はずんば非ず試みに西部地方に於ける青年會若くは之と其性質を同うせる團體の事業を擧するに何れも青年の啓發誘導に關して何等かの具體的設備を有せざるなく就中宗教團體に附屬せる青年會の功果は特に顯著なるを見る、然るに從來當地に創立せられたる此種團體の過去に徴すれば團體は倫理宗教の峻嚴なる命令を厭ふ不平青年若くは未熟學生の氣焔場たるに過ぎず、而して其會館は下宿屋類似の合宿所たるの觀を呈し、世人をして其存在をさへ疑はしめたるもの尠からざりき、忘ふに新會館を主宰せんとする當事者の意蓋し亦此弊所に鑑みる所あるべきは論を待たずと雖も吾人が具體的事業の一として當事者及會員諸君の一考を煩はさんと欲するものは、青年會英語夜學校の新設之なり、當地に在留せる同胞が風彩に於ては一般に他地方在留者よりも遙かに立派なるに不拘、英語を功に操つり、英文の充分なる理解力を有する者、其數比較的に少きは吾人の常に遺憾とする所なるが夜學校の新設は此欠陷を補ふに足るべく且家内的勞働に從事する青年をして業務の餘讀書に親ましむるの習慣を作らしむる点に於て更に其効果多かるべきを思ふものなり、素より夜學校創立の費用、維持方法、若くは教師の選擇其他に關し幾多研究を要するもの多かるべきも此の如きは特志會員並に主宰者の熱心如何によりて必ずしも困難なる問題に非ず、會館の創立を祝すると共に敢て此議を提供して諸氏の眞面目なる研究を促がす



其時々

レーキウードにて　安藤多郎

○

都戀ふほてり付く如き思しぬ、落葉焚く烟一縷寂しき

○

昨日とは異なる我の生活を疑ひつゝも一けづゝ消す。

○

枯枝に夕風叫ぶ殘んの葉、湖上を月の蒙白く照る。

○

街頭の瞬き寒し曉の、霜に木の葉の地に落ち付きて。

日米週報と母國訪問團

卓郎

▲去月廿九日發行の日米週報紙は「東京便り」と題し林富平君の主催にかゝる新育母國訪問團着京當時の行動に關し頗る皮肉なる攻撃を試み且つ暗に胸中悶々の情を吐露して大ひに快感を覺へられたるやに相察し申し候

▲今の其要点をかいつまんで申せば「東京に於ける一行の行動は彼是批評する程の價値なかりし事」「團員悉く不平ダラ〳〵なりし事」「新育に在留せし事のある有志家を以て組織せるマンハツタン倶樂部に於ては此一行のため大歡迎會を催ほさんと準備せしも中止となりし事」「東京便りを日米週報社に送り越せし人等は色々便宜を計らんと努むるも一行の統一を欠ぎしため如何とも致方なかりし事」「團長に今少し氣の利ひた人間ありしならんにはと嘆聲を發せし事」「一行の宿泊せる旅館の前には實に滑稽にも、新育新報主催新育觀光團と大看板を掲げたるとが何となく片腹痛き心地したる事」等に有之候

▲「東京便り」の筆者は安樂榮治君なりと確聞致候が日米紙に掲げられたる全文が安樂榮治君よりの書信其儘なりしや否やに就ては小生の敢て保證し得る所に非ず、只林富平君の事業は日米週報のために手痛き打撃を被りたるものにて小生は友人として同君に對し寔に氣の毒に感ずると同時に、公人として世に立つ日本人士に向つて今一層の雅量坦懷を希望する者に御座候

▲小生は東京の諸新聞と林君の書信とにより當地の母國訪問團がシヤトルの林良章氏團一行と共に愉快に行途を續け滯京中も各所に於て非常の優遇を受けたる由を知るのみなりしが日米紙所載の「東京便り」即ち安樂榮治君の書信なるものを一讀して尠からず不快の感を覺へ申候、念ふに世人も小生と同樣の感に打たれたる事なるべく、隨て林君の明年の企畫に關して其成功を危む者多かるべしと存候

▲新育母國訪問團の着京當時の行動が如何なりしかは後日を待て判明するとに可有之候が社會の先覺者を以て任ずる新聞紙の後進事業家を遇する態度てふ点より見て日米週報の訪問團乃至林君に與へたる打撃は果して其職責を全ふしたるものなる可きや識者の高教を仰ぎ度候

▲小生は日米紙と林君又は訪問團との間に何等の恩怨なきことを明確に承知し居る者なれども若し訪問團の企畫が在留同胞社會に害毒を及ぼし或は其体面を毀くるものならんには同紙が公人としての立場より例令如何なる攻撃を爲すとも敢て批難す可き理由は無之候

▲乍併母國訪問團なるものは讀んで字の如く永らく在米したる人々が久々振りに郷里の懐しき父母弟妹を省せんとする單純なる旅行者の團に過ぎず從つて直接に社會の利益となり又は不利益となるべき性質を帶びたるものには無之候、斯る團体を攻撃したりとて一体何になり候や

▲米國の風習に感化されたる在米同胞の故國漫遊中には定めし面黑き失敗談もあるべく、行違ひ感違ひも起る可し、夫を殊更に取立てゝ酷評し、其人或は其主催者の前途を阻隔し、其人の知人の事業にまでも側杖を喰はさんとするが如きは畢竟するに小人の事、士君子の爲す可き所には無之候、尤も斯は一般日本人のケチ臭き島國根生に對して小生年來の愚痴をコボしたるまで、敢て賢明なる日米週報記者に對して申す譯には毛頭御座無く候

▲人間は神樣に無之、御互樣も[illegible]難き衆生の一分子にて爲す事する事常に東西賢哲の敎に逆ふ事のみ多く候、左れば自分より後進の人が新たなる事業を企畫する事ありとすれば其目的が善意に出でたる以上、例令其人の性格と手段とに多少批難す可き点ありとするも心を寛やかにして其人を容れ、諫奬し、激勵し、其人の爲に第二の新運命に乘ずべきステツプを與ふるは御互の義務否「思ひ遣り」と申すものには無之や

▲小生の知れる林君はスマートな男には無相違も而かも驚く程馬鹿正直にて親切な所あり、今度の企畫に於ても經濟上非常の損失なるにも不拘斷然當初の言責を實行致候、小生は公人として世に處する人々が今少しく大陸的の氣宇、天空海濶的の雅懷を以て後進青年を遇せられんことを繰返して切望致候　以上

●墨國政府軍の潰走

▲チワワ市陷落　フユアレス附近の戰に脆くも失敗したる官軍は意氣既に阻喪したるものゝ如く北部墨國の都會たるチワワに駐屯し居れる官軍は去一日同市を放棄して南方に潰走せるが勝誇つたるブイラ將軍は手兵約一万を率ひて同市を占領すべくフユアレスの本陣を出發せり、同將軍は基督降誕祭前後に於て二萬の革命軍は首都を包圍するに至るべしと公言せり

▲北方政府組織とブイラ　[illegible]勝の餘威を以て北部諸州を風靡せるブイラは首都政府と何等の關係なき獨立政府を組織せんがため[illegible]大將カランザに會見を求めたるが彼はカランザに新政府一切の事務を委ね自分は主として南方征伐の任に當るべしと言へり、多分マデロ政府[illegible]に於けるウエルタ式を試み[illegible]るべし

▲ウエルタびくともせず　[illegible]將軍は聲明して曰く、予は飽迄米國の[illegible]に應せざる可く生命のあらん限り[illegible]の職責を守る可しと云々

▲渡日墨使の巴里出發　墨國の[illegible]公使たるフランシスコ、デ、ラ、バーラ氏は去三日巴里出發[illegible]日本に向へり行路は獨露兩國[illegible]比利亞線に據る筈なり

●大統領の教書

米國大統領ウイルソン氏は去[illegible]日自ら上下兩院の聯合議會に臨みて施政の方針を朗讀したり、今其要目を[illegible]すれば、世界の平和に關する[illegible]の條約に上院の承[illegible]中央銀行及通貨制度[illegible]よりて地方農民の信用機關に[illegible]與へ商業の進歩と平行せしむ[illegible]の開發繁榮に資する事、非利賓に[illegible]然たる獨立を許す事、アラスカ[illegible]敷設の急要、鑛山局の權利を擴[illegible]鑛業者をして雇人の安全を圖り[illegible]濟的の産出を期せしむる事、獨[illegible]業を排しシヤマン法を存置し[illegible]に之を勵行す可く、又該法に關する商工業家の杞憂を除去す可き事、[illegible]員救濟法、大統領候補者の直接選定[illegible]等なるが最後の從來のコンベンシヨン選擧制を廢し選擧の際コンベンシヨンは單に政綱の編制發表を爲すに止め、人民直接に大統領候補者を選擧す可しとの議は頗る急激の改革[illegible]見なりと評せらる、尚對墨關係に就てはウ氏は飽迄ウエルタの退職を[illegible]國平和の緊急條件なりとし現[illegible]か日一日と危殆に瀕しつゝある[illegible]說き吾米國の對墨方針を變ずる[illegible]なしと論せり

●教書と墨國新聞　右教書に[illegible]

[illegible]

●獨逸[illegible]

●米國[illegible]

●英國[illegible]

●霧島進水式

本月一日東京發電に依れば目下建造中なる甲裝巡洋艦霧島は既に其外部の構造完成したるを以て同日長崎に於て盛んなる進水式の擧行ありたりと、同艦は金剛の姉妹艦にて噸數二萬七千噸、七萬馬力、廿八ノットの速力を有し、十四吋砲八門六吋砲十六門を備へたる最新式の戰艦なり

●澁澤男の渡支延期　同男は頃日來風邪のため引籠り中なりしが主治醫の勸告により渡支を明春迄延期する事とし同行の豫定なりし倉知中國興業副總裁は去月廿日野口米藏氏を伴ひ渡支したりと

●飛行機と戰術　今回の演習中最も注目すべきは言ふ迄もなく兩軍共に飛行機を有する事にして戰術上多大の變化を見るべく就中騎兵砲兵の戰術上に及ぼす影響は最も甚大なるべし從來騎兵は主として搜索任務に從事したるが此任務は今や飛行機のため奪ひ去られんとする觀あり故に騎兵の任務は其範圍甚しく縮少せられ今後は單に搜索任務に使用するよりも戰略要地を敵に先ちて迅速に占領するために使用さる場合增加すべく又砲兵は飛行機のため彈着の觀測容易となりたるを以て射擊範圍擴大され遠距離なる豫備隊若くは行軍縱隊をも射擊するに至るべく從つて砲火の開始比較的早く且つ遠距離より射擊するとなるべく其結果遮蔽陣地より間接射擊をなす機會多かるべし又步兵は左したる影響を受けざるが如く思惟せらるゝも豫備隊の地位には森林若くは家屋等の如き隱蔽物を利用する事となるべし要するに騎兵の任務縮少すると同時に砲兵の任務は非常に擴大せらるべし

●帝國飛行協會　帝國飛行協會は十日定次總會を交詢社に開き財部海軍次官須田、横田兩博士、井上陸軍大佐、末延道成、波多野承五郎氏等廿餘名出席、末延氏開會の挨拶を述べ財部次官を委員長に推し倉知理事より決算報告あり評議員及理事の改選を行ひたり尙協會創立の趣意を賛し三井岩崎の兩家より六千圓宛近藤廉平氏より五千圓前田、蜂須賀兩侯爵家及波多野、末延、赤星、安川敬一郎諸氏より各千圓の寄附あり尙朝鮮李王殿下よりも特に金五万圓を下賜されたりと

●增師と陸軍の決心　增師案の提出に就ては楠瀬陸相は表面之を打ち消し居れど其は未だ正式に閣議に提出されずとの意味にて增師計算書が既に山本首相の手許迄提出せられたるは蔽ふべからざる事實なるが陸相は陸軍部內の手前に對して飽く迄强硬の態度を示して義理にも提出せざるべからざる破目となり居ると同時に一方政友會及び輿論の思惑もあり且つ其山本首相に於ける上原前陸相の西園寺前首相に於けると關係大に異る事情もあれば其立場の困難なるは同情に堪へざる所なるも陸軍部內の意向の强硬なる事毫も昨年と異ならず只表面何等活動の見るべきものあらざるは要するに昨年の政變に手懲りして愼重の上にも愼重を加へ滿を持して放たざる迄の事にて　軍部內の或有力者は十二月に入れば愈々本舞臺に取掛るべしと豪語せるは其本音を吐けるものと見るべく陸相にして果して能く此難關を切拔く可きか如何は蓋し見物なるが去廿七日東電の所報によれば內閣豫算會議は結了せり只師團增設問題に關しては未だ確定せず此件に關しては首相と陸軍大臣と十分に協議したる上にて決せらる樣にと委任したりと

●北米航路速力增進　横濱商業會議所は會議を開き各汽船會社が北米航路の汽船速力を增して交通を便ならしめ南米航路は暫く之を延し巴奈馬開通後ニユーヨーク線を開かしむる樣に建議せんと決議せり

●墨國答禮使歡迎準備　墨國答禮使一行の來日あると聞き朝野の士は大歡迎をなさんと準備中なれば前答禮使を拒絕せる時とは變りて十分なる歡迎をなすべき模樣なり

●桑博賛否問題　は過日の全國商業會議所聯合會に於て中野東京會議所會頭に一任したる儘にて局面の展開を見ざりしが昨今愈々賛同出品に決したりと稱する者あれど事實は未だ此く決定したるに非ざる如し

●一年志願廢止反對　徵兵猶豫及一年志願兵廢止問題につき陸相は曰く「何分卅年來の問題なれば一朝一夕に解決し得べき性質のものに非ずシカモ一年志願兵の廢止に關しては直ちに絕對に之を否とするに躊躇せず何となれば同制度は戰爭の場合に於て從來大なる利便を感じつゝあり現に動員計畫に際し是によりて少くとも一万人の青年將校を補充し得る利益あり從つて若し此制度を廢止せば更に他の方法を講せざるべからざるなり」云々

●支那共和國議會開會せず　支那共和國議會は曩に袁世凱が上下兩院議員七百九十六名中より國民黨議員三百八十五名の資格を剝奪せる結果定員に不足を來し今尙ほ開會の運びに立ち到らず

●臺灣獨立陰謀

▲煽動者は支那人と判明

臺灣よりの特電によれば同島土民間に日本政府の統治を脱し共和國を組織するの陰謀あり事未發に發覺し陰謀連累者陸續拘引中なり擒擧せられたる陰謀連累者中には學校敎師總督府雇若干雜り居れり陰謀煽動者は近く土民間に基金を募集せる事あるより察するも支那人たる事略々疑なし　廿七日東京發電

●我手に歸せんとする大油田　目下我政府と支那政府との間に採掘に關する交涉を重ねつゝある狹西省延安府延長縣の油田は支那第一の石油坑にして坑區の面積は二千八百八十九万英尺に餘り測定の油井は數百に上れり曾て日本技師の測定せる處によれば重油、燈油、發揮油の三に區別され油精は優秀なる蠟燭を製するを得べく光緒卅三年發見以來前後四個の油井を掘鑿して何れも良好の成績を示したれば前巡撫は官金四萬元を投じて民業となすの方針を定めんとせしも成らず其後更に官業となすべく六千万元を投下するの方針を立てしも是亦意の如くならず遂に官金六百萬元及民金四百萬元合計一千萬元を以て經營するの案を立て且つ採油は鐵管により三河口に運び同地に貯油槽を設くるの案を立てたる折柄革命亂のため中止となり現在は僅に舊式の採掘をなし居るのみ是より先き米國スタンダード石油會社は其油價を維持せんため此無盡藏と目せらるゝ延長縣の油田を封鎖せん計畫の下に七千万弗を投じて其採油權を獨占せんと企て所謂スタンダード借欵として一時喧傳されしが諸種の事情は此企を不成功に終らしめ其後も一再ならず借欵の擔保に提供せらるべく傳へられたる一大油坑なり

●子爵渡邊昇氏薨去　同氏は一昨年來腎臟病並に健忘症にかゝり健康兎角勝れざりしが去月十日遂に薨去せりと、氏は肥前大村藩士、十七歳にして江戸に出で、安井息軒の門に學び又劍道を時の名士齋藤彌九郎に受けて其蘊奧を極め、維新の際には坂本龍馬等と共に國事に奔走する所あり、後種々なる官歷を經たる上退官し後專ら士道の鼓吹に努たる人なり

●共濟會墓地購入に着手せん　同會の役員例會は去二日飯島總領事私邸に於て開會、會計及庶務の報告、會費未納者の件、前共同墓地債券の始末等を商議したるが豫て募集中なりし同會主催墓地購入費寄附金は既に豫定の二千五百弗以上に達せしを以て愈々マウント、オリベット墓地の一部を購入するに決し委員は不日交渉に着手する筈なり、尚右墓地内には會員外の死亡者と雖も埋葬を許す事に定めたり因に役員諸氏は閉會後飯島總領事並夫人の饗應を受けたり

●青年會館成る　豫て計畫中なりし日本人青年會館は有志家諸氏の後援により諸事意外に渉取り既に東五十七丁目四六五に宏大なる家屋を借入れ家具一切も略ぼ整ひたる由にて明日は會員一同相會し各自同會の發達に努力すべき誓を爲すと共に眞面目なる在留青年を稗益するに足るべき具體的事業に關し協議會を開き終つて各員の懇話會を催す筈なり　グード

●修道會の祈禱會　去四日祈禱會あり來遊中なる前代議士服部綾雄氏の演說ありたり

●高木光太郎氏の記事に就て　傷害生命保險會社の代理人たる同氏は前號三面所載「其手に乘るな」と題せし記事に關し態々來社の上決して桑港日米、傳馬新報、コロラド新報に記載ありしが如き不正行爲なく全く西部地方に於ける黨派的憎惡心の犧牲となりしものなりしと大に辯明に努めたり、傳馬に於ける不正行爲云々に關しては目下取調べ中なるが氏が傷害生命保險會社の代理人なる事は事實なり

●米國出生屆の手續は　在留同胞が嬰兒の生れたる場合産婆に届出でを委せて其父たる者が一向に米國政廳へ届出でないから他日ツラブルが起るだらうと心配し同胞の父たる者は産婆の届出にのみ委ねず自らも届出なければならぬと非常に心配した人もあつたが過日布哇ホノルル駐在の永瀧領事が同胞送還者問題に關する事項を尋ねた際沼野領事の回答の一部には米國にて日本人出生兒童届出に關する事が含まれて居つた夫れによると米國の官廳は兒童出生の事實は之を全く産婆若くは出産立合醫の届出に待つのであつて只日本人の或場合の如く産婆もなく醫師も立合はなかつた時に限つて出生兒の父若くは母が届出をなせば宜しいさうだ

●ハツケヨイヤ殘つた／＼　目下當地に於て興行中なる角力一行の熊風關に大濡れ事あり、關取りは近々露西亞生れの美しいダンサーと結婚するげなと兩人の寫眞迄出してウォールド紙が素ツ破拔いたる始末、當り前なら妾し嬉しいわと首ツ玉にシガミ付く筈の別嬪さん忽ち女夜叉の面相凄まじく、物騷千萬にもウォールド紙を相手取り過日名譽毀損の訟訴を提起したるが色男であつた筈の熊關大くびを傾けソンナ筈じやゴンセヌゾエ

●高峯博士の新事業と英紙　同博士の新事業につき桑港のクロニクル紙は盛んに氏の天才を賞揚し且つ此新事業のため加州は少くも千五百万弗の物産を增加する譯なりと言へり、尚新會社はシトラス　フルーツ　プロデュース會社と稱し最初の資本金は廿五万弗にして第一工場を加州樓臺に創立し追つて第二工場を羅府方面に置く計畫なるが博士が此發明に關し非常の苦心を爲したる點は、不良品は不良食料取締規則により嚴重に處分せらるゝため完全無害の液汁を製せんとして數々製法を變更し又試驗を重ねたるに在り從つて今日までの長日月を費したる次第なりと

●山田前次君ホツピーと戰はん　ビリヤードチヤンピオンたるホツプ氏は此程デマレストを破りて依然世界第一のタイトルを占め居れるが斯道諸名家は現今の名手中ホツプ氏より其タイトルを奪取すべき見込ある者は山田氏の外にあらずとなし、明年匆々兩人の手合はせを爲す事に內決し居れりと、氏は今春の世界選手競技に於て一度美事にホツプ氏を破りたる事あり目下は百卅五丁目なるモーニングサイドビリヤードルームにて實習中なり

●費府同胞の團體組織　同地在留有志者は共通の利益を圖る目的を以て一團體を組織せんと目下夫々相談中なりと

●陸軍步兵中佐伊丹松雄氏　井上中佐に代て華府大使館付武官に任命されたる同氏は南米視察を了へて去二日當地に着し四日任地に赴きたり中佐は陸軍大學兵學敎官にて大山元師副官たりし人なり

●井上中佐歸朝　伊丹中佐の着任に付不日歸朝すべしと

●松岡書記官來任期　氏は十三日リバープール發船ルシタニヤ號に乘じ來米の筈なり

●前代議士服部綾雄氏　は去一日着目下グランドユニオンホテルに在り來八日まで滯在の筈

●帝大敎授文學博士吉田熊治氏　は此程來着西百廿二街二一二に在り暫時滯在の筈なり

●工科大學助敎授佐野利器氏　は建築事業視察として目下當地に在り暫時滯在の筈なり

●山川美弘氏安着　大阪每日の特派員として當地に在りし同氏は去月十八日加賀丸にて歐州より神戸に安着せりと

▼新年號豫告▲

本紙新年號は諸名家の時事問題に關する論說、談話を揭げる外、同胞間に家庭趣味を喚起する爲め特に在留有志者の

ベービーの寫眞

を揭げべく、故山逸客、聽劍、獨來處等は各其特長を發揮して日米問題社會問題等に關する大氣焰を吐き、ばなゝ、五峯、多郎、背天、綠雨等は得意の錦心繡腸を吐露して大に在留邦人の文藝趣味鼓吹に努む可ければ全紙面は例に依て光彩陸離たるものある可し

新年廣告

揭載御希望の方は至急申込まる可し

●早川氏妻女の死去　コーチー球場主人早川氏妻女は此程分娩後入院中なりしが不幸にも餘病を發し去一日死去したるが早川氏は豫てより眼病を患ひ兩眼共に殆んど失明の姿なる由重ね／＼の不幸氣の毒に堪へず

●インデペンデント誌　日米親善のため多年努力する所あり且つ邦人間に數多の知己を有するハミルトン、ホルト氏の經營する週刊雜誌なり、同誌が本月初旬特に發行したる「日本號」には大隈伯の「日本と巴奈馬運河」と題する寄書あり

●紐育日本評論　宮川鐙次郎氏發行の十一月號は去月末發行せり、記事評論例に依て賑かなり

紐育の日本人（五）

飛耳張目生

◎純然たる家內的勞働者續き

▲日本流に「服從の美德」といふ事を辨へ比較的職務に忠實なるは感心の至りであるが此階級に屬する日本人に缺ぐ所はアムビションの無い事である。

▲僕が茲にいふ「アムビション」とは決して學者若くは大金持を意味するのではない、只自分自身の職務を此上にも研究して腕を磨き、ソシテ立派な一人前の專門家になれといふのである、此事は特に料理を行つて居る人々に御勸めをする。

▲家內的勞働といへば米國では最下等な職業として賤まれて居るがホテルのクツクやスチユワードの如きは誰しも知らぬ專門の職業と認められ當地に於ける大ホテルの首席料理人は一ケ年八千弗以上一万五千弗の高給を取つて居る

▲日本人の料理人は最上級の者で一ケ月六七十弗以上を得て居らぬが而かも彼等は此俸給に滿足して自分の腕次第尚以上の高給を得られるものだといふ事を丸切り知らぬから遺憾である。

▲然らば專門の料理人となるには如何なる手數を要するかと云ふに或人の實驗談によると、先づ市內の有名なホテル又はクラブハウスに申込んで六ケ月乃至一ケ年の間無給で働くのである、勿論或所では拒絕されるかも知れぬが何しろロハで働くといふのだから熱心に口を求めるやうにすれば必ず得られる。

▲六ケ月以上も無給で働くのは如何にも馬鹿〳〵しいやうに聞へるが其間に習得する實地の經驗と其經驗によつて將來得べき俸級額を差引勘定すると之程容易で且つ利益ある修業法はないのである、殊に日本人は手先が器用で敏捷な性質だから西洋人よりも比較的に進步が早くホテルの主人と雖もさう何時迄も無給で使ふ事をせぬ、必ず相當な小使を與ふるやうになる、ソシテ其家を出る時には美事な信用狀を吳れて他のホテル若くは倶樂部ハウスのチーフに推薦して吳れるといふ話である。

▲ホテル若くはクラブハウスのチーフなれば目下の者を監督する丈の頭を要するがセコンド、サードは腕次第であつて腕が達者でさへあれば解雇される心配もなく、目下の者等も從つて服從して來るし妻子に安全な生活を與ふる事も敎育を授ける事も又容易である。

▲僕は多數の料理人諸君に希望する所は先づ以上述べたやうな方法で以て市內の有名なホテル又はレストラトに交涉を試みることだ、尤も吳々も申上げて置くが何事を爲すにも精神を中心にこめて一度決心したら飽迄貫くといふ覺悟が肝要である、ナポレオンの兵法は單に軍事に於て切要な許りでなく人間俗界の事々物々に應用して必ず奏功する、諸君々々、五十や六十の端た金に滿足せず有らゆる方面に向上して早く一人前の男にならなくらや到底も氣の利ひた噂アは持てんぞ。

◎夏場商買兼業の家內勞働者

▲家內的勞働者の中で商買氣のある者は冬季中働いて金を蓄へ五六月頃から避暑地に於て例の「玉コロガシ」或は「センベイ燒」をする夏場商買の事は別に陳べるとして此階級に屬する者は日本でも商買人の家に育つた者が多く出生地は京都、名古屋、江州、中國邊の生れである。

▲此外家內的勞働に從事して居ながら種々なる發明品に苦心する青年は少くないやうで「專賣特許」を得んが爲に取る限りの給料を悉く費消して惜まないやうな感心な男もある、併し之等の熱心家に缺ぐ所は一般發明界の趨勢に暗く、先輩に相談する機會少なき結果往々にして數年間の勞力と費用とを水泡に歸せしむるのが多いのは返す〴〵も遺憾千万である

○「悲耳吊目」

△△△

風吹けば土曜日來り
雨降れば月曜も來ず
飄々として勝手なる哉新聞紙
嬉し論說の氣儘なるに似て
昨日故山逸客在つて
寸鐵能く閃きぬ世道の闇に
今飛耳張目の怪跳梁して
白日敢て漏らす天狗の笑ひを
働き前き、桂庵、將た下宿屋
三角形航路のフェリーボートと
善罵冬雨も辛らしされど思へ
三角洲上の都ニューヨークなればを
カウントバロンの子散々の体
學者文豪の弟子皆敗亡
偉い哉天狗團扇の風
第六街頭悲耳吊目す
飛耳手を代へて示教切に
諸賢行き給へ南米へメキシコへ
張日品を綴へて命令嚴に
貴樣行けよ南米へメキシコへ
六人男子爲るに事を欠いて
皿を洗つて既に半世を送るか
一日須可洗三百枚
百年ざつと一千九十万
御利益多くして却て神威を損す
知らぬが佛以來手加減を要す
西んちろりん由來東を知らず
讀者大抵北守南進を解す
夫れサブに入つて銀漢を望み難く
キツチンに在て天下の雲行は見ねず
三杯酒を傾けて天狗を罵れば
鏡に影在り我亦飛耳張目

一口噺し

中田坊

洋行歸りの醫者昔堅氣の隱居の所へ病氣見舞に行つた

醫「貴所の病氣は精分を付けるやうにすれば直ぐに治る、スープの極濃いのを不絕飲むがよろしい

隱「如何程身體に宜くつても左樣いふ西洋臭い物は昔から大嫌ひだ

醫「ハヽー夫れでは肉を充分煮出して其汁を御飲みなざるが宜しい

隱「ハイ夫れなれば頂きます

某總領事の子供は父さんに似て色が黑いと云ふので或人が子供に向てボツチヤンは丸で黑んぼだね

子供曰く

ナニ私し然うぢやないの赤んぼよ

新育日本間郵便發着表

ニューヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
ナイル	桑港	十二月一日
靜岡丸	沙港	十一日
モンゴリヤ	桑港	十五日
丹波丸	沙港	廿六一

●日本より到着日

十二月六日	同	十日
同 十三日	同	廿日

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave. N. Y. City.
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N.Y. Post Office
as second class matter under
act of March 3rd 1879

月刊定價（前金郵税共）
一部金五仙〇六ヶ月分一弗
〇一ヶ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政局認可
發行兼編輯人　甲斐健一
發行所　紐育新報社
紐育市第六街二三八
電話チエルシイ六四七三

某名士の日米問題解決意見

左は此程當地に來遊せられたる故國某名士の意見なり、所論中排日の原因及滿州問題に關し著しく吾人の所見と異る所あれども讀者の參考として茲に揭ぐ、不日氏の所見に對して駁論を試むべし、記者

日米問題は既に各方面より觀察論議せられたりと雖も其解決策に至りては邈として何等具体的成案を見るに至らず、或悲觀論者は日本の要求全く泣寢入に終るべきを豫想し居るものゝ如し、然りと雖も此の如きは吾國現在の立場よりして到底堪へ得る所に非ざるが故に吾等は飽迄本問題の平和的解決を畫し以て世界に對する吾國民の平等的地位を確保せざる可らず

▲排日の原因は政策問題

世人の多くは排日の原因を以て人種問題若くは經濟問題に在りとなせども予の見る所に依れば排日の原因中人種的並經濟的意義を含むは勿論なるも其最大原因を爲せるものは日露戰役後吾政府の踏襲し來れる大陸政策にして、此謬れる政策は著しく米國の排日觀念を助長せりといふ可く隨て此政策を變更せざる限り日米問題は永久に解決の途なかる可きなり

前大統領ルーズベルト氏の仲裁に依りて成立したるポーツマウスの講和條約に於て吾政府は滿州の機會均等を約したり、而して米國に對しては太平洋の現狀維持てふ默契により日本の朝鮮、臺灣に於ける領土權、米國の布哇、比利賓に於ける領土權を相互に確認し、若し第三國が如上兩國の領土に害を及ぼす場合は兩國は共に協議の上適當の方法を講ずべしと約せり、當時ルー氏を始め米國の有力家等は日本の寛濶なる態度を稱揚し、日本は何處迄も此誓約を奉じて行動すべきものと信じたりしが、桂、小村兩氏の大方針たりし彼大陸政策は全然滿州に於ける機會均等主義を無視し巧みに差別的方針を採り、米國資本家の滿州投資を排拒するの態度に出でたり、茲に於てか米國の政治家は漸次に日本の誠意を疑ふの傾を生じたりしが、問もなく發生したりし桑港の學童問題は米國當路者の排日的傾向、顯然として覆ふ可らざるを示すに至りたり、即ち學童事件の交換條件として吾は布哇移民轉航禁止、移民制限を餘義なくせられ、僅かに日米條約但書の删除てふ約束を得て自ら慰むるの外なかりき、之れ一地方の問題たりし排日案が國際問題に連結されたる初めにして爾來益々其範圍を擴大して以て今日に及べり、而して滿州に於ける機會均等主義を信ぜる米國は其後ノックス氏の東清鐵道中立提案を以て自國資本家を益する所あらんとせしが日本は又もや露國と提携して共に米國の要請を排拒し去れり、此の如く日本の所謂積極政策は事毎に米國の東洋に對する野心を阻隔するの觀ありしが故に米國の朝野は漸次排日の傾向を帶ぶるに至り、土地問題の發生に乘じて益々其氣勢を高めたるものといふべく、予が排日の原由を以て寧ろ吾政府の誤謬に基くと爲し、排日の根原はポーツマウス條約の失敗に胚胎すと爲すも蓋し此理由に外ならず

▲滿州放棄と日英米共同、日米問題の解決

所謂大陸政策なるものは既に得たる朝鮮を根據として南滿州より大陸に吾國民の勢力を張らんとするものにして二ケ師團增設問題は此政策の實現上自ら唱導せらるゝものなり、即ち朝鮮の安固を圖らんとするには是非共南滿を領有せざる可らずとなすものなりと雖も足一度び滿州に至りて其實狀を知る者より觀れば如斯は戰爭に依りて自己の榮達を圖らんとする武斷派の主張のみ、滿州は古來幾度か多數人民の住居せし所にして天然の富源は既に之等の住民に搾出され、剩す所僅かに血肉なき骨と皮とのみ、加之勞銀の低廉なる到底勞働者の移住に適すべくも非ざれば吾民族の海外發展地として特に不適當なるを免れず、左れば滿州の實狀に通せる後藤男の如き疾に滿州放棄說を持し犬養君が海主陸從主義を持して山本内閣の一部方針と同一の意見を有するは之が爲めなり、若し增師論者の意見の如く朝鮮を防備せんが爲に滿州の領有を要し二ケ師團の增設を必要なりとせば、滿州の領有を全ふせんか爲には五ケ師團若くは十ケ師團の增設の必要を感ずるに至らん、此の如きは到底吾國民の堪へ得る所に非ず、予の所見を以てすれば吾國今後の政策は寧ろ所謂大陸政策を放擲して防備の限度を朝鮮領土の保持に止め、英米兩國の資本家と共同して支那全土の富源を開發し以て獨佛露の經濟的勢力に對抗するに在り、世人は吾國の鐵道敷設其他の利權を獲得せりとて喜べども如何に名目上の利權を得たりとて其利權の實益を全ふする資本を有せずんば不可なり、日英同盟の利益は吾國に取りて稍や過去に屬するの觀あれども支那問題に關し吾國が孤立の地位に在るは決して策の得たるものに非ず、若し吾國が此際從來の積極政策を改めて誠實に支那に於ける機會均等主義を遂行するに至らば米國朝野の排日的傾向は自然に緩和し來り、日米問題の圓滿なる解決によりて日本人が列國民と共に平等の待遇を受くるに至るべきは必しも不可能にあらず

排日の理由を以て人種的將た經濟的問題也と爲す論者は未だ這般の消息を解せざる人にして殊に日米問題を人種問題として取扱ふの不利を覺らざるものといふ可し

●神藤代議士と語る

卓　郎

▲當代得易からざる蠻骨と、該博なる學門識見とを以て日比谷原頭の珍と稱せらるゝ代議士神藤才一氏は此程歐州視察を了へての歸途當地に立寄られ申候、昨夏白髮童顏敬す可く親むべき江原素六翁に會して懷舊談に日の沒するを忘れたりし小生は今又爰に長軀銀髯の老紳士と語るの機會を得、胸中未前の快感を覺へたるとに御座候

▲神藤代議士は神奈川縣高座郡[illegible]原村の人、幼にして文武兩道を山岡鐵舟、高橋泥舟、千葉秀甫等の門に受け其精神的教育に於ては獨眼龍將軍山地元治氏の提撕最も多きに居る、陸軍士官學校卒業後明治十八年兵制研究のため佛國に留學を命ぜられしが吾軍が佛國兵式を改めて獨逸式となすに及び志を轉じて國際法外交等を研究し、在佛十[illegible]年、明治廿八年歸朝後數多の大學に教鞭を執り、同卅三年代議士に選ばれ、目下は立憲同志會の一員として令名嘖々たる人物に有之候

▲氏が歐州外交界の過去現在に就て造詣深き事は其海牙万國議員會代表者として日本を代表したるに徵しても明かなるべく候が氏は又支那問題に留意する事殊に深く第一次革命以來數々南北支那を跋涉して親しく其實狀を究め歸來大に献策する所ありたるやに聞及び申候

▲小生が神藤代議士に就て最も深く敬服したる点は氏が日米問題の眞相を捕捉せんがため苦慮せられたる熱心の程度に有之候、氏は當地滯在中或は華府に珍田大使を訪問し或は當地在留の内外名士と會して該問題の研究に席温かならざるの有樣なりしが氏は出發前一日名もなき小生を捕へて小生か在米十四年間の見聞によりて得たる日米問題の實相並に將來に對する意見を徵せられ候、小生は聊か意外の感をなしたれども拒むに由なく、憚る所なく鄙見を陳じ[illegible]國民の海外發展に努力せられんとを希望し、且つ[illegible]移民及對南洋策に關しては吾爲政家を[illegible]

▲氏は吾選擧區民の[illegible]之が救正策として地方青年會の[illegible]を圖るは目下の急務なる旨氏自ら[illegible]各地青年會の[illegible]られ候、立憲制度の[illegible]ざる前に先づ投票賣付の利益を圖る[illegible]如きは吾國の百姓に有之候

▲現時の吾政治界に於て最も必要なる人物は剛健なる蠻骨を持し、ハイカラなる世界的思想を抱ける人物に候、皇室の歷史的威嚴と全國民心の統一とが如何に新來思想の調節に甚深なる關係を有するかを解し、文閥[illegible]閥、金閥等の跳梁跋扈を制して內外の施設宜きに叶ふ献策を爲さん私[illegible]者は此種の人物を除いて他に無之候、小生は神藤博士獨特の蠻骨と其該博なる智識とが如上の要求に應じて吾國運の進步に資する所あらん事を期待する者に御座候

▲日本倶樂部の應接室に於ける半日の會談は小生をして積年の溜飲を下げたるの感を爲さしめ候、終りに臨むで小生は夫となく小生を介して此老雄に接するの機會を得せしめ以て[illegible]高論卓說を聞くの榮あらしめたる某氏夫妻の[illegible]情に對して深く感謝の意を表し候　以上

●墨國の形勢

▲媾和提案　墨國現政府の温和派は目下の形勢日に／＼官軍に不利なるを覺りしにやウエルタ將軍をして叛[illegible]の主將たるカランザ將軍若くは其指定に依る人物を以て大統領候補者たらしむる條件の下に休戰せしむべしと主張し居れるがカランザ氏は目下の處此提案に難應と公言せりと

▲十日選擧無効と再選擧期　去九日墨國議會は去十月の選擧を以て無効なりとし明年七月第一日曜日更に改選を行ふ事に議決せるが同國憲法は臨時大統領の任期を十一ケ月に限ると規定せるにも拘はらずウエルタは改選[illegible]迄依然現職に留まる事となれり

▲[illegible]　[illegible]

▲タムピコ市の合戰　石油の產地と[illegible]

[illegible]陸司令長官フレツチャー氏は同市海岸に中立地域を[illegible]して在留民保護の任に當り英獨軍艦も同樣の手段によりて各々自國民の保護に努めつゝありと

●中米保護政策　大統領ウヰルソン氏は米國上院が墨國問題の解決と同時に國務卿武雷安氏の提案たるニカラガ共和國保護條約を承認せん事を慫慂し上院外交委員中の有力家としてルート氏に比肩するボーラ氏は右提案を解釋して巴奈馬以南の星條旗を意味すと公言せしより中米諸共和國及南米諸國の[illegible]在外交官は不尠恐怖の念に打たれ居る由なるが米國當路者はニカラガ保護條約は[illegible]時に實行せんとするものにあらずと辯解せり

●ウ大統領と女權黨　過日[illegible]に[illegible]張し[illegible]氏と[illegible]會見の上、婦人選擧權[illegible]得に關し陳述する所ありたる[illegible]員に對し大統領は[illegible]るが如く、曰く予今日の位置は國民全体の意見に從ふて國政を行ふべき[illegible]に在れば、斯る重大の問題に關しては予の同僚と共に[illegible]考の後にあらざれば意見を發表する事を欲せず、されど議會をして委員を設け同問題に就き討究せしむる事は贊成なりと答へたりと

●日米關稅低下交涉　在横濱米國總領事トーマス、サムモンス氏は米國太平洋沿岸の產出物に對する日本輸入關稅の低率に關し目下東京外務省と非公式に交涉中なるが右は巴奈馬運河開通の曉き兩國の貿易に多大の效果を及ぼすべしと[illegible]合衆に[illegible]けるものにて[illegible]にして首尾よく日本の承諾する所となれば太平洋沿岸の產物[illegible]類、加州[illegible]酒、乾果物、ナツ、麥[illegible]、材木等の關稅十率さるれば日本[illegible]として綿織物に對する米國の[illegible]くべしと、而して交涉に關し東京電報は附記し、[illegible]右に[illegible]

[illegible]石油の產地と[illegible]を實行[illegible]米國艦すに平ら[illegible]

●墨使接待役

墨國答禮大使ドラバラ氏は佛國より西比利亞鐵道にて出發し隨員一行は近日桑港出發の由夫々外務當局に通報あり一行入京の日漸く切迫せるにより外務省にては正式に接待役を任命し應接をなさんが爲め目下其人選中なるが兩三日中發表を見るべく同民間有志者及實業家側にても漸く墨國問題に注目せる際故三井物產を始め各方面にて盛大なる歡迎を見るに至るべし

●議會と增師案　政治季節漸く切迫したれど各黨共內部の動搖烈しきため氣勢甚だ揚らず此分ならば今期議會は無事通過すべく增師案の如きも首相と陸相間の問題に過ぎざるべしと觀測さる

●阿部局長暗殺連類者豫審終結　故外務省政務局長阿部守太郎氏暗殺連類者宮本及岩田外二名に對する豫審終結し結局殺人罪、殺人教唆罪並に犯人隱匿罪を以て公判に移さるゝ事となれり

●議會召集の詔書　十一月十三日の官報を以て左の如く議會召集の詔書公布せられたり

朕帝國憲法第七條及第四十一條に依り本年十二月廿四日を以て帝國議會を東京に召集す

●出雲派遣の內情

に關し最近着故國新聞の報ずる所に依れば臆病なる吾當局者が其平生に徵して斯の如き決斷を爲すに至りし理由は英米兩國が墨國擾亂に就き利害相反するの立場に在りて別に英國に對し氣兼ねする必要なかりし事情も與つて大に力ある外、加州土地法の制定以來南北アメリカに在住せる邦人は日本政府の爲す無きを憤慨し殊に在加州日本人等は米國永住の念を絶ち漸次南方に向つて發展の地を求めんと計畫するあり現に在加有力者は一人百弗を出金して墨國の產業狀態を調査せんとする等大ひに墨國の有望なるを知りて同國に移動せんとするの傾あり、此形勢を見て取りたる吾當局者は內は內外邦人を慰安鼓舞して頹勢を支へ外は排日運動を起さんとする各地に對し或る暗示を與へ同時に墨國に向つて好感を表せんとする等の事情より遂に遣艦の決議を爲したる次第なりと

●臺灣獨立陰謀　首領の死刑

▲大北市街の騷擾　▲斬首は僅か六名

去五日大北發電に依れば獨立陰謀にて檢擧されたる支那人二百六十九名に對する審理は臺灣高等法院に於て連日進行中の處今日判決の結果首領六名は市內中央の路傍に於て斬首に處せられ次に有罪者百廿三名は罪狀の輕重に從ひ四年乃至廿五年の重禁錮に處せられ殘りの百四十名は無罪として同時に釋放せられたり

本日判決及處刑執行さるべしとの風說逸早く市民間に傳はりたるため市內各街道は早朝來非常の騷擾を爲し嫌疑拘引者の妻子等が悲鳴を發して無罪の旨を號泣するもあり殊に流說紛々として或は一同無罪なるべしと云ひ或は又悉く死刑に處せらるべしといひ人心恟々如何なる椿事を演出するやも測り難き有樣なりしが頓て審理の結果死刑は六名に過ぎずとの判決發表され間もなく上記首領六名は嚴重なる護衛の下に市內中央の空地迄引き出され兼ねて設けの場所に歩み寄るや順次一名づつ斬首され群集叫鳴の間に忽ち處刑を終れり尚同所の所刑終るや數万の群集大擧して同地監獄を襲ひ收禁中の有罪者を奪ひ出さんとするの形勢ありしため當局にては特に衛戍隊の出動を乞ひ嚴重なる警戒をなしたるため熱狂せる土民等も遂に手を出すべき餘地なかりしと見へ間もなく四散して無事一大事の終結を告ぐるに至れり

●日本滊船の差押　辰馬滊船合資會社所有船千壽丸（五千噸）十月廿日七千噸の積荷にて北米ポートランドに入港中十一月六日米國勞働人夫一人船艙內に墜落負傷せしため被害者は四萬圓の損害賠償を訴へ同時に本船は差押へられたるを以て內山同船長は直ちに三井物產會社へ依賴しポートランド領事へ交涉中なるが同船は去月末橫濱に入港の上眞相を明かにしたる上辰馬商會は後來のため外務省に交涉し何分の處置を取れる筈なりと

●防彈具の發明　東京麻布飯倉町四丁目六番在島本佐一氏（廿二）は數年來防彈具の發明に苦心し來れるが去六月十七日大森射的場にて卅八年式村田銃を用ひ五十米突の距離にて發射せる結果八分の成功を見たるが氏は更に完全なるものを製作せんとて爾來種々苦心する所あり今回ロームスプリングとヘソカラスプリングとを組合せて製造せる縱一尺五寸横一尺三寸の胸當防彈衣重量一貫二百五十目のものを完成したるを以て十二日大森射的場に於て千九百一年製の獨逸モーゼル銃にて實地射擊試驗をなせるに六十米突の距離にて三發發射せるに對して何れも充分の効力を見たりと云ふ

●列車內の馬賊　去月十四日午後八時頃ハルビン發東清鐵道聯合列車が寬城子に近づき線路の急勾配に差掛り徐行する際列車內に八名の馬賊現はれ何れも拳銃又は短刀を以て先づ車掌を傷け次に乘客を脅迫し金品を奪ひ去れり此急報に接したる露國守備兵約百名は附近村落を搜索し且つ十里の地点に野營し嚴重なる警戒を加へしも犯人は遂に捕縛されず賊は掠奪せる荷物を馬車に積み遠方に逃げ去りたりと云ふ

●日本酒輸出激增　今回故國より達したる報告に依れば日本酒の輸出は本年に至り著しく增加し本年十月中旬迄の輸出額は千百五十万圓に達し客年に比し約三倍餘の激增を示せりこれ邦人海外移住增加の結果に外ならずして支那就中關東州の增率最も見るべく次で北米等を重なるものとなす由、內地造石高の消長を見るに本年は約四百五十餘萬石を計上し客年に比し僅々五十萬石の增加を示せるに過ぎずと雖も年々四五十萬石の增加を維持せり然るに內地の需用趨勢は物價の高騰殊に造石稅請求の爲め價格著しく昂進せるを以て勢ひ退嬰の狀あり去れば增石高の增加は主として輸出に對する要求に由れるが如しと

●工業地としての新育　最近新育州勞働局の報告に依れば工業の種別的百六十六種あり工場勞働者の數は男子四十万餘女子二十万餘なり然して最も主要なるは一、衣類製造業にして之に從事する者約二十五万人二、金物類製造に從事する者約十万三、は出版及印刷業にして之に從事する者約七萬五千人なりと

●ルート氏の平和貢献受賞　ノーベルプライズは諾威の富豪故ノーベル氏が世界平和の目的に向つて遺せし基本金の中より年々平和事業に努力せし人に對し毎年授與する事となり居れるが米國上院議員ルート氏は國務卿並陸軍卿在職中玖馬、菲島及日米關係の平和に盡力せし功によりノーベル賞金四萬弗の贈與を受けたりと云ふ

●排日土地法の影響

加州土地法のため松井平六遺產問題の起りし事は世人の既に知る所なるか今又フローリン土地所有者横井秀吉死亡に付新たなる疑問を生ぜり、此横井と云へる人は愛知縣の人にてフローリンに三十五英町の葡萄園を所有し居たるか右は同人一個の所有に非ず其半分は横井新松祖父江梅次郎の兩人等分の權利を有したるものなり、然るに秀吉は本年二月歸國後九月に死亡し、妻女は同人の死後一ケ月に子供を生みたれども日本に生れたる子供故米國の市民たる權利も土地を相續する資格もなく從つて遺產たる土地は加州新土地法に依り當該官吏か賣拂ひ遺產相續人に賣拂代價を引渡す事とならざるを得ざる場合となれり、乍併此土地たるや三十五英町の一枚の地劵證となり居り、區域を付けて分配し居れるに非ず只全土地上に横井秀吉か半分の權利を有し他の二人か各四分の一の權利を有するものなるを以て當該官吏は只其廣さにより半分に分割するならんも凡そ土地なるものは部分によりて良否あり、如何にして右土地を公平に折半す可きか又三十五英町にて事業なるべきも之を折半すれば何等の價値なきものとなり地代にも影響するやも知れず且つ例令右土地の半分を當該官吏か公賣に附し或米人か買取りたりとするも一枚の地劵證故只其半分の權利を得る迄にて土地は分割せず此米人は他の二名の日本人と共同にて土地を支配するものなるや何れにしても法律の精神未だ明かならず依て關係者は其所置に苦み桑港總領事館に伺書を提出したる由なるか兎に角裁判の決定を待つ事となる可く、如斯新問題續出するに從ひ在加同胞は益々困難を感ずるに至らん

●寫眞結婚婦人　在太平洋沿岸の日本人が近年益々發展するに連れ寫眞結婚婦人の渡米する者非常に多く今より七年前に四千百二十人の婦人を有した加州在留同胞社會は夫より三年後に五千三百十人を算し大正一年度には一躍して八千三百六十一人を有する事となり此外シャトルに上陸したる者を加ふれば著しき多數に達する筈にて日本民族の發展上見逃す可らざる新現象なるか末廣博士は寫眞結婚の利弊を說き婦人の虛榮心と求婚男子の不注意を戒めたる後一世知辛き日本と異り米國では身體壯健にし〻眞面目に働きさへせば生活難の如きは樂にしたくもなく一年少くとも數百乃至數千弗の貯を爲すを得べく、妻たる者は夫の家に入るに及んでは喧しき舅姑の在るに非ず、鬼千匹の小姑あるに非ず全く夫婦差向ひの生活を爲すので到底日本に於て見出す事の出來ぬ天與の樂園に幸福な生活をするのである、吾審眞結婚婦人の多數か現狀に滿足し或は野に或は家に在りて夫の手助けを爲しつゝあるは誠に喜ばしきとである、多幸なれ寫眞結婚婦人一と言り、吾人も博士と至極同感なり

▼新年號豫告▲

本紙新年號は諸名家の時事問題に關する論說、談話を掲げる外、同胞間に家庭趣味を喚起する爲め特に在留有志者の

ベービーの寫眞

を掲げべく、故山逸客、聽劍、獨來處等は各其特長を發揮して日米問題社會問題等に關する大氣焔を吐き、ばなゝ、五峯、多郎、嘗天、綠雨等は得意の錦心繡腸を吐露して大に在留邦人の文藝趣味鼓吹に努む可ければ全紙面は例に依て光彩陸離たをものある可し

新年廣告

掲載御希望の方は至急申込まる可し

●出雲艦布哇着　同艦は去六日ホノルルに着港したるか同地在留同胞は盛んなる歡迎を爲せりと

●日本人金山發見　元ロスアンゼル市に在りし和歌山縣人野村久治郎なる人今より八年前アリゾナ州に赴き以來專ら鑛山に働きなから金鑛探驗に身を委ね居りしか遂に二ケ所の金鑛を發見し其筋より發掘權を獲得したる由にて其内の一ケ所カバー、クレーキ附近にて既に五千餘弗を投じ三百餘呎の試掘をなし鑛山技師の正確なる試驗を經たる結果平均一噸につき三十餘弗の含金あるを確め前途有望との評判立ち、より白人投資家の共同經營を希望し來る者多數の由なるか白人との共同は危險の恐れあるより日本人の共同を希望し居る由

●高峰博士歸期　多分今月央ならん

●三浦參事官　十二日巴里より着

●井上陸軍中佐　十一日午後五時當地出發歸朝の途に就けり

●岡部書記官　十一日華府より來市ホテルアスターに投宿

●服部綾雄氏　滯在中なりし同氏は去九日出發南方諸州視察の上歸朝の豫定なるか氏の加奈陀視察談に依れば晩香坡を除くの外加奈陀地方は日本人を歡迎し居れりと

●名譽領事の訃　ボストンなる吾名譽領事ウォルコット氏は去九日死去せり、右に付齋藤副領事は會葬のため同地に赴きたり

●修道會讀書會　本日午後八時河井信三氏の「食料品に含有する細菌に就て」と題する講話ある筈

▲●長廣舌●▼　伯剌西移民二千餘名を乘せて來た帝國丸の事務長前田君の話に依ると▲伯剌西移民は着々成功の見込かある▲現今日本移民の多數在留するサンポーロ郡は氣候か可いので子供の生れるとは夥だしい▲ソシテ移民は至極安穩に生活をして居るとの事だ▲尙帝國丸の航海中に生れた子供か五十人あつたと云ふに至つて驚かざるを得ない▲尤も今度の移民は政府の命令で獨身者を送らぬ事にしたさうである

紐育の日本人（六）

飛耳張目生

家内的勞働の精神上に及ぼす影響

▲家内勞働に從事する日本人青年が其職業より受くる所の精神的感化は如何であるかと研究して見ると、元來家内勞働なるものは手ッ取り早く金が取れる代りに將來の見込としては殆んど絶無といふ可き職業であるから永く此職業に從事して居ると自然將來に對する向上心が薄くなり且つ常に「服從」を强要せらるゝ結果習慣は第二の天性を成して精神が卑屈になる、獨立心の熾烈な米國生れの女や猶太人の女が例令女郎はしてもサーバントにはならぬといふのは此理由に基くのである

▲今は歸國して當地に在らぬ或る男が約廿年許り以前に渡米した男があつた、此青年は渡米當時桑港へ一ト街の青年會止宿者中最も有望な者と思はれ自分自身も一ッ廉の大人物たらんとして東部に來た譯であつたが其後非常に居心地の好い奉公口を得たのが幸か不幸か永らく辛棒すればする程貯金の高が殖へて來るので面白くなり豫ての希望たりし學問は獨學獨習に止め置き、一生懸命金溜めにかゝつた結果十五年後には約四千弗の額に達した

▲早く獨立の人間になりたいとは彼が豫ての希望であつたから相當な貯金が出來たのを幸ひに彼は小規模な洗濯屋を始め商賈の方は自分の色女にやらせて自分は依然家内的勞働に從事して居た、此時僕は彼に向つて片手間商賈の不可能な事や、今少し資本を注ぎ込んで他の同業者と競爭をするに足る丈の設備を爲す事や、又一日も早く足を洗つて熱心に商賈に從事するやうに忠告した譯であつた、然るに彼は僕の忠言に感心して居ながら頓と實行をせぬ、何故せぬかといふに「若し商賈に損をして折角貯めた四千弗の虎の子を無くしたらどうしやう」と云ふ怖れが第一に彼の頭に浮んだのと「商賈といふものは案外利益の薄いもので食つて寢て純益六七十弗を得る職業を棄てるのは惜しい」といふ觀念が第二に彼の頭を支配したからであつた

▲不熱心な片手間商賈が成功する筈はない、其後洗濯屋は失敗に了り彼は幾分の貯金を失ひ色女を置き去りにして歸國して仕舞つた

▲「若し無くしたら」といふ怖れと「純益のある本業を棄てるのは惜しひ」といふ未練心は一体何處から來るかといふに、永年の間主人の命令ゐるに從ひ命令を聞くと許り練習して居た結果如何にすれば他人の要求を滿足に行ふとが出來るかといふ他動的心理作用は發達して居ても、如何にせば他人をして吾希望を容れしむべきかといふ主動的心理作用に於ては著しく缺けて居る、從つて一度び地位を變じて人に命令を發すべき獨立の人間たらんと欲しても常に此「怖れ」に附纏はれて不絶後ろを顧るに至るのである

▲例令一週間三弗か四弗のメッセンヂャーボーイと雖も彼等の前途には未來のロックフエラーたり、カーネギーたる見込があり、又日常有らゆる階級の人に接して實際社會に對する常識を養ふ事が出來るけれども家内勞働者は百年經つてもエスメン應來の家内勞働者たるに過ぎぬ、殊に朝夕接する所の人物は痴癪持の御神さんと外國生れのオサンドンのみであるから實際社會の狀態とは緣が薄くなり一身の將來に對する向上心は不知不識の間に減少する樣になる

▲午併當地方の家内勞働者に取つて一大不幸ともいふべき事は彼等の發奮心を激發せしむべき材料と機會の少なき事である、此程來遊せられた服部綾雄氏の談によると西部地方の同胞中家内勞働に從事する者近來著しく減少したといふ事であるが靜かに考へて見ると其理由を見出す事が甚だ容易である、古谷君であれ、堂本君であれ、牛島君であれ苟にも西部で成功者と云はれる人々は何れも鍋の底叩きから出世した立志傳中の錚々たるもので、之既に青年發奮の好材料であるのみならず農業、商業受負仕事、アラスカ漁業其他種々なる方面で家内勞働以上の給金を得られる仕事がある、然るに當地では鍋の底たゝきから出世した先輩もなく相當な收入ある事業も少ひ所から約二千名の六尺男等はズンベンダラリの無趣味な生活を送つて居るといふ次第柄ぢや

投書籠

記事輻輳の爲め暫時本欄を中止したる結果籠黨諸君よりの不平催促等机上に山を爲す、眞に失禮なれども掲載する餘白なきを以てウエーストバスケットへ沒しにしたり、不惡（籠係）

▲西園寺運は寢て待て大勳位（中田生）

▲「新育の日本人」稿を重ぬるに從ひ實に趣味深く拜見致候が世間には馬鹿な奴もありて丸い卵子を四角に解するとなしとも不限、時には彼等の氣に入るやうな緩和劑を御投藥希望に不堪、尙吾々ケッチン黨に專門家たれとの御注意は千金の價値ありと敬服致候（エスメン生）

▲當地母國訪問團着京當時非常の厚遇を受けたる事は「時事」「萬朝」等に載して拜見しましたが貴新聞は何故に轉載して讀者に紹介しませなんだ、夫れだから馬鹿野郎共の爲に世間の誤解を招くことになるのですハイ（注意生）

▲日本人會創立の事は其後だうなりました（大學生）

▲南京馬鹿票とニューヨークの日本人に就て書く事を知らねば教へてやる、賭購を本業として生活する者の有樣を知らねば之も教へてやる、南京町の女郎屋に馬鹿面らの寫眞を飾られて色男氣取りで居る薄野呂共の名前が知り度いなら之も教へてやる、新聞屋さん新育日本人社會の暗黑面が知りテーなら拙者の所に來給へ（實驗十年男）

▲共濟會墓地に會員外の死亡者埋葬を許すとの役員會の決議は大贊成ぢや、墓地基金に寄附した人々の意見は日本人全体のためになる積りで寄附をしたのである、併し在留同胞全体は此際擧つて入會の義務ありと思ふ（一會員）

新育日本間 郵便發着表

ニューヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
靜岡丸	沙港	十一日
モンゴリヤ	桑港	十五日
丹波丸	沙港	廿一日

●日本より到着

十二月六日	同	十日
同　十三日	同	廿日

紐育新報

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave. N. Y. City.
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N.Y. Post Office as second class matter under act of March 3rd 1879

購讀料定價（前金郵税共）一部金五仙　六ヶ月分一弗　一ヶ年分金二弗
千九百十一年六月廿四日郵政院認可
發行兼編輯人　甲斐健一
發行所　紐育新報社
紐育市第六街二三八
電話チェルシイ六四七三

妻揚子式外交

「事外交の秘密に屬するが故に答辯の限りに非ず」といふは我外務當局が議員の質問に答ふる常套語にして「盲目滅法の外交論聞くに足らず」とは之亦彼等が民間志士の策論をを嘲ける言葉なり、然り吾人は一部煽動政客の使嗾に雷同して徒らに外交當局者を窮地に陷入れんとする所謂高等遊民の散漫なる外交論が確かに如上の嘲罵に適應す可きを信じ殊に外交の形式、慣例と、列强諸國の機微に通曉する点に於て我當局者に百日の長ある可きを疑はざるものなり乍併過去に徵し現在に鑑み、此多智多才なる諸公の外交的手腕と事實に現はれたる結果とは往々吾人門外漢をして諸公平生の言動に疑を抱かしめ就中硬軟寛嚴の手心、時に藪井竹庵の投藥振りに類するものあるは吾人の竊る遺憾とする所たらずんばあらず。

強き米國に對して「メキシコにも移民は送りませぬ」と紳士的お人好しの約束を爲し墨國答禮使の待遇にさへ華府政府の眼玉に氣兼ねしたる程の賢明なる我外務當局者は米國より歸朝する弱き觀光團に對して此程突然峻嚴なる取締規則を設け一時歸朝者の再渡航をして愈々困難ならしむるの擧に出でたり、試みに其取締規定の條項を見るに、上陸後直ちに解散して觀光團の實なきものありと言ひ、或は團長は信用ある人物たるを要すといふが如き神經過敏を以て名高き諸公としては先づ可なりをするも一二團體の行動を標準として之を其餘に及ぼし、一旦默諾したる特待主義を廢して新たに冷酷なる取締規定を設くるが如きは偶以て吾當局者の外尊内卑主義を遺憾なく發揮し、在外邦人をして母國政府の共に爲すあるに足らざるを感知せしむるものにして吾人其何の故たるかを解するに苦しむ者なり、吾人が平生解釋し居る吾政府の對米態度なるものを言はしむれば、我當局者は名實共に所謂紳士的約束を守り従順に何異れとなく米國の氣嫌に逆はざらん事を努むると共に吾在米同胞が將來に於て益々發展し行かん事を衷心より希望し居るものにして現在米國に在りて幾多の事業、職業に從事し居る同胞を呼返し或は一時歸朝者の利益を犧牲として迄も所謂圓滿外交、賢明政策の實現に腐心す可しとは解釋せざりし所なり、若し我當局者にして眞個に邦人の海外發展を欲せば北米たると南米たると濠洲たるとを問はず苟にも外國と名の付く所には可成多數の日本民族ありて熾んに繁殖增加するの方針を採り、渡航、再渡航の手續き證明の如き區々たる鎖末事に無益なる妻揚子式賢明外交を應用せず、須く「大和民族の海外澎漲」てふ大方針に從つて臨機適應の不得要領なる手加減を爲すに在り、親善、理窟、一應尤もにして排日の勢威甚だ猛烈を極め、ルーズベルトの智、ウィルソンの賢、共に日本政府の抗議を排斥し去るの力ありと雖、自然の大威力に命せられて年々現れ來る在加日本人兒童二千名を如何ともする能はざるに非ずや、例令一人や二人の觀光團員を引留めたりとて、將た徵兵猶豫願の違反者を罰したりとて大局より見たる國政の運行上何等の影響を與ふるものに非ざるなり、要之我外交當局者の長所は其れ人好しなる点に在りて短所も亦爰に存す十九世紀中葉の權變外交は以て今日の範と爲すに足らざる可けんも、而かも境を隔てゝ國を成す者、交錯折衝の間、豈多少の駈引なからんや、敢て當路者の考慮を促す。

●某名士の意見に就て

卓郎

▲前號所載「某名士の日米問題解決意見」に對し駁論を物すべく約束致し置候處小生の排日理由意見は豫々繰り返して公表致候次第にて今更ら冗々敷申述ぶる必要も無之且所謂啓發運動說の盛んなる時節柄兎角の議論る誠むるも聊か時機に不適と愚考致候儘、右某名士の意見に關する一二の所感を申述て責を塞ざ候

▲某氏の意見は御覽の如く寧ろ「政策上より見たる日米問題」と稱する方適當なりと申す可く、云はば日米問題の側面觀に有之候、結論に於て「大陸政策を放棄すれば米國の排日觀念は漸次に冷却する」かの如くに言はるゝも、現在に於ける米國の排日思想は斯かる樂觀的解決案に依りて一掃するには其根底餘りに深く、隨つて尚幾多の方面より考究するの餘地を存し居候

▲小生は元來日本民族の澎漲と申す事を主義と致居る者にて、退き守るといふよりも寧ろ、進むで取る事を次ぶ者なれば某士の滿州放棄論にも無論大々的不賛成に有之候、尤も進むで取るとは申せ明月を捉へて吾庭園の眺めたらしめんとするには非ず只下さる物は夏も小袖と思ふて避寒の用意を爲す事か我民族の澎漲上至重至大の要件と存候

▲滿州は名目上支那の領土に相違無之候が其實際の主權者は日露兩國に候、即ち兩國が數十萬の人命を屠り數十億の國帑を費して戰爭したる代償として得たる所のものにて平たく申せば露助とジャップの兩人が大喧嘩をしたるも互に一方を撚ぢ伏せる丈の力なかりしより、隣家のチャブスイ屋より豚肉を奪ひ來りて之を分配したるに止まり支那に對しては氣の毒なれども歐米諸國より習ひ覺へし强者の權利の競爭上勢ほひ不得止結果を來し候

▲抑も日本が國命を賭する程の覺悟を以て露國と干戈を交へし所以は單に千島交換乃至遼東還附の復讐を意味したるのみには非ず、實は彼の不凍港獲得てふ大目的に對し、我は其南下を抑止して以て吾民族澎漲の礎を築かんとしたるに外ならず候、問はれもせぬに吾は東洋平和の爲に戰ひたりなどゝ辯疏ヶ間敷事を申したりとて例の列强君等は之を反問する程野暮には無之候

▲某士の言はれし如く吾國が列國に對し滿州を含める支那全土の機會均等を約したるは一大失敗に有之候ひき乍併國際間の道德は現に排日問題にても御覽の通り餘り發達した方には無之事故例令一旦約束をしたからとて一々遵奉する義務はあらず、理屈に敗けても實際上の利を得る事が肝要に候、況んや一兵に衂らず、一仙をも費さゝる者に均等の機會を與ふるなど云ふ頓馬な話が何處の世界に有之候哉、

▲小生は軍事通にも經濟通にもあらぬ事故滿州の價値に就て某士の所論を駁するの資格を不有候が而から滿州は古來多數民族が利用し盡したる殘骸なれば之を領有するも何等の益あらず」との意見は之亦一種の側面觀として見るを可なりとするも之を支那の現状、列强の勢力均衡に鑑み、露國年來の宿望と歐亞連絡の鐵路に徵し、更に之を吾大和民族の澎漲に顧みて某士の滿州放棄論に異議を挿む者は獨り門外漢たる小生のみには有之間敷候、尙此件に就ては申述度事多々有之候へ共本號には餘白無之、乍遺憾一陽來福の期を待つて意見を陳ずべく候　以上

◎第二回洋聲會俳句互選會開催

はしがき

「忙中の閑」語は古しと雖も、常に新らしき意味を有す。一夕の閑集、以て激務に興奮せる頭腦に、一滴の鎮靜劑を灌ぐも亦可ならずや。即興の情味、萬象の詩趣を、俳諧に委ねこあり雅懷悠々、忘年の意を恣にせんとす同好の士は盛んに、投句、來會せられん事を望むや切なり。

東河の潤月さえて
長橋の影凍る宵

同人記す

一、會場　日本人青年會館
一、期日　十二月廿六日土曜日午後七時
一、會費　廿五仙　茶菓及賞品代
一、兼題　冬雲　クリスマス　水仙花　外套　鯨　自働車（冬の季を讀み込む事）

右一題に付き一人五句限り、句稿は來會の有無に不拘本月廿四日迄に左の番地に向け送附せられたし

東五十七丁目四六五
洋聲會

●排日案米國議會に現る

十三日華府電報

亞細亞人排斥案は女權黨並煽動的外人排斥法と共に今期議會に提出さるべく移民部委員は既に右三排斥法を承認し不日議會の提案たるべき筈なるが今回の排斥法には前大統領タフト氏が否認したるバーネット排斥案の條項「自國の國語を書き又は語り能はざる者は入國を拒絕す」とあるを含み且つ排日を主眼としたる條文には

法律上米國の市民たる資格なき者は旅行免狀に關する契約（アグリーメント）若くは將來設定せらる可き契約、協商、條約等に依りて定められたる者の外入國を禁す

とあり加州選出の委員等は猶條文中特に「日本人支那人及其他の亞細亞人」なる文字を明確に記入せん事を極力主張したるも過半數にて否決され、其後に至り全委員等は「日本人及印度人」と記す可く決したるも結局上記日本ノ云々の文字を取消す事に定めたり、尙此排斥法は現存の支那人排斥法と施行上何等の關係なしと

記者曰く米國の議會は一ツの事日米國交斷絕案を出すが可いだらう

●奇怪なる露國の撤兵提議

北京在露國公使は露國外交團に向ひ、突然奇怪なる提議を爲せり、即ち露國は北部は既に安靜に歸し外人の生命財産に危險の憂なきを以て直隸に在る[illegible]列國軍隊及海軍を撤退せしむべく、若此提議列國代表者の拒絕する所とならば露國は單獨にても之を決行すべしと云ふに在りて北京の外交界は此突飛なる提議に接して頗る打ち驚ける模樣なるが、南北を不問支那全國は目下不安動搖の渦中に在る際露國が斯の如き突飛の態度に出づるは甚だ怪む可く、或は露國の蒙古に於ける活動を喜ばざる支那人の感情を和らげん爲めなるやも知れずと評する者あり、因に直隸省內駐在の列國陸軍兵數は日本七百六十七、露千四十六、英三千七百五十五、佛千四百二、獨四百五十九、墺八十七、伊二百卅一、白卅一、蘭廿五なり

●支那强賊の跋扈　同國に於ける盜賊の橫行は今更ら耳新らしく記する程の事にもあらねど去十三日の北京發電に依れば湖北省を根據とせる白狼會を初とし蒙古、滿州福建地方の强賊は近來特に橫暴を逞うするに至り今や捨て置く可らざる狀態なるも交通の不便と、過去二年間の戰亂とは彼等の爲に偶然の好機會を與へ北京政府は目下其所置に苦しみ居れり

●英國甲鐵艦タイガー別名秘密艦の進水　グラスゴーにて建造中なりし同艦は去十五日進水式を行ひたり、同艦は一般に「ミステリーシップ」と稱せられ其構造の如何に就きては英國海軍省は嚴重なる監督を用ゐて其秘密を保ち居れるが聞く所に依ればタイガー號の機關は製艦上嘗て試られたる事なき十万馬力を有し武裝は十三吋半砲八門、六吋砲十二門を有せりと

●東京の地震　去十五日東京より橫濱へかけ近年稀なる强烈の地震あり家屋に多少の損害を與へ人民は一時恐怖の念に打たれたる旨同日發電は報せり

●巡洋艦榛名の進水式　戰艦金剛の姉妹艦榛名の進水式は十二月十四日神戸に於て擧行せられたるが同艦は名は巡洋艦なるも其實力は戰鬪艦に匹敵するものなり即ち長さ七百四呎幅九十二呎、七千馬力、二萬七千五百噸の巨艦にして主砲は十四吋八門速力廿八海哩なりと

●排日案と故國

別項所載排日移民法案に關し故國人民は早くも一般に反抗の氣勢を示すに至り政府は國論の沸騰を憂慮しつゝあり若し該法案に差別的條項を含むが如き事あらば當局者は米國政府に對し非公式的に異議を申込むべく準備中なるが桑港參加につき實業家の反對を融和せば別段如上の手段に出づるの要なからんと倫敦電報は報せり

●御眞影六万枚　今上陛下の眞影を愈全國の學校及勅任官親任官各官廳等に御下賜相成るべき事に定まりたるに就ては去月十五日皇室令第九號を以て御制定相成りたる天皇服を御着用の上新たに御採影遊ばさるゝ御都合なるが渡邊宮相は此の尊き御眞影を民間に於て調製せしむる事の如何にも畏れ多ければ宮中に採影場を設くる事に致したしとの存念より其旨言上に及びし所今回御聽許あらせられ宮內省調度寮囑託として去月十五日任命の黒田清輝小川一眞丸木利陽の三帝室技藝員をして御眞影場設計の事を命じたり、設計は中々の大規模にて便殿化莊室等も取設けらるゝ筈なるが御眞影御下賜の數は頗る多く六万枚を要する事とて印畫は凡て不變色カーボンを以て謹製の事に決したる由此カーボン印畫は優秀なる技術を要する代りに出來榮へいと見事にて御尊嚴を傷くるやうの事は決して之なく小川丸木の兩氏は主として技術の方面を擔當し黒田氏は御姿勢御位置等の事を御擔任申し上ぐる事に內定したりと申す

●憲政擁護會委員會　憲政擁護會にては去月廿五日京橋區交詢社に於て常任委員會を開き犬養尾崎兩氏を始め菊池、本多、青地、前川、古島の各委員出席今後の活動方法につき協議せしが將來將來益々憲政擁護のため活動するは勿論更に政治上の大問題に就き研究調査の上大に活動すべく會の維持方法は從來篤志者の寄附によりしも今後は會員各自に於て會費を支出する事とし又從來事務所は政友俱樂部と共同なりしも發展上狹隘を感ずるにより別に適當の事務所を選定の上移轉する事に決せりと

●桑博出品問題　政府は桑博贊同を取消さゞる事に決し其旨中野東京商業會議所會頭に內示したれば中野氏は從來不贊同側に立ち居りたるも既に政府が出品勸誘の方針を取る事に決定したる以上之に對する出品者側の意向を一定し置くの必要ありとし近日重なる商工業者を外會議所に召集協議する由

●試驗制度改正運動　私立大學出身者に依りて組織せらるゝ試驗制度改正同志會は其意見を貫徹せんが為め土屋幹事外八同文部省に出頭し左の數ケ條に就て委細陳述せり

一、帝大法科の特權を廢止する事
一、文官及司法官試驗の受驗者資格試驗を撤廢する事
一、同上豫備試驗を廢止する事
一、判撿事試驗は之を資格認定試驗となす事
一、文官及司法官試驗の筆記試驗の効力保留する事

●露國の飛躍　露支協約は既に調印を了したるも露國は尙之に甘んせず過般來支那政府に對し黒龍江鐵道及濟てふ鐵道の布設權を要求し着々進行し今や黒龍江鐵道は協約略成立せるやに聞けるが今兩鐵道の主要點を列擧すれば黒龍鐵道の起點はハルピン以西青山より呼蘭綏海倫の地を經て西北に出で墨爾根に至り再び東北に向つて愛渾に至り夫れより黒龍江岸に沿ふてブラゴエシチエンスク對岸の大黒河に至るものにして其全距離は約三百五十哩なり黒りう江沿岸は元荒凉の地なりしが現今は一變して豐沃の地となり將來開墾すべき良田は實に一千萬畝以上にして且つ本鐵道はブラゴエシチエンスクの要塞とハルピンとを連絡し一旦事あれば軍事上に偉大なる効力を有す可し又濟てう鐵道はチヽハルより東蒙古の北部を横斷して蒙古のてう南府に至るものにして此鐵道により東蒙古と浦塩とを連絡せしめ極東政策に多大の影響を為すべし右露國の鐵道要求に關しては我外務省は全然事實なしと云ひ居るも參謀本部へは關東都督府より報告ありしものゝ如し

●恩赦の成績　明年の即位大禮に際し恩赦令を執行せらるゝ由なるが昨年御大喪の際に行はせられたる成績に就き聞く所によれば昨年は恩典に浴すべき罪人に關し綿密なる調査を行ひたるのみならず出獄後と雖も糊口に窮せざるやう充分の保護を加へ且つ其の行動にも注意を加へたる結果概して再犯者少なく其成績極めて良好なり現に大坂監獄にては堀川及堺の兩分監を加へ約四千名の在獄者中恩赦に浴したるもの大赦四人特赦二百人減刑四百九十九人計七百三人なりしが其後一ケ年を經過せる今日大赦の者には一名の再犯者なく其他特赦減刑の恩典に浴して出獄せる者にして再び刑罰に觸れしものは僅か十二三に過ぎず又被減刑者にして直ちに出獄する能はず其後も引續き在獄せる者も行狀著しく善良にして更に假出獄の恩典に浴せし者少からずと云ふ

●英文日本案內記配附　鐵道院に本部を設置せるジャパン、ツーリスト、ビューローは設立以來大連、京城、[illegible]神戶横濱長崎に案內所を設け[illegible]國旅客の觀光に便宜を與へつゝあるが本年一月より十月迄に神戶[illegible]同所の取扱ひたる人員は約九百名を算し[illegible]十月中に神戶横濱長崎の各案內所に立寄り觀光上に打合せを為したる外人約四百名に上り觀光外客にして同案內所を利用する者漸次多きを加ふるを以て此際其事業の內容を內外に周知せしむると共に歐米各國に對し日本の事情並に案內記を配附して觀光客を吸集し大に事業の發展を圖らんとて先づ英文日本案內記を印刷して廣く歐米各國の要所に配附する由

●公債所有者注意　償還期の經過したる國債に對しては例令所有者に於て之が償還を受けざりしとするも政府は最早之に對し利子拂を為さゞるは勿論が唯抽籤償還を受けたる國債の場合にありては一々番號を調査せざる以上或國債が果して償還期を經過したるものなるや否やを判別する事能はず尤も日本銀行及代理店に於ては利拂びの折に一々當該國債の番號を調査し遺漏なきを期する筈なるも何分事務多端の折柄とて時には番號の調査を為さずして提供されたる利札面の金額を支拂ふ事も亦少からず此結果として迂なる國債所有者は自己所有の國債が己に償還期の經過し去りたるを知らずして依然利子の支拂を受け其儘五年十年の長時日を經過する事は往々實見する現狀なり而して此場合に於て斯る不當なる利子の支拂を受けたる者は如何なる結果を來たすやといふに國債所有者側に於て或は銀行側に於てするに論なく當該國債が償還期を經過せし事を發見する時は償還期以後に支拂ひたる利子を國債元本より除去し其殘餘のみを償還する事となるべく即ち國債所有者は償還期以後より償還期經過を發見する迄所有國債の金額丈を無利子にて放置し去りたると同一の結果となるべく且つ國債元本の時効は十ケ年なるを以て遷延久しきに渡れば元本の償還請求權を失ふの危險あり然も際際の例を見れば此種の迂なる所有者甚だ多く日銀大坂支店に於て實見せし其最も極端なる例は明治卅五年度に於て償還期に入りたる國債を昨年度十二月末の利拂期に於て漸く其償還期に入りたるを發見し既往十ヶ年間の利子を除去され為に所有者は非常なる不慮の大損失に陷り込みたる如き事あれば時節柄國債所有者は注意を要すべしと日銀當者は語れり

●英獨の桑博參加拒絕　英國政府に於て久しく熟考中なりし桑博參加の件は去十八日內閣會議に於て愈不同意と決し獨國政府も亦英國と同樣不參加に決したり、尙佛國政府の意向は未だ明確ならざるも多分英獨兩國と同一の步調を採る可き模樣なり

●ニューヨーク母國訪問團消息　林富平氏の觀光日誌は載せて第四面にあり、同一行は來一月十四日橫濱出帆の橫濱丸に乘じ歸米する旨通知ありたれば多分二月初旬には當地に歸着するならん尙同團在京中マンハッタン俱樂部の歡迎會が中止されたるなどいふ報道は何者か爲にする所あらんとしたる虛構の說にて中村嘉壽安樂榮治君等と共に同俱樂部にて盛んに談笑痛飲したる事右日誌の記す所の如し

▲社告

千九百十三年のニューヨーク新報は本號を以て終りとし、廿七日發行の分を年末に發行して新年號とす、年賀廣告其他大至急御申込を請ふ

チト早蒔きながらメーリークリスマス、エンド、ハッピー、ニューイヤー

新讀者諸君之万福

●クリスマス市況　メーリークリスマスも爰四五日の間に迫りし今日此頃大小の店舖、一年中頭を捻つた意匠華麗善美を極めクルシミマスの記者等さへウインドーを覘けば泌み々々親不孝の罰當りを觀じながら欲しいナーの歎聲を洩す見事さ、チリン〳〵の白髮サンタ、寒むさうに町角に立つを見れば諸行無情の婆婆世界にも滿更ら鬼許りは居らぬ哩と感心して一仙銅貨を投げ込む老女の姿床しく、テデベヤをねだるアップルチークの子供更に一層愛らしい、ブロードウェー、第五街、第六街、第三街人の海、人の波、愛と云ふ神樣の御敎へに老を忘れて惜氣もなくポッケットを空にする老若男女の爲に御利益を蒙る日本人の店は近藤　香西　北川　今井　三木　山口雜貨店　山中　福島美術店、武部植木店等にて何でもシコタマ儲けた上に未だ儲ける筈なり

●徵兵猶豫願注意

▲來年の適齡者　は明治廿六年十二月二日より同廿七年十二月二日迄の間に出生したるものにして此期間に出生したる者は洩れなく猶豫願を差出す可きものとす

▲猶豫願書式　は別段の規定なきも左記の事項は必ず願書の中に明記するを要するものにして若し此中一事項にても欠點ある時は突き戾さるゝものと知るべし

一　本籍地氏名及生年月日
二　在留地
三　大正何年の徵兵を猶豫せられたき意を明記し置く事
四　日附氏名捺印
五　本籍地の聯隊區（警備隊區）徵兵官宛とする事

▲國民兵役の件　此件に關する兵筋の本文に「外國に在留の故を以て徵集猶豫中の者にして引續き外國に在留する時は大正三年中に於て國民兵役に服せしむべきものは明治十五年一月一日より同十五年十二月卅一日迄の間に生れたるものとす但し大正三年に猶豫願を差出すべき者は大正三年四月以後に滿卅二歲に達する者即ち明治十五年四月十六日以後出生の者とす」とあり來年度の國民兵役に服す可き者は明治十五年一月一日より同年十二月卅一日迄の間に生れたるものなるも徵兵檢查期日の四月十五日迄即ち明治十五年四月十五日迄の間に生れたるものは丁度滿卅二歲に達する者なれば猶豫願を差出す事にも及ばざれども若し同じ明治十五年生れにしても四月十六日以後に生れたる者は大正三年度の徵兵猶豫願を差し出し置かざるべからざる事となり居れり、此點は特に在留同胞中にて徵兵に關係ある人は注意し置く可き要點なりとす

●同胞獄中に縊死す　オメーン西卅五歲なる日本人は兇器携帶罪により警察の獄舍に拘留中去十八日ハンカチーフ及ネクタイを引裂きて作りたる繩にて縊死を遂げたり、同人は嘗て當地ミールスホテルに働きし事ありと語りし由

●修道會の基督降誕祭　來廿五日午后八時より開催の筈なり

●青年會總會　去十四日夜開催、寄宿舍委員任命、夜學校の件、役員改選、開館式等の諸件を協議したるが幹事は增澤丈兒氏、會計は野村幸喜氏、會計監督に香西氏當選し評議員に吉田正夫氏外九名を選擧せり、夜學校は多分一月初旬に開始す可しと

●各料亭の忘年會　料亭朝日の顧客たる所謂朝日黨の有志者三十名は來廿八日同亭にて破天荒の忘年會をやる筈にて發起人は獨來處外數名、此他若松　河添　開盛亭　岡野　東京館　千歲　大和　都等夫々一年中の罪業を忘れる由

●三井物產小樽支店副支配人岩本松三氏　は十三日來着十六日渡歐せり材木事業視察のため約一年半滯歐の筈

●村井保固氏　は一月三日出發同八日桑港發船にて歸朝と決せり

●高峯博士歸市　隨員西田健三郞氏と共に今朝西部より歸着、上中啓三郞氏は明後日頃歸宅の筈

●松岡二等書記官　新任の同氏は十九日華府に到着せり

●若松製鐵所技師高良、長田　の兩技師は目下地方視察中なり

●田川淸水兩代議士　田川氏は十九日桑港出發沿岸北部視察の途に就き淸水氏は十六日發の天洋丸にて歸朝せり

▲●長廣舌●▼　又排日案が米國議會に現はれた▲霞ヶ關の連中は桑博參加に實業家が贊成すれば抗議を申込まんでもヨカンベーなどゝ呑氣な事を言てる▲知らねば敎へてやるが米國人は御氣嫌を取れば取る程增長する國民で博覽會に百万遍出品した所がソンナ事は排日案に向つて蚊の臑程の利目も無いんだ▲某名士は寧ろ此際凡ての日米條約を破棄した方が得策かも知れぬと言つたが乃公も之には大贊成だや▲何も條約を破棄した所で戰爭をオッ始めるといふ意味じやない、是迄の面倒臭いアグリーメントなどをばサラリと破棄して一分合切新規蒔き直しと出掛けるのじや▲愚にもつかぬ押問答を續ける位なら一つその事條約を破棄した上で改正新條約に關する押問答を續けた方が遙かに体裁が可いじやないか▲牧野君も珍田君もアイスを十ツ百貫目程頭に載つけて一番考へて見るサ

◎費府同胞の團体組織說　森田生　當費府の日本人間に一の團体を組織して共通の利益を圖らんとの計畫ありと慶賀すべき事なり、乍併費府同胞現今の有樣にては折角の希望も徒勞に屬するなきやを疑ふ、臆面なく云へば費府在住の日本人は高尙なる品性は一種の財寶なる事を解せず事々物々眞面目なる態度を欠ぐの傾なきか、團体可なり、會合可なり、要は先づ各自の精神の修養を積み然る後公事を談ず可し

觀光日團誌

在東京　林　生

航海日誌は抜きにして横濱上陸からの紀行を略述しやう、僕等の一行は去廿四日の朝、雲煙模糊の間から婉然とした白峯の芙蓉に迎へられ無事上陸、同地の大勢屋旅館に御輿を据へた吾々は久し振りに故國の人となつたのであるから翌日の午後二時迄自由行動を取つた後東京に向つて出發した。

團員の多數は十年以上も故國の實情に遠かつて居るのであるから見るもの聞くもの一として物珍らしく感せぬものはない、どんよりとした中秋の日は鈍く稲穂が熟して黄金色に染つた田野に垂れ、其間に佇立する白堊の家は遠來の客を迎へ顔なるも嬉しく、徐ろに遊意を唆そる＝瀛車が神奈川を過ぎて大森に入らんとする途に鐵道工事に從事する數多の工夫があつた、火に燒けて澁紙色に染つた眞裸体を大道に晒らして得意げに就働せるを見た吾々は恥辱の念が湧き起り居耐らぬ相に迫ると同時に野蠻國風と云ふ觀念を直覺的に感じた

東京に着くと直ぐ一行は日郵會社の招待にかゝる明治座の新派劇を見物した、帝都の一流劇場だもの苟くもニューヨークのキースかプロクター位の格なるべしとの想像のもとに出掛けたのだが、先づ靴を脱がせらるゝ土間にアグラ脚をばかゝせらるゝと云ふ風に依然たる日本式なのには一同落膽りして、中には折角同會社の好意を無にして御免を蒙りたいなど〻駄々を捏ねる連中があつたが日郵會社の方では小數ながら新育と云ふ大看板を背負つとる團体であるから出來る丈歡待せよとの內命が接待員に下つて居たのであるから茶菓に次ぎ煙草、折詰、正宗壜等が一通り配つた後餘はビルフェヤーの項目を御命令して載きたいとの丁寧なる挨拶には吾々も恐縮する所だが米國仕込の團員が何で遠慮があらう、給仕は忽ち雜多のオーダーに眼玉を引くり返すの大多忙、團体觀席の間は酒池肉林と云ふは少々大袈裟すぎるがとにかく宛たる小宴會を演出した、僿ふなつて來ると流石の洋行駄々ッ兒も何時の間にやら不平を抹み消され「日本の觀劇には又日本固有の趣がある哩」とは可笑しがつた。次の日旅程を變更して日光を見物する事となつた、日光は海拔何千尺と云ふ高地に位しとる場所で嶮岨の路を開拓して鐵道を布設したのであるから一時間平均五哩と云ふ世界一の大スロー列車で十幾哩の遠隔から頭上に社祠を仰見しながら尙數時間を驅る之れも同所の一名物たるを失はぬ、同山を距る約三哩の地点から亭々たる老杉路の兩側を掩ひ晝尙ほ暗きの感がある、維新前迄は各藩の參拜する時御道と稱へられた有名な街道であるが、紫痴臭ひ文明の利器と云ふ瀛車のために全趣を破壞され今は只寂しい名殘りを留めて居るのみである。日光の山下で車を下りると直ぐ一時間三十錢取りの案內者が來る、先づ事務所に連れ込んで一人分八十錢の拜觀料を徵收し次に賽錢、お札、お守護、お水、お掛繪と云ふ風に三錢五錢を參詣者から搾る、米國のペニーだと云ふ氣で投げて行くが三十幾所の社祠だから何時の間にか銅貨が去つて銀貨が行きお終には五圓札が飛び出すなんて、案內者はズー々々辯ながら本山の爲めには缺ぐべからざる忠勤者であると褒めて置く、聞く政府は本山のため年々數万圓の維持費を支出して居たのだが先年財政整理の結果殆んど全廢となつたから、神子連は忽ち衣食問題に追求されるので神詫には戻るが應急策として德川家の故智に倣ひ人民の間に發展しとるのであるとか。

日光に一泊して歸京つてみたらニューヨークに緣故のある人々に依つて組織されとるマンハツタン倶樂部員諸氏から歡迎の印として粗餐を差上るから富士見樓迄御來臨ありたしと云ふ文意の叮嚀なる案內狀が團体にあてゝあつたが、先約があつた爲め殘念乍ら一日を延期し會場を日本橋區のマッハッタン倶樂部に變更してもらう事となつた。當夜の會合者の中には新育に緣故深き安樂、中村、竹井、遠藤、山本、生稻、糸永の諸氏を初めとし廿餘名、當番幹事遠藤君は同倶樂部の起源から現時の狀態を述べられた後同倶樂部の計畫中なる三個の新事業を紹介された、其一は倶樂部員を株主とするレストラント（漸次發展してホテルとなすの目的）株式會社を起す事、其二は海外に汎く會員を募集し彼等との疎通を圖り相互的利益に向つて提供する事而して多年內地の實情に遠かる彼等にして歸朝しストレンヂャーの場所に於て事業を起し又は求職せんとする際には倶樂部は極力其人の爲めに便宜を圖る事、第三は多年無趣味乾燥の生活を送りつゝある海外の會員にして求婚せんとする場合には倶樂部は兩者の身元保證人となり夫婦間に最も忌むべき相互の誤解を招くの弊を除き所謂理想のホームを造らしむるの媒介者たらんとするものなりとて現に倶樂部にウエートレスとして就職しとる二名の候補者を紹介された、中々の美人である學力も中等教育を受けて居られるさうだから希望者は幹事の遠藤君まで申込んだらだうか それから主客打交りて懷舊談に耽りモー十分で電車が通行せぬやうになると注意されたので殘念ながら歡を殺いで散會したのである。

投書籠

▲家內勞働が何故に惡いか、精神上に影響するなど詰らぬ事を云ふけれど、僕等の頭は金儲けを知らぬやうな新聞屋などの腐れ頭とは種類が違ふ哩い、他人の惡口を並べて憎まれるよりも皿を洗ふ途でも習つて飯を食へ（キッチン黨）▲新育ブルックリンの料理屋、下宿屋を勘定すると都合十七軒之に下宿屋類似の体裁を合はすれば二十三四軒以上もあるだらう、年々殖へる下宿屋料理屋の數とレーヂー禿藥鑵白髮頭デムヘルの數とどちらが多いか（アイノー生）

新育日本間 郵便發着表

ニューヨーク本局締切午後六時半

船名	經由地	發送日
ペルシャ	桑港	廿五日
アヂャ	晩香波	廿六日
香港丸	桑港	三十日
春洋丸	桑港	一月三日
安藝丸	沙港	七日

●日本より到着日

十二月廿四日	同　廿七日
同　卅一日	一月　四日
一月　六日	



迎新之辭

大正春三年、遙かに故國の天を想望すれば諒闇の雲翳漸くにして散じ、闔國鼓腹擊壤、瑞氣九重をこめて彩旗戶々に翻る。吾人日夕筆硯に親む者歲甫に臨みて豈一言なきを得んや、然れども聖代を謳歌するに狎れて妄りに陳套の諛辭を列ぬることと俗僧の經を誦するに似たるは吾人の志にあらず、唯赤裸々の所感を披瀝して聊か世を警め民を誨ゆるに資せんとす。

史を按ずるに花開きては葉落ち。雲行きては水流るゝ事茲に幾千年、人事徒らに怱忙を極むと雖何れの時代に於てか韓愈の所謂衣食に奔走する者を以て充溢せられざる。過去に於ける人間の記錄が波瀾萬疊、稍もすれば革命と戰爭とに依りて其貴重なる部分を占むるを視んとするは、要するに强者と弱者との衝突爭鬪に關する各種の問題を解決するの手段を表示したるに外ならず、而も少數の强者が由來生存に適するの先天的素質と地位とを利用して功みに運命の寵兒となるに反し、多數の弱者は險惡なる時代の風濤に飜弄せられつゝ食衣に奔走し、慘として自ら甦るゝを通則とするものゝ如し。

遮莫尊卑と云ひ將た貧富是非と云ふも是れ恒久不變の「デフヰニション」に缺けたる比較の尺度を說明するに過ぎず、故に「力」の分量に裕なる者は自己の强を以て克く尊きを致し、克く賢と稱し、或は富を作り或は是に居らんとするの餘、弱者を見ては其卑きを指摘し、愚なるを嗤笑し、其貧しきを賤むと共に遂には以て弱者の主張を非也とするに至る。然れ共强者にして大悟一番、「力」の妄用を愼み弱者のために計るは即ち自己の强を保つ所以なるを理會せば社會の調和に寄與し、文明の向上に貢獻し隨て人類双互の福祉を助長するを得るに庶幾からん乎。

試みに視よ彼の政治家の擁する所は權力に非ずや、而も其權力を行使するに濫なれば一大蹉跌を施政の上に被るを免れず。實業家の賴む所は金力也、而も其金力を「アビユス」すれば必ずや時代の反抗を招く可し。學者の誇とする所は學力也、而も其學力を惡用すれば曲學阿世の謗を受く。操觚者の武器とする所は筆力也、而も吾人にして其筆力を驅るに急なれば筆禍忽にして到る。蓋し單に「力」の所在に依りて正邪を判じ善惡を決せんとするは是れ進化論者の口吻に渇仰する强者萬能の說にして吾人の所謂機會均等、双互主義と相去ること千里なるものなり。吾人は社會の調和、文明向上の理想を現實せんと欲せば須らく先づ强弱の距離を縮ふし且つ强弱の接觸を繁くするを喫緊事なりとする見地に據りて以て大正の論壇に降魔の利劍を揮はんとす矣。

出雲艦を太平洋沿岸に迴航せしめよ

谷 [illegible]

▲墨國在留民保護の口實の下に派遣された巡洋艦出雲は今頃墨國西岸のアカプルコ港に碇泊中の筈である、墨國の擾亂が何時鎭靜に歸すべきかは今日に於て豫測し難き所で隨て吾政府の方針の如何も知ることは出來ぬが吾輩は南北米大陸に於ける吾人の將來に對し北守南進論を主張する者の一人として、墨國鎭定後出雲艦を太西洋沿岸に迴航せしめ伯剌西、アルゼンチン及墨國の要港を訪問せしめん事を切望する。

▲明治四十二年であつたと記憶する吾政府はアルゼンチン共和國獨立百年祭に參列せしむるかため巡洋艦生駒を派遣した事がある、當時同國首都ボノサリ市の在留邦人僅かに五十名足らずであつたに不拘、日本人といふ事に就ては何等の知識なき同國人民は此少數の同胞に對して少しの注意も拂はなかつた結果憐れなる五十餘名の同胞は殆んど衣食にさへ窮するの有様であつた。

▲然るに新來艦生駒の乘員が當時在泊中の列國軍艦の艦員とボート競爭を行つて第一等賞を得て以來俄かに日本人の評判が好くなり、在留邦人の需要は凡ての方面に多くなつて他國人以上の給料を得られる樣になつた、之がためブラジル、智利、ペルーで失望した邦人が漸次アルゼンチンに流れ込むやうになつた事實がある、▲一軍艦水兵のボート競爭が斯くも意外なる好果を收めたのを見ても軍艦の派遣が如何に在外邦人の意氣を强からしめ、同時に在留國民をして吾國民の眞價と吾國の勢力を諒得せしむるに有力であるかが解るのである、

▲排斥されても、放逐されても吾が[illegible]吾民族は海外に向つてドシドシ澎湃す可き天與の使命を荷せて居る、而して此使命を遂行するには難行道を避けて易行道を尋むのである、水の流れに逆ふよりも水の流れに從つて轆を轉ずるのである、難行道の北米大陸に向つては眞實なる保守的方針的不得要領政策を採り、易行道たる墨國及南米大陸に向つては驀進的、野猪的要領政策を採るのである、[illegible]ヂー[illegible]列の妻揚子重箱式外交に感心してると五年十年の中には南米に於ても亦排斥されるぞ、要は只疾風迅雷の政策、列强をして目をしばたゝくに暇あらしめざる大英斷に在るだ、

▲出雲艦を太平洋沿岸に迴航せしめよとの吾輩の此提案は[illegible]ら、吾輩明外交家の豫定企畫中に在ることと思ふが尚未所感の一端として敢て江湖の一考を煩はす。

目出度申納候

卓郎

▲三百六十五日は何時の間にか夢と過ぎ去り早くも茲に一千九百十四年の新春を迎へ申候、先づ第一に御禮申上度は新報愛讀者諸君の御厚情、足らぬ學問、無い智惠を絞り出して[illegible]がましく陳べ立てまする世界の大勢、民族の發展、「何だ詰らネー」とも何とも云はずに御愛讀を給はり候のみならず、直接間接の御助勢を[illegible]し事、千萬難有、社中同人を代表して深く感謝の意を表し、更に諸君の萬福を祈り候

▲去年は牛の歳なりし故にや世界の出來事兎角ハキハキとせずモラチが明かず、[illegible]行つたなと思ひしバルガン戰爭も案外上古の死命を制するに至らず[illegible]して止み、東洋の新共和國と威かめしき金看板をブラ下げた支那も第二革命の失敗と共に元の專制政治に逆戻り、米墨談判はウイルソンの人道外交端なくも不仁道の騒亂を起す基ひを成したる等何れを見ても不得要領の事のみ、取分け御承知の日米交渉は例に依て例の如き遠慮外交一名賢明政策の御蔭を以て牛の涎れの長々しき押問答、薩張り物に成りさうに見へず、散々馬鹿面らに泥を塗られた上に、グドアウトを喰つても持て生れた意氣地なしと習慣の惰力の悲しきもの、ハイハイ移民一人も送りませぬ、ヘイヘイ[illegible]、桑港出品、エッサ應[illegible]、土地を取上げられ、營業を防[illegible]ざるゝ、御同様はハヤ以て眞とに[illegible]有仕合に御座り奉る次第に有之候[illegible]いたこと悔むだとて仕方なし[illegible]吾等は[illegible]る事を止めて切せと吾等各自の實力を養成し、熾んに結婚し[illegible]獨特の長技たる子供の製造を爲す[illegible]事が肝要に候

▲夫れに付てもルーズ君歡迎會の席上に於てモンロー主義を死物と喝破し去りしルート君をして顏色なからしめたるマーチチズ博士と其演說の裏書したる智利内閣は流石に南米諸國の爲に萬丈の氣焔を吐きたるものにて近來の決心事、小生は彼記事を一讀するや不思案を打つて快哉を叫び申候之を世界列强の一だる東洋の君子國が事毎に他の鼻息を窺つて事を決するの陋態に比すれば實にや天地宵壤の差、吾等國士を以て任ずる者の胸臆を刺すこと切なるもの有之候

▲言ふべき筈の事を言つたからとて何も戰爭せねばならぬといふ理なし米國に漫遊し來る故國の名士達は無益なる巧言令色を止めて大膽無遠慮に我國民の立場を明かにするの方針を採り、有ゆる階級を代表せる米國の公會堂に臨むで大演說を試みるが宜しく、徒らに當路者の注意に傾耳して圓滿、親善を並べる必要に無之候而して夫れが所謂啓發運動の最も有力なるものに候

▲本年は牛を虎に乘り代へた事故諸事ハキハキと參るべく否斯くあらん事を希望致候、殊に日米間の交渉は何とか早く目鼻をつけ度、到底駄目だと見込を付けたら日米條約全部を破棄して新たに平等公平な互惠條約を締結するが得策なるやも不知候

▲小生が何彼につけて過激說を採るやうに思召さるゝ方もあらうが小生は性來口數の多き小心者にて常に穩當なる說を好み日米問題發生當時なども[illegible]說を採りしため硬派たる親友の故山逸客に可られ論難徹宵二人乍らボケ面らを下げて別れた程に候日米問題に關し熱心の人々は小生を以て漫りに大言壯語を喜ぶ者と誤解無之樣願上候

▲左るにても吾紐育の同胞社會は牛の歲にも不拘ハキハキと物を片付け候特筆して御同樣慶賀に堪へざる一事は多年の宿望たる墓地購入の件が共濟會役員諸氏の盡力によりて成就したる事に有之候尙御禮旁種々申陳度事有之候へ共本號には余白無之以下次號と略式して失禮致候以上

※新報詩壇※

◎町を歩いて　ばなゝ

停車場や來し彼の時の侘びしさを しのばしむるか散歩の今に

沈滯の町ふさはしき雪空を サフレヂストの列動き來る

見返へば疑の眸を投げて行く 淺間し吾れの何いぶかしき

レヂスターの我が名解せずとくどく問は 郵便局の書る日まば行き

瓜かたく寒さを握る掌に 錢幾何ぞ新聞賣る子

見知りたる藝題の芝居此町に かゝれるを見てうなづく心

○○○○○○○

◎大正の新春　安藤多郎

君が子等國の譽れを肩に擔ひ 外國に居て祝ふ初春

初日影物によごれぬ雪の色 富士の高嶺は千古に白く

初春の光大洋の潮の色 紫匂ふ波がしらかな

立春の靜けき物の始めとて 海はなぎけり野山は晴れぬ

○○○○○○○

◎都の友の戀しかりければ　五峯

汝が常に口吟みたる戀歌うたひ 暮れ行く窓にたちてあり我れは

遠ざかれは世に忘らるゝ習ひにも もれて君のみ慕し懷かし

◎都の友人見君の文に答へて

假染めの契りにはあれとねむごろの 言の葉いかで仇にやはせむ

○○○○○○○

◎談林風吟　公樹

醉ふて喰ふ汁粉もうまし年始め

初日の出峰に茂れる松一木

獨寐もよき夢見たし寳船

雜煮すぎて四十男の鍋洗ふ

貴賤老若此一樣に初旭

若水や心清むる心地して

○○○○○○○○

◎新年を迎へて　安藤多郎

鷄鳴曉を報じて世界は新しい年を迎へた、紀元は千九百十四年となつた金光燦然たる初旭を浴びて、森羅萬象、皆希望の色に輝き、活動の氣に滿ち、そして吾人をして復活と健鬪とを促して居る。

時々刻々に進歩して行く社會は益々繁雜を極め、人間の智力と精力との發展を要求して居る。

失敗した過去を悔ゆるも厘毛の益なし、只改むるに如かざるを思ひ新しき年と共に新しき生涯に入り、理想を實現し、大器晩成を志すは必ずしも遲きに非ざるべく切に覺悟と決心の喚起を祈る。

寸鐵

◉一陽來復して大正の春を迎ふると茲に再度寸鐵子が禿頭を撫して不筆を呵するも要するに醉居蘇[illegible]如件

◉大統領維爾遜氏手前料理の關稅改革案に成功せる餘力を割いて多年の懸案たりし幣制々度の基礎を定む

◉畢究の「アカデミックボーシ」として政敵の嘲笑を招きし維氏の政見が着々實行せらるゝは先以[illegible]

◉最近に於ける電話トラストの解散に對して發表せる維氏の書翰の如きは確かに隅に置き難きを證明せう

◉雖然關稅低減の米國經濟界に及ぼすべき反應は善惡に拘はらず必ずや其端を本年收獲期の前後に發せむ

◉世間米國の經濟を議する者稍もすれば農作の豐兇を計算外に措かんとす是れ皮相の見にして聽くに不足

◉對墨關係は頃來小康を維持する者の如し蓋し無策の武[illegible]安居士が欠伸數番の間「ヒウレタ」は[illegible]

◉蠻勇彼の如く蠻智彼の如きは[illegible]隣に對する墨國の「デクテイター」として米墨外交舞臺の適當なる役者

◉敵役を以て自ら任じながら彼が一喝を華盛頓政府に加ふる時儲け役の維氏は薩張悅が利かず舞臺は寂寞

◉觀劇總見の末席に東洋の君子あり其名を豐葦原の瑞穗と云ふ[illegible]らに秀麗なれども外交舞臺の[illegible]

◉喟然として獨語すらく僕將來[illegible]界の名優たらんことを期す如かず「ヒウレタ」の門に走りて敎を乞はんに

◉隣席の老紳士ジョン、ブル氏眞率に忠告して曰く何ぞ此機會に乘じて日米問題を解決するに努めざる

◉機會の去來は一瞬の間也[illegible]子天下の形勢に明ならず狼狽彷徨して遂の出來損を演ずるは外交の禁物なりと

◉瑞穗先生頓悟してジョンブル氏の尻馬に跨らんとすれば豈料らんや氏の爲めに支那問題を解決仰付らる

◉日英同盟の義務を重じ英の走狗となるとも日米問題の解決に英の一臂を望むは難し所謂光榮なき孤立

◉紐育西州モントセイロに婦人が戀を弄び三年の間秘密に同棲を繼續せる者あり近來奇々珍々の親玉

◉妻子を別居せしめて其死するに至る迄秘密を維持せるに至つては雲關外交以上の秘密万能主義者と可謂

一休の句を想ふ

獨來處

○門松や冥途の旅の一里塚、新年に際する毎に先づ此の句を想ふ、年たち回へる初日の影は年々麗かに、門に掲ぐる松の緑は歳々色相同じと雖もあらず、緑の色同じき松も而も舊の松には非らず、一年一里、新年を以て人生の一里塚と觀る、實に千古の名句たらずんばあらず。

○大正の新春、廿世紀の今日、去りては餘り古腐さからずやと云はゞ云ふべし、然れども年の去り年の來り人の生れ人の死するある以上、決して其の句の古腐さきを以て意の新らたなるを棄つべからず、若し之をしも古腐さしと云はゞ新年亦古腐さしと云ふべく、新年の意義亦遂に沒されんのみ。

○一日は地球の一回轉、一年は地球の三百六十五回轉、以て太陽を一周回するを意味す、而して今日まで地の果して幾兆回轉、幾億萬周回したるやを知るべからず、日翌けたりと云ひ年新なりと云ふと雖も、之を超の界より觀る、畢竟是れ宇宙なる大器械の一歯輪の轉々に過ぎず、凡そ古腐き事こし宇宙間恐らくこれ以上古腐き事あらんや。

○日語月語、一憂一喜、春に喜び夏に喘ぎ、秋に思ひ冬に悲しむ、[illegible]て暦回へり、之を新年と稱し、如何にも意義ある如く云ふ、[illegible]然れども人は[illegible]轉[illegible]時無き[illegible]、是に於て人より觀る、地球の一回轉亦大に意義を生ず。

○[illegible]限なく人生限あり、[illegible]此處に始めて人生に[illegible]なるべからず[illegible]此一休の句の[illegible]

悠々の民たらしめんとするもの、此の句の如きを以て何すれぞ能く當世に新らたなりと云ふべけんやと、夫れ然り豈に然らんや。

○我れ是の如く聞く、昔者僧一休[illegible]髑髏を手にして此の句を稱へ、七五三に飾りたる京師に化飯するや、時人皆な狂と呼び、芽出度き新年に不祥の死を説く囁々怪僧となせり、而も此の門松と冥途てふ絶妙の對照を以て人生の意義を僅々十七文字中に收めたる此短詩は、今尚亡びず、而も却つて年々に其意の新らたなるを覺ゆるは何ぞや、眞理は永久にして又日に新らたなればなり。

○我れ常に思へり、人と動物の差は只自ら知ると否とに在りと、而して自ら知るの始めは活くるの自覺と死するの自覺より來る、活くるを知るは即ち死するを知る所以、而して死するを知るは即ち活くるを知る所以



[illegible]吉孝之助氏令孃　[illegible]

これ[illegible]醉生夢死、[illegible]に異ならざるなり、死の觀念に囚はるゝ[illegible]、死を[illegible]ずして[illegible]ならざるべからず、[illegible]人類に宗教の存する亦之が爲めならずんばあらず

○一休の[illegible]は、滔々たる醉生夢死の徒に一大警策を加へたるもの、[illegible]近世に[illegible]最も偉大なるアイロニーたるを失はず、[illegible]此大皮肉を感知し得ざる如き[illegible]、未だ共に[illegible]するに足らざる[illegible]

○大丈夫[illegible]死すべけりや、[illegible]刻だも止む可からず、去年の紅顔明年は白頭、一日努力せざれば一月遅れ、一年努力せざれば十年退き、忽ちにして空しく死せざるなからず、殊に今の[illegible]は是れ近世の文明世界をして、太古に此態の進歩は時間を縮少し、今の一年は昔の十年に相當すべく、門松は樹てざるも人生の一里塚は月々に來る、大丈夫豈に空しく死すべけんや

○近世的觀念を以てすれば、人生は寧ろ社會の一員として多くの意義あり、社會は人によりて成るも人は社會無くして活くべからず、人の生れ人の死するは社會の繼續と新陳を意味し、此の社會と人生の循環作用は時と共に須臾も休む時なく、此處に即ち向上あり進歩ある也。

○社會と人生は互に相發展して離るべからず、各人の努力は即ち社會の發展にして、社會の發展は各人を努力せしめずんば已まず、即ち各人の努力は自己の爲にして實は自己の爲ならず、自己の爲ならずして實は自己の爲ならずんばあらず。

○人の活くるは權利にして同時に義務なりてふ觀念亦之より來る、所謂天職と云ふ即ち是れ、而して正當なる[illegible]の權利の主張は[illegible]正當なる[illegible]の義務の履行を意味す、言を換へれば是れ實に天職に對する努力にして、[illegible]各人が天職を完うする所以に[illegible]やがて社會の發展向上する所以たらずんばあらず。

○[illegible]夫の意氣地なくも自ら天賦の權利と義務を放棄し、自らを知らず天職を解せず、自らを持して[illegible]の如きものは、同時に又世間より[illegible]さるゝを覺悟せざる可らず、斯の如きものは醉生夢死の徒にして劣る萬々、現世社會に存在の理由だにあるべからず、人の生死する豈偶然ならんや

○生死は一大事、一休の句は[illegible]一大事に[illegible]し千載に亘りて警醒するもの、永久に相悖らず、實に萬古[illegible]に通ずる一大警[illegible]たらずんばあらず[illegible]

○年始に[illegible]なり、[illegible]誰れか最も能く此の一休の大反語大皮肉に[illegible]へ得るものぞ。

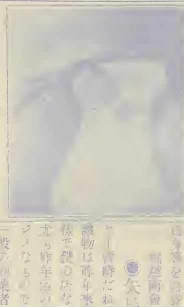
◉訪問土產

（訪問の順序に據る）

自稱正直男

◉村井保固氏

政府万能主義は今も尚依然として日本の朝野に充滿して居る、交通、貿易、商業、工業何一つ行ふうとしても、如何に議論上立派な[illegible]でも、實際上一度政府の役人に[illegible]されたら[illegible]後駄目である、斯様な状態である[illegible]全國民の頭には自然獨立獨行の氣[illegible]なくて[illegible]只モー目前の欲[illegible]る感情は[illegible]なり、[illegible]を滿たす事にのみ苦心して永遠の計[illegible]



福井藤吉氏長男　[illegible]三ヶ月

搖籃の夢、絆か紫な[illegible]

[illegible]を爲す者は無い。私は英語のサーブイスといふ事を心に[illegible]て、午前は會の爲、午後の爲、今日は明日の爲、今世は來世の爲として日々業務に從事して居る次第です、[illegible]自分は[illegible]の義務を盡せるつもりです。

◉新井領一郎氏

近來の[illegible]運動なる[illegible]本問題に關する[illegible]の考を[illegible]なく言はしむれば[illegible]デリケートな問題を[illegible]公然論議すると云ふのは[illegible]ないのみならず、[illegible]人の感情を害しはせぬかと思ふ、[illegible]此の如き運動の必要はあるに[illegible]ないが[illegible]方法手段に十分の[illegible]



矢島[illegible]吉氏[illegible]女　[illegible]子　二才二ヶ月

[illegible]加式の丸ボチャ、今から十五年經てばゆりちやんな[illegible]

◉井上[illegible]一郎氏

又御互に年を取る事になりました、今年ー、ブローシュの[illegible]です、[illegible]る後に實行する事が[illegible]要である、[illegible]

◉矢島[illegible]吉氏

[illegible]

◉三[illegible]氏

[illegible]

◉小野[illegible]氏

[illegible]

桑博出品に就て

紐育山中商會　牛窪第次郎

來る可き桑港の巴奈馬運河開通紀念博覽會に我國より出品すべきや否やの問題は今や政府、民間の議論區々に分れて未だ其是非を決定するに至らず、思ふに加州土地案に關する日米兩國交渉の行悩みより當局者の嫌厭たる民間有志家の感情が相錯綜して急速に參加不參加を決定し難き事情の存するものあるならんが予の觀る所に依れば我政府は一旦桑博出品を約束したる以上其約束を履行して責を全ふするを得策なりとす可しと雖も而かも其出品方法にして不然舊來の弊習を踏襲するが如き事あらんか大枚百五十萬圓の費額は徒らに空費せらるゝの悪結果を來さずとも限る可らず、

從來數々行はれたる各種博覽會の實驗に徴するに我出品者の目的は日本の商品を世界に紹介して外國貿易の[illegible]するよりも[illegible]出品物を[illegible]一時の奇利を[illegible]に[illegible]當局者[illegible]に於ける[illegible]商家[illegible]トを設く[illegible]一時[illegible]不拘、會の終了期將に近からんとして出品の賣れ行き豫期の如からざるを見るや、周章狼狽、俄かに其態度を一變してコーナーのセリ屋と化け會場内に陳列されたる當時、一萬弗一千弗の正札附なりし品物は百弗乃至五百弗の棄て値を以て賣却せらるゝを常とせり、如此は畢竟するに當局者の方針が博覽會出品の眞趣旨と一致せず、出品人の目的亦一時的の成功を夢みたる謬りにして其結果は徒らに我生産物の外國市場に有する聲價を下落せしめたるものなり、故に今回の桑港博覽會出品に對しては本然其規模を改めて純乎たる國産の紹介に止め陳列場の如きも、淺草二十間を建築して無益の費用を投ずるが如きことを爲さず、我國美術の精華たる古代の建築物は一切模造品を出品し、教育、衛生、美術、商工業品等は各其粹を選んで出品する事とせば費額の點に於て多大の節減を爲す事を得べきのみならず、再び舊來の弊害を繰り返す憂なく、國産紹介の目的は充分に達せらるべし、予は我政府當局者及出品人が豫め如上の方針を以て桑博參加の主たる目的たらしめん事を希望に堪へざるものなり。

◎今日が新年也

聴劍

▲一夜明くれば借金取りも鳥の聲と變りけむ、憂しと見し世の今はたや言ひけむ、戀しきぞ是非なき、畏友獨來處大坂朝日に通信して、ニューヨーク人士は死ぬ間もなき迄に忙しと言へる警句はさる事乍ら、移して以て當代の文明を評し得べけん乎、

▲一年を十二ヶ月に區分して一陽來復の元日を、今日が新年と改りたるも電燈の多く用ゐられざりし昨の事なり、マッチ箱を積み重ねて摩天樓を築きたらん如き建築の逆りては、白日の光り仰ぎ見ん術もあらなく、蜂の巣にも似たる窓より電燈の光り外に零れて、晝夜のけじめ更になく、唯[illegible]へては[illegible]ふ、月末の多



三井物產會社高木靖三氏令嬢　愛子　三才　[illegible]子　一才

唐衣キャリコの袖とかわるとも
匂ひは同じ大和撫子

忙なるは帳面を締め切ればなり、年末に於て亦特に然り

▲千九百十三年は鐘聲と共に葬られ終りたれど手を着けたる仕事の片付かぬ間は、暮れもなく正月もなく、元日の夜を事務所の一隅に徹する今と、た舶を摑みながら八々に明せし頃とは、世相の自ら異なるを奈何、

▲即ち知る新年のたゞ出度きは、年内に企畫せし事業の滿足に一段落の着きし人と、更に現代の大勢とは全く沒交渉の、今猶武陵桃源の夢に徜徉しつゝある、めでたき人のみにためで度きを、

▲舊年は米國に在りては大統領の改選を見たり、ウイルソン氏が就任匆々に召集せし臨時議會は、關税問題通貨問題等に牽殺せられつゝ三伏の炎暑も尚且つ休會を得ず、更に秋風ポトマックを渡り木枯しの聲ホワイトハウスの老樹に悲しき頃に至り、通常議會召集の機日に到達せり、日米問題の如きは元よりウ氏の一顧を値せざらんも、パナマ大博に對する英獨の斷然たる不參加の處置や、墨國問題の如きに至りては先方の腰の強き丈け、大に手古摺りたる氣味はあれど乗りかゝりし船の、何處にか落着せずばならず、列國環視の裏に、アンクルサム今將た懊悩の態と言ふべく、扨正月なんぞの騒ぎに非ずされど仕事は着々として進行しつゝあり、改正税率も出來たし、所得税法も通貨問題も議會を通過せり、何れも豫算天引き的、識者を愚にせし一時的の行政整理の比に非ずして、兎も角も根本的のものなれば國民に到りての面目もあり、先づは芽出度しと言ふべきなり

▲去るからに照代に遭遇せし吾人何の多幸ぞ、大正三年の初日の出に映じ、太平洋の彼岸日章旗の翻々たるを瞻る、顯着なる我國權中外に敷き、國威八荒に[illegible]、唯窮に[illegible]る累[illegible]來かし得べき、

▲去んぬる夏の半ば、墨國通日[illegible]禮[illegible]大使の事あり、當時老デアスの[illegible]力未だ全く消滅せず、マデロの改革に不滿なりし徒は、少デアスを擁して一擧にウェルタ假政府を樹立せり少デアスは前デアス大統領の甥にして其[illegible]黨の推す所、又軍人中にも聲望あり、加ふるに革命の功あり若し當初の計畫の如く、遣外大使の任を全ふし歐州を歴訪して歸來せんか、其十月の大統領選擧に當りて、此ナショナル、ヒーローの當選を見る事炳焉として火を視るが如かりし也、

▲想へ渠にして如斯事情の下に革命政府の大統領たるを得たる時機に於て、日本政府が墨國に對して當然得たるべき威信と利權との、如何に多大なりけんを、

▲己ぬる哉好機一度逸し、好漢の生世を蹉跌に泣かせしのみならず、世界外交史上に、帝國政府失敗の一頁を附記して、千九百十三年の巻を終りぬ、

▲大正三年元旦の朝風心地よく墨海に入りし出甚を見れば、そぞろに活動寫眞の、熟睡中に丈ケの黑髪ふり亂してフワフワと歩み出づる女主人公を想ひ出でらるゝ、一は國威海外に飽迄も芽出度く、一は薄命の佳人なるが故に悲しけれど、其無我夢中なるに於て一[illegible]なり、



高木靖三氏長男　貞一　三ヶ月

大きくなつたら[illegible]國に
鐵砲貰込をしさうな面

▲新年た[illegible]出度き事多かれど、余は永陽の日を期して縷々申上ぐると言ふ[illegible]例なるが如し、殊に以下欠號の特權を有する吾輩に於てをや、去らばへノ[illegible]を[illegible]め、更に時事を論せんかな、

◎加州より（其一）

羅府　天洋

▲永らく東部に居つて、排日の中心たる加州へ來るのは宛ら噴火の中へ飛び込むか、或は牛鍋へでも入り込む様な氣がして、里に歸つて居つた嫁が[illegible]の居る家へ戻るよりも一層イヤな氣がする。

▲デ僕が來加の念は吹くに吹かしてゐたが舊友よりの切誘もだし難く、遂に[illegible]しい[illegible]を後に蠻境に入る事にした。

▲來て見ると思つたよりも良いところ、氣候は暖くて天氣はよし、紐育あたりでは吹雪と堅氷とに肌を裂かれて居る今日此頃、此地では野菜や



藤森孝道氏令嬢　チェー　六才

オー、ダーリング、ハネー
ハウ、ラブリー、ユー、アー

蜜柑など青々して居て、ストリートには水を撒かねばならず、人は日中に時々汗を出す位、同胞は多し、日本へは近し、十年振りの舊友は我を歡迎して呉れるし、只是れが毛唐の國でなければ、、、、、嗟呼、責めて排日の叫聲さへなければ、、、、、と思はれる位。

▲同胞の發展には正さに一驚する、在南加の邦人は今や二万有餘と註されて居るが邦人等が實業的方面に活動して居る有様の目ざましいのには久しく東部に居て日本人社會らしいものを永らく見なかつた者には只アッと言つて感歎するより外はない、唯と獨り首肯さるゝ。

▲羅府の市街でも其東第一街の一要部は今や悉く邦人が占領して居て、此一區は正さに小日本を建設して居る

▲日本人のグロッサー、ドラギスト、洋服屋、菓子屋、時計屋、洗濯屋、自動車屋、活動寫眞屋、野菜屋など東部では珍らしい獨立業者が軒を列べて其間には無數の料理屋、そばや、すし屋、風呂屋、玉突屋などが介在して讀者諸君御推察の日本語。

▲街路軒列の各商店には何れも墨くろぐろの日本文字ベタベタ、街上を通るは大部分粗服の大和男兒か、服裝格好共に甚だ格好よき大和撫子、・・・・イヤ是では毛唐が眉をひそめる筈だ・・・・とも思はざるを得ない、特に夜中などは驚く勿れ街上を鍋やきうどん、そばなどが通る、

▲デ話に聞くと南加、特に羅府は尤も加州中で排日の聲の小さいとこで、換言せば最も日本人をよく待遇する所だつたが、それでもブロードウェーなどのレストランあたりでは往々日本人を客にせぬと云ふ噂がある。

▲然かし其ブロードウェーには東部に其比を見ぬ立派な日本雜貨店や、古商會や高橋商會や其他二三の大商店がある。

▲日本人中には飛行家學校があれば女流の飛行家もあり。活動寫眞の女優として一週百五十弗取りの元の川上[illegible]やんも居るし又長さ二尺の[illegible]長大根もある。

▲桑港及サンデーゴの大博施設着々として進捗して居る様子、しかし日本の參加は未だ沒要領、然かし目今の様子では多分參加出品する事になるだらう、東部の活動家もソロソロ大儲けに來る用意あつて然らむか

▲言ひ忘れたが、ニューヨークより加州へ來るにはヘンシルバニア線かニューヨークセントラル線にてシカゴ迄來てそれからユニオンパシフヰックかサンタフヱーで來加するのが一番便利且つ經濟である、一弗や二弗の差で忘れてもどーぞ、オー線やイリー線などを取り給ふな、シカゴ着迄に滿車の動搖で半殺しになる。

▲サンタフヱーは實に感心すべきシステムを取つて居る、寢臺車も特別安價用で便利なツーリストのプルマン車あり、途中朝、晝、夜三度の食事を停車場の食堂でさせるべく毎日五分間づゝ停車するやうにしてある、其食料は十仙以上のランチより七十五仙のデンナー迄あるからシカゴからサンドウヰッチなどを買ひ



古谷西村商會
堂[illegible]竹治氏の子供衆
バーバー、ス、カンミングホーム
クリスマスイブ門の外

込めて乗車する要はなし、至極便利である、サンタフヱーのハーベー食堂のシステムは實に天下一品である予は特に此事を東部の旅行家に紹介して置く。

▲偖是れからボツボツと加州の現況や排日の實際的觀察を御報しやう。

●米國經濟界の前途

なにがし

國運時として消長なき能はず、國家或は是非なきを免れず、過去廿年來共和黨資本家主義の統轄の下に一時黃金國と目せられし米國財界も、昨秋民主黨掌握の天下となりし以來、或は關稅に或は所得稅に或は貨幣制度に所謂世界的政策標榜の下に、各大斧鉞を加へし結果一時財界銷沈の低境を呈したり株式市場に於ける取引額の如き十月以來十一月末に於て最低極点に達し、過去廿五年間未だ嘗て見ざりし所の現象を呈せり、素より其因て來りし所は、關稅低減に對する豫測、貨幣制度變更に伴ふ危懼農產物の收穫豫期の如く良好ならざりし事、大統領のトラスト政策に對する思惑及米墨關係の未解決等其重なるものにして此の如き一時的の財界不況か或は襲來せんやも不可計とは疾くに世人の豫測せし所、今更驚愕の苦聲を發すべきに非ず、米國財界の現況は上述の如くなるか然らばウイルソン氏の政策は將來一二年內に果して此現狀を轉換し、國民をして歡天喜地せしむるの見込あるか請ふ吾人をして少しく之を研究せしめよ。

從來米國財界の中堅となり且つ其經緯と尊奉せられし者は實に保護政策の一事なりき、保護政策は幼稚の產業を養育し資本家の資產を增殖せしむる點に於ては確に其効果なきに非ず、然れども一方必然の結果として諸物價を騰貴せしめ貨幣價格を下落せしも、貨幣價格の下落は漸次勞働者の賃銀を昇騰せしめ、從つて多くを得て多くを費消するに至るか故に表層的に之を觀察せば實業界は狀態甚だ順調なるか如く見ゆるも一朝金融界に亂調の現はれ來るや其打擊を蒙むる程度誠に猛烈なるものあるは既に過去に於て米國財界の實驗せし所にして、ウ氏が劈頭第一に關稅制度の改訂を行ひ次で永年懸案の儘なりし米國貨幣制度の改正に苦心せし所以蓋理なきに非ざるなり、人は謂ふ關稅は低減せられたるも物價は更に下落せずと、誠に然り然れども關稅政策の影響は直ちに米國產業界全般に及ぶものに非ず殊に米國製品中は外國輸入品と何等關連なきもの勘からず從つて物價に直に關稅か影響を及ぼすは相當の時日を經過せざるべからず。

貨幣制度の改革は既に實行せられたり、其理想に於ては實際に於て未だ全く完備せりと云ふ事を得ざる可し然れども該制度が金融市場の備蓄恐慌を防がんため八個以上の中央準備銀行を設き一旦事變あるに際し其發換制度に伸縮自在の機能を附與せし点は一大進歩と云ふ可し、

兎に角大統領ウ氏の政策は從來米國財界一般の迎望せし所にして何等非議すべきに非ず、現在產業の不振は改革に伴ふ一時的必然の結果にして深く憂ふるに足らず、

凡そ財界の未來は何人も明確に豫測し能はざる所なるも吾人研究の結果は實業界に遠からず活氣の來る可きを信ず、尺蠖の將に伸びんとするや必ず屈するを要し蠟火の將に光明々たらんとするや光明滅の境に沈む米國財界今日の現況は必しも悲觀するに足らず。財界は不振なり然れ共銀行には遊金を有し、貿易は順調なり、株式市場は不況の觀を呈す然れども公債の賣買は漸く活氣を呈し來る、元よりウ氏政策の完備は尚多少の時日を要し、財界不振の現況は尙多少の時日を繼續せんも而も數年後今日を顧れば確に米國財界の分水嶺の觀あるべく米國はウ氏に向つて深刻なる感謝を爲すに至らん。




タタ商會久米又藏氏の小供衆
和子 三才五ヶ月
利才 四ヶ月半

太平洋上の夢に見た龍宮城の榮華、正夢となつて今二人の小供是ぞ萬珠千珠の千寶

●墨使大迎歡

▲廿六日東京發電

墨國答禮大使フランシスコ、デ、ラ、バーラ氏は昨廿二日着京せり、豫て氏の來着を待ち受けゐたる數千の市民は本日一旦日比谷公園に集まりたる後、例の提灯行列を組みてバーラ氏在住のホテルに至り萬歳を三唱し歡迎委員は歡迎の印として刀劍[illegible]り贈物を呈したり、夫れより更に墨國公使館前に集會して米國排日案の不法を鳴らし、日本は斷じて桑港博覽會に參加すべからずとの決議をなせり

▲御倍食と勲章贈與 今上陛下には廿四日墨國大使に御倍食仰せ付けられ廿五日旭日桐花章を賜はりたり

▲實業家の歡迎 實業家連は一行を保險協會に請待して晩餐會を催ほす

▲答禮使と義士 答禮使は宮內大臣訪問後泉岳寺に到り義士の墓前に其靈を吊へり



武部純三氏の愛嬢
マガレット 十才
ヘレン 九才

學問がよく出來て、賢しく顔も美しい、今少し撮者が若かつたらと思はせる



宮村季雄氏令息
朝雄 二才七ヶ月

御父うさんは總領事館に御精勤
このヤンチャ一体何と化ける、
陸奥か 小村か

賀正
水谷渉三

觀光團日誌

大隈伯會見記

在東京　林生

吾々の觀光日程中、東京滯在の五日目は彼の世界的大名士として名聲内外に嘖嘖たる大隈伯に會見するの豫定であつたか一日を繰り上げる事となつた、理由は其日は丁度伯爵は九州地方の有志家から招請され講演に出張されるからである。

小石州の江戸川終点迄電車に乗り其處から十數年前迄町端れの鶴巻田圃とて寂しい一寒村、今は人家稠密した大繁華な町筋を今昔の感に打たれなから人力車で通り抜け早稲田伯の邸に着いたのは午前十時、正裝の家令、書生、門衛など嚴然として整立するなど眞に鄭重なる出迎へを受けた、先づ有名なる庭園を觀覽するに同邸を圍繞した數町歩の庭内には宏大なる植物温暖室かあつて世界中の名木珍草、今を盛りと咲き揃ひ万物



神崎麵麩商會主人の小供衆
米子、明喜、早枝子

子曰く「の祖父から二代目、子供は生へ抜きのニューヨークつ子、民族の生命斷くして連綿

凋落の秋を知らぬ顔である、滴露青々たる野菜園の畝を横切つて小山に登れば一眸展開、邸宅を掩ふ翠松の間に隠見する巨大の幾棟は最も深き印象を喚起する、伯の兩洋を通じたる政治的生命はさて置き吾人の欽慕措く能はざるものは教育家として社會に貢獻せし万古不滅の大偉勳であると思ふ、恁んな感想に耽つとる時案内者は定刻に近きし旨を通じて來たから一同は應接室に入つた、待つ事數分、大學部の時報か十時を告げるもの丶一分も經たぬうちに戸外は婆娑と衣摺の音かしたと思ふと二三の從者を隨へた伯は滿面は微笑を漂へ乍ら「來」「御一行は新育から、御遠路の所をヨー・ツ御訪ね」を冒頭に夫如なり一行中の小兒に接し「此兒は新育で出生れたの、日本語か解るかね」と聞えぬ／＼乍ら頭を撫でられるなど其擧措應答宛然慈母の愛兒を育する如くで豫ねて承知はして居たもの丶斯く迄無階級的な平民主義な仁とは思はなかつた。

席に復された伯は一行を見廻し乍ら「新育と云へば彼處には高峯と云ふ親玉か居る、それから正金に青年敏腕家の一宮と言つて不圖思ひ出したと云ふ樣に一行中の婦人に眼を注ぎ「彼地では一宮夫人に會ひましたか」と聞かれたか其婦人は遠慮してか應答するのを躊躇しとるから僕は氣を利かして「才貌双絶の御夫人です」と合槌を打つと「ツー元河原姓で其頃支那に行つて、蒙古王の家庭教育に從事した有名な女傑」など普通一片の世間話から當然來るべき本問題に切り込まれる、さて如何なる方面からであらうかと呼吸を窺つとる瞬間は蓋し躍龍雲蒸の感ありとも謂ふべきか、伯は更に僕に向つて「新育の日本人の狀態は如何」との質問の矢を放たれたから現狀に就て略述すると夫れを切つ掛けに現下の懸案中なる日米問題に對する解決策とも云ふべき意見を大略左の如き意味に於て語られた「米國に於ける各國人種の歴史を徴するに彼等は同人種であり乍ら一度は必ず激烈なる排斥に會つとる、併し夫れに僻易して米國から逃げ出した例はない、孰れも不撓不屈の精神を持してある限りの障碍を排除して猛進したから今日では牢乎として抜くべからざる鞏固の地盤を構成しとる、米國の排外思想は時代的流行とも見るべきで決して米國は之を國是として遂行出來ない國体になつて居るのであるから其時運に逢遇する外國移住者は克く其間の消息を解し之れに對して截然たる行動を執っず成るべく時味模糊の態度を持して出來る丈多數の味方即ち同人種を集中せしむる方針を講せば所謂勢力扶殖の結果により漸次彼等の反抗をゆるめるから自然に排斥思想は消滅する」と從來米國に於て排斥されし各國人種の歴史を引證し「勿論現下は米國の狀態も昔日の如くでないから直ちに之を日米問題に引用するのは不可能なるも幸ひ米國は人口の激増他に其比を見ざる程で然かも國内には人煙不毛の土地充實しとるから今後はドシ／＼開拓されるそれと同時に殖産工業の途か發達して來るが其製造品は内國人の需用に超過するので他に其捌け口を發見せねばならる、而して米國か當然求むべき對手國は日本の手を經て取引せねばならぬ、卽大陸である、であるから今日本は此必然的問題を提へ之之を按排處置するため即ち或意味に於ける權力扶植に就て全力を傾注しとると云ふ有樣だ、今後十數年を出でずして日米兩國は密接なる經濟關係の上に成立するから排日を呼號す



佐佐洋服店主人長男
フランク　四才九ヶ月

可憐アップルの頬、親は今歳の虎の虎の兒よりも秘藏、一朝一夕の御手際に非ず

る樣な暇か無くなる、されは日本人は此先天的趨勢を洞察して今の内から成るべく多數出掛け民族的發展の實を擧げねばならぬ」云云、僕は之に對して一片の答辯とも云ふべき簡短なる謝意を表し且つ伯の對日問題に對する意見と見るべき可成く多數の同族を集中せよ即ち日本人は本國にプッシュせねばならぬのに當局者の對米意見かとかく遠慮主義に了るは在米同胞の遺憾とする所なるのみならず進んでは民族の消長に關すべき大問題であれば伯の如き勢力家に依り日本當局者に反省を促かしてもらいたいとの希望を述べた。それから庭内で伯並に内ケ崎早大教授等と



森村組足立竹馬氏の子供衆
ウイリヤム、ヂョージ、フランセス

東西両洋文明の精華を打て一丸となしたる血の塊の三つなり

共に一同採影、寫眞師は新育に引られた中鉢氏であつた、來るべき大陽の新年號の口繪に掲載するさうであるから御覧を冀ふ、採影か終ると食堂に招せられ茶菓の饗應を受けた、其時も伯は手づから果物などを園員に配るなど一同恐縮して感謝の辭に窮する次第であつた。

●日本人會設立と學生

宮川節郎

西部に日本人會代表者の参集するありて中央團体設立せられんとする時に當り東部にはニューヨーク日本人會設立の議や〻熟せんとす、蓋し在留同胞か益々團体そのもの〻必要を切に感じ來りたると共に土地所有權問題の如きもの〻現はる〻に際しては更に同胞間の團体的運動の欠くべからざるを知るに至りしなる可し茲に新に設立せらるべき日本人會ガ共濟會と合併すべきや否やは別問題として新團体と學生との關係に就き讀者の一考を煩さんと欲す、

嘗て共濟會ガコロムビヤ大學留學中の油谷氏なる學籍に在る人に依りて統一せられ居りし當時は一般の學生も共濟會の事業に多大の趣味を有したりしガ今や前日の關係全く絶へたる樣子なり、五十年の昔より黒奴も人門なりと認められ近年に至つて女も亦人なりと稱せらる、さらば茲に學生も亦人間のうちなりと認められて設立せらるべき日本人會の一部分を成立せしめらるべきを望む、少なくともニューヨーク總領事館下にある學生は日本人會の會員となりて會の一部を組織したきものなり吾等が東部に在る留學生の中央團体を創立せんと試むや既に久しく遂に二三の學生俱樂部の聯合的運動となりて現はれ遂に五六の大學の代表的學生によりて論議せらる〻に至りしも、一体、學生は三四年にして卒業又は退學し其多少の抱負を實行し得べき位置に立つは極めて短期にて遂に今日まで其設立を見ずして終れるも、其必要を感ずるの度や益々高し、是に於て吾人は日本人會を以て東部諸州に散在せる學生の中央團体たらしむべきを建議す

即ち日本人會の一部の事業として學生部なるものを設け各大學の日本人俱樂部の親團体となり而して俱樂部のなき學校に在學せる學生及び事情に休よりて現在學中の學生は本部直

（六頁に續く）



タマニーホール

千本木生

昨秋新育州知事サルザー氏の革職事件及び十一月新育市長選擧運動に伴ふて一時タマニーなる政黨結社の名稱は毎日吾人の耳にする所であつた今後も新育に選擧のある毎にタマニーホールなる名稱は屢吾人の聞く所であらう、依て吾人は新育の政界に斯る勢力を振ひつゝある此の政黨の歷史及び其他に就て大略を述べやう今日ではタマニーホールと云ふと新育市の民主黨派を代表せる政黨結社であると云ふ事は何人も承知して居る所であるか最初は純然たる社交倶樂部であつて、アイリッシュ生れでアム、ムーニーなる者の主導に依て室内装飾を營業として居たるウイリアム、ムーニーなる者の主導に依て千七百八十九年五月十二日に設立されたのである、會の名稱タマニーなる語はデラウエーア、インディアン種族の酋長の名で語の意味は「親し



御島領事の愛嬢　正子　二才

凍る手に拾ふ銀杏の葉の幾つ

母の敎への昔の栞りさ

み易き」と云ふ事である、會設立の動機は當時「ホーダー、オブ、シンシナチー」と稱し富裕なる人等の組織したる倶樂部に對抗せんと欲して起されたるもので會の性質は本來から平民黨の方であつた、此タマニーホールと同種類の會は新育の外にも設立されたのであるか、夫等の會は皆幾何もなく收滅してしまつたが獨り此のタマニーホールのみは益隆盛に赴いたのである、會の目的は會員の愛國心を涵養し、會員相互を扶掖すると云ふのであつた、千八百十一年に至り初めて自分等で會館を今の市廳の在る附近でフランクフオルト街に設立したか後千八百六十七年に至り宏大なる會館を建設した今日十四丁目に在て居るホールは同年建てられたるものである

會の目的は前述の如く元來社交倶樂部であつたか、共和政体必然の結果市民皆各投票權を所持して居る所から多數の會員を有し居る此會は自然政界に野心を有し居る者に利用さる樣になつて遂に今日ではタマニーホールと云へば純然たる政黨を意味する事となつた、而して同會を政治上に尤も最初に利用した者は「ハミルトン」の政敵として有名なる「アーロン、バー」であつて之に次で會の首領となつたのか「ウエリアム、マーシー、トウエード」である、「トウエード」か會の有力者として同會に關係したる期間は實に五十五ケ年の長きは亘り權力掌握の永續に伴ふ自然の結果として會の支配權は遂に委員の手を離れて全然「トウエード」一人の掌中に歸し即ち「ボス」制なるものか生じ來た原因である、其處で同人はタマニーの政界に於ける勢力を用ゐて千八百七十年新育州議會から市に向つてシチーチャーターを獲待し新育市の行政を全然市に屬せしめ從て市長の權力を增大ならしめたのである、之と同時にタマニー派の市政に於ける專橫は甚だしくなつたので、道路を修築するとか下水工事を起すとか築港費だとか公園を作る費用だとか云ふ口實の下に市をして市債をドシ／＼發行せしめ其額實に八千萬弗に到達した、今日の新育に取りては八千一百万弗の市債は何でもないか五十年前の新育に取りては莫大の負債であつた、處か市債か增加するのみで治績は少しも顯はれて來ない、來ない理由は此金額の大部分か「トウエード」派の手中に落ちたからである、其方法は工事請負人等と結托して事實百萬弗で出來るものを五百萬弗とか四百万弗とかで請負はしめ殘額は彼等か着服したのである、市政の腐敗は極度に達し遂に市民の激昂する所となり、後新育州知事として有名なる「サミュール、ゼ、テルデン」の指導の下に市を彼等の把握より救濟したが、僅か數年を經過せざる中に市政は再びタマニー派の掌中に收められた、どうして斯く彼等の不正行爲が暴露せられたる後幾何もなく再び同じ政黨に政權か復歸したかと云ふに、前に述べたる如く彼等は市の行政費を着服するが又之と同時に其大部分を貧民に向つて消費するからである、夏になると選擧區民の家族をエキスカーションに招き或は舞踏會を催して選擧區民の家族を喜ばしめる等の事をして下層社會の歡心を取むるからである、投票數で支配さるゝ政体であるから數の多い貧民の歡心を得たる者は必ず政界に有力者となるのである

「トウエード」に次でボスとなりたるは「ジョンケレー」で、また「ジョンケレー」に次てタマニー派の「ボス」となりたるは「リチャード、クローカー」で此男は警察部と結托し



ドクター高見豐彦氏長男　正彦　一才

丸く肥つた身體に智惠が一杯

天下万民の毒取となる可し

て女郎屋とか酒屋賭博場とかから金を捲き上げたのであるとの事であるか今日タマニーを維持する收入は重に同會の勢力により官職に有り付きたる者工事請負人酒屋其他余り大びらに言はれない事情を有する營業者から強制的に徴發する收入で、政界に於ける勢力の維持は前に述べた貧民懷柔策で多數の投票を支配して居るからである、斯る陋劣手段に依て政界に勢力を維持すると云ふ事は國民の敎育程度漸次發達し來ると共に困難となる可きである。昨秋同派の全敗は歸したる如きは之を證明して居る者であらう。

●日本人會設立と學生　（自五頁）

接の會員となるなり、本部には專任



高見ドクターの愛嬢　鷹子　二才

千両ハークド、吾高の監督頭卒を悩殺するに足る

幹事を置く事となし、これには學德高く日米敎育界の事情に通じ且つ青年學生を訓導するに足る人士を得れば此上もなき事なれど當分は先づ米國の大學に學びたる經驗のある而して一般の學生よりは多少の年長者にて留學生間の思潮と學生の氣風を呑み込む人ならば充分なりとす、幹事は各大學の倶樂部を調和統一すると共に常に大學當局と學生、領事館と學生、學生と世人との中間に在りて必要なる質問と提議とをなすべきものとす、故山にての學歷を僞つて大學に入學し又は在米中の學歷を僞證して故山に歸るガ如き橫着青年を監督す、この學位の僞稱は一般眞面目なる學生の評價を下落せしむると共に僞稱者自身の信用を損じて將來事を爲すに甚だ不便なるを以て、斯る誘惑に陷らしめざるやうなすも先輩年長者の親切なりと信ず、從つて領事館より下附せらるゝ在學證明書の如きも本部の手を經て出願せらるべきものとす、而して幹事は常に東部の各大學は勿論專門學校及びハイスクールの案内書を集め置き、各地よりの質問に答へ適當の學校を紹介し入學の手續等を世話す、每年事情不案内のために自己に適せざる又は全く異れる方面の學校に入りて甚だしき不利となり遂に休學し又は一生の進路を誤るに至る青年の多々あるを見ては此種の紹介事業の必要を切に感ずるは實見する所の人の同意せらるゝ点なるべし、尙自活學生のためには適當の勞働を周旋する等も本部の事業とすべきなり

次に故山には學閥と稱せらるゝものありてこの學閥たるや藩閥と共に吾人の最も好まざるものなれども實在せる以上は相當之に對する用意なからざるべからず、即ち學生本部の力に依りて留學生の眞價を上ぐべきと共に米國大學出身者全体精神的にも物質的にも一致協力して他の學閥に對すべく、本部は是れが本營ともなるべきなり、これ或は日本の學校出身者の贊成せられざる所なるべけんも必要上の仕事にてもあり且つや此間に存する事情を善意に解せられん事を望むや切なり

先頃よく六百の同胞を一堂に集め得たるに集會そのものは最良の結果を得ざりしやに聞く、或はもし異れる方面の人々をも加へたるならば時に豫想以上の成績を擧げ得られずとも知るべからず。日本人會創立者か學生と稱するの人間の同胞間にあるを認めらるると共に學生諸氏か會の設立、特に學生部の組織に就きて一考せられん事を希望す、

モンロー主義　何爲ものぞ

▲ルーズベルト一本參る

南米智利國政府は目下南米漫遊中なる前米國大統領ルーズベルト氏に好意を表する爲め去廿日首都智利に於て氏の爲めに歡迎會を開き當夜の[illegible]國外交界の會者は[illegible]米公使[illegible]國外交界[illegible]なりしが[illegible]著し[illegible]死物[illegible]情然として起立し[illegible]モンロー主義は依然として米國外交の一大主要方針なり、而して此席上に於て斯かる議論の發言せらるゝは[illegible]ましからざる所なりと述べ何[illegible]の[illegible]南米諸國に於ける[illegible]を避くるため[illegible]前政府當局者並に南米諸國公使に一覽せしめたる次第なりと言ひしに博士は[illegible]然たる態度にて予の此席上に於ける演説の草稿は足下の來遊せらるゝ三日以前に豫め智利外務省當局者の檢閲を經たるものにして何等の異議なかりしものなり本日の席上に於てモンロー主義を論ずる事が何故に不可なるやは予の解するに苦しむ所なりと答へたる由にて此電報に接したる華府の外交界は非常の興味を以て之を迎へ到處論難の聲喧しかりきと

●出雲艦安着

遠洋艦出雲は去廿二日マンサニロ港に着せり、艦長以下翌廿五日首都メキシコを訪問したる筈なり

●帝國議會開院式

帝國議會は廿五日開院式を行へり各黨派議員の數を云へば立憲同志會所屬九十[illegible]名國民黨は四十日名政友會二百[illegible]名前[illegible]政友會にては院内總務に長谷場伊藤大八野田卯等を擧げたり

●日伯歸化條約　ブラジルにては日本國民に歸化權を與ふるを希望し之が爲め兩國間の該權利に關する條約を結ばんとし交渉進行中なり

▲●御斷り●▼　發行間際に當り新年及臨時廣告申込ありしため豫定入りの記事一切を掲載する能はず遺憾とす

尻もぢり



蛤の子等

きり〳〵す鳴くや霜夜の狹筵け
衣かたしき獨かもねん

不景氣だなあー、何とか成らん物かな、獨りで不景氣かこずともし々



山口碧二郎氏の小供衆　一郎　よし子

歸る父の腕に抱かれば宿る戶の高きにさゝ手の嬉しさも

々何とでもするさ、見渡す所に歴々の面々此除夜を迎へて、獨りかねんも氣が利かな過ぎる、所で待てよ、昔から智惠の出ぬ時はしりでもと云ふからな亦一策かも知れぬ其のきり〳〵すの歌の上りを互に捻れと云ふからではないか、よし、己れから

獨りかもね〳〵寐言りは言にやる

外套欲しと言うかくせなり

まずいな一今年の智惠はこれ切りか

卵等後學の爲めに一つ要領をぶさう

遊學生なりとは知れどそも何の學びに勵む彼の道の君

こたつけが要領とは呆れたね、よ

かねもちの君にして猶寄附金の勸誘をなどすげなくもするや



高木契門氏の令息　春雄　一才二ケ月

カイグリ〳〵トツトの目、シャン〳〵アワワよく覺へて居らつしやい、今にいろ〳〵隱し藝になる

年ばはは[illegible]りは舊套を脱せんね、何、僕の番かすげ無くもする、と云ふんだな、

背氣なくも爲る事別に無からうや

詩や今秋いや冬だつた

いや雅たつた一枚のクーホンカ

是が金なら一杯くれる

イッパヤヤレールと否は廻り待で

耳にも疎きオーケストラ哉

英語で止めたな、人が惡い、何、本年もあと十分だぞ、急かせるなよ、[illegible]

大ふな[illegible]

[illegible]になつて

[illegible]な、時にもう今歳だぞ、

[illegible]兎に[illegible]

[illegible]大つに[illegible]

きりぎりすもぢり通せば[illegible]となる雀に返れ礫の蛤

謹賀新年

大正三年一月元旦

家永[illegible]吉

賀正

正六位勳四等

宮田雄次郎

127 Ruth Ave. Los Angeles Cal.

賀正

加藤千太郎

祝新年

舊年中は御贔負を謝し併て本年も相變らず御引立の程奉希上候

一月元日

倉田下宿

賀正

遙に在留同胞諸君の萬福を祈る

在日本　紐育新報訪問團

林富平

謹賀新年

一月一日

平野（ブラジュ）商會

恭賀新春

大正三年一月一日

武市

葛西商店

雜貨直輸入商

恭祝新年

併倍舊の御交誼を請ふ

一月一日

サンライスケーキ會社

大正三年一月一日の曙光を望むで遙かに吾國運の隆祥を賀し併て新報愛讀者諸君の万福を祈る

紐育新報社員一同

賀正

堀内俊太郎

恭祝新年

柿内常次郎

奉賀新禧

一月元旦

開盛亭

上生

恭賀新年

舊年中は非常の御引立を蒙り奉深謝候、尚本年も不相變御愛顧の程伏て奉願上候

一月元日

竹田商店

東五十九丁目百十、十二番

竹田北村商會

パークロー百九十二番地





賀正

笠原乙夫。小畑信雄。吉田正夫
木川正雄。安藤多郎。境野默平

恭賀新年

倚新將來之御交誼

タタ商會

ヒー、デー、サクラトパラ

久米又藏

恭賀新年

大正三年一月一日

關根商會

謹祝新年

一月元旦

I. OKADA
STUDIO
136 WEST 42ND ST., N. Y.
Near Knickerbocker Hotel

●從來一組四枚にて差上候處一月のみは一組六枚宛にて差上候

小生儀今般上記の所に於て特に同胞諸彥の華客を迎ため破格の廉價を以て撮影仕候間御試影の程願上候

カビネツト一組（四枚）二弗　燒增　四十仙
五バイ七　同　五弗　同　六十仙
八バイ十　同　八弗　同　一弗

尚ほ御希望に依り夜間撮影及出寫、エンラーヂングの御用に應ずべく候

電話　ブライアント七六七三

岡田寫眞館

▽歳暮並お正月御用品目錄▽

●お鏡餅（大小は御注文通り仕上げ可申候）
●お雜煮餅　●極上椎茸　●極上淺草海苔
●特製櫻餅大罐　●干そば　●精白精米
●干うどん　●新數の子　●鯛白浪（御吸物用）
●田作（ごまめ）　●松茸鑵詰　●竹の子鑵詰
●萬上味淋酒　燒豆腐鑵詰　●特製白味噌鑵詰
●板蒟蒻鑵詰　●紫蘇散　●黑豆　●菊正宗
●松魚節　●牛蒡鑵詰　●蓮根鑵詰　●山の芋
●特製丸蒲鉾（寶入印）　●同（金時印）　●小豆
●燒酎　●竹輪蒲　●鉢味の素

右の外御食卓用品として種々新らしき品々到着致し居り候又食物用品として最も適切なる陶器類、吳服反物、小間物、其他いろ〳〵持ち合せ居り候　▲例年の通りチン餅仕候



電話プラザ一六七八　竹田商店
電話ウォース壹二壹　竹田北村商會

▲食料品は凡て五十九丁目竹田商會に御注文被下度候

罪の告白

たまき・こはる

十一月三日の朝、[illegible]、それが私[illegible]
[illegible]
果れた、あなたの手紙を受取つた私の手は電流に觸れた時の樣に、異樣の痙攣を惹き起し、殆んど無意識的に机に倚りかゝつて、幾度も〳〵も卷き返へし、繰り擴げて、それを讀みました。そうして貴姉の御親切に感謝し、あの子の行末の事を考へた時は、果してこんなでしたらう？お祭し下さい。

貴姉のお察しの通り、ビリーゆゑに國許の事も、自己の志望も、何もかも滅茶々々にして、これ迄にどれ程辛い思ひをしたでせうか。先輩や友人等の忠告に悖つて、米國へ參りましたのも、自棄酒を飲んだり、攀柳折花の巷に遊ぶやうになつたのも、[illegible]は皆こんな私の誤つた行爲からであります。」

可憐兒ビリーを産み落した母の名はお幾と申しました、私と同縣人でありました。田舍に育つた女に相應はしからぬ、至つて勝氣の強い、誠に[illegible]しい氣心の何處かの奥に微見ゆる女性でありました、私と馴れ初めた抑々の始めは、私がまだ殖民地の或る新聞社に筆を[illegible]時でありましたが、ある歳の夏、休暇を取つた私は、不圖した縁で、彼等夫婦の經營して居る養魚場へ出かけて、一二ケ月間世話になつた時からであつた。

彼等夫婦の經營して居た養魚場といふのは、私の住んで居たタウンから四哩ばかりの海岸地で、凸凹の多い岩山の狹間から暖國の伸んびりした海を見晴らすことの能きる、[illegible]は〳〵見るからに心の浮き立つやうな風景[illegible]の處でありました。私共の仲間同志が[illegible]

[illegible]私と[illegible]交際つて行くうちに、漸次に雙方の氣心も解り、ある[illegible]は他人に話すまじき秘密も何[illegible]

[illegible]

たからでもあらう。

〔下〕

そうしたやうな樂しい月日を數へて行くうちに、休暇の期も充ち、愈明日は是非歸らねばならない事になつた晩の事であつた、

「明日は愈々お歸りなさるのですつてね、、、、貴郎のお歸りになつた後には、これ迄よりも、いや深い寂しい空氣に包まれて、思ふさへ泣し[illegible]ある者があるといふ事をお記憶なさるでせうか―」

「なアにそんな事があるもんですか、愛處と私の町とは眼と鼻の間じやありませんか、あなたもこれ[illegible]なさらずに何もかも[illegible]、お閑暇があつたら何時でも[illegible]へないから私の宅なり[illegible]方へなりお遊びにお出なさい」―

といふやうな言葉が交換されたこ[illegible]いつになく力ない足取りを運ば[illegible]根かたに[illegible]あまにるやうな[illegible]眼に涙を[illegible]

[illegible]

ドン夫人と公然良人の目の前で[illegible]交際なこつたではありませんか。、、、ねえ、貴郎、私の言ふのが間違つて居るのでしやうか」

言ひ終つて見上げた彼女の瞳には疲れの心を燒き盡さうとするやうな強烈な光りが輝いて、これまでのやうなメランコリーな面影は、最早、見る事ができませんでした。私が、

「承知しました、あなたの心はすつかり解りました、斯うなるのも何かの緣因と諦めます。」ときつパリ云ひ切つて、彼女の肩に手を觸れましたら、お幾は、

「まあ、解つて[illegible]嬉しい〳〵」

と、夢心地になつたやうに、私の胸に顏を[illegible]め、私の體を強く抱き[illegible]ました。

△　△　△

別れてから後も三日にあげず密會いたしましたが、段々世間の取沙汰[illegible]なるに從つて、さすがに人[illegible]の良人も打捨てゝ置く譯に行かず、可成、私に會はせないやうにさ[illegible]が、それからといふものは[illegible]夫婦の間には、いつも風波の絶ゆる[illegible]な[illegible]、或夜の如きは、お幾が髮[illegible]家を飛び出した[illegible]やうな噂が、それからそれへと傳へらるゝやうになりました。

私が平和の攪亂者として世間の攻擊を受け、大陸に逃れたのは、それから[illegible]四日目であつた[illegible]記憶します。而うして[illegible]薄命兒ビリーを[illegible]落すと同時に、半ば狂亂狀態に陷つて、長い旅路に赴いたのは渡米後六ヶ月目でありました。

△　△　△

あなたの親切なる御手紙に勵まされて、これだけの事を告白し得たのを、切めてもの慰謝といたします、

虎の眼

吉田宵天

千九百十三年の最終を報ずる十二の音に合して、方々で鳴り始めた汽[illegible]夜の滊笛が止むだ後、病室のラディエーターのブッ〳〵云ふのを聞きながら、正男はブロードウェーの賑かさを想像するのであつた、、、芝居歸りの華美かな男女、、、、カッフェーのイルミネーション、馬車、自働車、と、、、それからあの女、、自分が、此の社會の生存競爭場裏から、見捨てられた廢物の集合所である病院に收容さるゝ樣になつた重なる原因を造つたのは、あの女である。

、、、、、、

「どうしたの」

夏には珍らしい濃霧の宵に、未だ晝間の餘熱が冷め切らぬ砂の上に、正男と並んで座つてる女がさゝやいた。

「、、、、、、霧」

常に見馴れて居る燈臺のある邊は霧かぼんやり明るい、ボー〳〵とホーン、ソグ、ホーンがロング、アイランドから海を渡つて、正男の居る濱まで響く。

「どうしたの」

と、女は再び正男に耳打した、[illegible]正男の手を握つて[illegible]に力をこめた。

「何にも一寸、、、」

「[illegible]、淋しくなつたりでもし[illegible]」

女は[illegible]る正男の額を[illegible]

[illegible]

「[illegible]、現在かいやに成つた、宮[illegible]にかまはぬ」

[illegible]正男は[illegible]

[illegible]

「[illegible]ね」

そうぢや無い

「分つて居ますよ」

女は肩の[illegible]を正男から離して、[illegible]と斜に、砂の上に何か書いて居る[illegible]

「私は貴女を[illegible]」

「私自身がいやになつた」

、、、、、

正男に、自分の[illegible]

[illegible]

呼吸し、涼味を恣にしながら[illegible]砂の上にポツリ〳〵と、黒い影を投げた、男女の幾組を眺めて、戀に醉つた昔を思ひ、戀に遠ざかつた現在を考へてる時に、突然自分の腕を[illegible]つて。

「今晩は、驚いて」

と、聲を掛けたのは今、自分の側に居る、此の女だ。誘はるゝ儘に其晩女の宅に行つて非常に醉つた。それからシーズンの終りに近づいて、木の葉か散り始めた今日まで、夢中で關係して居たものゝ、昨夜別れて歸る時に「私は結婚して居るのよ」と、さも、安心なさいと云はぬ許りの調子で語された時には何んとも思はなかつたが、今日晝間一日考へれば考へる程、自分で自分を責める樣な氣がしたので、今夜女と逢つて居ても何時もの樣にハッピーでない。

「自分がいやだつて、どうかしてるわ」

女は暫くしてから沈默を破つて、體を擦り寄せた、

「だつてそうじやないか、今迄私は貴女の、、貴女の玩弄物だつたの[illegible]」

「玩弄物、どうして」

「どうしてつて、貴女には夫があるぢやありませんか」

「ホ、、、、貴下は餘つ程勝手ね[illegible]」

[illegible]

[illegible]氣で居れと注意されても、、自分は遂に玩弄物であつた、、[illegible]た若しも自分の体力が女に勝つて居たならば、、、女の方が病に犯されたならば、、、いや、玩弄物ではないお互に戀したのだ、自分は戀の犧牲になつたのだ、それも只だ肉体丈けで精神は變らない、と云つても女は今頃は外の男と樂しさうに私語き合つてるだらう、そうだ女が云つた「肉体を離れて戀があると思つて」、、、自分は戀に破れた、矢張り一時の慰籍物、、、嗟々分らない、分らないと正男は、髪を掻き、頭を抱いて思ひ亂るゝのであつた。

千九百十四年の元日の曙光が、硝子越しにカーテンに映ると、窓に滲る青い影が、新妻の樣に正男の腦裏に閃めく、、情慾の高潮に達した時の女の眼、、丁度餓へたる虎が獲物を睨むで飛び掛からんとする瞬間に爛々と光る眼の樣に。

●領事館員の俸給

懐ろ探し生

貴君の給料は一体オイクラと尋ねると、イヤ大したとはないで[illegible]

[illegible]

[illegible]タツ、奉天四ケ所の總領事に各々高給八千圓、桑港總領事に[illegible]百圓だ、領事弟に領事館員も僕[illegible]湯く〳〵です[illegible]が日本食[illegible]米利加の五里、ヤレ誰が來た夕食ソレ彼か來た晝飯、と無暗矢鱈に食ひ倒されちやたまらねーなあー、内所々々

THE JAPANESE TIMES
Published Weekly by
JAPANESE TIMES Co.
Kenichi Kai, Editor
238 Sixth Ave, N. Y. City
Tel. 6473 Chelsea
Subscription Rates
5c. A copy $2.00 One Year
Postage included
Entered at N.Y. Post Office
as second class matter under
act of March 3rd 1879

●日本玩具の前途

▲米國市場の日獨競爭

米國人が子弟教育上購買する各種玩具は年々非常の高額に上り本年の如きは自國製玩具千万弗を算するに加へ外國製玩具の輸入も亦約千万弗に達し合計二千万弗を算するの好況に在り從つて玩具輸入業者に取りては米國程前途有望の市場なく獨日英佛墺の諸國爭つて輸入を爲しつゝあるが更に其輸入狀態を見るに總輸入數の八分の七は悉く獨逸品にして是を金額の上より見るも獨の七百万弗に對し日は三十二萬七百五十四弗英は廿八萬六千弗佛は十六萬五千弗墺は十八萬五千弗の割合に在り之れを以て見れも獨の制品か如何に日本の强敵たるかを知るべく而も獨品が多く日本雜貨を模造して而も却て日本製品を擊退するの事は特に注意を要すべく只日本製品は勞働賃金の低廉なると特種技能の上に特徵を有せるに依り斯業者間に於て能く前途を慮り粗製濫造を戒め且つ時好を追ふに勉めさへすれば今後獨逸と對抗し十分優勢の發達をなし得べしとなり

●ニューヨーク母國訪問團第二消息　團員一同の旅券は無事に下附され愈來一月十四日横濱出帆の横濱丸にて歸米のこと決定したれば此旨辱知諸君へ傳へ吳れよとの書信ありたり

●總領事館新年遙賀式に就て　本年も例年の如く一月元日總領事館宅に於て新年拜賀式ある筈なりしが飯島夫人病氣のため式は見合はせざるやも知れずと

●森村組の忘年會　卅一日料亭若松に於て催されたり

●末廣博士　一月三日横濱着の豫定

●日米交換教授佐藤博士　は近々來着來廿三日カーネギーホールに於て一場の演說を試むる筈なり

●田川代議士　は昨卅一日晚番波發船にて歸朝したる筈

●珍田大使着米期　歸朝中なりし珍田駐米大使夫人は來十六日着桑兩三日滯在の後華府に向ふ由

●飯島夫人の微恙　過日來より病氣にて臥床中なる由

●高見共濟會々長の招宴　同氏は不日共濟會役員並に有志家を開盛亭に招待して晚餐を饗する筈なるが期日は多分十七日なるべしと

●宮田醫師開業免狀を受く　宮田軍醫正は過般加州の醫術開業試驗に合格し免狀を得たりと

●新育ミッションの基督降誕祝賀會　去廿六日擧行頗る盛會

●修道會の讀書會　去廿七日夜開會コロムビヤ大學生物科助手中放源治氏の「生殖作用並形質遺傳に就て」と題する講話ありたり

●青年會講話　來る三日清水宗三郎氏の「基督教と社會主義」と題する講話あり有志の來會を望むとの事

●開盛亭　同亭は本月より七日迄休業する由なるが多人數のパーチーは元日からでも引受けて獨特の板前を供すと

●朝日の底拔忘年會　は去廿八日有志の大忘年會ありたり花の如き和洋の美人が盃盤の間を周施したるさへ難有いに、白髮の串引翁何時の間にか若返り成田屋の聲色、隻脚ステテコ踴りを行つて來客を驚かし、蓄音機の矢野君怪しげな入齒で端歐を吹き込むなど一同狂態縱橫階子段を轉ろげ落ちて退散な仕つたり

●兩基敎會の聯合祈禱會　本月五日より九日迄修道會及新育ミッションの聯合祈禱會あり場所及順序下の如し五日「社會に對する基敎徒の責任」（修）六日「敎會の一致的活動」（ミッション）七日「國家及主權者の爲」（修）八日「敎役者の爲」（ミッション）九日「一般信者の爲」（修）

●十二月號女學世界　矢野蓄音氏より寄贈を受く同號には亮折周一氏妻女の記事あり「歐米の劇壇を騷がしたるマダムスミ子」と書いてある

投書籠

▲新春に際し籠薫諸君の萬々歳を祈る（籠係）

▲女學世界の十二月號にコンナ廣告がある曰「求婚。十八年生品行血統正在米十四年學士博士號有廿六未滿の處女と文通希望入ムコ差支無申込ば略歷及寫眞を要す北米加州ビーイーアルケーイーエルイワイ市デーエーヌエー街貳二三五番」「在米十年博士學士號有」と又「入ムコ差支無」とは振つて居る、多分入ムコ差支なしの方を望むのだらうが近頃は日本の女も進んごるから怪しげな博士號に嚇かされて大學ゴロなどを養子に取るやうな迂闊な事はせんぞ（大學生）▲大將がムコフエッサー弟子がドクターと云ふ看板で二人ながらレコに大あつ／＼ガスフイゴでぷー／＼忙がしさうだから○型を作へるのかと思へば、何のこつたいレコに遣る指輪とピンを拵へてるのだアハヽヽヽ（廿六日生）▲井筒の親父は輕便斯理の上手といふので千客萬來だ。此門行つたら頻りに頭を捻つて虎の繪を書いてるからソンナ猫見たいな虎を書いてごうするのぢやと聞いたら來年は虎の年のグードラックでなければならぬが貸を猫婆々にされちや堪らぬかマヂナイに猫虎を書くのぢやは滑稽だ（ヒイキ客）▲古狸君へ　新年の餅喰ひ過ぎた古狸、打つにや打たれぬ腹鼓哉（大狸）

●農業家の好機　會

米國中西部に於ける諸種事業の發達は實に可驚長足の進歩を示し其結果各同胞勞働者の需要俄然激增し、賃金の如き五年前の二倍となりスクールボーイさへ一週五弗といふ高給を得る有樣なれば純粹の勞働者は一ケ年優に八百弗乃至一千弗を貯蓄し得べきも入國者少なきと獨立企業家の多きため勞働者の供給不足なるを遺憾とする位なり、日農業希望者は米國人の銀行より收穫に對する千額以上の低利資本金を融通し現に昨年の如き同胞農業家は無資本の小作法にて數千弗の純益を收めたり本年も小作の申込に良好なる土地數多あり、農業に成功せんとする人は此好機を逸せず詳細通信費金弐弗を添へ左へ照會あるべし

P. O. Box [illegible] Denver, Colorado